

福岡大学医学部年報

令和 6 年度

福岡大学医学部

目 次

はじめに	1
I. 医学部医学科・医学研究科	
1. 学科主任挨拶	4
2. 令和6年度 医学部医学科年譜	6
3. 医学部（医学科）病院の教員組織	7
4. 入試・教務・国試	15
5. 学生の表彰・指導及び課外活動	20
6. 大学院医学研究科	23
7. 学位取得	25
8. 国際交流	27
9. 研究業績	30
1) 解剖学	30
2) 細胞生物学	33
3) 生理学	34
4) 生化学	35
5) 薬理学	36
6) 病理学	38
7) 微生物・免疫学	44
8) 再生・移植医学	45
9) 衛生・公衆衛生学	48
10) 法医学	57
11) 医学教育推進講座	58
12) 生命医療倫理学	60
13) 総合医学研究センター	60
14) 腫瘍・血液・感染症内科学	62
15) 内分泌・糖尿病内科学	64
16) 心臓・血管内科学	70
17) 消化器内科学	77
18) 呼吸器内科学	85
19) 腎臓・膠原病内科学	95
20) 脳神経内科学	100
21) 精神医学	101
22) 小児科学	108

23) 皮膚科学	112
24) 放射線医学	119
25) 消化器外科学	123
26) 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	128
27) 心臓血管外科学	134
28) 脳神経外科学	136
29) 整形外科学	139
30) 形成外科学	154
31) 眼科学	155
32) 耳鼻咽喉科学	157
33) 腎泌尿器外科学	158
34) 産科婦人科学	164
35) 麻酔科学	167
36) 歯科口腔外科学	168
37) 臨床検査医学	170
38) 救命救急医学	173
39) 総合診療学	179
40) 福岡大学病院病理部・病理診断科	181
41) 福岡大学病院リハビリテーション部	183
42) 福岡大学病院薬剤部	187
43) 福岡大学筑紫病院循環器内科	189
44) 福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科	190
45) 福岡大学筑紫病院呼吸器内科	191
46) 福岡大学筑紫病院消化器内科・内視鏡部	193
47) 福岡大学筑紫病院腎センター	200
48) 福岡大学筑紫病院脳神経内科	201
49) 福岡大学筑紫病院小児科	201
50) 福岡大学筑紫病院外科	203
51) 福岡大学筑紫病院呼吸器・乳腺外科	206
52) 福岡大学筑紫病院整形外科	206
53) 福岡大学筑紫病院脳神経外科・脳卒中センター	209
54) 福岡大学筑紫病院泌尿器科	209
55) 福岡大学筑紫病院眼科	209
56) 福岡大学筑紫病院耳鼻いんこう科	210
57) 福岡大学筑紫病院麻酔科	210
58) 福岡大学筑紫病院病理部・病理診断科	210

II. 医学部看護学科	
1. 学科主任挨拶	217
2. 令和6年度 医学部看護学科年譜	218
3. 看護学科教員組織	219
4. 入学試験・教育活動・国家試験・進路支援	221
5. 学生の指導・課外活動	228
6. 国際交流	229
7. 総務・広報・図書・研究推進活動	231
8. 医学研究科看護学専攻（修士課程）	235
9. 社会活動	238
10. 研究業績	239
III. 福岡大学病院	247
IV. 福岡大学筑紫病院	253
V. 福岡大学西新病院	257
VI. 附属施設・組織	
1) 福岡大学図書館医学部分館	261
2) アニマルセンター	262
3) 医学部 RI 施設	263
4) 福岡大学医学会	264

はじめに

医学部長 小 玉 正 太

長年、医に関する倫理委員会の委員長として、多くの倫理審査に携わった経験から、常に公知すべき諸言があります。申請する方には「臨床研究は研究計画を立案し、申請書を作成する段階から（施設長認可の開始日ではなく）、既に研究は始まっている。」とお話ししています。まず、臨床研究計画書を作成すること自体が臨床研究であることを知って頂きたいと思います。さらに「研究は仮説をたてること、実験はその証明であり、論文はその二つの集大成である」と言われますが、研究成果が新しい発見であるためには、学会や査読付き論文で研究成果を公表する必要があります。ここで、仮説をたてる、実験する、論文を書く行為はそれぞれ独立したもので、サイエンティストはそれらすべてのプロセスに於いてバランスがとれた状況でなければなりません。実験はするけど論文は書かない、理論があっても行動がない、臨床はするけど研究はしない等、様々な状況が学部内で散見されます。そこで真の医学研究者は、十分な経験と文献的知識を合わせもち論文執筆を行うことが出発点であることを知って頂きたいと思います。

現在、研究における透明性や倫理性、得られたデータの品質保証や説明責任までが問われる時代になってきました。科学論文の捏造、臨床研究の金銭的疑惑等、日本での医学研究や医療倫理の在り方がマスコミを賑わしています。それに対応し、平成25年11月には、全国医学部長病院長会議から、また、平成26年2月には日本医学会から「医学研究の Conflicts of Interest (COI) マネージメントに関するガイドライン」改訂版が出版され、医学系研究の実施や推進のハードルがかなり高くなったのは事実です。平成27年4月から、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が実質化しました。それにあわせて、本学における医に関する倫理委員会の規定改正を行い、平成28年9月から新しいシステムで動いています。つまり、医学部、福岡大学病院、筑紫病院およびその他の部門からでた「ヒトを対象とする臨床研究」は一つの倫理で審査されていくことになります。平成30年4月1日から、新規に臨床研究法が施行されましたが、それに対応すべく認定倫理委員会の設置を模索しています。将来的に、大学内に研究推進部とは別に Academic Research Organization (ARO) の組織設置等が必要と考えます。

医学部では医学教育分野別評価を受審していますが、これは教育の質保障にあります。アウトカム基盤型教育を導入し、卒業時アウトカム（学修成果）として「FU-RIGHT」を掲げ、PDCA サイクル等を効率的に機能させることによって質の向上を図り、教育・学習その他のサービスが一定水準にあることを福岡大学自らの責任でもって説明・証明する必要があります。教育のインプット、プロセス、アウトプットが満足されたもので、今後は教育プログラムが継続的かつ恒常的に評価・モニター・改善されなければなりません。教育改革の真只中にいる私たちは、自らを律し、グローバルな大学人として、学部および大学院教育に取り組まなくてはならない責務を負っています。そこで、この年報を活用し福岡大学医学部の質文化形成においてさらなる発展を目指したいと思います。

I. 医学部医学科・医学研究科

1. 学科主任挨拶

小 玉 正 太

令和6年度にかけて継続的に取り組んだ入試・教育・研究の改善・改革を紹介します。

以前行われた入試の合否判定での指摘を真摯に受けとめ、入学センター、医学部内部構成委員に外部からの評価委員を加えた委員会で議論を行い、改革に努めてきました。また今まで7回の教務入試検討委員会において、入試選抜での属性への対応や面接のあり方の提言がなされました。更には、Diploma Policy (DP) に合致した医学生を輩出するために、Institutional Research (IR) 部門から面接点数や科目点数から問題点を抽出し Admission Policy (AP) に反映する改革を始めています。入学選抜は AP にそった学生を選抜するだけでなく、次の段階としては DP に合致すべき素養に富んだ学生を入学させる必要があります。さらに地域枠に関しては、卒後ミッションが不透明になり易かったために、福岡大学病院あるいは筑紫病院、西新病院での研修を必須とし、附属病院からの地域医療への貢献を目指すものとしています。卒前後の実習・研修も医学部の教育推進講座と連携をはかり、学外連携施設病院での実習をはじめ、病院での教育部門を再編成強化し One Team 化を推進しています。

学科カリキュラムに関しては、カリキュラム改革が浸透し、解剖学は M1 年次から座学がスタートし、生化学も 1 年次になっています。M4 年次には共用試験 (Computer Based Testing: CBT) があり、客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination: OSCE) と合わせて、法定化され実施されることは皆様ご存知のとおりです。昨年度同様に、外部関係者やご父兄にも出席をお願いし、進級を許可された M4 学生全員および学内教職員が臨席のもと、「白衣授与・臨床実習生認定式」を行います。

M6 学年の卒業判定は領域別試験 I ～ II を導入していますし、全国模擬試験受験は卒業に必須な事項になります。再試験評価も厳しくなりましたが、今からの社会は、どこにいても試されることが要求されます。従って、そのストレスをはねのける力を養っていく必要があります。医師国家試験も平成30年春から、3日間から2日間に、500問から400問に変化し、臨床実習で経験する様々な事柄が問われるようになってきました。医学科内のカリキュラム検討委員会では学生が参加して意見を述べるようにしています。本学医学部は、日本医学教育評価機構 (JACME) より、世界医学教育連盟 (WFME) のグローバルスタンダードに基づく医学教育プログラムの評価認定「適合」(認定期間: 2020/11/1～2027/10/31) となっています。

医学科の医学教育推進講座は、医学教育、クリニカルクラークシップ、分野別評価、カリキュラム全般、国家試験合格率アップ、OSCE、PCC-OSCE、PBL/チュートリアル、学生評価・教育評価、地域医療との関わり、海外実習、シミュレーションセンター、リサーチマインドの養成等、様々な課題に向かって対応していますが、これはすべての講座・病院診療科(部)の積極的な支援があって成立するものです。さらに、コロナ禍の影響で教育や働き方の概念も多くの変容を遂げました。官庁関連・全国会議や学会、授業のあり方や勤務のあり方に至るまで、多様性が問われ、医学部ではその時々最善と思われる方策を選択してきました。今後もこの経験を基に、会議体のあり方や教育現場での情報発信に臨機応変に応え、ボトムアップされた意見聴取から新たな対応とシェイプアップされた組織体への編成が必要です。

最後になりましたが、今回教育や臨床に尽力頂きました教員・事務職員・教育技術職員の皆様に感謝申し上げます。今後とも、福岡大学医学部医学科の発展のために、よろしくご協力お願いします。



福岡大学医学部医学科の使命(ミッション)

医療のプロフェッショナルとしての誇りと広い視野を持ち、患者に寄り添い、地域社会に貢献する医師の育成

福岡大学医学部医学科の学修成果(アウトカム)

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に

- ① 自尊心と高い倫理観を有し、他者と信頼関係を築くことができる。
- ② 確かな知識と技能に基づいた、人にやさしい医療を実践できる。
- ③ グローバルな視野で地域の健康増進と疾病予防に貢献できる。
- ④ 科学的探究心、論理的思考を身に付け、教育的指導ができる。

上記の学修アウトカムは以下のコンピテンスの領域(Ⅰ～Ⅵ)ごとのコンピテンシー(43項目)により達成されます。

Ⅰ プロフェッショナリズム

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医師としての使命と責任をもって医療を実践するために、高い倫理観と他者を尊重する人間性のもとに行動できる。

1. 医療者としての法的責任、規則を遵守できる。
2. 生命倫理に基づいた医療、研究を遂行できる。
3. 他者を尊重し、利他的な態度で行動できる。
4. 患者の個人情報保護を遵守できる。
5. 多様な背景をもつ患者の意思決定を理解し対応できる。
6. 患者、社会、医療者に対して説明責任を果たすことができる。
7. 医師としての自尊心と向上心を持ち続けることができる。
8. 患者と家族、後輩、同僚、多職種医療者を尊重できる。

Ⅱ 医学的知識

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に基礎、臨床、社会学等の知識を習得し、診療に応用できる。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 正常構造と機能 | 6. 医療安全 |
| 2. 発達、成長、加齢、死 | 7. 疫学、予防、公衆衛生 |
| 3. 心理、行動 | 8. 保健・医療・福祉制度 |
| 4. 病因、構造と機能の異常 | 9. 医療経済 |
| 5. 診断、治療 | |

Ⅲ 診療技術・患者ケア

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者の意思を尊重し、適切な診療を実践できる。

1. 患者から病歴を的確に聴取できる。
2. 成人、小児の基本的な身体診察と基本的臨床手技を実践できる。
3. 患者の病歴、診察所見から臨床推論ができる。
4. 診断に必要な検査を選択し、結果を解釈できる。
5. 頻度の高い疾患について、EBM(Evidence-Based Medicine)に基づいた診断、治療方針について説明できる。
6. 患者の安全と感染防止を十分に理解し、チームの一員として診療に参加できる。
7. POS(Problem-Oriented System)を用いて診療録を記載し、適切にプレゼンテーションができる。
8. 患者に必要な病状説明・意思決定の場に参加できる。

Ⅳ コミュニケーションとチーム医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に患者とその家族、医療者、関係機関と円滑なコミュニケーションを実践し、患者中心のチーム医療に貢献できる。

1. 患者とその家族の個人的背景、文化、社会的背景を理解し、良好なコミュニケーションをとることができる。
2. 多職種の医療チーム内で信頼関係を築き、患者中心の医療のために情報を共有し、説明伝達ができる。
3. 他の医療者に、手順を守り適切にコンサルテーションできる。
4. 患者の医学情報を診療録に的確に記載し、医療チーム内で情報を共有できる。
5. 医療の国際化を認識し、英語で医療面接ができる。

Ⅴ グローバルな視野と地域医療

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に医療制度を理解して国際的、社会的な医療問題に関心を持ち、地域の関連機関と連携し、地域社会に貢献できる。

1. 医療制度、社会福祉制度を正しく理解した診療を実践できる。
2. 地域の医療機関、保健、福祉、行政等の関連機関と適切な連携がとれる。
3. 行政への届け出や社会福祉制度の必要書類を適切に作成できる。
4. 地域医療に参加し、プライマリケアが実践できる。
5. 海外からの患者の診療、医療者との交流が行える。
6. 国際保健や医療の社会的問題の情報を収集できる。

Ⅵ 科学的探究心と自律学習能力

福岡大学医学部医学科の学生は、卒業時に科学的探究心を持ち、生涯にわたり自己研鑽を継続することができる。

1. 基礎研究、臨床研究の理論と方法を理解することができる。
2. 最新の医学情報を収集し、論理的、批判的に評価し、正しく応用できる。
3. ICTを適切に利用し情報セキュリティ管理ができる。
4. 未解決の医学的、科学的問題を発見し、解決に取り組む事ができる。
5. 自己の到達目標を設定し、自ら学ぶ機会を持つことができる。
6. 診療、研究に国際的視野を持ち、情報収集と発信ができる。
7. 学生、後輩、同僚に対し教育者として貢献できる。

(2017.5.10)

2. 令和6年度 医学部医学科年譜

年月日	行	事	付	記
【令和6年】				
4月1日	学年始	入学式 医学部新入生歓迎式 医学部第53期生 110名 医学科新任・昇格教育職員ガイダンス	於：RI 大講堂 於：本館A会議室	
4月6日	MM1フレッシュマンキャンプ（7日まで）		於：ホテル龍登園	
5月27日	第1回医学教育ワークショップ		於：RI 大講堂	
6月4日	教育技術職員との懇談会		於：基礎第一講義室	
6月22日	MM6父母懇談会			
7月13日	地方父母懇談会（大分）			
8月5日	第76回西日本医科学生総合体育大会（18日まで） 代表主管校：川崎医科大学			
8月4日	オープンキャンパス			
9月3日	第2回医学教育ワークショップ		於：RI 大講堂	
9月23日	第45回医学部長争奪バレーボール大会		於：第二記念会堂	
10月19日	第51回慰霊祭		於：ユウベル積善社福岡斎場	
10月25日	MM4 OSCE			
11月1日	MM4 CBT			
11月2日	医学祭（4日まで）			
11月9日	父母後援会総会		於：ANA クラウンプラザホテル	
11月24日	令和7年度A方式推薦入試 （志願者143名・受験者143名・合格者27名） 地域枠推薦入試（志願者44名・受験者44名・合格者10名） 附属校推薦入試（志願者14名・受験者14名・合格者3名）			
11月28日	第3回医学教育ワークショップ		於：RI 大講堂	
12月13日	白衣授与・臨床実習生認定式		於：RI 大講堂	
【令和7年】				
2月2日	令和7年度一般入試（MM 一次選考） 本学・東京・名古屋・大阪 （志願者2,593名・受験者2,468名・合格者400名）			
2月8日	第119回医師国家試験（9日まで） 受験者：新卒92名・既卒20名			
2月14日	令和7年度一般入試（MM 二次選考）（受験者341名・合格者119名） 共通テスト利用型Ⅰ期（MM 二次選考）（受験者138名・合格者43名）			
2月28日	第4回医学教育ワークショップ		於：RI 大講堂	
3月14日	第119回医師国家試験合格発表 新卒92名中87名合格 合格率94.6% 既卒20名中14名合格 合格率70.0%			
3月19日	卒業式 医学部学位記授与式 医学部医学科48回生 92名卒業		於：RI 大講堂	
3月31日	学年終了			
〈中止となった行事〉				
啓明大学派遣、受入れ				
医学部長杯争奪ソフトボール大会				

3. 医学部（医学科）病院の教員組織

令和6年4月1日現在

医 学 科 基 礎 講 座								
講座	資格	教 授	准教授	講 師	講師4条7号		助 教	
解 剖 学		立花 克郎	貴田 浩志		遠藤日富美	フェリル ロリト	山崎裕太郎	
細 胞 生 物 学		白澤 専二	石倉 周平 角田 俊之		土井 佳子 吉田 和真	(嘱)小柳 緑	田中 陽子	
生 理 学		藤田 孝之		本田 啓	内田 俊毅		片岡由布子 平石 敬三	胡 耀鵬
生 化 学		安永晋一郎		芝口 浩智	大野 芳典	白須 直人		
薬 理 学		岩本 隆宏	根本 隆行		喜多 知 小松 知広	篠田 康晴		
病 理 学		濱崎 慎	上杉 憲子	青木光希子			長野 秀紀	牟田 絃子
微 生 物・免 疫 学		廣松 賢治			石井 一成 伊藤 竜太 尾鶴 亮	清水 章文 伴 文武 吉村 芳修		
再 生・移 植 医 学		小玉 正太	坂田 直昭		田中 智子			
衛 生・公 衆 衛 生 学		有馬 久富	前田 俊樹		阿部真紀子	川添 美紀	石田晋太郎	藤居 貴子
法 医 学			柏木 正之	高山 みお	ウォーターズ, ブライアンJ.	松末 綾		
医学教育推進講座		北島 研		武岡 宏明				
教 育 計 画 部								
医学系研究・生命医療倫理部門		今泉 聡					毛利 紀之	
人体生物系総合研究室								
生体制御系総合研究室								
病態構造系総合研究室								
病態機能系総合研究室								
先端医療科学系総合研究室								
社会医学系総合研究室								
総 合 医 学 研 究 セ ン タ ー	岩崎 昭憲（呼吸器乳腺小児外科）							
	廣瀬 伸一（小児科学）							
	松永 彰（臨床検査医学）							
	安元 佐和（医学教育推進講座）							

・[] は休職

医 学 科 臨 床 講 座						
講座 \ 資格	教 授	准教授	講 師	講師4条7号	助 教	
腫瘍・血液・感染症内科学	高松 泰	田中 俊裕			林 武生	茂木 愛
内分泌・糖尿病内科学	川浪 大治	高士 祐一				
心臓・血管内科学	三浦伸一郎	杉原 充			小牧 智	三根かおり
消化器内科学	平井 郁仁	釈迦堂 敏		高田 和英	船越 禎広	
呼吸器内科学	藤田 昌樹	井上 博之		海老 規之		
腎臓・膠原病内科学	升谷 耕介	伊藤 建二			高橋 宏治	氷室 尚子
脳神経内科学	馬場 康彦	三嶋 崇靖		[栗原可南子]	井上 賢一	
精神医学	堀 輝			衛藤 暢明	林 礼雄	吉村 裕太
小児科学	永光信一郎				伊東 和俊 佐々木聡子 林 仁美	
皮膚科学	今福 信一		古賀 文二	佐藤 絵美 大賀 保範	[筒井 啓太]	片山 栞
放射線医学	吉満 研吾	高山 幸久			赤井 智春 肥田 浩亮	佐藤 圭亮
消化器外科学	長谷川 傑	塩飽 洋生			島岡 秀樹	中島 亮
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	佐藤 寿彦				[阿部 創世] 上田雄一郎 若原 純一	
心臓血管外科学	和田 秀一	桑原 豪			[森田 裕一]	早麻 政斗
脳神経外科学	安部 洋		竹本光一郎		榎本 年孝 吉永進太郎	[天本 宇昭] 山城 慧
整形外科	山本 卓明	森下雄一郎		瀬尾 哉	石松 哲郎 柴田 光史	
形成外科学	高木 誠司				小柳 俊彰	
眼科学	内尾 英一			高橋 理恵 原田 一宏 ファン ジェーン	上野 智弘	
耳鼻咽喉科学	坂田 俊文		末田 尚之		妻鳥敬一郎	佐藤 晋
泌尿器外科学	羽賀 宣博		中村 信之	松崎 洋吏	岡部 雄	江本 大紀
産科婦人科学	四元 房典			伊東 智宏 清島 千尋 平川 豊文	吉川 賢一	
麻酔科学	秋吉浩三郎			楠本 剛		
歯科口腔外科学	近藤 誠二		吉野 綾	喜多 涼介		
臨床検査医学	小川 正浩	大久保久美子				
救命救急医学	仲村 佳彦	岩朝 光利				
臨床検査医学	鍋島 茂樹				鈴山 裕貴	

・ [] は休職

福岡大学病院									
診療科・部・センター	教 授	准教授	講 師			講師4条7号	助 教		
腫瘍・血液・感染症内科		磯部 泰司				佐々木秀法	中島 勇太	石津 昌直	後藤 真喜
内分泌・糖尿病内科		横溝 久					牟田 芳実	秀島 早紀	
循環器内科			末松 保憲	有村 忠聡 加藤 悠太	桑野 孝志 志賀 悠平		平田 哲夫	満田 寛子	重本 英二
消化器内科			横山 圭二	芦塚 伸也	田中 崇		久能 宣昭 [松岡 賢]	土屋 直壮	福永 篤志 古賀 毅彦
呼吸器内科		濱田 直樹				中尾 明	池田 貴登	[佐々木朝矢]	春藤 裕樹
腎臓・膠原病内科		三宅 勝久					多田 和弘	嶋本 聖	
脳神経内科						合馬 慎二	立石 雄嗣	高橋 信敬	
精神神経科			菅原 裕子			飯田 仁志	北井 良和	原田 康平	畑中 聡仁
小 児 科		[ハツ賀秀一]	藤田 貴子	吉兼由佳子			宮本 辰樹 [小寺 達朗] 平井 貴彦	後藤 綾子 古賀 信彦 藤井 裕子	女川 裕馬 永山 悠悟
皮膚科			柴山 慶継			[内藤 玲子]	清水 裕毅		
放射線科							田中 慎二	村山 僚	中根慎一郎 谷 知允
消化器外科		梶原 正俊	内藤 滋俊	山田 哲平		[愛洲 尚哉] 松本 芳子	橋本 恭弘 佐々木 貴英	佐原くるみ 棟近 太郎	横 研二 [柴田 亮輔]
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科		吉永 康熙 早稲田龍一	中島 裕康			増田 佳子 宮原 聡	田中 益美	[岩中 剛]	
心臓血管外科						古井 雅人	寺谷 裕充	清水 真行	
脳神経外科			森下 登史			小林 広昌	[堀尾 欣伸]	河野 大	田中 秀明
整形外科		木下 浩一 前山 彰	田中 潤			三宅 智 萩尾 友宣	中山 鎮秀	廣田 高志	松永 大樹
形成外科						大山 拓人	*森田 愛	鈴木翔太郎	谷 ありさ [岡本 理沙] [前山 徹]
眼 科		尾崎 弘明	川村 朋子				*小林 彩加		
耳鼻咽喉科							黒木 圭二	木庭 忠士	
泌尿器外科						宮崎 健	富永 光将	郡家 直敬	
産婦人科			倉貝 正光	漆山 大知			石田 倅子	重川浩一郎	
麻 酔 科							今給黎佑理 越智麻衣子 三原 慶介	平井 規雅 佐藤 聖子 柴田 志保	三股 亮介 [熊野 仁美] 外山恵美子
歯科口腔外科		梅本 丈二	瀬戸 美夏						
臨床検査・輸血部		森戸 夏美	小柳 尚子	高田 耕平					
救命救急センター		喜多村泰輔				*星野 耕大	山崎 玲子 川平 悠人 *大藏 裕子	宮崎弘太郎 工藤 悠貴 川野 恭雅	村西謙太郎 森本 紳一 泉谷 義人
総合診療科						坂本 篤彦	野下 育真 奥津 翔太	日吉 哲也	[加藤 慎史] 瀬知 裕介
病 理 部		濱田 義浩	古賀 佳織						
内 視 鏡 部			石田 祐介						
睡眠センター		吉村 力							
放射線部第一第二									
手術 部		重松 研二	吉村 文博				岩下 耕平	富永 将三	大久保 美徳 山田 宗範
リハビリテーション部		鎌田 聡	藤見 幹太						
総合周産期母子医療センター		廣瀬龍一郎	小幡 聡			井槌 大介 瀬戸上貴資	讃井 絢子	川野 裕康	新居見俊和 音田 泰裕
臓器移植医療センター	白石 武史								
臨床研究支援センター	野田 慶太								
卒後臨床研修センター		八尋 英二							
医 療 情 報 部	吉田陽一郎								
感 染 制 御 部	高田 徹	戸川 温							
再生医療センター		吉松 軍平							
医療安全管理部	小吉 里枝					中村伸理子			
臨床医学研究センター									

・[] は休職

令和6年4月1日現在

筑 紫 病 院							
診 療 科	教 授	准 教 授	講 師	講師4条7号	助 教		
循 環 器 内 科	河村 彰	池 周而	高宮 陽介		長田 芳久		
呼 吸 器 内 科	石井 寛		木下 義晃		宇都宮琢秀 中島 章太	吉田 祐士	[上田 裕介]
内分泌・糖尿病内科	小林 邦久	阿部 一郎			工藤 忠睦		
消 化 器 内 科	久部 高司		小野陽一郎 金光 高雄		武田 輝之 野間栄次郎	永山林太郎	丸尾 達
脳 神 経 内 科		津川 潤		竹下 翔			
小 児 科		井上 貴仁			久保田 慧	坂口 崇	塩手 仁也
外 科	渡部 雅人	東 大二郎 宮坂 義浩	小島 大望	[渡邊 利史]	甲斐田大貴 川元 真	高橋 宏幸 和田 英雄	[上床 崇吾]
呼吸器・乳腺外科	山下 眞一	吉田 康浩					
整 形 外 科	伊崎 輝昌		坂本 哲哉	野村 智洋	小阪 英智	蓑川 創	
脳 神 経 外 科	東 登志夫				井上 律郎	田尻 崇人	
泌 尿 器 科				宮島 茂郎	王丸 泰成		
眼 科		久富 智朗			下川亜沙美	森 雄二郎	芳賀 聡
耳 鼻 い ん こ う 科			三橋 泰仁		坂田健太郎		
放 射 線 科		高野 浩一		浦川 博史	山本良太郎		
麻 酔 科				若崎るみ枝	中原 春奈	野口 紗織	高橋 明子
救 急 ・ 総 合 診 療 科					天野 良祐 古賀 章浩 崎原 永志	濱畑 圭佑 林 貴臣 松岡 優太	
内 視 鏡 部				宮岡 正喜	今村健太郎		
病 理 部	二村 聡		原岡 誠司		田邊 寛	吉村 雅代	
臨 床 検 査 部					越智健太郎		
感 染 制 御 部		串間 尚子					
炎症性腸疾患センター				高津 典孝	八坂 達尚		
腎 セ ン タ ー		安野 哲彦					
脳 卒 中 セ ン タ ー		新居 浩平			花田 迅貫		
腫瘍・緩和ケアセンター					箱田 浩介		
臨床医学研究センター	浦田 秀則 小川 厚 柴田 陽三 八尾 建史	石井 龍					

令和6年4月1日現在

西 新 病 院							
診 療 科	教 授	准 教 授	講 師	講師4条7号	助 教		
循 環 器 内 科		西川 宏明	井上 寛子 河野 靖 則松 賢治 森井 誠士		上田 隆士	月橋 洋平	山下 素樹
消 化 器 内 科		入江 真			阿部 光市	安川 重義	
糖尿病・代謝・内分泌内科					藤井 秀幸		
呼 吸 器 内 科				赤木 隆紀	青山 崇		

・[] は休職

医学部（医学科）病院の教員組織

資格		教 授	准教授	講 師	講師4条7号	助 教	計
所属	基 礎	12	8	5	22	10	57
	臨 床	29	13	5	16(1)	39(4)	102(5)
	総 研	0	0	0	0	0	0
	(小 計)	41	21	10	38(1)	49(4)	159(5)
福 大 病 院		5	22(1)	28	20(3)	99(11)	174(15)
筑 紫 病 院		13	13	8	8(1)	44(2)	86(3)
西 新 病 院		0	2	4	1	7	14
合 計		59	58(1)	50	67(5)	199(17)	433(23)
教 育 技 術 職 員		医学部医学科 58：基礎 12 臨床 25 総研 5 その他 16					
事 務 職		13		労 務 職 員		0	

- ①（ ）は再掲した休職者・休業者（〔 〕、*）数。合計には休職者・休業者を含み、兼務者は除く。
②総研に医学部 RI 施設を含む。
③医学部特別寄付講座、寄付研究連携講座、アニマルセンターは除く。

寄付研究連携講座 人員一覧表

令和6年4月1日現在

所 属	寄付研究連携講座名称	教 授	講 師	講師4条7号	助 教	研究代表者	備 考
医 学 部	心血管病対策マネジメント講座					三浦伸一郎	R 4. 4～R 9. 3
医 学 部	心血管疾患先進治療研究講座				田代 浩平	小川 正浩	H23. 4～R 7. 3
医 学 部	がん薬物療法研究講座					高松 泰	H24. 4～R 7. 3
医 学 部	地域・救急医療学講座					三浦伸一郎	H24. 4～R 7. 3
医 学 部	循環生理検査治療学講座					小川 正浩	H24.10～R 6. 9
医 学 部	西日本地区周産期医療研究講座				柴田 磨己	四元 房典	H26. 4～R 7. 3
医 学 部	応用再生医療開発講座					小玉 正太	H27. 4～R 7. 3
医 学 部	応用異種移植発展講座					小玉 正太	R 3. 7～R 8. 6
医 学 部	ニューロサイエンス・精神医学研究講座				後藤 玲央	堀 輝	H27.10～R 7. 3
医 学 部	呼吸睡眠医学講座			柳原 豊史		藤田 昌樹	H28. 4～R 7. 3
医 学 部	運動器先端医療開発講座				柴田 達也 杉野 裕記 土肥憲一郎 橋野 悠也 秀島 義章	山本 卓明	H28.10～R 6. 9
医 学 部	先端スポーツ医学開発講座					山本 卓明	R 3.10～R 8. 9
医 学 部	腎不全総合医療学講座			渡邊 真穂		升谷 耕介	H30. 8～R 6. 7
医 学 部	手術評価医療学講座					佐藤 寿彦	H31. 3～R 7. 3
医 学 部	在宅療養支援・リハビリテーション講座					三浦伸一郎	H31. 4～R 7. 3
医 学 部	下肢救済管理学講座					三浦伸一郎	R 3. 4～R 8. 3
医 学 部	循環器緩和ケア・医療連携講座					三浦伸一郎	R 4. 7～R 9. 3
筑紫病院	炎症性腸疾患先端治療学講座					久部 高司	H24. 4～R 7. 3

特別寄付講座 人員一覧

令和6年4月1日現在

所 属	特別寄付講座名称		助 教	研究代表者	備 考
医 学 部	地域医療管理学講座	心臓・血管内科学	出石礼仁 藤田崇史	小玉 正太	H22. 4～R 7. 3
		総合診療学	藤兼亜耶		
		筑紫病院 消化器内科	平塚裕晃 立川勝子 三雲博行		

- ・任期付採用者のみ
・定員には含めない
・*は育児休業、介護休業、病欠による休職。

令和6年度 福岡大学臨床教授等一覧

臨床教授（令和6年4月1日～令和8年3月31日） 卒前学外臨床実習協力医療機関

氏 名	病 院・役 職 等
原田 直樹	千早病院 副院長、診療部長
柴田 隆夫	村上華林堂病院 副院長
下野 大	二田哲博クリニック姪浜 院長
松村 潔	北九州若杉病院 院長
土屋 芳弘	つちや内科循環器内科クリニック 理事長・院長
下村 英紀	福岡徳洲会病院 副院長
早田 哲郎	江頭会 さくら病院 診療部長・医局長
飯田 武史	医療法人社団誠仁会夫婦石病院 理事長、院長
司城 博志	村上華林堂病院 名誉院長
安部 泰弘	済生会福岡総合病院 腎臓内科主任部長
服部 文忠	長尾病院 理事長、院長
村上 修二	江頭会さくら病院 副院長
栗田 輝久	可也病院 理事長、院長
芹川佳代子	ものわすれメンタルクリニック 院長
山口 覚	伊都こどもクリニック 院長
井上秀一郎	井上四郎小児科医院 院長
内田 智子	医療法人内田こどもクリニック 理事長
梅野 英輔	梅野小児科内科医院 理事長
松本 一郎	松本小児科医院 院長

氏 名	病 院・役 職 等
森 聡子	福岡山王病院 NICU 室長
富田 昌良	糸島医師会病院 院長
下川 敏弘	社会医療法人喜悅会那珂川病院 理事長
乗富 智明	福岡徳洲会病院 院長
野田 尚孝	福西会病院 消化器外科部長
笠 健児朗	笠外科 胃腸内科医院院長
藤原 将巳	佐田厚生会佐田病院 院長
花田 弘文	福岡リハビリテーション病院 副院長、整形外科部長
眞鍋 剛	白十字病院 形成外科部長
入江 暢幸	福岡リハビリテーション病院 院長
福田 健治	白十字病院 脳神経外科部長
立川 裕	岡垣腎クリニック 院長
穴井 堅能	引野口循環器クリニック 院長
梅崎 俊郎	福岡山王病院 耳鼻咽喉科部長、音声・嚥下センター長
山下 茂	福西会病院 放射線科部長
二ノ坂保喜	医療法人にのさかクリニック 理事長
衛藤 陽一	佐田厚生会佐田病院 麻酔科部長
迎 雅彦	福岡赤十字病院 麻酔科部長

臨床教授（令和6年6月1日～令和8年3月31日） 卒前学外臨床実習協力医療機関

氏 名	病 院・役 職 等
金森 祐治	福岡リハビリテーション病院 脳神経内科部長、院長補佐

臨床准教授（令和6年4月1日～令和8年3月31日） 卒前学外臨床実習協力医療機関

氏 名	病 院・役 職 等
竹内真由美	医療法人竹風庵榊原医院 副院長

臨床教授（令和6年4月1日～令和8年3月31日） 卒後臨床研修協力医療機関等

氏 名	病 院・役 職 等
牟田 和男	誠和会牟田病院 会長
原 道也	福岡リハビリテーション病院 理事長
藤原 明	福岡リハビリテーション病院（クリニック） 院長
林 修司	白十字病院 病院長補佐

氏 名	病 院・役 職 等
原 巖	医療法人恵光会原病院 歯科口腔外科歯科部長
江頭 啓介	江頭会さくら病院 理事長
楠原 浩之	江頭会さくら病院
武富 賢治	たけとみクリニック 理事長・院長

臨床教授（令和6年4月1日～令和8年3月31日） 関連医療機関

氏 名	病 院・役 職 等
松本 武格	白十字病院 呼吸器内科部長
高良由貴夫	甘木診療クリニック 診療部長
藤永 拓朗	恵愛会福岡病院 院長
徳永雄一郎	不知火病院 理事長
小嶋 享二	福岡県立精神医療センター太宰府病院 院長
鶴澤 礼実	高木病院 院長補佐、小児科部外研修部長
田中伸之介	社会保険直方病院 院長
原 正文	久恒病院 理事長・院長
副島 修	福岡山王病院 整形外科部長、教授
阪元政三郎	白十字リハビリテーション病院 院長

氏 名	病 院・役 職 等
平川 勝之	福岡市民病院 診療統括部長
竹野 文洋	医療法人たけの内科クリニック 理事長・院長
峰松 紀年	済生会福岡総合病院 心臓血管外科主任部長
久保田由美子	福岡山王病院 皮膚科部長
中島 雄一	飯塚病院 特任副院長
鍋島 義之	福岡徳洲会病院 泌尿器科部長
鍋田 基生	つばきウイメンズクリニック 理事長・院長
野下 純世	村上華林堂病院 副院長・アイセンター長
指原 裕之	聖マリア病院 眼科診療部長

医学部役職員及び委員名簿（下線は委員長、カッコは指定職の委員）

令和6年4月1日

医学部長：小玉 正太 看護学科主任：宮城由美子 医学研究科長：高松 泰 アニマルセンター長：立花 克郎 医学部 RI 施設長：秋吉浩三郎									
総病院長：吉満 研吾									
福大病院長：三浦伸一郎 福大病院副病院長：秋吉浩三郎・長谷川 傑・平井 郁仁・甲斐 純美（看護部）									
筑紫病院長：河村 彰 筑紫病院副病院長：柴田 陽三・二村 聡・山下 眞一									
西新病院長：山本 卓明 西新病院副病院長：入江 真・西川 宏明									
委員会名	委員名	病院・他学部選出委員名	任期		委員会名	委員名	病院・他学部選出委員名	任期	
評議員会	(小玉)・濱崎・宮城		3年	8年11月	学生懲戒委員会	緒方		2年	7年11月
大学協議会	(小玉)・和田 (非学部選出=緒方)		2年	7年11月	医学部 RI 施設 運営小委員会	(小玉)・(三浦)・ (秋吉)・(近藤)・ (榮)	羽賀(病院)	2年	7年11月
教務委員会	川浪		2年	7年11月		立花・藤田(孝)・ 吉村・根本			
学生部委員会	鍋島		2年	7年11月	教育職員資格 審査委員会	小柳・末次		1年	6年11月
図書委員会	大倉		2年	7年11月	大学院学務委員会	安永		2年	7年11月
研究推進部委員会	小川(正)		2年	7年11月	大学院教育職員 資格審査委員会	今泉・四元		1年	6年11月
入学センター 委員会	有馬		2年	7年11月	環境保全センター 委員会	角田	永光(病院)・ 井上(貴)(筑紫)	2年	7年11月
国際センター 委員会	升谷		2年	7年11月					
キャリアセンター 委員会	江藤		2年	7年11月	人を対象とする 研究倫理審査委員会	今泉・有馬・平井 前山・緒方	前越(法)・高橋(商) 坪井(外部)・ 金城(外部)・ 楠瀬(外部)	2年	8年3月
学部調整委員	情報セキュリティに関する業務 永光・江藤 障がい学生支援担当業務 永光・長谷川		2年	7年11月	遺伝子組換え実験 安全委員会	(小玉)・(安永)・ 貴田・根本 角田		2年	7年11月
アニマルセンター 運営委員会	(立花)・廣松・ 藤田(孝) 安永・坂田(直)	藍(理)・重松(工)・ 高田(薬) 上原(ス)・ 森下(病院)	2年	7年11月		(立花)・廣松・ 藤田(孝)・安永 坂田(直)	竹花(人)・藍(理) 武下(工)・高田(薬) 樋川(薬)・川中(ス) 升谷(病院)・ 阿部(筑紫)	2年	7年11月
RI センター 委員会	秋吉・近藤		2年	7年11月					

A. 医学部 常設委員会（下線は委員長、以下同じ）

令和6年4月1日

委員会名	委員名	任期	
自己点検・ 評価実施委員会	(学部長)小玉・(看護学科主任)宮城・(大学協議員)和田・(教務委員)川浪・(学生部委員)鍋島・(図書委員)大倉・ (医学教育推進講座)北島 (入学センター委員)有馬・(国際センター委員)升谷・(医学研究科長)高松・(大学院学務委員)安永 (看護学専攻専攻長)佐久間・(看護学科教務・実習委員会委員長)中島・(看護学専攻学務会委員長)榎・ (看護学専攻入試会委員長)小柳	2年	7年11月
分館図書小委員会	(図書委員)大倉・(基礎3名・臨床2名)北島・石井・坂田(直)・田中(俊)・漆山・(看護学科)木村・(筑紫)安野	2年	7年11月
医学情報センター 運営委員会	(図書委員)大倉・(分館図書小委員)北島・石井・坂田(直)・田中(俊)・漆山・(看護学科)木村・(筑紫)安野・ (事務部長)田中(孝)	2年	7年11月
医学紀要編集委員会	(研究推進部委員)小川(正)・仲村・伊藤・堀・井上・高木・四元・安部・今泉・塩飽・濱崎・(看護学科)大田・ (看護学科)藤本	2年	7年11月
医学部広報委員会	(学部長)小玉・(看護学科主任)宮城・(大学協議員)和田・(教務委員)川浪・(学生部委員)鍋島・(図書委員)大倉 (入学センター委員)有馬・(国際センター委員)升谷・(医学研究科長)高松・(大学院学務委員)安永 (総合研究室世話人)立花・坂田(直)・濱崎・近藤・平井・有馬・(電子顕微鏡センター運営委員長)升谷・ (看護学科 入試委員長)大倉	2年	7年11月
兼業審査委員会 (教育職員)	(学部長)小玉・(大学協議員)和田・(評議員)濱崎・(看護学科主任)宮城 ※看護学科主任は、看護学科所属教職員から兼業申請があった場合のみとする。	2年	7年11月

B. 医学部 随時委員会

委員会名	委員名	任期	
禁煙推進委員会	(学生部委員)・(学部長)・(医学科クラス主担任6名)・看護学科3名	1年	－

C. 医学科 常設委員会

委 員 会 名	委 員 名	任 期	
教 務 委 員 会 入 試 委 員 会 学 生 委 員 会	(学部長)小玉・(前学部長)-・(福大病院長)三浦・(大学協議員)和田・(教務委員)川浪・(前教務委員)-・ (学生部委員)鍋島・(入学センター委員)有馬 (国際センター委員)升谷・(研究科長)高松・(大学院学務委員)安永・(図書委員)-・ (大学院教育職員資格審査委員)今泉・四元 (各学年担任)濱崎・小川／安永・升谷／藤田(孝)・平井／秋吉・立花／長谷川・岩本／坂田(俊)・廣松・ (次年度 MM1主担任・主副担任)有馬・高木 (国試対策委員会責任者)北島・(筑紫病院教育委員)二村・(医学教育推進講座)北島・(事務)田中(孝)	1 年	7 年 3 月
総 合 試 験 委 員 会	(教務委員)川浪・(学部長)小玉・(医学教育推進講座)北島 上杉・有馬・川添・阿部・柏木・今泉・田中(俊)・高田(徹)・横溝・杉原・桑野・釈迦堂・船越・升谷・三宅(勝)・ 藤田(昌)・合馬・原田(康)・林・新居見・音田・清水・吉満・高山・長谷川・若原・森下・和田・桑原・三宅(智)・ 小林・坂田・中村・漆山・平川・倉員・重松・柴田・瀬戸・森戸・岩朝・森本・鈴木・坂本・八尋・吉田	1 年	7 年 3 月
国 試 対 策 委 員 会	(委員長)北島・吉兼・佐々木(秀)・中尾・飯田・平川・牟田・船越・高橋・井上	1 年	7 年 3 月
C B T 委 員 会	(教務委員)川浪・(学部長)小玉・(医学教育推進講座)北島 貴田・角田・本田・白須・根本・青木・石井・吉村(芳)・前田・石田・藤居・高山・吉松・毛利・磯部・高田(徹)・ 横溝・加藤・末松・芦塚・田中・伊藤・氷室・井上・三嶋・原田(康)・林・新居見・音田・佐藤・吉満・高山・ 長谷川・早稲田・竹本・和田・桑原・三宅(智)・小林・末田・中村・重川・倉員・伊東・楠本・佐藤・梅本・ 森戸・喜多村・川野・鈴木・日吉・八尋	1 年	7 年 3 月
カリキュラム検討委員会	(教務委員)川浪・(医学教育推進講座)北島・(基礎)岩本・(臨床内科系)藤田(昌)・(臨床外科系)長谷川・ (事務部長)田中(孝)・(学生代表)2 名	1 年	6 年 11 月
医学教育評価委員会	(基礎系教授)・(臨床内科系教授)・(臨床外科系教授)・(事務部長)	1 年	—
F D 推 進 委 員 会	(学部長)・(教務委員)・(医学教育推進講座)・(基礎系教授)・(臨床内科系教授)・(臨床外科系教授)	1 年	—
臨床実習検討委員会	(学部長)・(福大病院長)・(教務委員)・(卒後臨床研修センター長)・(医学教育推進講座)・ (各診療科の C.C 実施責任者)	1 年	—
医学教育検討委員会	(学部長)・(教務委員)・(医学教育推進講座)・(基礎系教授)若干人・(臨床内科系教授)若干人・ (臨床外科系教授)若干人・(認証評価経験者)若干人	1 年	—
ク ラ ス 担 任 会	(学部長)小玉・(教務委員)川浪・(学生部委員)鍋島 (1 年)濱崎・小川 (2 年)安永・升谷 (3 年)藤田(孝)・平井 (4 年)秋吉・立花 (5 年)長谷川・岩本 (6 年)坂田(俊)・廣松	1 年	7 年 3 月
予 算 委 員 会	(学部長)小玉・(福大病院長)三浦・(筑紫病院長)河村・(大学協議員)和田・(教務委員)川浪・(図書委員)-・ (研究科長)高松 (大学院学務委員)安永・(アニマルセンター長)立花・(電子顕微鏡センター運営委員長)升谷・ (医学部 RI 施設長)秋吉・(研究推進部委員)小川(正) (総合研究室世話人)立花・坂田(直)・濱崎・近藤・平井・有馬(基礎・臨床各 2 名)廣松・白澤・安部・佐藤	1 年	6 年 11 月
准 教 授 ・ 講 師 選 考 委 員 会	(学部長)小玉・(学部長が医学科教授会議に推薦して選任した者)今泉・四元 (基礎・臨床各 3 名)濱崎・藤田(孝)・安永・秋吉・安部・小川(正)	1 年	6 年 11 月
教育技術職員審議会	(学部長)小玉・(評議員)濱崎・宮城・(大学協議員)和田・(事務部長)田中(孝)	役職任期満了交代制	
総合研究室運営委員会	(学部長)小玉・(研究科長)高松・(研究推進部委員)小川(正)・(人体生物系世話人)立花・ (生体制御系世話人)坂田(直)・(病態構造系世話人)濱崎 (病態機能系世話人)近藤・(先端医療科学系世話人)平井・(社会医学系世話人)有馬・(電顕運営委員長)升谷・ (基礎)廣松・(臨床)安部	1 年	6 年 11 月
電子顕微鏡センター 運 営 委 員 会	委員長(臨床系講座)升谷・(人体生物系)貴田・(生体制御系)坂田(直)・(病態構造系)上杉・(臨床系講座)佐藤	2 年	7 年 11 月
個人評価自己申告書 点 検 委 員 会	(世話人)安永・秋吉・(作業部会)基礎系講座及び臨床講座の准教授ないしは講師	1 年	7 年 3 月
国 際 交 流 委 員 会	(学部長)小玉・(国際センター委員)升谷・(教務委員)川浪・(学生部委員)鍋島・(学部長が認めた若干人)	1 年	7 年 11 月
医 学 生 業 績 報 告 書 (JAMeS) 編集委員会	(委員長)三浦・川浪・安元・山本・学生会会長	1 年	6 年 11 月

D. 医学科 随時委員会

委 員 会 名	委 員 名	任 期	
C・C 実施責任者会	高松・高田／三浦・杉原／平井・田中・古賀／升谷・三宅／馬場・井上／(教務委員)川浪・高士・牟田／藤田(昌)・ 春藤／長谷川・梶原・山田／佐藤・中島 岩朝・喜多村／四元・倉員・漆山／永光・古賀・瀬戸上／堀・畑中／鍋島・日吉／二村／高山・肥田／ 小川・森戸／秋吉・重松・楠本／山本・三宅／和田・桑原 中村・松崎／古賀・大賀／ファン・小林／末田・妻鳥／安部・小林／上杉・青木／高木・小柳／神村・兼重／ 瀬戸・吉野・喜多／野田／鎌田・藤見／森井	1 年	7 年 3 月

E. 医学科 外部委員会

委 員 会 名	委 員 名	任 期	
外 部 評 価 ・ 問 題 検 討 委 員 会	(学部長)・(教務委員)・(医学教育推進講座)・(医学教育評価委員会)2 人・(本学以外の大学教員)若干人 (本学以外の病院医師)若干人・(医学教育に関わる学外者)若干人・(医師会、行政機関代表者)若干人	1 年	—

4. 入試・教務・国試

1. 令和7年度入学者 入学試験・入学者状況

医学科では、平成21年度からの入試制度改革により、①地域枠推薦、②A方式推薦、③附属校推薦、④学部留学生選抜、⑤一般選抜、⑥共通テスト利用型選抜の6つの異なる入学選抜方式を採用している。その趣旨は、優秀な人材の確保のみならず、地域医療の充実や国際交流促進の観点に立ち、幅広く人材を求めることにある。また、人物評価をより客観的かつ適切に行う為に、学部留学生選抜・附属校推薦を除く入学試験において受験者4～6名に対し面接者3名による集団面接を導入している。

令和7年度 入学試験・入学者の状況を表1に示す。

- 1) 学校推薦型選抜（A方式、地域枠、附属校）では、英語と数学の筆記試験を実施し、併せて集団面接（附属校は、個別面接）を行った。附属校推薦入学制度は40年目を迎え、今年度の推薦者数は14名で、前年度と比べ3名減少した。厳正な選考の結果、3名を合格とした。その他の学校推薦型選抜の志願者数は、A方式推薦が143名、地域枠推薦が44名と、前年度と比べA方式が21名増加し、地域枠が6名減少した。A方式推薦及び地域枠推薦はそれぞれ27名、10名を合格とし、計40名を推薦入試全体の合格とした。
- 2) 一般選抜では英語、数学の配点をそれぞれ100点、理科2科目（物理、化学、生物より2科目選択）の配点を200点として、合計400点の学力考査結果をもとに第一次選抜を行った。
一般選抜は、本学（福岡）、東京、名古屋、大阪の4会場で令和7年2月2日に実施した。志願者数は2,593名で前年度（2,071名）と比べ522名増加した。受験者数は2,468名で、一次試験の最高点370点から最低点281点までの400名を一次合格とした。
二次試験は面接と一次試験の結果で総合的に選考した。学校推薦型選抜・学部留学生選抜・共通テスト利用型選抜を除く定員60名に対し、最高点416点から最低点331点までの119名を正規合格とした。
- 3) 平成26年度から大学入試センター試験利用入試（令和3年度より大学入学共通テスト）を実施した。令和7年度大学入学共通テストにおける指定科目を英語200点、国語100点、数学2科目（数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B・数学C）の200点、理科2科目選択（物理、化学、生物）の200点とし、合計700点で第一次選抜を行った。志願者数は587名で、第一次選抜の最高得点は668.2点から556点までの187名を一次合格とした。二次試験は面接と一次試験の結果で総合的に選考した。定員10名に対し、最高点714.2点から最低点627.8点までの43名を正規合格とした。
- 4) 学部留学生選抜では1名の志願者があった。筆記試験・面接・小論文・書類審査で選考の結果、合格者はいなかった。
- 5) 令和7年度 入学者のまとめ

一般入学試験では、正規合格者119名中41名（34.5%）、追加合格者51名中19名（37.3%）が入学した。共通テスト利用型選抜では、正規合格者43名中6名（14.0%）、追加合格者13名中4名（30.8%）が入学した。推薦入学者40名（A方式、附属校、地域枠）を加え、全体の入学者数は定員通りの計110名となった。男・女構成は、男子56名、女子54名である。

表1 令和7年度入学者 医学部医学科入学試験状況

	志願者数(一次)		受験者数(一次)		合格者数(一次)		受験者数(二次)		合格者数(二次)		追加合格者数		入学者数	
	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数	全体	女子数
一 般 選 抜	2,593	1,026	2,468	994	400	138	341	123	119	37	51	16	60	21
共通テスト利用型選抜	587	260	579	258	187	85	138	63	43	24	13	8	10	4
A 方 式 推 薦	143	73	143	73					27	21			27	21
地 域 枠 推 薦	44	25	44	25					10	6			10	6
附 属 校 推 薦	14	6	14	6					3	2			3	2
学部留学生選抜	1	1	1	1					0	0			0	0
計	3,382	1,391	3,249	1,357	587	223	479	186	202	90	64	24	110	54

（入学センター委員 有馬 久富）

2. カリキュラム改編

第1学年から第4学年では、学生の成績評価に関する信頼性、妥当性を外部評価者（科目外の教員）が評価することを目的に成績評価検討会議を今年度も実施し、その結果に基づいて教務委員会、教授会で審議を行うことで、適正な卒業・進級判定を行った。また、文部科学省医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）に準拠してクリニカルクラークシップの時間を拡充するため、カリキュラム改編に着手した。基礎医学科目および臨床医学科目（病理学、薬理学、医療情報社会学等）の年次下げを実施し、カリキュラム改編を進めた。その結果、第4学年におけるクリニカルクラークシップⅠの開始時期の前倒しの実現につながった。また、学生代表を構成員として加えたカリキュラム検討委員会を開催し、中間試験の回数を年間3回から2回に減らすなど、学生からの意見をカリキュラムに反映させる取り組みを行った。

第4学年の12月以降および第5学年は、臨床実習を通じて医師として必要な臨床判断や技能、態度を学んでいる。同時に国家試験を目指して医学的知識の修得状況を段階的に評価することを目的に、令和2年度から年度末の進級判定試験に加えて中間試験を実施しており、今年度は6月と11月の2回実施とした。

第6学年は、クリニカルクラークシップⅡに引き続いて4～6月にクリニカルクラークシップⅢを行っている。継続的に臨床実習を行うことで、臨床能力・態度の習得度が高まると期待される。

3. 医学教育ワークショップ

ワークショップは4回実施した。各回のテーマは次の通りであった。

第1回（通算90回）

- 1 「第118回 医師国家試験講評および今後の課題」
- 2 「シミュレーションセンターの使用方法について」

第2回（通算91回）

- 1 「医学科2024年度入試の状況について」
- 2 「IR から医学科入学試験のあり方を考える」

第3回（通算92回）

「診療参加型臨床実習と国家試験 ～知識・技能・態度の融合のために～」

第4回（通算93回）

「関西医科大学における医学教育改革」

4. 国家試験結果

第119回医師国家試験は、令和7年2月8～9日に行われた。

本学からは新卒者92名が受験し、87名（94.6%）が合格した。合格率の順位は全国82大学中60位であった（昨年度は85.0%で82位）。既卒者は20名が受験して14名（70.0%）が合格。新卒者、既卒者を合わせた全体の合格者は112名中101名（90.2%）で、全国82大学中70位であった（昨年度は合格率84.1%で81位）。

本学卒業生の国家試験合格者数を表3、4に示す。全卒業生数は4,936名で、そのうち32名が未合格者数である。

（教務委員 川 浪 大 治）

表2 令和6年度 医学部医学科6年生カリキュラム

[illegible]

表3 医師国家試験合格状況：全国平均・私大平均との比較

卒業回	国試 (回)	年	新卒＋既卒						新卒						既卒				
			受験者 (名)	合格者 (名)	合格率 (%)	全国平均 (%)	全国順位 (位／校)	私大平均 (%)	私大順位 (位／校)	受験者 (名)	合格者 (名)	合格率 (%)	全国平均 (%)	全国順位 (位／校)	私大平均 (%)	私大順位 (位／校)	受験者 (名)	合格者 (名)	合格率 (%)
48回生	119	2025	112	101	90.2	92.3	70／82	93.3	27／31	92	87	94.6	95.0	60／82	95.0	18／31	20	14	70.0
47回生	118	2024	126	106	84.1	92.4	81／82	94.1	30／31	113	96	85.0	95.4	82／82	96.2	31／31	13	10	76.9
46回生	117	2023	118	105	89.0	91.6	68／82	92.3	24／31	112	102	91.1	94.9	73／82	94.6	24／31	6	3	50.0
45回生	116	2022	101	95	94.1	91.7	31／81	92.4	15／30	86	84	97.7	95.0	19／81	95.2	9／30	15	11	73.3
44回生	115	2021	118	104	88.1	91.4	68／80	91.1	21／29	104	95	91.3	94.4	69／80	93.8	22／29	14	9	64.3
43回生	114	2020	138	123	89.1	92.1	73／80	93.3	24／29	98	92	93.9	94.9	66／80	95.4	23／29	40	31	77.5
42回生	113	2019	139	100	71.9	89.0	80／80	88.9	29／29	117	88	75.2	92.4	80／80	91.5	29／29	22	12	54.5
41回生	112	2018	123	101	82.1	90.1	78／80	90.2	27／29	100	83	83.0	93.3	77／80	92.8	26／29	23	18	78.3
40回生	111	2017	108	85	78.7	88.7	77／80	86.5	26／29	93	77	82.8	91.8	75／80	89.4	24／29	15	8	53.3
39回生	110	2016	120	105	87.5	91.5	74／80	91.6	25／29	107	97	90.7	94.3	72／80	94.2	23／29	13	8	61.5
38回生	109	2015	113	100	88.5	91.2	66／80	90.6	20／29	93	86	92.5	94.5	66／80	94.0	19／29	20	14	70.0
37回生	108	2014	123	101	82.1	90.6	78／80	89.7	27／29	99	84	84.8	93.9	78／80	92.5	27／29	24	17	70.8
36回生	107	2013	126	102	81.0	89.8	77／80	88.9	27／29	101	87	86.1	93.1	74／80	91.8	24／29	25	15	60.0
35回生	106	2012	122	95	77.9	90.2	80／80	90.2	29／29	98	78	79.6	93.9	79／80	93.5	28／29	24	17	70.8
34回生	105	2011	123	99	80.5	89.3	77／80	88.0	26／29	98	84	85.7	92.6	76／80	91.5	25／29	25	15	60.0
33回生	104	2010	113	88	77.9	89.2	77／80	87.1	26／29	101	81	80.2	92.8	80／80	91.1	29／29	12	7	58.3
32回生	103	2009	121	108	89.3	91.0	59／80	89.4	18／29	106	100	94.3	94.8	56／80	93.4	16／29	15	8	53.3
31回生	102	2008	118	103	87.3	90.6	67／80	89.3	21／29	91	82	90.1	94.4	72／80	93.4	22／29	27	21	77.8
30回生	101	2007	132	103	78.0	87.9	76／80	84.7	25／29	97	86	88.7	92.3	68／80	89.6	19／29	35	17	48.6
29回生	100	2006	134	99	73.9	90.0	80／80	89.2	29／29	111	85	76.6	93.9	80／80	93.2	29／29	23	14	60.9
28回生	99	2005	114	92	80.7	89.1	76／80	87.1	25／29	95	82	86.3	93.3	77／80	92.2	26／29	19	10	52.6
27回生	98	2004	114	95	83.3	88.4	68／80	85.5	19／29	99	91	91.9	92.9	56／80	90.8	14／29	15	4	26.7
26回生	97	2003	120	104	86.7	90.3	64／80	88.4	18／29	102	100	98.0	94.7	13／80	93.6	3／29	18	4	22.2
25回生	96	2002	121	103	85.1	90.4	71／80	87.4	20／29	94	90	95.7	94.3	32／80	92.6	8／29	27	13	48.1
24回生	95	2001	141	116	82.3	90.4	75／80	87.5	24／29	90	77	85.6	94.4	77／80	92.6	26／29	51	39	76.5
23回生	94	2000	136	81	59.6	79.1	76／80	73.8	25／29	93	61	65.6	82.9	76／80	77.8	25／29	43	20	46.5
22回生	93	1999	120	76	63.3	84.1	79／80	79.2	28／29	96	70	72.9	87.4	79／80	83.4	28／29	24	6	25.0
21回生	92	1998	120	95	79.2	89.6	76／80	87.4	26／29	94	83	88.3	93.0	71／80	91.5	24／29	26	12	46.2
20回生	91	1997	137	111	81.0	88.1	71／80	86.0	22／29	109	93	85.3	91.7	72／80	90.3	24／29	28	18	64.3
19回生	90	1996	136	107	78.7	89.3	75／80	85.8	24／29	104	89	85.6	93.2	73／80	90.5	22／29	32	18	56.3
18回生	89	1995	128	96	75.0	86.0	70／80	80.3	19／29	99	81	81.8	90.0	70／80	84.7	19／29	29	15	51.7
17回生	88	1994	147	118	80.3	86.2	70／80	83.5	21／29	104	94	90.4	90.2	46／80	88.0	16／29	43	24	55.8
16回生	87	1993	162	117	72.2	90.0	79／80	86.8	28／29	127	91	71.7	93.5	80／80	91.0	29／29	35	26	74.3
15回生	86	1992	132	98	74.2	84.0	73／80	79.4	22／29	95	79	83.2	88.0	68／80	84.3	22／29	37	19	51.4
14回生	85	1991	136	100	73.5	84.1	71／80	78.0	20／29	98	76	77.6	87.7	73／80	82.4	20／29	38	24	63.2

表 4 国家試験合格状況

	国試実施年		78～94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	未 合格者数
	国試回	合格者数 卒業生数	65～88回 果積	89回	90回	91回	92回	93回	94回	95回	96回	97回	98回	99回	100回	101回	102回	103回	104回	105回	106回	107回	108回	109回	110回	111回	112回	113回	114回	115回	116回	117回	118回	119回	未 合格者数
卒業回	1805	1805	1805	96	107	111	95	76	81	116	103	104	95	92	99	103	103	108	88	99	95	102	101	100	105	85	101	100	123	104	95	105	106	101	
1～7回生	718	718	714														1																	3	
8回生	151	869	151																															0	
9回生	116	985	115																															1	
10回生	104	1089	103																															1	
11回生	118	1207	116																															2	
12回生	93	1300	93																															0	
13回生	115	1415	115																															0	
14回生	99	1514	98																															1	
15回生	95	1609	95																															0	
16回生	127	1736	111	7		4	2																											3	
17回生	104	1840	94	8	2																													0	
18回生	99	1939		81	16	2																												0	
19回生	105	2044			89	12				1		1																						2	
20回生	109	2153				93	10	1	1	1				1																				2	
21回生	94	2247					83	5	2	2																								1	
22回生	96	2343						70	17	5	1		1																					2	
23回生	93	2436							61	30	1			1																				0	
24回生	90	2526								77	11	2																						0	
25回生	94	2620									90	1	1	1																				1	
26回生	102	2722									100	2																						0	
27回生	99	2821										91	6	2																				0	
28回生	95	2916													82	12	1																	0	
29回生	112	3028													85	17	8	1																1	
30回生	97	3125														86	11																	0	
31回生	91	3216															82	7	2															0	
32回生	106	3322																100	5															1	
33回生	101	3423																	81	15	4	1												0	
34回生	98	3521																		84	13	1												0	
35回生	98	3619																			78	13	4	2							1			0	
36回生	101	3720																				87	13	1										0	
37回生	99	3819																					84	11	3									1	
38回生	93	3912																						86	5	2								0	
39回生	107	4019																							97	6	4							0	
40回生	93	4112																								77	14	2						0	
41回生	100	4212																									83	10	7					0	
42回生	118	4330																										88	24	3	1		1	1	
43回生	99	4429																											92	6	1			0	
44回生	104	4533																													95	9		0	
45回生	86	4619																														84	2		0
46回生	112	4731																														102	9	1	0
47回生	113	4844																															96	13	4
48回生	92	4936																																87	5

5. 学生の表彰・指導及び課外活動

令和6年度（令和6年4月から令和7年3月）に行われた医学部医学科学生関係の主な行事について報告する。

1. 医学部新入生歓迎式

4月1日 於：RI大講堂

2. 医学部長賞表彰式（医学科）

前年度に学業ならびに課外活動等において、特に優れた成績を収めた学生個人または団体に対し医学部長賞を授与した。

3. 新入生学部指導懇談会（医学科）

4月2日 於：RI大講堂

新入生110名に対する学生部関係のガイダンス

1) 学内説明、教務部、学生部に関する諸手続きの説明

2) 医学部同窓会紹介及び医学部愛好会紹介

※令和6年度の医学部愛好会は、表1のとおり。

4. 新入生 フレッシュマンキャンプ

4月6日～7日（1泊2日） 於：ホテル龍登園（佐賀県佐賀市）

5. 医学部医学科新入生歓迎会

5月15日 於：ホテルニューオータニ博多

6. 学生定期健康診断

（新入生）4月10日～4月30日 於：本学健康管理センター

（在学生）3月26日～3月28日、5月9日～5月10日 於：医学部研究棟本館前

7. 日本学生支援機構奨学生、福岡大学奨学生、各種団体奨学生採用者数（医学科）

1) 日本学生支援機構奨学生：（第一種）7名、（第二種）8名

2) 日本学生支援機構奨学生（給付奨学金）：3名

3) 福岡大学課外活動給費奨学金：0名

4) 福岡大学貸与奨学生：1名

5) 緊急給付型経済支援による授業料等減免：0名

6) 大規模災害及び感染症拡大の影響等による授業料等減免：0名

7) 入試成績優秀者奨学金 FU スカラシップ：3名

8) 福岡大学有信会奨学金：1名

9) 福岡大学利子補給奨学金：2名

8. 第76回西日本医科学生総合体育大会結団式：7月8日

9. 第76回西日本医科学生総合体育大会

8月5日～8月18日 代表主管校：川崎医科大学

10. 第55回医学部長杯争奪ソフトボール大会【中止】

11. 第45回医学部長杯争奪バレーボール大会

9月23日 於：第二記念会堂

12. 第43回医学祭（11月2日～11月4日）

13. 第48回医学部愛好会幹部研修会

令和7年2月13日 於：RI大講堂

14. 第48回医学部医学科学学位記授与式

令和7年3月19日 於：RI大講堂

15. 第48回医学部医学科卒業生謝恩会

令和7年3月19日

（卒業記念品は以下の通り）

教授会から：印鑑付ボールペン

同窓会から：パニックマニュアル一式

16. 第64回九州・山口医科学生体育大会

令和7年3月～令和7年6月 総合主管校：琉球大学

17. 総評

令和6年度は、令和5年度にCOVID-19が「5類」に移行したこともあり、様々な催しが新型コロナウイルス感染拡大前と同様の活動を行ってきました。現学生の大半は、コロナ禍で特殊な学校生活を過ごしてきた学生ばかりです。今後は、医療人育成に大切な社会性、協調性、行動力の向上に役立つよう、学生の心にも寄り添いながら学生指導を行えたらと思います。

(学生部委員 鍋 島 茂 樹)

表 1 福岡大学医学部愛好会一覧表

(令和 6 年 5 月現在)

愛好会名	顧問名	医学部医学科 学年別部員数内訳 [() 内数字は女子部員数]						
		総数	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
1 ラグビー	小玉 正太	45 (16)	8 (2)	6 (3)	11 (5)	6 (1)	8 (3)	6 (2)
2 バスケットボール	岩朝 光利	29 (9)	5 (1)	6 (3)	8 (3)	3 (0)	6 (1)	1 (1)
3 準硬式野球	和田 秀一	27 (6)	4 (1)	3 (1)	6 (1)	9 (2)	0 (0)	5 (1)
4 アーチェリー	坂田 俊文	31 (10)	3 (1)	4 (4)	4 (0)	3 (2)	14 (2)	3 (1)
5 ゴルフ	柴田 陽三	40 (20)	8 (4)	2 (1)	7 (3)	8 (5)	8 (3)	7 (4)
6 剣道	鍋島 茂樹	18 (10)	3 (2)	3 (2)	3 (1)	3 (2)	4 (2)	2 (1)
7 サッカー	高木 誠司	39 (10)	10 (3)	11 (2)	10 (2)	3 (1)	1 (0)	4 (2)
8 バレーボール	八尋 英二	38 (16)	12 (6)	8 (4)	7 (3)	3 (0)	5 (2)	3 (1)
9 硬式庭球	永光信一郎	38 (14)	10 (4)	8 (4)	11 (4)	3 (0)	1 (0)	5 (2)
10 柔道	川浪 大治	18 (7)	6 (3)	3 (1)	4 (0)	1 (0)	1 (0)	3 (3)
11 卓球	藤田 昌樹	20 (12)	4 (4)	5 (2)	2 (0)	2 (2)	2 (1)	5 (3)
12 空手道	—	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
13 フェンシング	—	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
14 ソフトテニス	四元 房典	24 (12)	5 (1)	6 (3)	2 (0)	4 (3)	4 (2)	3 (3)
15 漕艇	長谷川 傑	23 (4)	6 (1)	3 (2)	4 (0)	4 (0)	5 (1)	1 (0)
16 軟式野球	羽賀 宣博	18 (3)	5 (3)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	5 (0)	3 (0)
17 英語研究会	立花 克郎	43 (36)	5 (5)	10 (9)	7 (7)	11 (10)	5 (2)	5 (3)
18 ワンダーフォーゲル	角田 俊之	45 (16)	8 (2)	6 (3)	11 (5)	6 (1)	8 (3)	6 (2)
19 写真	吉満 研吾	7 (3)	0 (0)	2 (0)	2 (1)	0 (0)	2 (1)	1 (1)
20 バドミントン	今福 信一	42 (21)	12 (5)	9 (6)	5 (2)	6 (2)	5 (4)	5 (2)
21 社会医学研究会	有馬 久富	10 (3)	1 (0)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	0 (0)	4 (0)
22 医用電子科学研究会	濱崎 慎	7 (1)	0 (0)	2 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)
23 水泳	三浦伸一郎	41 (18)	10 (6)	12 (5)	3 (0)	4 (1)	3 (2)	9 (4)
24 弓道	升谷 耕介	25 (16)	7 (4)	7 (5)	3 (3)	3 (2)	2 (0)	3 (2)
25 ウインドサーフィン	平井 郁仁	17 (5)	7 (3)	4 (2)	4 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
26 音楽研究会	安部 洋	93 (41)	19 (10)	13 (5)	19 (10)	15 (6)	18 (6)	9 (4)
27 競技スキー愛好会	芝口 浩智	0 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (1)
28 フットサル	白澤 専二	41 (14)	12 (5)	2 (0)	4 (2)	4 (2)	14 (5)	5 (0)
29 C M e T (準)	仲村 佳彦	14 (4)	2 (1)	3 (3)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	3 (0)
30 管弦楽 (準)	松永 彰	10 (5)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (0)
合 計		808 (333)	173 (78)	143 (72)	148 (54)	109 (44)	128 (41)	107 (44)
総 学 生 数		678 (259)	130 (53)	117 (54)	115 (37)	101 (42)	112 (39)	103 (34)
入 会 率		119.2% (128.6%)	133.1% (147.2%)	122.2% (133.3%)	128.7% (145.9%)	107.9% (104.8%)	114.3% (105.1%)	103.9% (129.4%)

6. 大学院医学研究科

1. 在 籍 者 数

本年度の大学院在籍者は119名であった。

(令和6年5月1日現在)

	1年次	2年次	3年次	4年次以上	計
人 体 生 物 系	1	3	0	0	4
生 体 制 御 系	5	1	0	2	8
病 態 構 造 系	1	2	3	6	12
病 態 機 能 系	7	4	9	11	31
社 会 医 学 系	2	2	4	12	20
先端医療科学系	6	10	12	16	44
計	22	22	28	47	119

2. 専攻分野、専攻科名及び指導教員

(令和6年5月1日現在)

専攻分野	専攻科名	指導教員		定員
人 体 生 物 系	生 体 構 造 学	博(医)	立花 克郎	3
	分 子 細 胞 生 物 学	博(医)	白澤 専二	
	細 胞 分 子 制 御 学	博(医)	藤田 孝之	
生 体 制 御 系	生 体 防 御 学	博(医)	廣松 賢治	2
	再 生 ・ 移 植 医 学	博(医)	小玉 正太	
	呼 吸 病 態 生 理 学	博(医)	藤田 昌樹	
	再 生 再 建 外 科 学	博(医)	高木 誠司	
病 態 構 造 系	形 態 病 理 学	博(医)	二村 聡	8
	腫 瘍 病 理 学	博(医)	濱崎 慎	
	高 次 中 枢 病 態 学	博(医)	安部 洋	
	視 覚 病 態 学	博(医)	内尾 英一	
	腎 ・ 尿 路 病 態 学	博(医)	羽賀 宣博	
	消 化 器 病 態 学	博(医)	久部 高司	
	〃	博(医)	八尾 建史	
	脳 神 經 病 態 学	博(医)	馬場 康彦	
病 態 機 能 系	腎 免 疫 ・ 代 謝 病 態 学	博(医)	升谷 耕介	8
	細 胞 分 子 薬 理 学	博(薬)	岩本 隆宏	
	神 經 耳 科 学	博(医)	坂田 俊文	
	関 節 機 能 学	博(医)	山本 卓明	
	運 動 器 機 能 学	医 博	柴田 陽三	
	循 環 機 能 学	博(医)	和田 秀一	
	放 射 線 応 用 医 学	博(医)	吉満 研吾	
	脳卒中予防・地域医療学	博(医)	東 登志夫	
	麻 酔 学	博(医)	秋吉浩三郎	
	救 命 救 急 医 学	博(医)	仲村 佳彦	
社 会 医 学 系	口 腔 病 態 学	博(歯)	近藤 誠二	3
	予 防 医 学 ・ 公 衆 衛 生 学	博(医)	有馬 久富	
	犯 罪 医 学	—	—	
	精 神 科 治 療 学	博(医)	堀 輝	
	生 命 医 療 倫 理 学	博(医)	今泉 聡	

専攻分野	専攻科名	指導教員		定員
先端医療科学系	分 子 医 化 学	博(医)	安永晋一郎	6
	循 環 生 理 化 学	博(医)	三浦伸一郎	
	分 子 生 殖 医 学	博(医)	四元 房典	
	臨 床 検 査 解 析 学 〃	博(医)	小川 正浩	
		医 博	松永 彰	
	心 疾 患 病 態 生 理 化 学 〃	博(医)	河村 彰	
		医 博	浦田 秀則	
	皮膚炎症・感染症免疫遺伝学	博(医)	今福 信一	
	感 染 症 病 態 生 理 学 〃	博(医)	高田 徹	
		博(医)	高松 泰	
	病 院 感 染 制 御 科 学	博(医)	高田 徹	
	内 分 泌・代 謝 病 態 生 理 学 〃	博(医)	川浪 大治	
		博(医)	小林 邦久	
	消 化 器 外 科 病 態 学 〃	博(医)	長谷川 傑	
		博(医)	渡部 雅人	
	臓器再建・病態外科学 〃	博(医)	佐藤 寿彦	
		医 博	岩崎 昭憲	
	消 化 器 内 科 病 態 学	博(医)	平井 郁仁	
	発 達 小 児 科 学 〃	博(医)	永光信一郎	
		医 博	廣瀬 伸一	
	総 合 内 科 診 断 学	博(医)	鍋島 茂樹	
	臨 床 腫 瘍 学 〃 〃 〃	博(医)	高松 泰	
		博(医)	四元 房典	
		博(医)	佐藤 寿彦	
		医 博	岩崎 昭憲	
	臨 床 研 究 科 学 〃 〃 〃	博(医)	三浦伸一郎	
		博(医)	北島 研	
		医 博	野田 慶太	
		博(医)	安元 佐和	
	合 計		30	

7. 学位取得

1. 学位取得者数

学位取得者は、課程修了者30名、論文提出者13名であった。

表1 学位取得者

	授 与 日	取 得 者 数		
課 程	令和6年9月13日	6	計30	計43
	令和7年3月24日	24		
論 文	令和6年10月3日	9	計13	
	令和7年3月24日	4		

2. 課程修了による学位取得者一覧表

(授与日：令和6年9月13日)

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	甲第2044号	第2044号	ながやまりん たろう 永山林太郎	久部 高司	長谷川 傑	濱崎 慎	釈迦堂 敏
2	博士(医学)	甲第2045号	第2045号	ふくもと ひろのり 福本 博順	安部 洋	高木 誠司	岩本 隆宏	高野 浩一
3	博士(医学)	甲第2046号	第2046号	むらにしけん たろう 村西謙太郎	仲村 佳彦	鍋島 茂樹	安永晋一郎	戸川 温
4	博士(医学)	甲第2047号	第2047号	しみず まさゆき 清水 真行	和田 秀一	三浦伸一郎	四元 房典	角田 俊之
5	博士(医学)	甲第2048号	第2048号	まつもと よしこ 松本 芳子	長谷川 傑	平井 郁仁	有馬 久富	重松 研二
6	博士(医学)	甲第2049号	第2049号	くらかづ まり こ 倉員真理子	四元 房典	永光信一郎	羽賀 宣博	阿部真紀子

(授与日：令和7年3月24日)

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	甲第2069号	第2069号	もりなが えり 森永 絵理	小玉 正太	今福 信一	近藤 誠二	古賀 佳織
2	博士(医学)	甲第2070号	第2070号	いけうち のぶみつ 池内 伸光	藤田 昌樹	濱崎 慎	佐藤 寿彦	佐々木秀法
3	博士(医学)	甲第2071号	第2071号	かきもと あさこ 柿本 麻子	馬場 康彦	安部 洋	安元 佐和	篠田 康晴
4	博士(医学)	甲第2072号	第2072号	こが たかゆき 古賀 隆之	安部 洋	白澤 専二	今泉 聡	津川 潤
5	博士(医学)	甲第2073号	第2073号	にしだ あきひろ 西田 明弘	馬場 康彦	堀 輝	野田 慶太	貴田 浩志
6	博士(医学)	甲第2074号	第2074号	こばやし しゅんすけ 小林 駿介	山本 卓明	立花 克郎	坂田 俊文	吉永 康熙
7	博士(医学)	甲第2075号	第2075号	ささき きょうた 佐々木颯太	山本 卓明	長谷川 傑	岩崎 昭憲	川添 美紀
8	博士(医学)	甲第2076号	第2076号	さなだ きょういち 真田 京一	山本 卓明	東 登志夫	今泉 聡	吉田陽一郎
9	博士(医学)	甲第2077号	第2077号	とくら すむ 戸倉 晋	山本 卓明	高木 誠司	内尾 英一	坂田 直昭
10	博士(医学)	甲第2078号	第2078号	なかしお まい こ 中塩舞衣子	仲村 佳彦	廣松 賢治	高田 徹	武岡 宏明
11	博士(医学)	甲第2079号	第2079号	はら じゅんや 原 純也	山本 卓明	仲村 佳彦	渡部 雅人	貴田 浩志
12	博士(医学)	甲第2080号	第2080号	ひろた たかし 廣田 高志	山本 卓明	二村 聡	三浦伸一郎	大山 拓人
13	博士(医学)	甲第2081号	第2081号	ますだ まさと 増田 将人	堀 輝	岩本 隆宏	有馬 久富	柏木 正之
14	博士(医学)	甲第2082号	第2082号	あさだ りょう 浅田 遼	堀 輝	馬場 康彦	廣瀬 伸一	前田 俊樹
15	博士(医学)	甲第2083号	第2083号	かわの かずみ 河野 和美	有馬 久富	小林 邦久	松永 彰	ウォーターズ, ブライアン J
16	博士(医学)	甲第2084号	第2084号	まき かおり 牧 香里	有馬 久富	三浦伸一郎	安永晋一郎	中村学園大学 安武健一郎

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
17	博士(医学)	甲第2085号	第2085号	たなか ますみ 田中 益美	岩崎 昭憲	四元 房典	高松 泰	梶原 正俊
18	博士(医学)	甲第2086号	第2086号	にい みとしかず 新居見俊和	永光信一郎	安永晋一郎	岩本 隆宏	石倉 周平
19	博士(医学)	甲第2087号	第2087号	まるお たかし 丸尾 宇史	三浦伸一郎	藤田 昌樹	東 登志夫	阿部真紀子
20	博士(医学)	甲第2088号	第2088号	あじ むゆうすけ 安心院勇佑	三浦伸一郎	川浪 大治	和田 秀一	横山 圭二
21	博士(医学)	甲第2089号	第2089号	いなだ ゆうき 稲田 悠希	三浦伸一郎	秋吉浩三郎	藤田 孝之	高士 祐一
22	博士(医学)	甲第2090号	第2090号	きむら りょうへい 木村 涼平	三浦伸一郎	升谷 耕介	藤田 孝之	横溝 久
23	博士(医学)	甲第2091号	第2091号	しわく あきお 塩飽 晃生	長谷川 傑	平井 郁仁	二村 聡	梅本 丈二
24	博士(医学)	甲第2092号	第2092号	みうら えりか 三浦江里香	三浦伸一郎	有馬 久富	鍋島 茂樹	小松 知広

3. 論文提出による学位取得者一覧表

(授与日：令和6年10月3日)

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	乙第2050号	第2050号	さ にゃいんぶる Sa-ngiamwibool ぶらかしと Prakasit	濱崎 慎	佐藤 寿彦	白澤 専二	井上 博之
2	博士(医学)	乙第2051号	第2051号	たじり たかと 田尻 崇人	安部 洋	山本 卓明	馬場 康彦	根本 隆行
3	博士(医学)	乙第2052号	第2052号	うえの とむひろ 上野 智弘	内尾 英一	坂田 俊文	仲村 佳彦	柏木 正之
4	博士(医学)	乙第2053号	第2053号	こばやし あやか 小林 彩加	内尾 英一	近藤 誠二	立花 克郎	吉村 力
5	博士(医学)	乙第2054号	第2054号	すずき しゅうじ 鈴木 脩司	内尾 英一	安部 洋	堀 輝	青木光希子
6	博士(医学)	乙第2055号	第2055号	ふじた ひであき 藤田 秀昭	内尾 英一	今福 信一	廣松 賢治	芝口 浩智
7	博士(医学)	乙第2056号	第2056号	ふるい まさと 古井 雅人	和田 秀一	秋吉浩三郎	河村 彰	濱田 義浩
8	博士(医学)	乙第2057号	第2057号	くぼた けい 久保田 慧	永光信一郎	藤田 昌樹	北島 研	白須 直人
9	博士(医学)	乙第2058号	第2058号	ひらた てつお 平田 哲夫	三浦伸一郎	和田 秀一	藤田 孝之	高山 幸久

(授与日：令和7年3月24日)

番号	学位名称	報告番号	学位記番号	氏名	指導教員	主査	副査	副査
1	博士(医学)	乙第2102号	第2102号	えび のりゆき 海老 規之	藤田 昌樹	高松 泰	濱崎 慎	角田 俊之
2	博士(医学)	乙第2103号	第2103号	いけだ あや 池田 文	内尾 英一	立花 克郎	坂田 俊文	高山 幸久
3	博士(医学)	乙第2104号	第2104号	しもかわ あさみ 下川亜沙美	内尾 英一	高田 徹	藤田 昌樹	川添 美紀
4	博士(医学)	乙第2105号	第2105号	おかべ ゆう 岡部 雄	羽賀 宣博	升谷 耕介	白澤 専二	重松 研二

8. 国際交流

1. 教職員在外研究員および海外研修

1) 長期

所属	所属科	資格	氏名	研修先	研修期間	研修の種類
福岡大学病院	救命救急センター	講師 (第4条7号適用)	星野 耕大	オーストラリア	R5.4.1～R6.5.10	3号

2) 短期

所属	所属科	資格	氏名	研修先	研修期間	研修の種類
福岡大学病院	脳神経外科	講師 (第4条7号適用)	小林 広昌	アメリカ合衆国	R6.11.1～R7.1.31	4号

3) 1か月未満

医学部基礎講座	医学部臨床講座	病院	筑紫病院	合計
10	31	12	0	53

2. 学生海外研修

医学部学生を募集対象とした海外研修は以下に限られる。

ウオッシュバン大学	(アメリカ合衆国)	研修費自己負担、旅費大学支給
グリフィス大学	(オーストラリア)	研修費自己負担、旅費大学支給
蔚山大学	(韓国)	研修費自己負担、旅費大学支給
ニューカッスル大学	(イギリス)	全額自己負担
セントラル・ランカシャー大学	(イギリス)	全額自己負担
シアトル大学	(アメリカ合衆国)	全額自己負担
ハノイ大学	(ベトナム)	全額自己負担
揚州大学	(中国)	全額自己負担
慶熙大学校	(韓国)	全額自己負担
Campus France 主催語学留学	(フランス)	全額自己負担
啓明大学	(韓国)	医学部

対象学年 1年生～4年生（ただし、啓明大学の場合は医学部医学科6年生および大学院生）

研修先大学	Campus France 語学留学
蔚山大学	グルノーブル大学附属語学学校
ウオッシュバン大学	リヨン第二大学附属語学学校
グリフィス大学	サンテティエンヌ大学附属語学学校
ニューカッスル大学	
セントラル・ランカシャー大学	
シアトル大学	
ハノイ大学	
揚州大学	
慶熙大学校	
啓明大学	

ニューカッスル大学及びシアトル大学、ハノイ大学、揚州大学は選考試験がなく、定員になり次第締め切り。セントラル・ランカシャー大学と慶熙大学校と Campus France 語学留学は、選考試験がなく、1人から参加できる。

ウオッシュバン大学及びグリフィス大学の選考は英語試験、作文、面接により行われる。蔚山大学校の選考は作文と面接（R6は選考あり。R7から選考しない。）。

医学部学生の面接は医学部長、教務委員、国際センター委員で行い、候補者を推薦。医学部学生の研修生採用枠は1～2名で他学部に比べ少ない。採用枠は志願者数増加により多少増加し得る。

ウオッシュバン大学、グリフィス大学の場合、選考は10月頃に行われる。選考による候補者が学年末試験に該当することになった場合、研修不可能になる。全学的なもので、医学部学生のみ期日変更は不可能である。

- R4年度実績：医学科 なし
看護学科 なし
- R5年度実績：医学科 2人（グリフィス研修）
看護学科 0人
- R6年度実績：医学科 なし
看護学科 1人（ハノイ研修）

3. 外国人研究員受け入れ状況

- 1) 長期
令和6年度：実績なし
- 2) 短期
新規（19日間）：1名（マレーシア）、（26日間）：1名（タイ）

4. 医学部研究生（外国人受け入れ状況0名）

（全研究生：12名）

5. 大学院留学生受け入れ状況

志願者0名
合格者0名（在学生2名）

6. 学部留学生受け入れ状況

志願者1名
合格者0名
入学者0名（在学生0名）

7. 啓明大学 BSL 交換プログラム

【派遣】

先方の国内事状が不安定なため派遣中止

【受け入れ】

先方の国内事状が不安定なため受入中止

8. 参考（福岡大学協定校：24カ国・地域、92大学、1機関、令和7年3月31日現在）

うち、医学部学生が研修可能な協定校は以下の通りです。

注）全学に関しては、「国際センター活動報告書」令和6年（2024）年度を参照してください。

韓国：蔚山大学校、啓明大学校、慶熙大学校

中国：揚州大学

イギリス：ニューカッスル大学、セントラル・ランカシャー大学

アメリカ：ウオッシュバン大学、シアトル大学

オーストラリア：グリフィス大学

ベトナム：ハノイ大学

（医学部国際センター委員 升 谷 耕 介）

9. 研究業績

令和6年4月より令和7年3月までの1年間における研究業績の主なものを、ここに記載する。

講座名 No.	論文題名	発表雑誌	発行の巻（号） 頁・年	著者及び演者
------------	------	------	----------------	--------

解剖学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|--|---|--|
| 1 | Intracranial Gene Delivery Mediated by Albumin-Based Nanobubbles and Low-Frequency Ultrasound | Nanomaterials (Basel).
2024 Jan | 30:14(3):
285, 2024 | Koga T, Kida H,
Yamasaki Y, Feril LB Jr,
Endo H, Itaka K,
Abe H, Tachibana K. |
| 2 | Ultrasound Irradiation as a Candidate Procedure to Improve the Transdermal Drug Delivery to the Tail Edema of a Mouse Model | Int. J. Mol. Sci. | 2024, 25, 11883.
https://doi.org/10.3390/ijms252211883 | Kumegawa S, Suzuki T,
Fujimoto K, Uemura K,
Tachibana K, Yamada G,
Asamura S. |
| 3 | Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy: An Anatomic Study | Orthopaedic Journal of Sports Medicine | 12(3), 2024 | Oda T, Maeyama A,
Ishimatsu T, Tachibana K,
Yoshimitsu K, Yamamoto T. |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|---|--------------------|-----------------------|---|
| 1 | Bilateral Snapping Knee in a Patient with Rheumatoid Arthritis Accompanied by Sjögren's Syndrome - A Case Report. | J Orthop Case Rep. | 14(12):18-21,
2024 | Yamasaki Y, Maeyama A,
Takeuchi M, Yamamoto T. |
|---|---|--------------------|-----------------------|---|

〈総説〉

- | | | | | |
|---|---|------------------------|----------------------------|--|
| 1 | 超音波とバブル製剤による遺伝子の細胞内送達 | Drug Delivery System. | 39(5):
326-332,
2024 | 貴田 浩志, 立花 克郎 |
| 2 | Unlocking the secrets: Understanding cellular dynamics under ultrasound stimulation | Bull Jpn Soc Sonochem. | 18:8-11, 2024 | Feril LB Jr, Tachibana K,
Kida H, Endo H,
Yamasaki Y, Ogawa R. |

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|--|---|--|--|
| 1 | （シンポジウム）Therapeutic Prospects for Neurological Diseases Using Ultrafine Bubbles and Ultrasound. | Taiwan-Japan-Korea
Therapeutic Ultrasound
Forum | Taipei, Taiwan,
September 22,
2024 | Kida H. |
| 2 | （シンポジウム）ナノバブルと低周波数超音波による中枢神経への遺伝子送達：基礎研究と臨床応用への展望 | 第43回日本脳神経超音波
学会総会 | 浦安,
June 28-29,
2024 | 貴田 浩志 |
| 3 | （シンポジウム）Nanobubble-Mediated Carrier-Free mRNA Delivery into the CNS Using Low-Frequency Ultrasound. | 19th Asian Oceanian
Congress of Neurology | Tokyo, Japan,
5/29-6/1,
2024 | Kida H, Koga H,
Yamasaki Y, Endo H,
Feril LB Jr., Tachibana K. |
| 4 | （国際）Fundamental Study on the Response of Nanobubbles to Low-Frequency Ultrasound and Doxorubicin Drug Delivery | The 23rd Annual
International Symposium
on Therapeutic
Ultrasound. | Taipei, Taiwan,
9/19-22,
2024 | Yamasaki Y. |
| 5 | （招待講演）plenary speaker The Future of Nanobubbles for Drug Delivery | International Symposium
on Therapeutic
Ultrasound (ISTU) | Taipei, Taiwan,
9/20,
2024 | Tachibana K. |

6	(招待講演) Special remarks Taiwan Japan Korea Therapeutic Ultrasound Forum	The Taiwan Association of Interventional and Therapeutic Ultrasound (TAITU) Symposium	Taipei, Taiwan, 9/24, 2024	Tachibana K.
---	--	---	----------------------------	--------------

〈国内研究助成金〉

1	ワクチンに向けた経皮的ナノバブル超音波穿孔法でのキャリアフリー mRNA 導入の確立	独立行政法人 日本学術振興会 令和6年度科学研究費補助金 基盤研究(B)	2024	立花 克郎 (代表)
2	ウルトラファインバブルによる膠芽腫の抗 EGFR 抗体/shRNA 治療の開発研究	独立行政法人 日本学術振興会 令和6年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	2024	貴田 浩志 (代表)
3	免疫チェックポイント阻害剤と低強度超音波を併用した悪性黒色種治療の確立	独立行政法人 日本学術振興会 令和6年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	2024	フェリル ロリト (代表)
4	抗 PD L1抗体と PARP shRNA のペプチド複合体による卵巣癌治療	独立行政法人 日本学術振興会 令和6年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	2024	遠藤日富美 (代表)
5	ナノバブルによる Ewing 肉腫の IGF-1R 抗体-shRNA 治療の開発研究	独立行政法人 日本学術振興会 令和6年度科学研究費補助金 基盤研究(C)	2024	山崎裕太郎 (代表)
6	(がん研究助成金) 令和5年度 ナノバブルによる Ewing 肉腫の IGF-1R 抗体-shRNA 治療の開発研究	公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構	2024	山崎裕太郎 (代表)
7	(研究助成金) 令和5年度 キャリアペプチドを用いた悪性腫瘍に対する抗体-遺伝子複合療法の開発	福岡大学若手・女性研究 基盤構築支援事業 令和6年度	2024	貴田 浩志 (代表)
8	(研究助成金) 令和5年度 一酸化炭素封入ウルトラファインバブルによる革新的なバイオフィルム形成制御法の研究開発	福岡大学若手・女性研究 基盤構築支援事業 令和6年度	2024	山崎裕太郎 (代表)
9	ウルトラファインバブルと低周波数超音波による遺伝子デリバリーシステムの社会実装	国立研究開発法人科学技術振興機構 大学発新産業創出基金事業スタートアップ・エコシステム共創プログラム PARKS スタートアップ創出プログラム Step1:	2024	貴田 浩志 (代表)
10	(個別重点研究課題) 1-3「領域1 革新的技術・研究基盤の整備・開発・高度化」ソロ型: 超音波を利用した認知症病態ニューロモデュレーション技術の創出	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 令和6年度脳神経科学統合プログラム	2024	貴田 浩志 (分担) ※多施設による大型プロジェクトで福岡大学を代表する分担研究者として参加
11	「ナノバブルと低周波数超音波による in vitro 遺伝子送達法の研究・臨床応用基盤の確立	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (国立大学法人九州大学) 多分野・多領域・多地域を集約した日本発新規医療技術の研究開発: シーズ A316	2024	貴田 浩志 (分担)
12	変形性膝関節症に対する siRNA 搭載ナノバブルを用いた治療の開発研究 - The development of siRNA-loaded nanobubble treatments for knee osteoarthritis -	公益財団法人整形災害外科学研究所 助成財団 財団賞	2024	山崎裕太郎

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	令和6年度 日本超音波医学会分科会 超音波分子診断治療研究会 (JSUM, JSTU 共催)	福岡市科学館 サイエンスホール	福岡 3/10, 2025	立花 克郎
---	--	--------------------	---------------------	-------

〈学会活動〉

1	日本超音波医学会	代議員	2024	立花 克郎, 貴田 浩志
2	日本脳神経超音波学会	理事・代議員	2024	立花 克郎
3	日本栓子検出と治療学会	理事・評議員	2024	立花 克郎
4	The Neurosonology Research Group of the World Federation of Neurology	理事	2024	立花 克郎
5	世界神経学会/脳神経超音波専門部会 The Neurosonology Specialty Group of the World Federation of Neurology Secretary and Treasurer	事務長	2024	立花 克郎
6	日本解剖学会	評議員	2024	立花 克郎
7	福岡大学医学会	評議員	2024	立花 克郎
8	日本超音波医学会 九州地方会	評議員	2024	立花 克郎
9	FBIA (finebubble 研究会) 技術委員会医療 応用分科会 ワーキンググループ (WG)	運営委員	2024	立花 克郎
10	Translational Pharmacology, Frontiers in Pharmacology	Associate editor	2024	貴田 浩志
11	日本解剖学会 九州支部	代議員	2024	貴田 浩志
12	日本脳神経超音波学会	評議員	2024	貴田 浩志
13	Philippine Physics Journal	Editor	2024	Feril LB Jr.
14	SRL Cancer & Cellular Biology, SciRes Literature	Editorial Board Member	2024	Feril LB Jr.
15	Elsevier publications	Elsevier Researcher Panel Member	2024	Feril LB Jr.
16	Asian Journal of Pharmaceutical Sciences	Editorial Board Member	2024	Feril LB Jr.
17	Philippine Society of Ultrasound in Clinical Medicine, Inc.	Honorary Member	2024	Feril LB Jr.
18	Mathews Journal of Cancer Science, Mathews Open Access Journals	Editorial Board member	2024	Feril LB Jr.
19	President, Filipinos and Friends in Fukuoka (FFF)	President	2024	Feril LB Jr.
20	Radiation and Health, Frontiers in Public Health	Associate Editor	2024	Feril LB Jr.
21	Journal of Anatomy Forecast, Science Forecast	Editorial Board member	2024	Feril LB Jr.
22	Filipinos and Friends in Fukuoka (FFF)	President	2024	Feril LB Jr.

〈研究に関係した賞〉

- | | | | | |
|---|---|-------------------------|------|-------|
| 1 | 変形性膝関節症に対する siRNA 搭載ナノバブルを用いた治療の開発研究
－ The development of siRNA-loaded nanobubble treatments for knee osteoarthritis － | 公益財団法人整形災害外科学研究助成財団 財団賞 | 2024 | 山崎裕太郎 |
|---|---|-------------------------|------|-------|

細胞生物学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|--|-------------------|---------------------------|--|
| 1 | RAD52-mediated repair of DNA double-stranded breaks at inactive centromeres leads to subsequent apoptotic cell death. | Nucleic Acids Res | 52(21): 12961-12975, 2024 | Maruta G, Maeoka H, Tsunoda T, Akiyoshi K, Takagi S, Shirasawa S, Ishikura S. |
| 2 | Inhibitory Effect of Pyra-Metho-Carnil on the Differentiation and Maturation of Macrophages in Normal and Cancer Microenvironments. | Anticancer Res | 44(8): 3557-3565, 2024 | Kitaguchi T, Matsumoto T, Yoshida K, Hamaguchi Y, Maruta G, Maeoka H, Ishikura S, Nakano M, Ishida Y, Hirai F, Aoki M, Kodama S, Shirasawa S, Tsunoda T. |
| 3 | Spatial transcriptomics of the epipharynx in long COVID identifies SARS-CoV-2 signalling pathways and the therapeutic potential of epipharyngeal abrasive therapy. | Sci Rep | 15(1):8618, 2025 | Nishi K, Yoshimoto S, Tanaka T, Kimura S, Tsunoda T, Watanabe A, Teranaka K, Oguma Y, Ogawa H, Kumai T, Yamano T. |

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|--|----------------------|------|----------------------|
| 1 | ZFAT によるゲノム制御機構とその破綻による細胞癌化メカニズムの解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 白澤 専二（代表） |
| 2 | 変異 KRAS 制御シャペロン複合体の細胞内外サイクルを利用した癌の新規治療法の開発 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 角田 俊之（代表） |
| 3 | アスペルギルスと細菌の微生物間インタラクション解析による重複感染病態の解明と制御 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 角田 俊之
（代表者：泉川公一） |
| 4 | 癌間質における CD73/NT5E をターゲットとした腫瘍浸潤抑制機構の解明と治療法の開発 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 角田 俊之
（代表者：青木光希子） |
| 5 | 肺癌における肺腔内腫瘍散布像（STAS）の in vitro モデル作成およびその機序の解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 角田 俊之
（代表者：中島裕康） |
| 6 | 骨髄赤血球系前駆細胞における転写制御因子 ZFAT の機能解析 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 土井 佳子（代表） |
| 7 | セントロメア DNA 損傷修復における ZFAT の役割と B 細胞リンパ腫との関連の解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 石倉 周平（代表） |
| 8 | 新規抗腫瘍薬で探る変異 KRAS 陽性癌細胞の小胞体ストレス応答と細胞死誘導制御 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 吉田 和真（代表） |
| 9 | 変異 KRAS が活性化する異常タンパク質再折り畳み機構を標的とした癌治療薬の開発 | JST 大学発新産業創出
基金事業 | 2024 | 角田 俊之（代表） |

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

- | | | | | |
|---|--------------------|---------------|------------|-------|
| 1 | 第28回日本バイオ治療法学会学術集会 | TKP ガーデンシティ博多 | 12/7, 2024 | 角田 俊之 |
|---|--------------------|---------------|------------|-------|

〈学会活動〉

1	バイオ治療法研究会	監事	2024	白澤 専二
2	バイオ治療法研究会	運営委員	2024	角田 俊之

生理学

〈原著〉

1	Lipoprotein apheresis alleviates treatment-resistant peripheral artery disease despite the normal range of atherogenic lipoproteins: The LETS-PAD study.	J. Atheroscler. Thromb.	1:31(10): 1370-1385, 2024	Ueda E, Ishiga K, Wakui H, Kawai Y, Kobayashi R, Kinguchi S, Kanaoka T, Saigusa Y, Mikami T, Yabuki Y, Goda M, Machida D, Fujita T, Haruhara K, Sugano T, Azushima K, Toya Y, Tamura K.
2	Abnormal neurovascular control during central and peripheral chemoreceptors stimulation in heart failure patients with preserved ejection fraction.	Clin Auton Res.	34(3): 363-374, 2024	Kataoka Y, Sales ARK, Rodrigues AG, Goes-Santos BR, Azevedo LF, Groehs RV, Silva EO, Santos LS, Oliveira PA, Jordão CP, Andrade ACM, Lobo DML, Rondon E, Toschi-Dias E, Alves MJNN, Almeida DR, Negrão CE.
3	Nitrate and nitrite concentrations in fingertip serum following beetroot juice ingestion correlate with those in venous plasma.	J. Nutr. Sci. Vitaminol. (Tokyo).	70(5): 441-444, 2024	Fujii N, Omori S, Kataoka Y, Nishiyasu T, Omi N.
4	Translationally controlled tumor protein interacts with connexin 43 and facilitates intercellular coupling between cardiomyocytes.	Front. Cell Dev. Biol.	doi:10.3389/ fcell.2025. 1549063	Hu Y, Cai W, Hidaka Y, Hiraishi K, Cang J, Umemura M, Yokoyama U, Knollmann BC, Ishikawa Y, Fujita T.
5	Differences in the effects of exercise on blood pressure depending on the physical condition of the subject and the type of exercise: a systematic review and meta-analysis.	Hypertens. Res.	48(2), 720-732, 2025	Suematsu Y, Morita H, Abe M, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Tanaka K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Yano Y, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura S.

6	Resistance exercise has an antihypertensive effect comparable to that of aerobic exercise in hypertensive patients: a meta-analysis of randomized controlled trials.	Hypertens. Res.	48(2), 733-743, 2025	Morita H, Abe M, Suematsu Y, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Tanaka K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura S.
---	--	-----------------	----------------------------	---

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 高血圧診療における検査について	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/12-14 2024	藤田 孝之
---	-----------------------------	---------------	------------------------	-------

〈国内研究助成金〉

1	交感神経の有害シグナルの選択的抑制による、より安全で有効な心疾患治療戦略の開発	基盤研究 C	2024	藤田 孝之（代表）
2	交感神経系により進行する心臓リモデリングにおける、TRPM7チャンネルの役割の解明	若手研究	2024	平石 敬三（代表）
3	熱中症予防の為にヒト熱放散反応におけるTRPA1チャンネルとNOSの役割解明	若手研究	2024	片岡由布子（代表）

〈学会活動〉

1	日本生理学会	評議員	2024	藤田 孝之, 本田 啓
2	日本病態生理学会	評議員	2024	藤田 孝之
3	日本薬理学会	学術評議員	2024	藤田 孝之
4	日本老年医学会	代議員	2024	藤田 孝之
5	JPS (Journal of Physiological Sciences)	査読委員	2024	藤田 孝之
6	日本高血圧学会 生涯教育・チーム医療委員会	委員	2024	藤田 孝之
7	日本生理学会	広報委員	2024	藤田 孝之

生化学

〈原著〉

1	Individual and population-level variability in HLA-DR associated immunogenicity risk of biologics used for the treatment of rheumatoid arthritis.	Front. Immunol.	15:1377911, 2024. doi:10.3389/ fimmu.2024. 1377911.	Sugiyama N, Terry FE, Gutierrez AH, Hirano T, Hoshi M, Mizuno Y, Martin W, Yasunaga S, Niuro H, Fujio K, De Groot AS.
---	---	-----------------	---	--

2	Transwell culture with adipose tissue-derived stem cells and fertilized eggs mimics the in vivo development of fertilized eggs to blastocysts in the fallopian tube: An animal study	Antioxidants (Basel)	13(6):704, 2024. doi:10.3390/antiox13060704.	Hirakawa T, Nakabayashi K, Ito N, Hata K, Imi S, Shibata M, Urushiyama D, Miyata K, Yotsumoto F, Yasunaga S, Baba T, Miyamoto S.
3	Adipose-derived mesenchymal stem cell transplantation improves ovarian function and oocyte.	Anticancer Res.	44(8): 3577-3586, 2024. doi:10.21873/anticancer.17180.	Hirakawa T, Yotsumoto F, Imi S, Ito N, Ishiwata K, Nakabayashi K, Watanabe A, Shirasu N, Yoshikawa K, Urushiyama D, Miyata K, Takahashi S, Baba T, Hata K, Yasunaga S, Miyamoto S.
4	薬剤とその代謝物を対象とした高感度アレルギー検査方法の開発と応用.	アレルギーの臨床	44(14), 2024.	安高 勇気, 芝口 浩智
5	Eed-dependent histone modification orchestrates the iNKT cell developmental program alleviating liver injury.	Front Immunol.	15:1467774, 2024.	Guo Y, Ohki S, Kawano Y, Kong WS, Ohno Y, Honda H, Kanno M, Yasuda T.

〈著書〉

1	モデル・コア・カリキュラム対応 医用生化学－生体物質の代謝と異常－2024年版	福岡大学医学部生化学講座	2024	安永晋一郎（編・著）
---	---	--------------	------	------------

〈国内研究助成金〉

1	腫瘍細胞と腫瘍浸潤性 Treg を同時標的化する光免疫療法による高効率な抗腫瘍免疫賦活化	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	白須 直人（代表）
---	--	-------------------	------	-----------

〈学会活動〉

1	日本血液学会	評議員	2024	安永晋一郎
2	日本アレルギー学会	評議員	2024	安永晋一郎
3	日本生化学会	評議員	2024	安永晋一郎
4	日本動脈硬化学会	評議員	2024	瀬川 波子

薬理学

〈原著〉

1	Continuous Administration of Ouabain Ameliorates Persistent Allodynia in Neuropathic Pain Model Mice.	Med Bull Fukuoka Univ	52(1): 1-9, 2025	Ochiai S, Shibata S, Nemoto T, Kuwahara M, Kita T, Shinoda Y, Komatsu T, Akiyoshi K, Kita S, Iwamoto T
2	Liver-specific Lxr inhibition represses reverse cholesterol transport in cholesterol-fed mice	Atherosclerosis	397:117578, 2024	Nishida T, Ayaori M, Arakawa J, Suenaga Y, Shiotani K, Kondo UK, Komatsu T, Nakaya K, Endo Y, Sasaki M, Ikewaki K
3	Aberrant extracellular dopamine clearance in the prefrontal cortex exhibits ADHD-like behavior in NCX3 heterozygous mice.	FEBS J	292: 426-444, 2025	Inagaki R, Kita S, Niwa N, Fukunaga K, Iwamoto T, Moriguchi S

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|--|----------------------|-------------------------------|---|
| 1 | A New Case of Abetalipoproteinemia Caused by Novel Compound Heterozygote Mutations in the MTTP Gene without Fat or Vitamin Malabsorption | J Atheroscler Thromb | 31(11):
1634-1640,
2024 | Sasaki K, Tada H,
Komatsu T, Terada H,
Endo Y, Ikewaki K,
Uehara Y |
|---|--|----------------------|-------------------------------|---|

〈総説〉

- | | | | | |
|---|--|----------------------|----------------------------|------------------------|
| 1 | Na ⁺ /Ca ²⁺ 交換輸送体の構造・機能・病態生理 | 血管 | 47(3):
1-9,
2024 | 岩本 隆宏, 根本 隆行,
喜多紗斗美 |
| 2 | クライオ電子顕微鏡法による NCX 阻害薬結合部位の同定 | 日本薬理学雑誌 | 159(5):
343,
2024. | 岩本 隆宏, 喜多紗斗美 |
| 3 | HDL Cholesterol Concentration may Become One of the Predictors for Future Renal Dysfunction in JAPAN | J Atheroscler Thromb | 32(4):
405-406,
2025 | Komatsu T, Uehara Y |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|-----------------------------|----|--------------------|--------------|
| 1 | 利尿薬, イラストレイテッド薬理学
原書 8 版 | 丸善 | pp138-152,
2025 | 喜多紗斗美, 岩本 隆宏 |
|---|-----------------------------|----|--------------------|--------------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|---|--------------------------------------|------------------------|--|
| 1 | （シンポジウム）
急性腎障害における遠位尿細管 NCX1の重要性 | 2024年度心脈管作動物質
学会若手研究者交流
シンポジウム | 福岡
10/19
2024 | 根本 隆行, 若崎るみ枝,
喜多 知, 篠田 康晴,
喜多紗斗美, 岩本 隆宏 |
| 2 | Short-term treatment for acquired HDL deficiency restores HDL function. | 国際動脈硬化学会
(ISA Congress 2024) | オマーン
12/4-6
2024 | Komatsu T, Sasaki K,
Abe S, Endo Y,
Ikewaki K, Saku K,
Uehara Y |
| 3 | （シンポジウム）
遠位尿細管 NCX1による血中カルシウム濃度
調節機構 | 第54回日本心脈管作動物質
学会 | 福岡
1/31-2/1
2025 | 岩本 隆宏 |

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|--|-----------------|------|--------------------------------------|
| 1 | 遠位尿細管特異的遺伝子改変マウスを駆使した急性腎障害機序の解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 根本 隆行（代表）,
篠田 康晴 |
| 2 | 細胞膜-ミトコンドリア Ca ²⁺ 輸送連関による褐色脂肪細胞熱産生制御機構の解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 喜多 知（代表） |
| 3 | 脂質代謝因子アポリポ蛋白 C2を介した骨格筋発現制御メカニズムの解明 | 文部科学省
若手研究 | 2024 | 小松 知広（代表） |
| 4 | マクロファージ NCX1輸送制御に基づく血管新生機序の解明 | 文部科学省
若手研究 | 2024 | 篠田 康晴（代表） |
| 5 | 骨格筋高比重リポ蛋白（HDL）産生システムの筋分化促進作用およびメカニズムの解明 | 文部科学省
基盤研究 B | 2024 | 小松 知広
（代表者：上原 吉就） |
| 6 | ミクログリアサブセット制御異常に基づく複合性局所疼痛症候群発症機序の解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 根本 隆行, 喜多 知,
篠田 康晴
（代表者：柴田 志保） |

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第77回日本薬理学会西南部会	福岡市美術館	11/16, 2024	岩本 隆宏
2	第54回日本心臓血管作動物質学会	福岡市美術館	1/31-2/1, 2025	岩本 隆宏

〈学会活動〉

1	日本薬理学会	広報委員	2024	岩本 隆宏
2	日本薬理学会	学術評議員	2024	岩本 隆宏, 根本 隆行, 喜多 知, 篠田 康晴
4	日本臨床薬理学会	支部世話人	2024	岩本 隆宏
5	日本マグネシウム学会	評議員	2024	岩本 隆宏
6	日本平滑筋学会	評議員	2024	岩本 隆宏
7	日本心臓血管作動物質学会	理事	2024	岩本 隆宏
8	日本心臓血管作動物質学会	評議員	2024	岩本 隆宏
9	国際心臓研究学会 (ISHR)	評議員	2024	岩本 隆宏
10	トランスポーター研究会	顧問	2024	岩本 隆宏
11	トランスポーター研究会	幹事	2024	根本 隆行, 喜多 知
12	Journal of Pharmacological Sciences	Associate Editor	2024	岩本 隆宏
13	Frontiers in Physiology	Associate Editor	2024	岩本 隆宏
14	Frontiers in Physiology	Editor	2024	根本 隆行, 喜多 知, 篠田 康晴, 小松 知広
15	Japanese Journal of Circulation Research	Editor	2024	岩本 隆宏
16	Journal of Magnesium Research	Editor	2024	岩本 隆宏

〈研究に関係した賞〉

1	YM-244769, a highly potent $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ exchange inhibitor, efficiently protects renal ischemia-reperfusion injury mice.	一般社団法人日本マグネシウム学会奨励賞	2024	根本 隆行
---	--	---------------------	------	-------

病理学

〈原著〉

1	A case of giant nipple adenoma.	Surg Case Rep.	2024 Mar 25; 10(1):70.	Ono S, Tanaka M, Yoshinaga Y, Satou T, Aoki M.
2	Aberrant localization of $\beta 1$ integrin in podocyte cytoplasm of primary FSGS with cellular lesion.	Virchows Arch	2024	Katafuchi E, Hisano S, Kurata S, Muta K, Uesugi N, Miyamoto T, Harada Y, Shimajiri S, Katafuchi R, Nakayama T

3	Clinical Significance of miR-4535 and miR-191-5p in Maternal Serum as Independent Biomarkers for Severe Chorioamnionitis.	Cureus	16(10) : e72120, 2024	Ishida K, Kiyoshima C, Urushiyama D, Hirakawa T, Imi S, Hamasaki M, Nagamitsu S, Nomiya M, Hata K, Yotsumoto F
4	Desmoplastic small round cell tumor の 2 例 CT/MRI 所見	臨床放射線	69(3) : 387-392, 2024	眞鍋 友輔, 佐藤 圭亮, 高山 幸久, 田中 慎二, 村山 僚, 後藤奈帆子, 吉満 研吾, 濱田 義浩
5	Impact of distribution of carotid intraplaque neovessels on plaque vulnerability.	J Stroke Cerebrovasc Dis	33(10) : 107859, 2024	Takeshita S, Inoue K, Ogata T, Ishii A, Uesugi N, Hamasaki M, Abe H, Tsugawa J
6	In vivo evaluation of tissue damage from varying grasping forces using the Saroa surgical system.	Sci Rep	15(1) : 10043, 2025	Nakashima H, Ueda Y, Miyazaki Y, Nishihara T, Hamasaki M, Ohbu M, Kawashima K, Yamakage H, Miyahara S, Tokuishi K, Waseda R, Shiraishi T, Sato T
7	Inhibitory Effect of Pyra-Metho-Carnil on the Differentiation and Maturation of Macrophages in Normal and Cancer Microenvironments.	Anticancer Res.	2024 Aug : 44(8) : 3557-3565	Kitaguchi T, Matsumoto T, Yoshida K, Hamaguchi Y, Maruta G, Maeoka H, Ishikura S, Nakano M, Ishida Y, Hirai F, Aoki M, Kodama S, Shirasawa S, Tsunoda T.
8	Pancreatic extracellular volume fraction on routine contrast-enhanced computed tomography can predict pancreatic fibrosis and postoperative pancreatic fistula.	Pancreatology	25(1) : 153-159, 2025	Sasaki T, Takayama Y, Tanaka S, Hamada Y, Nakashima R, Naito S, Kajiwarra M, Hasegawa S
9	Prediction of the wall-invasion pattern of advanced gallbladder carcinoma using extracellular volume fraction.	Jpn J Radiol	2025	Takayama Y, Koga T, Hamada Y, Tanaka S, Sato K, Murayama R, Ishida Y, Kajiwarra M, Yoshimitsu K
10	Primary Cutaneous NUT Carcinoma: Clinicopathologic and Genetic Study of 4 Cases	Am J Surg Pathol.	48(8) : 942-952.	Goto K, Kukita Y, Hishima T, Matsushita S, Tsuyuki T, Makihara K, Koga K, Mukumoto S, Honma K.
11	Stromal CD73 Expression in Breast Cancer: Subtype-specific Expression and its Prognostic Significance.	Anticancer Res	44(8) : 3637-3643, 2024	Tanaka M, Aoki M, Masuda Y, Yoshinaga Y, Hamasaki M, Iwasaki A, Sato T

〈症例報告〉

1	A Case of Intracranial Mesenchymal Tumor, FET: CREB Fusion-positive, Diagnosed by Genomic Profiling with FoundationOne CDx.	NMC Case Rep J	12:33-39, 2025	Sono K, Enomoto T, Kobayashi H, Takemoto K, Morishita T, Aoki M, Hamasaki M, Abe H
---	---	----------------	----------------	---

2	An Atypical Cystic Renal Mass in a Patient with IgG4-Related Kidney Disease: A Case Report.	Intern Med	2025	Minezaki C, Uchida H, Todaka K, Koumatsu N, Okita J, Kudo A, Nakata T, Fukuda A, Fukunaga N, Uesugi N, Shibata H
3	CT ガイド下針生検時の迅速細胞診で推定できた線維形成性小円形細胞腫瘍の一例	日本臨床細胞学会九州連合会雑誌	55:77-82, 2024	坂田 祥子, 松本 慎二, 角谷 優子, 大石 朋子, 辻 雅子, 西中村恵輔, 秋吉 梨江, 小山 逸, 田中 俊裕, 濱崎 慎
4	Diffuse large B-cell lymphoma with rapid kidney enlargement after induction of hemodialysis in a patient with IgG4-related disease.	CEN Case Rep	2024	Hara S, Morita D, Shibata R, Yasui Y, Naito Y, Fukushima N, Kato S, Uesugi N, Abe Y, Masutani K
5	Intermediate cystinosis: a case report of 10-year treatment with cysteamine.	BMC Nephrol	25(1):275, 2024	Kawamura M, Katagiri D, Yamamoto Y, Shimada K, Higashi S, Otani M, Uesugi N, Takano H, Shimizu Y, Okamura T
6	Invasive Tracheobronchial Aspergillosis: A Fatal Complication in a Patient With Treated Mediastinal Lung Adenocarcinoma.	Cureus	16(9):e70024, 2024	Ikeda T, Yanagihara T, Chen M, Sanai R, Osaki Y, Kikushima M, Aoki M, Hamada Y, Hamasaki M, Hamada N, Fujita M
7	Is Podocytopathy Associated with Gross Hematuria after COVID-19 Vaccination in Patients with Immunoglobulin A Nephropathy?	Intern Med	63(20):2821-2825, 2024	Suenaga A, Sawa N, Oba Y, Ikuma D, Sekine A, Yamanouchi M, Hasegawa E, Mizuno H, Suwabe T, Kono K, Kinowaki K, Ohashi K, Miyazono M, Yamaguchi Y, Uesugi N, Ubara Y
8	Low-density lipoprotein apheresis for refractory lupus nephritis: A case demonstrating marked improvement in proteinuria, hematuria, and renal function.	Mod Rheumatol Case Rep	2025	Iwamura N, Matsukuma Y, Tsutsumi K, Higashi N, Shomura S, Uesugi N, Hamashoji T, Arita Y, Deguchi T, Nakano T
9	Pacinian Neuroma	西日本皮膚科	86(5):449-450, 2024	三原 崇, 佐藤 絵美, 松田 絵奈, 古賀 佳織, 今福 信一
10	Paget 現象を呈した肛門管原発神経内分泌癌の1例	日本消化器外科学会雑誌	57(6):308-318, 2024	山門 仁, 吉松 軍平, 森本 光昭, 長野 秀紀, 松本 芳子, 棟近 太郎, 梶谷 竜路, 吉田陽一郎, 濱崎 慎, 長谷川 傑
11	Primary intraosseous squamous cell carcinoma with pagetoid spread arising in periapical odontogenic epithelium of the maxilla.	Med Mol Morphol	2025	Hashiguchi S, Kita R, Yoshino A, Koga K, Hasegawa H, Hamasaki M, Kondo S

12	Sclerosing Dermatofibrosarcoma Protuberans: A Possible Diagnosis When a Small Biopsy Shows Sclerotic Fibroma-Like Features.	Am J Dermatopathol.	46(10): 675-678, 2024	古河裕紀子, 佐藤 絵美, 筒井 啓太, 青木光希子, 古賀 佳織, 今福 信一
13	Small Intestine Metastasis Leads to the Diagnosis of Thoracic SMARCA4-Deficient Undifferentiated Tumor: A Case Report.	Cureus	16(9): e68364, 2024	Sanai R, Yanagihara T, Ikeda T, Koga K, Shundo Y, Hamada N, Ebi N, Inoue H, Hamada Y, Hamasaki M, Fujita M
14	Subclinical acute tubular necrosis potentially associated with red yeast rice consumption unexpectedly detected in a patient with membranous nephropathy.	CEN Case Rep	2024	Iwamura N, Tsutsumi K, Yamada S, Uesugi N, Hamashoji T, Arita Y, Deguchi T, Nakano T
15	The first autopsy case of Epstein-Barr virus-positive marginal zone lymphoma that deteriorated after COVID-19 vaccination	Pathol Int.	2024 Feb;74(2): 87-92.	Wang Z, Muto R, Miyoshi H, Aoki M, Uesugi N, Murayama H, Masutani K, Hamasaki M.
16	Two Cases of Tumor-induced Osteomalacia Resulting in Surgical Resection During Burosumab Therapy.	Intern Med	4958-24, Mar. 2025	Nagata D, Takashi Y, Yamamoto M, Toyokawa K, Makihata K, Koganemaru H, Hideshima S, Muta Y, Yokomizo H, Fukumoto H, Nakayama S, Muta H, Aoki M, Abe H, Yamamoto T, Hamasaki M, Kawanami D
17	外陰に発生した高異型度子宮内膜間質肉腫の一例	西日本皮膚科	86(4): 380-385, 2024	古河裕紀子, 村尾 玲, 古賀 佳織, 鶴田 紀子
18	胸腺上皮過形成を伴った結節硬化型古典的ホジキンリンパ腫の1例	診断病理	42(1): 79-83, 2025	武藤 礼治, 中島 勇太, 菊島 百香, 三好 寛明, 濱崎 慎
19	高度嚢胞変性と急速増大を呈し破裂に至った胃 GIST の1例	臨床放射線	69(6): 867-872, 2024	中原 孝, 村山 僚, 佐藤 圭亮, 田中 慎二, 高山 幸久, 檜 研二, 濱田 義浩, 吉満 研吾
20	再発性多発軟骨炎と大球性貧血を来し, 遺伝子検査にて診断し得た VEXAS 症候群の1例	西日本皮膚科	86(3): 243-246, 2024	高野 彩加, 佐藤 絵美, 筒井 ゆき, 古賀 佳織, 今福 信一
21	乳房血管肉腫の2例 原発性と続発性の経験	乳癌の臨床	39(5): 435-443, 2024	小野 周子, 田中 益美, 吉永 康熙, 佐藤 寿彦, 青木光希子
22	未治療のアトピー性皮膚炎患者に発症した感染性心内膜炎の1例	西日本皮膚科	86(4): 395-400, 2024	大久保和貴子, 柴山 慶継, 古賀 佳織, 今福 信一

〈総説〉

1	Atypical Spindle Cell/Pleomorphic Lipomatous Tumor: A Review and Update.	Cancers (Basel).	13:16(18), 2024	Nishio J, Nakayama S, Chijiwa Y, Koga M, Aoki M.
---	--	------------------	-----------------	--

2	Giant Cell Tumor of Soft Tissue: An Updated Review	J Clin Med	13:13(10), 2024	Nishio J, Nakayama S, Koga K, Aoki M.
4	Heterogeneous afferent arteriopathy: a key concept for understanding blood pressure-dependent renal damage.	Hypertens Res	47(12): 3383-3396, 2024	Kohagura K, Zamami R, Oshiro N, Shinzato Y, Uesugi N
5	Keratin-Positive Giant Cell-Rich Tumor: A Review and Update.	Cancers	20:16(10), 2024	Nishio J, Nakayama S, Koga K, Aoki M.
6	Recent Advances in the Diagnosis, Pathogenesis, and Management of Myxoinflammatory Fibroblastic Sarcoma.	Int J Mol Sci.	25(2), 2024	Nishio J, Nakayama S, Aoki M.
7	【細胞診のピットフォール】中皮腫から考える体腔液（胸腹水）細胞診のピットフォール	病理と臨床	42(10): 0983-0988, 2024	濱崎 慎, 松本 慎二
8	間質尿細管の感染症	腎と透析	No6 763-768, 2024	上杉 憲子

〈著書〉

1	臨床検査 Q&A ツァンク試験での注意点や細胞像鏡検のコツなどがあれば教えて下さい	Medical Technology	52(4): 0411-0413, 2024	古賀 佳織 (分担)
2	【バーチャルスライドでズバツと診断！皮膚病理演習【炎症編】】(Part3) 水疱症・膿疱症・膠原病・肉芽腫症 手指関節と背部に生じた皮疹。診断は？	秀潤社	23(7): 0667-0668, 2024	古賀 佳織
3	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第1章 9. 異型紡錘形細胞・多形脂肪腫様腫瘍	秀潤社	49, 2024	古賀 佳織 (分担)
4	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第2章 3. 線維芽細胞性結合組織母斑	秀潤社	59, 2024	古賀 佳織 (分担)
5	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第2章 16. 弾性線維腫	秀潤社	73, 2024	古賀 佳織 (分担)
6	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第2章 22. 筋線維芽細胞腫	秀潤社	79, 2024	古賀 佳織 (分担)
7	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第2章 23. 石灰化腱膜線維腫	秀潤社	80, 2024	古賀 佳織 (分担)
8	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第2章 25. 血管筋線維芽細胞腫	秀潤社	82, 2024	古賀 佳織 (分担)
9	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第2章 26. 富細胞性血管線維腫	秀潤社	83, 2024	古賀 佳織 (分担)
10	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第2章 27. 軟部血管線維腫	秀潤社	84, 2024	古賀 佳織 (分担)
11	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第4章 33. 放射線照射後異型血管病変	秀潤社	157, 2024	古賀 佳織 (分担)
12	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】第4章 42. 乳腺の放射線治療後血管肉腫	秀潤社	169, 2024	古賀 佳織 (分担)

13	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】 第6章 1. 平滑筋過誤腫	秀潤社	180, 2024	古賀 佳織 (分担)
14	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】 第6章 2. 皮膚平滑筋腫	秀潤社	181, 2024	古賀 佳織 (分担)
15	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】 第6章 3. EBV 関連平滑筋腫	秀潤社	182, 2024	古賀 佳織 (分担)
16	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】 第6章 4. 異型平滑筋腫瘍	秀潤社	183, 2024	古賀 佳織 (分担)
17	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】 第7章 1. 横紋筋腫性間葉系過誤腫	秀潤社	186, 2024	古賀 佳織 (分担)
18	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】 第9章 15. 鼻部神経膠腫・グリア異所形成	秀潤社	221, 2024	古賀 佳織 (分担)
19	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】 第10章 16. 多形性硝子化血管拡張性腫瘍	秀潤社	242, 2024	古賀 佳織 (分担)
20	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】 第10章 17. ヘモジデリン沈着性線維脂肪腫 様腫瘍	秀潤社	243, 2024	古賀 佳織 (分担)
21	【皮膚軟部腫瘍アトラス 改訂第2版】 第10章 18. 高リン酸塩尿性間葉系腫瘍	秀潤社	244, 2024	古賀 佳織 (分担)

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	ランチョンセミナー9 中皮腫の組織診断・細胞診断	第63回日本臨床細胞学会 秋期大会	幕張メッセ 国際会議場 11/17, 2024	濱崎 慎
2	特別講演2 病理診断と遺伝子学的検査の関わり	第70回日本臨床検査医学会 九州地方会 第36回日本臨床化学会 九州支部総会 第5回日本医療検査科学会 九州地方会合同学会	福岡 2/22, 2025	濱崎 慎
3	教育講演6 腎生検の電顕所見の見方	第59回小児腎臓学会	福岡 6/7-6/8, 2024	上杉 憲子

〈国内研究助成金〉

1	NIB-101コンパニオン診断薬開発	ノイルイミューン・ ニチレイバイオサイエンス	2024	濱崎 慎 (代表)
2	電子顕微鏡をもちいた IgA 腎症の長期予後 改善への取り組み	福岡大学 令和6年度女性研究基盤 構築支援事業	2024	上杉 憲子 (代表)

〈学会活動〉

1	日本病理学会	学術評議員	2024	濱崎 慎, 上杉 憲子, 濱田 義浩, 青木光希子, 古賀 佳織, 牟田 紘子
2	日本病理学会・国立がん研究センター	病理診断コンサルテーション コンサルタント	2024	濱崎 慎

3	日本病理学会	センター調査個別調査部会 部会員	2024	濱崎	慎
4	日本病理学会九州沖縄支部	広報委員会委員長	2025	濱崎	慎
5	日本臨床細胞学会	細胞診ガイドライン改訂 ワーキンググループ体腔 液小委員会委員	2024	濱崎	慎
6	環境省	中央環境審議会専門委員	2024	濱崎	慎
7	環境省	環境保健部会所属専門委員	2024	濱崎	慎
8	環境省	環境保健部会石綿健康被害 判定小委員会所属専門委員	2024	濱崎	慎
9	日本石綿・中皮腫学会（JAMIG）	理事	2024	濱崎	慎
10	日本石綿・中皮腫学会（JAMIG）、 日本肺癌学会	中皮腫取扱い規約改定委員	2024	濱崎	慎
11	日本肺癌学会	評議員	2024	濱崎	慎
12	日本肺癌学会	病理委員会委員	2024	濱崎	慎
13	日本肺癌学会	病理委員会・ アドホック胸部腫瘍改定 作業小委員会委員	2024	濱崎	慎
14	日本肺癌学会	ガイドライン胸膜中皮腫 小委員会委員 病理委員代 表	2024	濱崎	慎
15	日本肺癌学会	悪性胸膜中皮腫ガイドライ ン小委員会委員 病理委員 代表	2024	濱崎	慎
16	九州肺癌研究機構（LOGIK）	LOGIK プロトコル委員 （病理）	2024	濱崎	慎
17	中皮腫細胞診研究会	幹事	2024	濱崎	慎
18	日本腎臓学会	評議員	2024	上杉	憲子
19	日本皮膚病理組織学会	理事	2024	古賀	佳織

微生物・免疫学

〈原著〉

1	Objectification of evaluation criteria in microscopic agglutination test using deep learning.	J. Microbiol. Methods	Jul;222: 106955, 2024	Nakano R, Oyamada Y, Ozuru R, Yoshimura M, Hiromatsu K.
2	Antiviral effect of alkaloids-free Ephedra Herb extract on respiratory syncytial virus infection.	Front. Pharmacol.	DOI 10.3389/ fphar.2024. 1410470, 2024	Fujikane A, Fujikane R, Hyuga S, Sechi Y, Hiyoshi T, Sakamoto A, Nishi A, Odaguchi H, Hiromatsu K, Goda Y, Ishino Y, Nabeshima S.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Objectification of Evaluation Criteria in MAT Using Deep Learning	The 13th Conference of the International Leptospirosis Society	Brussels, Belgium 9/2-9/4 2024	Nakano R, Oyamada Y, Ozuru R
---	--	--	---	---------------------------------

2	Temperature-Dependent Glycometabolic Shifts in Pathogenic <i>Leptospira</i> As Potential Therapeutic Targets	9th Conference on Constraint-Based Reconstruction and Analysis	San Diego, CA, USA 10/24-10/26 2024	Ozuru R, Sonoda T, Yoshimura M, J. A. Papin, Obata F, G. L. Kolling, Hiromatsu K
3	Pangenome-scale Metabolic Network Reconstruction Uncovered Pathogenicity-Specific Pathways in <i>Leptospira</i>	25th International Conference on Emerging Infectious Diseases (EID) in the Pacific Rim	東京 3/11-3/15 2025	Sonoda T, Ozuru R, Yoshimura M, J. A. Papin, Obata F, G. L. Kolling, Hiromatsu K
4	(招待講演) Leptospirosis: Why Is Diagnosis So Difficult and How Can We Improve It?	The 1st International Online Conference on Clinical Reports	Virtual March 19-20 2025	Ozuru R

〈国内研究助成金〉

1	脂質代謝に着目したトリパノソーマ感染機構・シャーガス病病態形成の分子基盤	文部科学省 基盤研究 C	2024	石井 一成 (代表)
2	エクソソームの制御による肺炎クラミジア関連脂質代謝異常の改善	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	吉村 芳修 (代表)
3	福岡における高病原性クレブシエラ保有状況及び薬剤耐性状況の調査研究	福岡大学 若手研究	2024	吉村 芳修 (代表)
4	重症化抑制への応用を目指したレプトスピラ由来宿主脂肪分解因子の同定と機能解析	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	尾鶴 亮 (代表)
5	Circadian rhythm dysregulation due to enteric bacterial infection through microbiota-gut-brain axis	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)	2024	尾鶴 亮 (代表)
6	AI 技術を用いたレプトスピラ症診断の自動化と標準化	福岡大学 総合科学研究	2024	尾鶴 亮 (代表)

再生・移植医学

〈原著〉

1	Influence of relatively short-term culture on adult porcine islets for xenotransplantation	Sci Rep.	14(1): 11640. 2024	Sakata N, Yoshimatsu G, Kawakami R, Kodama S.
2	Complications associated with loop ileostomy: analysis of risk factors.	Tech Coloproctol.	28(1): 60. 2024	Matsumoto Y, Aisu N, Kajitani R, Nagano H, Yoshimatsu G, Hasegawa S.
3	Inhibitory Effect of Pyra-Metho-Carnil on the Differentiation and Maturation of Macrophages in Normal and Cancer Microenvironments	Anticancer Res.	44(8): 3557-3565. 2024	Kitaguchi T, Matsumoto T, Yoshida K, Hamaguchi Y, Maruta G, Maeoka H, Ishikura S, Nakano M, Ishida Y, Hirai F, Aoki M, Kodama S, Shirasawa S, Tsunoda T.
4	Effectiveness Evaluation of Microneedling Therapy for Diabetic Ulcer: An Animal Model Study.	Plastic and Reconstructive Surgery - Global Open.	12(9): e6200. 2024	Morinaga E, Sakata N, Kawakami R, Naito R, Yoshimatsu G, Takagi S, Kodama S.
5	Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells.	Sci Rep.	14(1): 18804. 2024	Niimi T, Tanaka T, Aoyagi C, Onda Y, Nagamitsu S, Kodama S.

- | | | | | |
|----|---|---------------------|----------------------------------|---|
| 6 | Efficacy of Neonatal Porcine Bone Marrow-Derived Mesenchymal Stem Cell Xenotransplantation for the Therapy of Hind Limb Lymphedema in Mice. | Cell Transplant. | 33:
9636897241260195.
2024 | Morita Y, Sakata N,
Nishimura M, Kawakami R,
Shimizu M, Yoshimatsu G,
Sawamoto O, Matsumoto S,
Wada H, Kodama S. |
| 7 | Association Between Changes in Plasma Capecitabine Concentrations and Adverse Events in the Treatment of Colorectal Cancer. | Cureus. | 16(10) :
e71341. 2024 | Hashimoto Y, Yoshida Y,
Yamada T, Yoshimatsu G,
Yoshimura F, Hasegawa S. |
| 8 | Safe Administration of Immunosuppression in Japanese Monkeys: Relevance to Preclinical Xenotransplantation Studies. | Cell Transplant. | 34:
9636897251322295.
2025 | Sakata N, Yoshimatsu G,
Kawakami R, Kodama S. |
| 9 | Efficacy and safety of allogeneic islet transplantation demonstrated by a multicenter clinical trial in Japan. | Transplant Direct | 11(3) :
e1765. 2025 | Anazawa T, Marubashi S,
Kodama S, Goto M,
Maruyama M, Eguchi H,
Shimoda M, Noguchi H,
Yamaguchi T, Ito T,
Kenmochi T, Gotoh M. |
| 10 | SLC7A11/xCT-mediated Cystine Uptake Regulates Intracellular Glutathione and Promotes Antioxidant Defense in Lymphatic Endothelial Cells | Anticancer Research | 45:
65-71,
2025 | Hashiguchi S, Tanaka T,
Mano R, Kondo S,
Kodama S. |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|--|----------------|-----------------------------|--|
| 1 | Laparoscopic sigmoid colectomy for transverse colonic varices due to an inferior mesenteric arteriovenous fistula. | Surg Case Rep. | 10(1) :
112. 2024 | Munehika T, Shiokawa K,
Takeshita I, Shimokobe H,
Sahara K, Matsumoto Y,
Aisu N, Yoshimatsu G,
Hasegawa S. |
| 2 | Paget 現象を呈した肛門管原発神経内分泌癌の1例 | 日本消化器病学会雑誌 | 57(6) :
308-318,
2024 | 山門 仁, 吉松 軍平,
森本 光昭, 長野 秀紀,
松本 芳子, 棟近 太郎,
梶谷 竜路, 吉田陽一郎,
濱崎 慎, 長谷川 傑 |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|--|-------|--------------------------------|--|
| 1 | 【JSES 技術認定取得をめざせ2025】
大腸 ロボット支援 S 状結腸切除術 | 臨床外科 | 79(13) :
1368-1378,
2024 | 吉松 軍平, 塩川 圭一,
竹下 一生, 下川遼久陽,
佐原くるみ, 棟近 太郎,
長野 秀紀, 松本 芳子,
長谷川 傑 |
| 2 | 【術後合併症ゼロを目指して】
腹腔鏡下・ロボット支援下結腸癌手術におけるトラブルシューティング | 消化器外科 | 47(7) :
787-798,
2024 | 赤崎 卓之, 塩川 圭一,
竹下 一生, 下河遼久陽,
佐原くるみ, 棟近 太郎,
松本 芳子, 吉松 軍平,
長谷川 傑 |
| 3 | 【若手外科医教育を考えよう】
ロボット支援手術時代の若手外科医教育
下部消化管. | 消化器外科 | 47(12) :
1435-1445,
2024 | 佐原くるみ, 赤崎 卓之,
塩川 圭一, 竹下 一生,
下河遼久陽, 棟近 太郎,
長野 秀紀, 松本 芳子,
吉松 軍平, 長谷川 傑 |

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|---|----------|--|---|
| 1 | Implantation of NR5A1-induced steroidogenic cells derived from human adipose tissue-derived mesenchymal stem/stromal cells into adrenal-insufficiency model mice. - | AUA 2024 | San Antonio,
USA
May 3-6
2024 | Aoyagi C, Tanaka T,
Yanase T, Haga N,
Kodama S. |
|---|---|----------|--|---|

2	A Splicing Modulator Inhibits Proliferation and Steroid Production of H295R Adrenocortical Cancer Cells	ENDO2024	Boston, USA June 1-4 2024	Tanaka T.
3	Islet Transplantation -Islet Xenograft-	APITA 2024	Shanghai, China October 26-27 2024	Kodama S.
4	(シンポジウム) CCN2とリンパ管新生およびその制御について	第15回日本CCNファミリー研究会	岡山 (WEB発表) 8/31 2024	小玉 正太
5	(シンポジウム) 予定治療としての移植医療の実現に向けての方策	第60回日本移植学会総会	長崎 9/12-9/14 2024	坂田 直昭, 吉松 軍平, 小玉 正太
6	(シンポジウム) 膵島移植普及における問題点：ドナー/レシピエントの両面からの考察	第60回日本移植学会総会	長崎 9/12-9/14 2024	吉松 軍平
7	(招待講演) 大腸手術における技術認定医の役割教育・アドバンス手術への取り組み	第49回日本大腸肛門病学会九州地方会	福岡 9/21 2024	吉松 軍平
8	(シンポジウム) 肥満 (BMI30以上) を有する直腸癌患者に対するロボット手術と腹腔鏡手術の比較検討	第34回九州内視鏡・ロボット外科手術研究会	長崎 10/5 2024	吉松 軍平
9	(シンポジウム) 遺伝子改変型膵島を含めた国内異種膵島移植の実施を目指して	第50回日本臓器保存生物医学会	岡崎 11/8-11/9 2024	小玉 正太
10	(シンポジウム) CCN2とリンパ管新生およびその制御について	第54回日本心脈管作動物質学会	福岡 1/31-2/1 2025	小玉 正太
11	(シンポジウム) 本邦の臨床膵島移植	第52回日本膵・膵島移植学会	大阪 3/7-8 2025	小玉 正太

〈国内研究助成金〉

1	遺伝子改変医療用ブタ膵島と間葉系幹細胞共移植による異種移植免疫寛容を目指して	文部科学省 基盤研究 B	2024	小玉 正太 (代表)
2	慢性膵炎等に対する膵全摘術に伴う自家膵島移植術の先進医療制度下多施設共同試験	AMED 再生医療等実用化研究事業	2024	小玉 正太 (代表者：霜田 雅之)
3	PHLDA3欠損ブタのブタ膵島異種移植ドナーとしての有効性の検証	日本糖尿病財団・サノフィ研究助成	2024	坂田 直昭 (代表)

〈学会活動〉

1	日本移植学会	理事	2024	小玉 正太
2	日本移植学会	代議員	2024	小玉 正太
3	日本膵・膵島移植学会	理事	2024	小玉 正太
4	日本膵・膵島移植学会	評議員	2024	坂田 直昭

5	日本組織移植学会	理事	2024	小玉 正太
6	日本組織移植学会	幹事	2024	江崎 綾奈
7	日本組織移植学会	評議員	2024	小玉 正太, 坂田 直昭, 吉松 軍平, 江崎 綾奈
8	日本再生医療学会	代議員	2024	小玉 正太, 坂田 直昭

〈研究に関係した賞〉

1	Rescue of murine hind limb ischemia via angiogenesis and lymphangiogenesis promoted by cellular communication network factor 2	福岡大学医学会賞 金賞	2024	清水 真行
---	--	----------------	------	-------

衛生・公衆衛生学

〈原著〉

1	Influence of Time to Achieve Target Systolic Blood Pressure on Outcome After Intracerebral Hemorrhage: The Blood Pressure in Acute Stroke Collaboration	Stroke	55(4) : 849-855, 2024	Wang X, Yang J, Moullaali TJ, Sandset EC, Woodhouse LJ, Law ZK, Arima H, Butcher KS, Delcourt C, Edwards L, Gupta S, Jiang W, Koch S, Potter J, Qureshi AI, Robinson TG, Al-Shahi Salman R, Saver JL, Sprigg N, Wardlaw J, Anderson CS, Sakamoto Y, Bath PM, Chalmers J; Blood Pressure in Acute Stroke (BASC) Investigators.
2	Intensive Ambulance-Delivered Blood-Pressure Reduction in Hyperacute Stroke	NEJM	390(20) : 1862-1872, 2024	Li G, Lin Y, Yang J, Anderson CS, Chen C, Liu F, Billot L, Li Q, Chen X, Liu X, Ren X, Zhang C, Xu P, Wu L, Wang F, Qiu D, Jiang M, Peng M Y, Li C, Huang Y, Zhao X, Liang J, Wang Y, Wu X, Xu X M, Chen G, Huang D, Zhang Y, Zuo L, Ma G, Yang Y, Hao J, Xu X, Xiong X, Tang Y, Guo Y, Yu J , Li S, He S, Mao F, Tan Q, Tan S, Yu N, Xu R, Sun M, Li B, Guo J, Liu L, Liu H, Ouyang M, Si L, Arima H, Bath PM, Ford GA, Robinson T, Sandset EC, Saver JL, Sprigg N, H. Bart van der Worp, Song L, for the INTERACT4 investigators

3	Manuscript: CED-2024-2-30/R1 RESUBMISSION - Predictors of early versus delayed neurological deterioration after thrombolysis for ischemic stroke: ENCHANTED study	Cerebrovasc Dis	1-9, Online ahead of rint, 2024	Han Q, You S, Maeda T, Wang Y, Ouyang M, Li Q, Song L, Zhao Y, Ren X, Chen C, Delcourt C, Zhou Z, Cao Y, Liu CF, Zheng D, Arima H, Robinson TG, Chen X , Lindley RI, Chalmers J, Anderson CS, Wang X.
4	Statistical Analysis Plan for the INTensive ambulance-delivered blood pressure Reduction in hyper-ACute stroke Trial (INTERACT4).	Cerebrovasc Dis	1-4, 2024	Billot L, Chen C, Song L, Lin Y, Liu F, Chen X, Arima H, Bath PM, Ford GA, Robinson TG, Sandset EC, Saver JL, Sprigg N, H. Bart van der Worp, Yang J, Li G, Anderson CS.
5	Sleep-related breathing disorder in a Japanese occupational population and its association with hypertension - Stratified analysis by obesity status -	Hypertens Res	47(6) : 1470-1478, 2024	Inoue M, Sakata S, Arima H, Yamato I, Oishi E, Ibaraki A, Goto K, Kitazono T.
6	Comparative Effectiveness of Treatments on Time to Remission in Atopic Dermatitis: Real-World Insights.	J. Cutan. Immunol. Allergy	7:1-7, 2024	Sato E, Arima H, Ito K, Iwata M, Imafuku S
7	Skipping Breakfast and Progression of Chronic Kidney Disease in the General Japanese Population: the Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease (ISSA-CKD)	Kidney Blood Press Res	49(1) : 472-479, 2024	Takahashi K, Inoue Y, Tada K, Hi Yamuta H, Ito K, Yasuno T, Sakaguchi T, Katsuki S, Shinohara Y, Nohara C, Okutsu S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Mukoubara S, Arima H (Co-author), Masutani K.
8	Risk of recurrent stroke and dementia following acute stroke by changes in kidney function: results from PROGRESS.	J Hypertens.	42(8) : 1313-1321, 2024	Maeda T, Woodward M, Jun M, Sakamoto Y, Chen X, Matsushita K, Mancia G, Arima H, Anderson CS, Chalmers J, Harris K.
9	Does clinical practice supported by artificial intelligence improve hypertension care management? A pilot systematic review	Hypertens Res	47(9) : 2312-2316, 2024	Maeda T, Sakamoto Y, Hosoki S, Satoh A, Koyoshi R, Yamashita S, Arima H.
10	24-hour post-thrombolysis NIHSS score as the strongest prognostic predictor after acute ischemic stroke: ENCHANTED study.	J Am Heart Assoc	13(18) : e036109, 2024	You S, Wang Y, Wang X, Maeda T, Ouyang M, Han Q, Li Q, Song L, Zhao Y, Chen C, Delcourt C, Ren X, Carcel C, Zhou Z, Cao Y, Liu CF, Zheng D, Arima H, Robinson TG, Chen X, Lindley RI, JChalmers J, Anderson CS.

- | | | | | |
|----|--|------------------------------|-------------------------|--|
| 11 | Protocol for a randomized controlled trial of intensive blood pressure control on cardiovascular risk reduction in patients with atrial fibrillation: rationale and design of the CRAFT trial. | Am Heart J. | 278: 33-40, 2024 | Jiang C, Wang Z, Wang Y, Gao M, Jia Z, Chai Z, Yang Z, Wang C, He L, Hu R, Lv Q, Wu J, Li X, Jia C, Han R, Arima H, Wang X, Neal B, Rodgers A, Hillis GS, Patel A, Li Q, Dong J, Anderson CS, Ma C. |
| 12 | Effects of renal denervation on blood pressure in patients with hypertension: a latest systematic review and meta-analysis of randomized sham-controlled trials | Hypertens Res | 47(10): 2745-2759, 2024 | Ogoyama Y, Abe M, Okamura K, Tada K, Katsurada K, Shibata S, Kai H, Rakugi H, Node K, Yokoi H, Kario K, Arima H. |
| 13 | Improvement of Medication Adherence for Desmopressin by Adjusting the Prescription Dosage in Male Patients with Overactive Bladder - A Claims Database Analysis - | Neurourol Urodyn | 43(8): 2207-2213, 2024 | Tsubouchi K, Maeda T, Emoto T, Aoyagi C, Matsuoka W, Yamazaki F, Nakagawa C, Fukuhara Y, Tominaga K, Gunge N, Miyazaki T, Okabe Y, Matsuzaki H, Nakamura N, Arima H, Haga N |
| 14 | Dysbiosis of oral bacteria in patients with chronic kidney disease | Renal Replacement Therapy | 10(63): 1-7, 2024 | Yasuno T, Tada K, Takahashi K, Watanabe M, Ito K, Arima H, Masutani K |
| 15 | Patterns and clinical implications of hemorrhagic transformation after thrombolysis in ischemic stroke: results from the ENCHANTED study | Neurology | 103(11): e210020, 2024 | Wang Y, Maeda T, You S, Chen C, Liu L, Zhou Z, Robinson T, Lindley RI, Delcourt C, Mair G, Wardlaw JM, Chalmers J, Arima H, Huang Y, Kim JS, Lavados P, Lee TH, Levi C, Parsons M, Martins SO, Pandian J, Pontes-Neto O, Sharma VK, Thang NH, Wang J, Wu S, Liu M, Craig S, Anderson CS, Xiaoying Chen X, on behalf of the ENCHANTED Investigators |
| 16 | Influence of renal function on blood pressure control and outcome in thrombolysed patients after acute ischemic stroke: post-hoc analysis of the ENCHANTED trial | Front Endocrinol (Lausanne). | 15:fendo. 2024.1341902 | Ren X, Chen C, Wang X, Li Q, Zhao Y, You S, Ouyang M, Robinson T, Lindley RI, Arima H, Chen X, Chalmers J, Anderson CS, Song L. |
| 17 | Updated meta-analysis for antihypertensive treatment guided by home blood pressure compared to treatment based on office blood pressure: systematic review. | Hypertens Res. | 48(6): 1839-1845, 2025 | Maruhashi T, Tatsumi Y, Satoh M, Kobayashi Y, Ogoyama Y, Sakima A, Arima H, Ohkubo T. |

18	Effectiveness of self-monitoring devices measuring the urinary sodium-to-potassium ratio, urinary salt (sodium) excretion, or salt concentration in foods for blood pressure management: a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res	48(6) : 1891-1898, 2025	Hisamatsu T, Ueda K, Arakawa K, Minegishi S, Okami Y, Kinuta M, Kondo K, Jinnouchi H, Ishihara M, Abe M, Atsushi S, Miura K, Arima H.
19	Impact of smoking status on incident hypertension in a Japanese occupational population	Hypertens Res.	48(1) : 180-188, 2024	Yamato I, Kansui Y, Matsumura K, Inoue M, Ibaraki A, Sakata S, Arima H, Goto K, Kitazono T.
20	Current use of angiotensin II receptor blockers and angiotensin-converting enzyme inhibitors for hypertension in patients with chronic kidney disease with proteinuria: a cross-sectional study based on real-world data.	Hypertens Res	48(1) : 244-255, 2025	Tada K, Nakano Y, Takahashi K, Hiyamuta H, Watanabe M, Ito K, Yasuno T, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Kosuke M, Arima H.
21	Heterogeneous development of liver fibrosis in chronic hepatitis C patients; assessment by extracellular volume fraction map generated from routine clinical CT data.	Eur J Radiol.	182:111845, 2025	Hisatomi E, Tanaka S, Sato K, Goto N, Murayama R, Arima H, Takayama Y, Yoshimitsu K.
22	Non-fasting and fasting serum triglyceride concentrations and new-onset hyperuricemia in the general Japanese population: ISSA-CKD study	Sci Rep	15(1) :2764, 2025	Sakaguchi T, Funakoshi S, Kawano K, Ueno T, Maki K, Morinaga A, Iwanaga K, Inoue Y, Shinohara Y, Katsuki S, Takahashi K, Ishida S, Fujii T, Abe M, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Tada K, Ito K, Mukobara S, Masutani K, Inoue T, Nagamitsu S, Arima H.
23	Effect of intensive versus standard blood pressure control on cardiovascular outcomes in adult patients with hypertension: a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res	48(6) : 1846-1858, 2025	Haze T, Katsurada K, Sakata S, Kuwabara M, Nishida N, Azegami T, Sakima A, Kai H
24	Efficacy of renin-angiotensin system inhibitors, calcium channel blockers, and diuretics in hypertensive patients with diabetes: subgroup analysis based on albuminuria in a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res	48(6) : 1880-1890, 2025	Ichikawa D, Kawarazaki W, Saka S, Kanaoka T, Ohnishi H, Arima H, Shibata S.
25	Quality of life of patients with pustular psoriasis is inferior to that of patients with plaque psoriasis in Japan: A multicenter study with questionnaires, the Short Form-36, and other patient-reported outcomes	J Dermatol	52(4) : 682-694, 2024	Imafuku S, Satoh A, Arima H, Tsuruta N, Iwasaki R, Kimura H, and the Western Japan Inflammatory Skin Disease Research Group.
26	Effectiveness of digital health interventions for telemedicine/telehealth for managing blood pressure in adults: A systematic review and meta-analysis	Hypertens Res.	48(2) : 478-491, 2025	Sakima A, Akagi Y, Akasaki Y, Fujii T, Haze T, Kawakami-Mori F, Kitajima K, Kobayashi Y, Matayoshi T, Sakaguchi T, Yamazato M, Abe M, Ohya Y, Arima H

- | | | | | |
|----|---|----------------|-----------------------------|--|
| 27 | Smartphone application-based intervention to lower blood pressure: a systematic review and meta-analysis | Hypertens Res | 48(2) :
492-505,
2025 | Abe M, Hirata T, Morito N, Kawashima M, Yoshida S, Takami Y, Fujimoto T, Kawasoe S, Shibukawa T, Segawa H, Yamanokuchi T, Ishida S, Takahashi K, Tada K, Kato Y, Sakima A, Arima H. |
| 28 | Self-measurement of blood pressure at home using a cuff device for change in blood pressure levels: systematic review and metaanalysis. | Hypertens Res | 48(2) :
574-591,
2025 | Satoh M, Tatsumi Y, Nakayama S, Shinohara Y, Kawazoe M, Nozato Y, Kunimura A, Murakami T, Toyama M, Muroya T, Yagihashi T, Sakima A, Abe M, Arima H, Ohkubo T |
| 29 | Differences in the effects of exercise on blood pressure depending on the physical condition of the subject and the type of exercise: a systematic review and meta-analysis | Hypertens Res. | 48(2) :
720-732,
2025 | Suematsu Y, Morita H, Abe M, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Yano Y, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura S. |
| 30 | Resistance exercise has an antihypertensive effect comparable to that of aerobic exercise in hypertensive patients: a meta-analysis of randomized controlled trials | Hypertens Res. | 48(2) :
733-743,
2025 | Morita H, Abe M, Suematsu Y, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura SI. |

- | | | | | |
|----|--|---------------------|--------------------------------|---|
| 31 | Body mass index and sarcopenia and mortality risk among older hypertensive outpatients; the Nambu Cohort Study | Hypertens Res. | 48(2) :
744-753,
2025 | Inoue T, Matsuoka M,
Tamashiro M, Arasaki O,
Arima H |
| 32 | Sleep-related breathing disorder in a Japanese occupational population and its association with exercise-induced blood pressure elevation. | Hypertens Res | 48(2) :
754-762,
2025 | Inoue M, Sakata S,
Arima H, Yamato I,
Oishi E, Ibaraki A,
Kitazono T, Goto K. |
| 33 | Clinical Features and Current Pharmacotherapy of OAB in Practice: Ideal and Reality | Adv Ther. | 42(2) :
1094-1107,
2025 | Tsubouchi K, Arima H,
Emoto T, Nakazawa H,
Kitano T, Mikami M,
Aoyagi C, Matsuzaki H,
Tominaga K, Gunge N,
Miyazaki T, Okabe Y,
Nakamura N, Fukuhara Y,
Tachibana M, Nakagawa C,
Yamazaki F, Haga N |
| 34 | Effects of Inpatient and Outpatient Cardiac Rehabilitation on the Five-Year Prognosis in Patients with Acute Myocardial Infarction. | Eur J Prev Cardiol. | Online ahead of
print. 2025 | Suematsu Y, Minei A,
Sumita Y, Kanaoka K,
Nakai M, Miyamoto Y,
Arima H, Nakamura K,
Takura T, Shimada K,
Shiraishi H, Fukuma N,
Sata M, Izawa H,
Fukumoto Y, Makita S,
Ohya Y, Miura S;
JROAD-CR
InvestigatorsYoshihiro |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|---|-----------------|--------------------------------|---|
| 1 | Dementia: a looming threat for women with hypertensive disorders of pregnancy? | Hypertens Res | 47(4) :
975-977,
2024 | Abe M, Arima H |
| 2 | Prologue: Special Spotlight Issue on Japan | J Hum Hypertens | 38(6) :
467-468.
2024 | Yano Y, Nishiyama A,
Ishimitsu T, Kashiwara N,
Rakugi H, Tamura K,
Itoh H, Sakima A,
Tsuchihashi T, Arima H,
Matayoshi T, Imai Y,
Miura K, Hisamatsu T,
Asayama K, Ohkubo T,
Node K, Kario K. |
| 3 | Strategies for improving the treatment and control of hypertension in Japan. | J Hum Hypertens | 38(6) :
510-515. 2024 | Sakima A, Matayoshi T,
Arima H. |
| 4 | Impact of renal denervation on quality of life (How does renal denervation contribute to improving hypertension treatment affected by poor medication adherence?) | Hypertens Res. | 47(10) :
2974, 2024 | Okamura K, Shimada H,
Imazato K, Sako H,
Udo A, Taniguchi K,
Morisaki S, Imamura I,
Urata H, Arima H,
Miura S. |
| 5 | Unraveling the implications of digit bias in digital health - a literature review. | Intern Med | Online ahead of
print. 2024 | Suzuki T, Nagasu H,
Ebara T, Kagiya N,
Kishi T, Yano Y,
Kario K, Nishiyama A,
Arima H, Kawai F,
Shibata S, Node K,
Mizuno A. |

6	Digital hypertension, implementation hypertension, and internationalization-3 pillars of Japanese Society of Hypertension 2024-2026 advancing hypertension science from Japan to the world in the information network era	Hypertens Res	48(1): 1-5, 2025	Kario K, Nishiyama A, Shibata S, Arima H, Furuhashi M, Ichihara A, Ishida M, Katsuya T, Kishi T, Miura K, Miura S, Mogi M, Ohishi M, Shibata H, Shimosawa T, Sugawara A, Tamura K, Toyoda K, Yamamoto K, Node K.
7	Approaching the paradoxical relationship between hypertensive disorders of pregnancy and cerebral palsy among infants born very preterm with very low birth weight	Hypertens Res.	48(1): 408-410, 2025	Abe M, Arima H
8	高齢者診療における SaMD の可能性	Nippon Rinsho	82(4): 622-626, 2024	吉村 力, 有馬 久富
9	大規模臨床試験から学ぶ高血圧治療	Medical Practice	41(4): 526-532, 2024	藤居 貴子, 有馬 久富

〈著書〉

1	糖尿病診療ガイドライン2024	糖尿病診療ガイドライン 2024 策定委員会協力者	2024	有馬 久富, 阿部真紀子
---	-----------------	------------------------------	------	--------------

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 最新のエビデンスから（INTERACT4）から 脳出血急性期の血圧管理を再考する	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/12 2024	有馬 久富
2	（シンポジウム） 高血圧治療最新の展開：個別化アプローチに 向けて－イントロダクション	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/12 2024	有馬 久富
3	（シンポジウム） 高齢外来通院患者における BMI・サルコペニア 指標と生命予後の関連：The Nambu Cohort Study	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/12 2024	井上 卓
4	（シンポジウム） 高齢者における睡眠と高血圧の関連について	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/12 2024	吉村 力
5	（シンポジウム） スマートフォンアプリは高齢者の血圧を改善 させるか	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/12 2024	阿部真紀子
6	（シンポジウム） 高血圧患者に対する運動療法のエビデンス	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/12 2024	三浦伸一郎
7	（シンポジウム） デジタルヘルスを活用した遠隔医療/ 保健指導血圧への効果：システムティックレ ビュー・メタアナリシスによる検討	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	崎間 敦

8	(シンポジウム) 高血圧患者における腎デナベーションの降圧効果と安全性：無作為化シヤム対照比較試験の最新メタ解析より	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	小古山由佳子
9	(シンポジウム) デジタル技術は血圧を低下させるか？	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	有馬 久富
10	(シンポジウム) デジタル技術を活用した血圧管理に関する指針	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	有馬 久富
11	(シンポジウム) カフ式血圧計を用いた家庭血圧測定介入と血圧変化：メタアナリシス	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	佐藤 倫広
12	(シンポジウム) 成人血圧に対するウェアラブルデバイスの直接および間接的介入効果	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	小山 雅之
13	(シンポジウム) 人工知能 (AI) を使用した介入は、成人の血圧を低下させるか？	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	前田 俊樹
14	(シンポジウム) アプリによる介入は一般成人において血圧を低下させるか？	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	阿部真紀子
15	(シンポジウム) 尿ナトリウム/カリウム比および食事・尿ナトリウム濃度の測定デバイスを用いた介入は血圧を低下させるか：システムティックレビューとメタ分析	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	久松 隆史
16	(シンポジウム) PROGRESS 試験から見たアジア人と西洋人の脳心血管病型と降圧効果の違い	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	有馬 久富
17	(シンポジウム) デジタルハイパーテンション：デジタル技術を活用した血圧管理に関する指針	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/13 2024	有馬 久富

〈国内研究助成金〉

1	心房細動における脳心血管病予防のための高血圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	文部科学省 基盤研究 B	2024	有馬 久富 (代表) 前田 俊樹 (分担) 川添 美紀 (分担) 阿部真紀子 (分担) 藤居 貴子 (分担)
2	腸内細菌から動脈硬化を予測する：AI を用いた挑戦	文部科学省 挑戦的研究 (萌芽)	2024	有馬 久富 (代表) 前田 俊樹 (分担) 川添 美紀 (分担) 阿部真紀子 (分担)
3	腸内細菌叢と認知機能・動脈硬化・フレイルに関する東西 4 コホート統合疫学研究	文部科学省 基盤研究 B	2024	有馬 久富 (代表者：久松 隆史)
4	妊婦の会陰部裂傷と産後の QOL に対する会陰部マッサージ効果検証と手技の確立	文部科学省 基盤研究 C	2024	有馬 久富 (代表者：齋藤 祥乃)
5	認知症高齢者のエンドオブライフの最善を支える ACP プロセスの構築	文部科学省 基盤研究 C	2024	有馬 久富 (代表者：馬場みちえ)

6	感染症発症に関与する腸内細菌 叢異常を解明	文部科学省 基盤研究 C	2024	有馬 久富 (代表者：武岡 宏明)
7	人工呼吸器関連肺炎続発患者における口腔－ 腸内細菌叢相関の集中治療施設間比較	文部科学省 基盤研究 C	2024	有馬 久富 (代表者：眞野 亮介)
8	一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機 序解明	文部科学省 基盤研究 C	2024	有馬 久富, 前田 俊樹 (代表者：中村 信之)
9	動脈硬化予防に最適な身体活動プログラムの 開発	文部科学省 基盤研究 C	2024	藤居 貴子 (代表) 有馬 久富 (分担)
10	動脈硬化症疾患の代謝調整栄養因子, 分枝鎖 アミノ酸による口腔-超連関制御機構の解明	文部科学省 基盤研究 C	2024	有馬 久富 (代表者：近藤 誠二)
11	病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与 する腸内細菌叢異常を解明する	文部科学省 基盤研究 C	2024	有馬 久富, 前田 俊樹 (代表者：安野 哲彦)
12	不眠症と睡眠時無呼吸症候群から動脈硬化・ CKD 予防を科学する	文部科学省 基盤研究 C	2024	有馬 久富 (代表者：吉村 力)
13	咽頭全摘出術を受けたがんサバイバーのサル コペニア予防のための介入研究	文部科学省 基盤研究 C	2024	有馬 久富 (代表者：岩永 和代)
14	多系統萎縮症の発症に関与する腸内細菌叢異 常を解明する－疫学・遺伝子学的視点より－	文部科学省 基盤研究 C	2024	川添 美紀 (代表)
15	ソーシャルキャピタルが潜在性動脈硬化に及 ぼす影響	文部科学省研 若手研究	2024	前田 俊樹 (代表)
16	高齢者における多剤処方形式過程と処方カス ケード発生実態の解明	文部科学省研 挑戦的研究	2024	前田 俊樹 (代表者：西 巧)
17	気象・周辺環境情報を統合した保健医療情報 基盤構築と個人・環境要因の複合的影響評価	文部科学省研 挑戦的研究	2024	前田 俊樹 (代表者：西 巧)
18	中等症以上の閉塞性睡眠時無呼吸患者を対象 とした CPAP または口腔内装置治療による 心血管イベントの抑制効果を検討する前向き コホート研究	受託研究 国立大学法人九州大学	2024	有馬 久富 (代表) 前田 俊樹 (分担) 川添 美紀 (分担)
19	東京貨物運送健康保険組合 新型コロナウイルス感染症に伴う慢性疾患の 受療状況の変化に関する研究に係るデータ分析	受託研究 合同会社生活習慣病予防 研究センター	2024	有馬 久富 (代表)
20	デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管 理に関する指針の研究開発	受託研究 国立研究開発法人医療研究 開発機構	2024	有馬 久富 (代表) 前田 俊樹 (分担) 川添 美紀 (分担) 阿部真紀子 (分担)
21	循環器疾患におけるヘルスケアサービスの有 効性に関するエビデンスの整理と指針作成	受託研究 国立研究開発法人医療研究 開発機構	2024	有馬 久富 (代表) 阿部真紀子 (分担)
22	研究助成のため	壱岐市	2024	有馬 久富 (代表)
23	研究助成のため	ポッカサッポロフード& ビバレッジ株式会社	2024	有馬 久富 (代表)
24	研究助成のため	NPO 法人西日本炎症性 皮膚疾患研究会	2024	有馬 久富 (代表)
25	研究助成のため	持田製薬㈱	2024	有馬 久富 (代表)

26	研究助成のため	NPO 法人 RESPECT 研究会	2024	有馬 久富（代表）
27	令和6年度助成金	公益財団法人臨床研究奨励基金	2024	阿部真紀子
28	令和6年度助成金	一般財団法人員原守一医学振興財団	2024	石田晋太郎

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	日本人口学会第83回九州地域部会	福岡大学医学部研究棟本館1階B会議室, ハイブリッド形式	2024年9月7日	有馬 久富
---	------------------	------------------------------	-----------	-------

〈学会活動〉

1	日本疫学会	理事	2024	有馬 久富
2	日本血管不全学会	理事	2024	有馬 久富
3	日本高血圧学会	理事	2024	有馬 久富
4	日本循環器病予防学会	理事	2024	有馬 久富
5	日本循環器学会九州支部	評議員	2024	有馬 久富
6	日本高血圧学会	評議員	2024	有馬 久富
7	日本循環器病予防学会	評議員	2024	有馬 久富
8	日本臨床薬理学会	代議員	2024	有馬 久富
9	日本公衆衛生学会	代議員	2024	有馬 久富
10	日本疫学会	代議員	2024	有馬 久富
11	Journal of Hypertension	編集委員	2024	有馬 久富
12	BMC Public Health	編集委員	2024	有馬 久富
13	HYPERTENSION	編集委員	2024	有馬 久富
14	Cerebrovascular Disease	編集委員	2024	有馬 久富
15	日本循環器病予防学会誌	編集委員	2024	有馬 久富
16	日本医療・病院管理学会	評議員	2024	前田 俊樹
17	Editorial Board of Discover Social Science and Health	編集委員	2024	前田 俊樹
18	日本内分泌学会	学術評議員	2024	阿部真紀子

法医学

〈原著〉

1	Association between serum catecholamine levels and VNTR polymorphism in the promoter region of the monoamine oxidase A gene in forensic autopsy cases.	Leg Med	70:102469, 2024	Matsusue A, Takayama M, Tani N, Waters B, Kashiwagi M, Kubo S, Ishikawa T.
2	The effect of tea catechins on the forensic identification of urine: Urine camouflage to evade drug tests.	Leg Med	66:102370, 2024	Momota F, Nakazono T, Waters B, Tokuyasu T, Takayama M, Matsusue A, Kashiwagi M, Kubo S.

3	Qualitative analysis of blood from patients engaging in deliberate self-harm: Differences between prescribed and detected drugs.	Neuropsychopharmacol Rep	44(4): 809-822, 2024	Masuda M, Waters B, Gotoh L, Nakamura Y, Kato Y, Nabeshima S, Kubo S, Eto N, Kawasaki H.
---	--	--------------------------	----------------------	--

〈症例報告〉

1	An autopsy case of cerebral hemorrhage in an HIV-infected patient with suspected HIV-associated cerebrovascular disease.	J Forensic Leg Med	103: 102672, 2024	Takayama M, Kashiwagi M, Matsusue A, Waters B, Kubo S.
2	メトホルミン大量内服患者に対して血液透析を実施した一例	腎と透析	98(1): 122-125, 2025	柴田 稜子, 尾崎 智美, 中村 翼, 吉山 直政, 石井 英博, 渡邊 真穂, Waters Brian, 久保 真一, 升谷 耕介

〈著書〉

1	Skin Necrosis Second Edition	Springer	pp.167-173, 2024	Kashiwagi M (分担)
2	学生のための法医学 改訂7版	南山堂	pp.83-87, 2024	柏木 正之 (分担)
3	学生のための法医学 改訂7版	南山堂	pp.223-243, 2024	松末 綾 (分担)

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	An autopsy case of undiagnosed malignant lymphoma.	The 26th Congress of the International Academy of Legal Medicine	Athens, Greece May 21-23 2024	Kashiwagi M, Takayama M, Matsusue A, Waters B, Kubo S.
---	--	--	-------------------------------------	--

〈国内研究助成金〉

1	覚醒剤の毒性発現の個人差に影響する遺伝的要因の解明	日本学術振興会 基盤研究 C	2024	松末 綾 (代表)
2	法医学領域における多職種連携とキャリアパスの推進について	厚生労働省 地域医療基盤開発推進研究 事業	2024	松末 綾 (代表者: 井濱容子)
3	Proof of alcoholic beverage consumption based on the quantitation of novel biomarkers	日本学術振興会 基盤研究 C	2024	ウォーターズ ブライアン (代表)

〈学会活動〉

1	日本法医学会	評議員	2024	柏木 正之
2	日本法中毒学会	評議員	2024	ウォーターズ ブライアン

医学教育推進講座

〈原著〉

1	Effectiveness of digital health interventions for telemedicine/telehealth for managing blood pressure in adults: a systematic review and meta-analysis.	Hypertens Res.	48(2): 478-491, 2025	Sakima A, Akagi Y, Akasaki Y, Fujii T, Haze T, Kawakami-Mori F, Kitajima K, Kobayashi Y, Matayoshi T, Sakaguchi T, Yamazato M, Abe M, Ohya Y, Arima H.
---	---	----------------	----------------------	--

- | | | | | |
|---|--|----------------|----------------------------|---|
| 2 | Differences in the effects of exercise on blood pressure depending on the physical condition of the subject and the type of exercise: a systematic review and meta-analysis. | Hypertens Res. | 48(2):
720-732,
2025 | Suematsu Y, Morita H, Abe M, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Yano Y, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura SI. |
| 3 | Resistance exercise has an antihypertensive effect comparable to that of aerobic exercise in hypertensive patients: a meta-analysis of randomized controlled trials. | Hypertens Res. | 48(2):
733-743,
2025 | Morita H, Abe M, Suematsu Y, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura SI. |

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|---------------------------------------|-----------------|------|------------|
| 1 | HDL 機能を利用した心臓リハビリテーションによる心血管疾患予後因子の解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 北島 研 (代表) |
| 2 | 感染症発症に関与する腸内細菌叢異常を解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 武岡 宏明 (代表) |

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|-------------|-----------------|------|-------|
| 1 | 日本内科学会 | 専門医部会
編集担当委員 | 2024 | 北島 研 |
| 2 | 日本病院総合診療医学会 | 評議員 | 2024 | 武岡 宏明 |
| 3 | 日本感染症学会 | 評議員 | 2024 | 武岡 宏明 |

生命医療倫理学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|--|-------------|-----------------------------|---|
| 1 | 医療従事者による地域の小・中学生へむけた
教育連携事業の取り組み | 臨牀と研究 | 101(4):
484-487,
2024 | 野瀬 大補, 井林 雄太,
今泉 聡, 朔 啓二郎,
三浦伸一郎 |
| 2 | Does Sinus Rhythm Restoration in Patients
With Atrial Fibrillation Undergoing
Pulmonary Vein Isolation Have Acute
Hemodynamic Benefits? | Cardiol Res | 15(4):
298-308,
2024 | Komaki T, Mohri N,
Ideishi A, Tashiro K,
Koyanagi N, Miura S,
Ogawa M. |
| 3 | The Mechanism and Management of
Pneumopericardium Caused by Right
Ventricular Lead Perforation. | Cardiol Res | 15(6):
472-476,
2024 | Komaki T, Ueno Y,
Mohri N, Ideishi A,
Tashiro K, Miura S,
Ogawa M. |

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|----------------------|---------------|------------------------|------|
| 1 | （招待講演）
臨床試験における倫理 | 第46回日本高血圧学会総会 | 福岡
10/12-14
2024 | 今泉 聡 |
|---|----------------------|---------------|------------------------|------|

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|--------------|-------------|------|------|
| 1 | 日本動脈硬化学会 | 評議員 | 2024 | 今泉 聡 |
| 2 | 日本高血圧学会 | 評議員 | 2024 | 今泉 聡 |
| 3 | 日本高血圧学会 | 研究倫理審査委員会委員 | 2024 | 今泉 聡 |
| 4 | 日本脳神経血管内治療学会 | 倫理委員会委員 | 2024 | 今泉 聡 |

総合医学研究センター

〈原著〉

- | | | | | |
|---|--|---------------------|------------------------------|--|
| 1 | Stromal CD73 Expression in Breast Cancer:
Subtype-specific Expression and its
Prognostic Significance. | Anticancer Res. | 44(8):
3637-3643,
2024 | Tanaka M, Aoki M,
Masuda Y, Yoshinaga Y,
Hamasaki M, Iwasaki A,
Sato T. |
| 2 | Exome sequencing of 20,979 individuals with
epilepsy reveals shared and distinct ultra-
rare genetic risk across disorder subtypes | Nature Neuroscience | 27:1864-79
2024 | Siwei Chen,
Bassel W Abou-Khalil,
Zaid Afawi,
Quratulain Zulfiqar Ali,
Elisabetta Amadori,
Alison Anderson,
Joe Anderson,
Danielle M Andrade,
Grazia Annesi,
Mutluay Arslan, et al. |
| 3 | Glycosylphosphatidylinositol Biosynthesis
Defect Due To Novel Biallelic Pathogenic
Variants in PIGW | Pediatric Neurology | 167:
89-95
2025 | Nazim Rabouhi, Smrithi Salian,
Hind Benkerroum,
Takeshi Yoshida,
Humayra Uddin,
Thi Tuyet Mai Nguyen,
Takako Fujita, Shinichi Hirose,
Kenjiro Kosaki,
Mathilde Lefebvre,
Nicolas Bourgon, et al. |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|--|--------------|-----------------|--|
| 1 | Lipoprotein glomerulopathy with markedly increased arterial stiffness successfully treated with a combination of fenofibrate and losartan: a case report | BMC Nephrol. | 25(1):171, 2024 | Kato J, Okonogi H, Kanzaki G, Katsumata H, Nakada Y, Sagasaki M, Komine K, Ito K, Saito T, Matsunaga A, Tokutou K, Honda K, Tsuboi N, Yokoo T. |
|---|--|--------------|-----------------|--|

〈総説〉

- | | | | | |
|---|-----------|------|-----------------------|-------|
| 1 | 国際学会の楽しみ方 | 小児内科 | 56(1):128-130
2024 | 廣瀬 伸一 |
|---|-----------|------|-----------------------|-------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|--|---|--|-----------------|
| 1 | 「臨床科でもここまで出来た！小児科での研究」 | 第10回日本シニア小児科医連盟総会 | 福岡
4/19
2024 | 廣瀬 伸一 |
| 2 | Current Global Approaches to Diagnosing and Intervening in Genetic Disorders Manifesting as Developmental Delays in Children: Sharing Early Intervention Experiences from Frontline Workers in Japan | The 2024 Wang Jhan-Yang Social Welfare Foundation Early Intervention International Conference | Taoyuan
Taiwan
August 10-11,
2024 | Hirose Shinichi |
| 3 | （シンポジウム）
デジタル社会における乳幼児の発達支援：絵本で育む愛着形成－ Polyvagal theory の視点から－ | 第66回日本小児神経学会学術集会 | 名古屋
2024/5/30-6-1 | 安元 佐和 |

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|---------------------------------------|-----------------|------|-----------|
| 1 | 難治性てんかんの分子病態研究成果を基盤とした 創薬バイプライン実用展開研究 | 文部科学省
基盤研究 B | 2024 | 廣瀬 伸一（代表） |
|---|---------------------------------------|-----------------|------|-----------|

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|-----------------------------|-----------|------|-------|
| 1 | 公益財団法人ふくおか公衆衛生財団
肺がん専門部会 | 委員長 | 2024 | 岩崎 昭憲 |
| 2 | 公益財団法人ふくおか公衆衛生財団
乳がん専門部会 | 委員 | 2024 | 岩崎 昭憲 |
| 3 | 公益財団法人福岡県メディカルセンター
肺がん読影 | 委員長 | 2024 | 岩崎 昭憲 |
| 4 | 胸部外科学会 | 編集委員 | 2024 | 岩崎 昭憲 |
| 5 | アジア大洋州小児神経学会 | 会長
理事長 | 2024 | 廣瀬 伸一 |

〈特許取得〉

- | | | | | |
|---|---------------------|----|--------------------------|-----------------------|
| 1 | ナトリウムチャネル結合剤及び医薬組成物 | 日本 | 第7544372号
(2024.8.26) | 廣瀬 伸一, 田中 泰圭
柴田 磨己 |
|---|---------------------|----|--------------------------|-----------------------|

腫瘍・血液・感染症内科学

〈原著〉

- 1 Non-pharmacological treatments for anticipatory nausea and vomiting during chemotherapy: a systematic review and meta-analysis of the Clinical Practice Guidelines for Antiemesis 2023. Int J Clin Oncol 29(7) : 889-898, 2024 Kobayashi M, Sasaki H (他25名, 12番目), Iino K.
- 2 Defining the clinical benefits of adding a neurokinin-1 receptor antagonist to control chemotherapy-induced nausea and vomiting in moderately emetogenic chemotherapy: a systematic review and meta-analysis of the clinical practice guidelines for antiemesis 2023 from the Japan society of clinical oncology. Int J Clin Oncol 29(11) : 1616-1631, 2024 Hayashi T, Sasaki H (他25名, 13番目), Iihara H.
- 3 Efficacy and safety of dexamethasone sparing for the prevention of nausea and vomiting associated with highly emetogenic risk antineoplastic agents: a systematic review and meta-analysis of the Clinical Practice Guidelines for Antiemesis 2023 from the Japan Society of Clinical Oncology. Int J Clin Oncol 29(11) : 1632-1640, 2024 Yokomizo A, Sasaki H (他25名, 13番目), Abe M.
- 4 Efficacy and safety of dexamethasone sparing for the prevention of nausea and vomiting associated with moderately emetogenic chemotherapy: a systematic review and meta-analysis of Clinical Practice Guidelines for Antiemesis 2023 from Japan Society of Clinical Oncology. Int J Clin Oncol 29(12) : 1785-1794, 2024 Nakashima K, Sasaki H (他25名, 13番目), Abe M.
- 5 Lipidomic profiling of plasma from patients with multiple myeloma receiving bortezomib: an exploratory biomarker study of JCOG1105 (JCOG1105A1) Cancer Chemother Pharmacol 95(1) :29, 2025 Ri M Iida S, Saito K, Saito Y, Maruyama D, Asano A, Fukuhara S, Tsujimura H, Miyazaki K, Ota S, Fukuhara N, Negoro E, Kuroda J, Yoshida S, Ohtsuka E, Norifumi T, Tabayashi T, Takayama N, Saito T, Suzuki Y, Harada Y, Mizuno I, Yoshida I, Maruta M, Takamatsu Y, et al.
- 6 Genotypic Shift and Diversification of MRSA Blood Stream Isolates in a University Hospital Setting: Evidence from a 12-Year Observational Study. Antibiotics 13(7) : 670, 2024 Motomura Y, Miyazaki M, Kamada M, Morimoto S, Nakamura Y, Satho T, Takata T, Kashige N. corresponding author
- 7 Impact of the First Twenty-Four-Hour Area Under the Concentration-Time Curve/ Minimum Inhibitory Concentration of Vancomycin on Treatment Outcomes in Patients With Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus Bacteremia. J Clin Med Res 16(7-8) : 325-334, 2024 Higashi M, Nakano T, Sato K, Eguchi Y, Moriawaki N, Kamada M, Ikeuchi T, Kaneshige S, Uchiyama M, Hayashi T, Togawa A, Matsuo K, Kamimura H.

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|---------------------------------------|---------------------|-----------------------|---|
| 1 | CT ガイド下生検時の迅速細胞診で推定できた繊維形成性小円形細胞腫瘍の一例 | 日本臨床細胞学会
九州連合会雑誌 | 55:
77-82,
2024 | 坂田 祥子, 松本 慎二,
角谷 優子, 大石 朋子,
辻 雅子, 西中村恵輔,
秋吉 梨江, 小山 逸,
田中 俊裕, 濱崎 慎 |
|---|---------------------------------------|---------------------|-----------------------|---|

〈総説〉

- | | | | | |
|---|---|---|---------------------------|-------------|
| 1 | びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の国際予後指標 (NCCN-IPI) | 胃と腸 | 59(4)増大号:
623,
2024 | 高松 泰 |
| 2 | 限局性原発性マクログロブリン血症 | 別冊 日本臨床
領域別症候群シリーズNo.30
血液症候群 (第3版) (V)
-その他の血液疾患を含めて- | 81-85,
2024 | 田中 俊裕 |
| 3 | 原発性マクログロブリン血症 | 別冊 日本臨床
領域別症候群シリーズNo.30
血液症候群 (第3版) (V)
-その他の血液疾患を含めて- | 71-75,
2024 | 中島 勇太, 高松 泰 |
| 4 | 特集/抗微生物薬のベストな選択
各種疾患における薬剤選択と使い方 敗血症 | 臨牀と研究 | 101(3):
65-70,
2024 | 高田 徹, 高松 泰 |

〈国際学会と国内学会 (シンポジウムまたは招待講演) 発表〉

- | | | | | |
|---|--|--|-------------------------------------|-----------|
| 1 | (会長講演)
骨髄腫とともに健やかに生きる
Living well with myeloma | 第49回日本骨髄腫学会
学術集会
(一部オンデマンド) | 福岡
2024.5.31-6.2 | 高松 泰 |
| 2 | 血液腫瘍の最新の治療 | 第44回日本癌治療学会
市民公開講座
(ハイブリッド) | 福岡
2024.9.21 | 高松 泰 |
| 3 | 血液内科でのアプローチ
-造血器腫瘍を中心に- | 日本化学療法学会
第71回抗がん剤適正使用生涯
教育セミナー【1日コース】
Basic | 東京
2024.8.24 | 高田 徹 |
| 4 | (シンポジウム)
薬剤耐性 (AMR) の疫学的側面 | 第33回日本口腔感染症学会
総会・学術大会 | 福岡
2024.9.21-22 | 高田 徹 |
| 5 | (特別講演「人獣共通感染症」)
人と動物の共通感染症対策と福岡県のワンヘルスの取り組み | 第33回日本口腔感染症学会
総会・学術大会 | 福岡
2024.9.21-22 | 戸川 温 |
| 6 | Genetic shift of Methicillin-resistant
<i>Staphylococcus aureus</i> isolated from
bloomstream infections over 12 years at
a tertiary care university hospital in Japan. | ID Week | Los Angels,
USA
2024.10.16-20 | Takata T. |

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|-------------------------------------|---------------------|------|---------------------|
| 1 | リンパ系腫瘍・多発性骨髄腫に対する標準的治療確立のための多施設共同研究 | 国立がん研究センター研究
開発費 | 2024 | 高松 泰
(代表: 大江裕一郎) |
|---|-------------------------------------|---------------------|------|---------------------|

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

- | | | | | |
|---|---------------------|------------|---------------|------|
| 1 | 第49回日本骨髄腫学会学術集会 | 福岡国際会議場 | 2024.5.31-6.2 | 高松 泰 |
| 2 | 第8回日本検査血液学会九州支部学術集会 | 福大メディカルホール | 2024.11.23 | 高松 泰 |

〈学会活動〉

1	日本検査血液学会	理事, 九州支部支部長	2024	高松 泰
2	日本臨床腫瘍学会	協議員	2024	高松 泰
3	日本リンパ網内系学会	評議員	2024	高松 泰
4	日本内科学会	評議員	2024	高松 泰
5	日本血液会	評議員	2024	高松 泰
6	日本骨髓腫学会	代議員	2024	高松 泰
7	日本がんサポーターブケア学会	評議員	2024	高松 泰
8	日本医療情報学会	評議員	2024	田中 俊裕
9	日本病院総合診療医学会	評議員	2024	林 武生
10	日本バイオフィルム学会	理事	2024	高田 徹
11	日本感染症学会	評議員, 西日本地方理事	2024	高田 徹
12	日本化学療法学会	評議員, 西日本地方幹事	2024	高田 徹
13	日本感染症学会	評議員	2024	戸川 温

内分泌・糖尿病内科学

〈原著〉

1	Rho-associated, coiled-coil-containing protein kinase 2 regulates expression of mineralocorticoid receptor to mediate sodium reabsorption in mice.	Biochem Biophys Res Commun.	736 : 150874, 2024	Sekiguchi K, Matoba K, Nagai Y, Nagao S, Ohashi S, Mitsuyoshi E, Hayashi T, Kawanami D, Yokota T, Shibata H, Utsunomiya K, Nishimura R.
2	A randomized, open-label, clinical trial examined the effects of canagliflozin on albuminuria and eGFR decline using an individual pre-intervention eGFR slope.	Kidney Int.	106(5) : 972-984, 2024	Miyamoto S, Heerspink HJL, de Zeeuw D, Sakamoto K, Yoshida M, Toyoda M, Suzuki D, Hatanaka T, Nakamura T, Kamei S, Murao S, Hida K, Ando S, Akai H, Takahashi Y, Kitada M, Sugano H, Nunoue T, Nakamura A, Sasaki M, Nakatou T, Fujimoto K, Kawanami D, Wada T, Miyatake N, Kuramoto H, Shikata K; CANPIONE study Investigators.
3	PIONEER REAL Japan: Primary results from a multicenter, prospective, real-world study of oral semaglutide in adults with type 2 diabetes in Japanese clinical practice.	J Diabetes Investig.	15(11) : 1566-1577, 2024	Yabe D, Hamamoto Y, Kawanami D, Nishimura R, Terauchi Y, Amadi H, Braae UC, Major-Pedersen A, Suzuki R.

4	Effect of preceding drug therapy on the renal and cardiovascular outcomes of combined sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor and glucagon-like peptide-1 receptor agonist treatment in patients with type 2 diabetes and chronic kidney disease.	Diabetes Obes Metab.	26(8) : 3248–3260, 2024	RECAP study group; Tsukamoto S, Kobayashi K, Toyoda M, Tone A, Kawanami D, Suzuki D, Tsuruya D, Machimura H, Shimura H, Wakui H, Takeda H, Yokomizo H, Takeshita K, Chin K, Kanasaki K, Miyauchi M, Saburi M, Morita M, Yomota M, Kimura M, Hatori N, Nakajima S, Ito S, Murata T, Matsushita T, Furuki T, Hashimoto T, Umezono T, Muta Y, Takashi Y, Tamura K.
5	Deletion of podocyte Rho-associated, coiled-coil-containing protein kinase 2 protects mice from focal segmental glomerulosclerosis.	Commun Biol.	7(1) : 402, 2024	Matoba K, Nagai Y, Sekiguchi K, Ohashi S, Mitsuyoshi E, Shimoda M, Tachibana T, Kawanami D, Yokota T, Utsunomiya K, Nishimura R.
6	Relationship between abdominal circumference and the incidence of hyperuricemia in the general Japanese population.	Sci Rep.	14(1) : 4573, 2024	Kawano K, Ueno T, Maeda T, Nohara C, Maki K, Iwanaga K, Morinaga A, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T, Mukobara S, Kawanami D, Masutani K, Arima H.
7	Essential points from evidence-based clinical practice guideline for chronic kidney disease 2023 Japanese Society of Nephrology (Kawanami D). Clin Exp Nephrol. 2024 Jun; 28(6) :473–495. IF = 2.2, 3点	Clin Exp Nephrol.	28(6) : 473–495, 2024	Kawanai D.
8	Familial cases with adult-onset FGF23-related hypophosphatemic osteomalacia -A PHEX 3'-UTR change as a possible cause.	Bone	182 : 117057, 2024	Sawatsubashi S, Takashi Y, Endo I, Kondo T, Abe M, Matsumoto T, Fukumoto S.
9	Influence of the combination of SGLT2 inhibitors and GLP-1 receptor agonists on eGFR decline in type 2 diabetes: post-hoc analysis of RECAP study.	Front Pharmacol.	15:1358573, 2024	Muta Y, Kobayashi K, Toyoda M, Tone A, Suzuki D, Tsuruya D, Machimura H, Shimura H, Takeda H, Yokomizo H, Takeshita K, Chin K, Kanasaki K, Tamura K, Miyauchi M, Saburi M, Morita M, Yomota M, Kimura M, Hatori N, Nakajima S, Ito S, Tsukamoto S, Murata T, Matsushita T, Furuki T, Hashimoto T, Umezono T, Takashi Y, Kawanami D (corresponding author).

〈総説〉

- 1 Recent advances in fibroblast growth factor 23-related hypophosphatemic disorders. Curr Opin Endocrinol Diabetes Obes. 31(4): 170-175, 2024 Takashi Y, Kawanami D, Fukumoto S.
- 2 Phosphate-sensing mechanisms and functions of phosphate as a first messenger. Endocr J. 71(4): 335-343, 2024 Takashi Y
- 3 The 2023 Guidelines for the management and treatment of glucocorticoid-induced osteoporosis. J Bone Miner Metab. 42(2): 143-154, 2024 Tanaka Y, Soen S, Hirata S, Okada Y, Fujiwara S, Tanaka I, Kitajima Y, Kubota T, Ebina K, Takashi Y, Inoue R, Yamauchi M, Okubo N, Ueno M, Ohata Y, Ito N, Ozono K, Nakayama H, Terauchi M, Tanaka S, Fukumoto S.
- 4 慢性腎臓病合併2型糖尿病におけるGLP-1受容体作動薬の腎アウトカム：日本からの展望 新薬と臨床 73(8): 736-758, 2024 川浪 大治
- 5 内科医からみた糖尿病網膜症 日本糖尿病合併症 38(1): 42-45, 2024 川浪 大治
- 6 スルホニル尿素薬とイメグリミンから考えるインスリン分泌促進薬 臨床と研究 101(2): 20-23, 2024 川浪 大治
- 7 糖尿病性腎症に関する現状と今後の展望 日本体質医学会誌 86(2): 87-95, 2024 横溝 久, 川浪 大治
- 8 副甲状腺とカルシウムミネラル代謝, FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症とリン感知機構 医学のあゆみ 290(9): 716-721, 2024 高士 祐一
- 9 「糖尿病の救急医療・急性期医療」乳酸アシドーシス 月刊糖尿病 16(1): 33-38, 2024 牟田 芳実, 川浪 大治
- 10 「患者さんからよく尋ねられる内科診療のQuestion」Q. 血圧はいつも130 mmHg程度ですよ。それなのに血圧の薬を飲まないとだめですか？ 内科 133(4): 982-984, 2024 山本真悠子, 川浪 大治

〈著書〉

- 1 患者さんご家族のためのCKD診療ガイド2024 日本腎臓学会 4章CKDと高血圧「糖尿病関連腎臓病」, 2024 川浪 大治 (分担)
- 2 患者さんご家族のためのCKD診療ガイド2024 日本腎臓学会 6章CKDと高血圧「糖尿病関連腎臓病」, 2024 川浪 大治 (分担)
- 3 最新の臨床web糖尿病・内分泌・代謝 南江堂 2024 川浪 大治 (分担)
- 4 糖尿病性腎症における新規MR拮抗薬への期待と課題 糖尿病学2024 120-127, 2024 川浪 大治 (分担)

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	(IFMRS Joint Symposium: Recent topics in musculoskeletal research) Phosphate metabolism	IFMRS joint symposium	Naha, Japan July 1, 2024	Takashi Y.
2	Symposium on Calcium disorders	Sri Lanka Endocrine Congress (SLENDO) 2024	Colombo, Sri Lanka August 8-11, 2024	Takashi Y.
3	Emerging Incretin or SGLT2i Based Therapies for CardioMetabolic Diseases.	Satellite Symposium of Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress (APCMS) 2025	Fukuoka, Japan January 18, 2025	Yokomizo H.
4	(キャリアデベロップメント報奨金の成果報告会) 糖尿病性腎症の残余病態に関する因子と機能解析	第67回日本糖尿病学会総会	東京 5/17-19 2024	川浪 大治
5	(ランチョンセミナー) 糖尿病性腎症の成因と治療 ～フィネレノンへの期待～	第67回日本糖尿病学会総会	東京 5/17-19 2024	川浪 大治
6	(モーニングセミナー) 糖尿病性腎症の課題と展望	第67回日本糖尿病学会総会	東京 5/17-19 2024	川浪 大治
7	(ランチョンセミナー) 「2型糖尿病合併 CKD 治療のこれまでと今後の展望」糖尿病性腎症の成因と治療～フィネレノンへの期待～	第97回日本内分泌学会学術総会	横浜 6/6-8 2024	川浪 大治
8	(教育講演) 内分泌内科医が診る骨粗鬆症：病態を理解した薬物療法	第97回日本内分泌学会学術総会	横浜 6/6-8 2024	高士 祐一
9	(教育セミナー 1) 「知っておきたい糖尿病を取り巻くトピックス」 当院における膵島移植の取り組み	第30回日本糖尿病眼学会総会	東京 6/14-15 2024	川浪 大治
10	(教育セミナー 2) 「糖尿病網膜症診療ガイドライン徹底解説」 網膜症および関連する糖尿病合併症の内科的管理	第30回日本糖尿病眼学会総会	東京 6/14-15 2024	川浪 大治
11	(会長企画セッション 糖尿病・電解質・内分泌) スポンサーセミナー 不思議な栄養素リン～低リン血症と骨疾患～	日本栄養治療学会中部支部 第18回支部学術集会	名古屋 8/24 2024	高士 祐一
12	(第39回日本糖尿病合併症学会・第30回日本糖尿病眼学会総会合同シンポジウム) 「糖尿病細小血管症の克服を目指して」 糖尿病性腎症関連治療薬の眼合併症に対する影響	第39回日本糖尿病合併症学会	つくば 10/4-5 2024	川浪 大治
13	(シンポジウム) 「糖尿病性腎症の基礎と臨床」 血管内皮機能制御因子と糖尿病性腎症進展機構への関与	第39回日本糖尿病合併症学会	つくば 10/4-5 2024	川浪 大治

14	(ランチョンセミナー) 2型糖尿病合併CKDの成因と治療 ～DPP-4阻害薬を含めて～	第39回日本糖尿病合併症学会	つくば 10/4-5 2024	川浪 大治
15	(ワークショップ) 「腎症1」 腎生検検体を用いた糖尿病性腎症保護因子 PKM2発現に関する検討	第39回日本糖尿病合併症学会	つくば 10/4-5 2024	横溝 久
16	(スポンサードシンポジウム) 「降圧薬としてのMRBをリアルワールドから考える」 糖尿病治療の観点から血圧管理の意義を再考 する～CKD診療ガイド2024改訂のポイント～	第46回日本高血圧学会総会	福岡 10/12-14 2024	川浪 大治
17	(シンポジウム) 「九州発世界に羽ばたく糖尿病研究 update」 糖尿病関連腎臓病の残余リスクの探索	第62回日本糖尿病学会 九州地方会	福岡 10/25-26 2024	高士 祐一
18	(ランチョンセミナー) 「糖尿病関連腎臓病のマネジメント～カナゲルへの期待～」	第9回日本心臓リハビリ テーション学会 関東甲信越地方会	東京 11/9 2024	川浪 大治
19	(シンポジウム) 「糖尿病性腎症の研究の進歩～基礎から臨床 まで～」	第35回日本糖尿病性腎症 研究会	東京 11/30-12/1 2024	横溝 久
20	(ランチョンセミナー) 糖尿病関連腎臓病のマネジメント ～カナゲルへの期待～	第45回日本臨床薬理学会	大宮 12/13-14 2024	川浪 大治
21	(シンポジウム) 「糖尿病関連腎臓病2025：私達は何を理解し 何を実践すべきか？」 糖尿病性腎症における残余病態と薬物療法の 可能性	第59回糖尿病学の進歩	那覇 1/24-25 2025	川浪 大治
22	(シンポジウム) 「糖尿病眼学会のこれから～みんなで考える 学会のありかた～」 糖尿病眼学会にこれから望むこと ～内科医として～	第31回日本糖尿病眼学会総会	那覇 1/25-26 2025	川浪 大治
23	(シンポジウム) 「糖尿病眼学会のこれから～みんなで考える 学会のありかた～」 グループディスカッション みんなで大討論 ～糖尿病眼学会の未来を考えよう～	第31回日本糖尿病眼学会総会	那覇 1/25-26 2025	川浪 大治
24	(教育セミナー) 糖尿病合併症を考慮した薬物療法 ～周術期の取り扱いを含めて～	第31回日本糖尿病眼学会総会	那覇 1/25-26 2025	川浪 大治
25	(共催セミナー) 糖尿病性腎症の成因と治療 ～フィネレノンへの期待～	日本腎臓学会 第2回若手基礎研究 フォーラム	東京 2/1 2025	川浪 大治
26	(教育講演) 成人期に求められるくる病・骨軟化症のケア と診療科連携の重要性	第9回日本小児内分泌学会 九州・沖縄地方会	福岡 2/23 2025	高士 祐一

〈国内研究助成金〉

1	糖尿病性腎臓病におけるリン代謝と Rho-kinase の意義	日本学術振興会 基盤研究 (C)	2024	川浪 大治 (代表)
2	糖尿病性腎症保護因子 PKM2に着目した残存病態の解明と新規治療法の開発	日本学術振興会 基盤研究 (C)	2024	横溝 久 (代表)
3	代謝特性の異なる遅筋と速筋に着目した糖尿病における骨格筋障害の発症機構の解明	日本学術振興会 若手研究	2024	横溝 久 (代表)
4	PGD2シグナリング経路に着目した歯周炎が糖尿病性腎症を増悪する分子機序の解明	日本学術振興会 基盤研究 (C)	2024	横溝 久 (代表者: 新城 尊徳)
5	新規 BATkine に着目した歯周病による代謝破綻の解明	日本学術振興会 基盤研究 (C)	2024	横溝 久 (代表者: 佐々木直樹)
6	糖尿病性腎症保護因子に着目した病態解明と治療戦略	上原記念生命科学財団 2024年度研究助成金	2024	横溝 久 (代表)
7	慢性腎臓病患者の健康寿命の延伸を目指した生体のリン感知機構の解明	日本学術振興会 基盤研究 (C)	2024	高士 祐一 (代表)
8	健康長寿を目指した生体のリン感知機構の解明	2024年度武田科学振興財団 医学系研究助成 (基礎)	2024	高士 祐一 (代表)
9	慢性腎臓病患者の健康寿命の延伸を目指した生体のリン感知機構の解明	鈴木謙三記念医科学 応用研究財団 令和 6 年度調査研究助成	2024	高士 祐一 (代表)
10	健康寿命の延伸を目指した生体のリン感知機構の解明	冲中記念成人病研究所 令和 6 年度研究助成	2024	高士 祐一 (代表)
11	解糖系律速酵素を標的とする糖尿病性腎症の新規治療法の開発	九州大学医学部同窓会 国際研究助成基金	2024	牟田 芳実 (代表)
12	解糖系律速酵素を標的とする糖尿病性腎症の新規治療法の開発	鈴木万平糖尿病財団 海外留学助成	2024	牟田 芳実 (代表)

〈学会活動〉

1	日本糖尿病眼学会	理事	2024	川浪 大治
2	日本脾・脾臓移植学会	理事	2024	川浪 大治
3	日本機能性食品医用学会	理事	2024	川浪 大治
4	日本内科学会	評議員	2024	川浪 大治
5	日本糖尿病学会	学術評議員	2024	川浪 大治, 横溝 久, 高士 祐一
6	日本糖尿病学会	糖尿病診療ガイドライン 評価委員	2024	川浪 大治
7	日本内分泌学会	評議員	2024	川浪 大治, 横溝 久, 高士 祐一
8	日本体質学会	評議員	2024	川浪 大治
9	日本糖尿病合併症学会	評議員	2024	川浪 大治
10	日本機能性食品医用学会	評議員	2024	川浪 大治

11	日本腎臓学会	CKD 診療ガイドライン作成委員	2024	川浪 大治
12	日本糖尿病学会九州支部	監事	2024	川浪 大治
13	日本内分泌学会九州支部	幹事	2024	川浪 大治
14	日本内分泌学会九州支部	評議員	2024	川浪 大治, 横溝 久, 高士 祐一
15	日本糖尿病性腎症研究会	幹事	2024	川浪 大治
16	日本骨代謝学会	評議員	2024	高士 祐一
17	日本骨粗鬆症学会	評議員	2024	高士 祐一
18	厚生労働省診療報酬改定委員会	DPC 作業班	2024	川浪 大治
19	福岡県糖尿病性腎症重症化予防対策協議会	委員	2024	川浪 大治
20	日本糖尿病協会福岡県支部	常任理事	2024	川浪 大治
21	福岡市指定難病審査委員会	委員	2024	高士 祐一

心臓・血管内科学

〈原著〉

1	Efficacy and safety of remote cardiac rehabilitation in the recovery phase of cardiovascular diseases (RecRCR study): A multicenter, nonrandomized, and interventional trial in Japan	Int J Cardiol Heart Vasc	52: 101421 2024	Itoh H, Amiya E, Jimba T, Shimbo M, Narita K, Taya M, Kadokami T, Yasu T, Oka H, Sogawa M, Yokoi H, Mizutani K, Miura S, Tokeshi T, Date A, Noma T, Kutsuzawa D, Usui S, Sugawara S, Kanazawa M, Sekino H, Nishitani Yokoyama M, Okumura T, Ugata Y, Fujishima S, Hirabayashi K, Ishizaki Y, Kuwahara K, Kaji Y, Shimizu H, Koyama T, Adachi H, Kurumatani Y, Taniguchi R, Ohori K, Shiraishi H, Hasegawa T, Makita S, Komuro I, Kimura Y; RecRCR registry investigators.
2	Lifestyle Habits of Patients with Acute Myocardial Infarction and Specificity by Age Group	Int Heart J	65(6): 969-977 2024	Matsuzaki K, Fukushima N, Saito C, Hagiwara D, Nishikawa H, Katsuda Y, Miura S.
3	Relationship Between Participation of In-Hospital Cardiac Rehabilitation and Regional Characteristics in Japan - Insight From the Japanese Registry of All Cardiac and Vascular Diseases and the Diagnosis Procedure Combination	Circ Rep	6(10): 424-429 2024	Sawamura A, Kanaoka K, Motokawa T, Katano S, Kono Y, Ohya Y, Miura S, Fukuma N, Makita S, Miyamoto Y, Izawa H.

4	Effect of Left Ventricular Diastolic Dysfunction on the Cardiopulmonary Exercise Test in Patients With Cardiovascular Disease	Am J Cardiol	1:222:157-164 2024	Inada Y, Suematsu Y, Matsuda T, Yano Y, Morita K, Bando K, Teshima R, Fukuda H, Fujimi K, Miura S.
5	Does Sinus Rhythm Restoration in Patients With Atrial Fibrillation Undergoing Pulmonary Vein Isolation Have Acute Hemodynamic Benefits?	Cardiol Res	15(4):298-308 2024	Komaki T, Mohri N, Ideishi A, Tashiro K, Koyanagi N, Miura S, Ogawa M.
6	A Rare Case of Platypnea-Orthodeoxia Syndrome in a Patient With Undiagnosed Atrial Septal Defect	Cureus	16(5):e61260 2024	Sanai R, Hirata T, Yanagihara T, Okamoto M, Ikeda T, Shundo Y, Hamada N, Ebi N, Inoue H, Miura S, Fujita M.
7	Differences in the effects of exercise on blood pressure depending on the physical condition of the subject and the type of exercise: a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res	48(2):720-732 2024	Suematsu Y, Morita H, Abe M, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Yano Y, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura S.
8	An elevated level of soluble suppression of tumorigenicity 2, but not galectin-3, is associated with the presence of coronary artery disease in hypertensive patients	Hypertens Res	48(2):650-661 2024	Miura-Takahashi E, Tsudome R, Suematsu Y, Tachibana T, Kato Y, Kuwano T, Sugihara M, Tashiro K, Shiga Y, Kamimura H, Miura S.
9	Considering the Possible Role of Pharmacists According to the Presence or Absence of Lifestyle-Related Diseases at the Time of Coronary CT Examination and Trends of Medication Use for These Diseases by Medical Doctors	Pharmacy (Basel)	12(4):99 2024	Miura-Takahashi E, Tashiro K, Shiga Y, Kawahira Y, Higashi S, Otsu Y, Kamimura H, Miura S.
10	An investigation of the association between atrial fibrillation and the liver fibrosis-4 index in patients who underwent coronary computed tomography angiography	Hypertens Res	48(2):640-649 2024	Hirata T, Shiga Y, Tashiro K, Higashi S, Tachibana T, Kawahira Y, Suematsu Y, Kuwano T, Sugihara M, Ogawa M, Miura S.

11	Association between pre-treatment with statin and its inhibitory effect on the onset of coronary artery disease at the time of coronary computed tomography angiography: a new look at an old medication	Heart Vessels	39(10) : 845-856 2024	Miura-Takahashi E, Tashiro K, Shiga Y, Kawahira Y, Kato Y, Kuвано T, Sugihara M, Otsu Y, Kamimura H, Miura S.
12	Association Between Major Adverse Cardiovascular Events and Left Ventricular Mass Index in Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography: From the FU-CCTA Registry	Cardiol Res	15(3) : 134-143 2024	Tachibana T, Shiga Y, Tashiro K, Higashi S, Shibata Y, Kawahira Y, Kato Y, Kuвано T, Sugihara M, Miura S.
13	Usefulness of the cardiopulmonary exercise test up to the anaerobic threshold for patients aged ≥ 80 years with cardiovascular disease on cardiac rehabilitation	J Rehabil Med	56:jrm19453 2024	Yano Y, Suematsu Y, Matsuda T, Tsukahara K, Shirosaki M, Matsuo S, Fujimi K, Miura S.
14	Resistance exercise has an antihypertensive effect comparable to that of aerobic exercise in hypertensive patients: a meta-analysis of randomized controlled trials	Hypertens Res	48(2) : 733-743 2024	Morita H, Abe M, Suematsu Y, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura S.
15	Impact of Controlling Serum Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Triglycerides on Long-Term Clinical Outcomes in Diabetic Patients Who Have Undergone Percutaneous Coronary Intervention	Circ Rep	6(12) : 573-582 2024	Maruo T, Ike A, Takamiya Y, Matsuoka Y, Shigemoto E, Kato Y, Kuвано T, Sugihara M, Kawamura A, Miura S.
16	Association of In-Hospital Cardiac Rehabilitation on Hospital-Associated Disability for Octogenarian Patients With Acute Myocardial Infarction - An Insight From the JROAD-DPC Database	Circ Rep	7(1) : 25-30 2024	Kono Y, Katano S, Otaka Y, Kanaoka K, Sawamura A, Motokawa T, Miyamoto Y, Ohya Y, Miura S, Fukuma N, Makita S, Izawa H.
17	The Impact on Patient Prognosis of Changes to the Method of Notifying Staff About Accepting Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest	J Clin Med Res	16(12) : 578-588 2024	Inoue Y, Okamura K, Shimada H, Watakabe S, Hirayama S, Hirata M, Kusuda A, Matsumoto A, Inoue M, Matsuishi E, Yamada M, Iwanaga S, Narumi S, Nakayama S, Sako H, Udo A, Taniguchi K, Morisaki S, Ide S, Nomoto Y, Miura S, Imakyure O, Imamura I.

18	Smartphone application-based intervention to lower blood pressure: a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res	48(2): 492-505 2024	Abe M, Hirata T, Morito N, Kawashima M, Yoshida S, Takami Y, Fujimoto T, Kawasoe S, Shibukawa T, Segawa H, Yamanokuchi T, Ishida S, Takahashi K, Tada K, Kato Y, Sakima A, ArimaH.
19	Diagnostic Performance of Artificial Intelligence-Based Angiography-Derived Non-Hyperemic Pressure Ratio Using Pressure Wire as Reference	Circulation Journal	89(3): 323-330 2024	Omori H, Kawase Y, Mizukami T, Tanigaki T, Hirata T, Okubo M, Kamiya H, Kawasaki M, Kondo T, Suzuki T, Matsuo H.
20	心不全ハイリスク患者の心臓リハビリテーションにおける管理栄養士の介入と療養支援	臨牀と研究	101(7): 877-880 2024	武田 由香, 松尾早希子, 志賀 悠平, 藤見 幹太, 松田 拓朗, 三浦伸一郎
21	医療従事者による地域の小・中学生へむけた教育連携事業の取り組み	臨牀と研究	101(4): 484-487 2024	野瀬 大補, 井林 雄太, 今泉 聡, 朔 啓二郎, 三浦伸一郎
22	地域で暮らす心疾患高齢者のライフスタイル, フレイルの実態とフレイルに関連する要因	日本農村医学会雑誌	73(4): 363-371 2024	緒方久美子, 中嶋恵美子, 三浦伸一郎, 坂梨 左織, 鯨島由紀子.
23	重症下肢虚血症例に対する和温療法における理学療法士としての役割	和温療法学会誌	2:19-25 2024	藤田 政臣, 手島 礼子, 中島 夕楓, 西村 繁典, 荒牧 彩香, 杉原 充, 末松 保憲, 藤見 幹太, 三浦伸一郎, 鎌田 聡
24	Impact of in-hospital cardiac rehabilitation on hospital-associated disability after transcatheter aortic valve implantation	J Am Geriatr Soc	73(2): 506-519 2025	Katano S, Kono Y, Yano T, Kanaoka K, Sawamura A, Motokawa T, Miyamoto Y, Ohya Y, Miura S, Fukuma N, Makita S, Izawa H.
25	経カテーテル大動脈弁植え込み術後のフレイル・身体機能へ影響を与える因子	臨牀と研究	102(1): 75-79 2025	手島 礼子, 藤見 幹太, 末松 保憲, 加藤 悠太, 藤田 政臣, 西村 繁典, 松田 拓朗, 福田 宏幸, 荒牧 彩香, 中島 夕楓, 北島 研, 諫山 三絵, 合谷 裕子, 武田 由香, 松尾早希子, 大津 友紀, 鎌田 聡, 三浦伸一郎

〈症例報告〉

1	What Is the Optimal Antithrombotic Therapy for Valsalva Thrombus Following Transcatheter Aortic Valve Replacement?	JACC Case Rep	29(16): 102455 2024	Kato Y, Kawahira Y, Miyazaki M, Hirata T, Kuwahara G, Sugihara M, Miura S.
2	The Mechanism and Management of Pneumopericardium Caused by Right Ventricular Lead Perforation	Cardiol Res	15(6): 472-476 2024	Komaki T, Ueno Y, Mohri N, Ideishi A, Tashiro K, Miura S, Ogawa M.

- | | | | | |
|---|---|----------------|-----------------------------|--|
| 3 | Addition of Sacubitril/Valsartan to Mineralocorticoid Receptor Antagonist Therapy in Primary Aldosteronism: Effects on Plasma Aldosterone Concentration and Plasma Renin Activity | J Clin Med Res | 16(10) :
509-517
2024 | Okamura K, Matsushima M, Takamiya Y, Okuda T, Sako H, Udo A, Taniguchi K, Morisaki S, Imamura I, Urata H, Miura S. |
| 4 | ループ利尿薬使用により急性腎障害を呈した心不全患者に和温療法を導入した一例 | 臨床と研究 | 102(2) :
85-87
2025 | 松本 尚也, 山下 素樹, 藤井 沙樹, 上田 隆士, 森井 誠士, 西川 宏明, 三浦伸一郎 |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|---|---|-------------------------------|--|
| 1 | Impact of renal denervation on quality of life (How does renal denervation contribute to improving hypertension treatment affected by poor medication adherence?) | Hypertens Res | 47(10) :
2652-2658
2024 | Okamura K, Shimada H, Imazato K, Sako H, Udo A, Taniguchi K, Morisaki S, Imamura I, Urata H, Arima H, Miura S. |
| 2 | Underestimation of renal artery lumen diameter by computed tomography has consequences for the assessment of patient eligibility for renal denervation | Hypertens Res | 47(10) :
2784-2785
2024 | Okamura K, Matsushima M, Satou S, Ishiya A, Shimada H, Okuda T, Imamura I, Urata H, Miura S. |
| 3 | 高血圧を有する高齢者の運動指導：方法・効果・注意点 | 日本臨床 | 82(4) :
525-531
2024 | 末松 保憲, 三浦伸一郎. |
| 4 | 【遠隔リハビリテーション】心血管疾患に対する遠隔リハビリテーション | The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine | 61(4) :
267-272
2024 | 三浦伸一郎 |
| 5 | 【高血圧 すぐに診療に生かしたい最新のトピックス】高血圧の日常診療で生かしたいトピックス 食事・運動療法の実際 | Medical Practice | 41(4) :
576-581
2024 | 藤見 幹太, 三浦伸一郎 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|---|------------|-------------------------------|------------|
| 1 | 【病理組織像からみる循環器疾患:診療のための道しるべ】 治す 高齢者心不全と心アミロイドーシス | Heart View | 28(10) :
1004-1010
2024 | 有村 忠聰 (分担) |
|---|---|------------|-------------------------------|------------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|--|--|--|--------------|
| 1 | ABST-0268 Lifestyle is associated with a difference of awareness about medication adherence between physicians and patients | APCMS 2024
7th Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress | Conrad Hotel, Seoul, Korea
4/27
2024 | Otsu Y. |
| 2 | ABST-0312 Association between Major Adverse Cardiovascular Events and Left Ventricular Mass Index in Patients who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography: from the FU-CCTA Registry | APCMS 2024
7th Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress | Conrad Hotel, Seoul, Korea
4/27
2024 | Tachibana T. |
| 3 | ABST-0074 The Effect of Left Ventricular Diastolic Dysfunction on the Cardiopulmonary Exercise Test in Patients with Cardiovascular Disease | APCMS 2024
7th Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress | Conrad Hotel, Seoul, Korea
4/27
2024 | Suematsu Y. |

4	ABST-0095 Association Between the Presence of Coronary Artery Disease or Peripheral Artery Disease and Left Ventricular Mass in Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography	APCMS 2024 7th Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress	Conrad Hotel, Seoul, Korea 4/27 2024	Tachibana T.
5	【JointProgram】 The Japanese Society for Vascular Surgery Acute limb ischemia- current status and future perspective JS2-1 Acute Limb Ischemia introduction	CVIT2024 第32回日本心血管インターベンション治療学会 学術集会	札幌市民交流プラザ 7/25 2024	Sugihara M.
6	シンポジウム 8 SY8-1 高血圧患者に対する運動療法のエビデンス	第46回日本高血圧学会総会	福岡国際会議場 10/12 2024	三浦伸一郎, 森田 英剛, 阿部真紀子, 末松 保憲, 有馬 久富
7	シンポジウム15 SY15-5 降圧薬による治療について	第46回日本高血圧学会総会	福岡国際会議場 10/12 2024	三浦伸一郎
8	シンポジウムⅡ 「どう依頼する?」「どう報告する?」形態では語りにくい心疾患の心筋生検: S2-3 低収縮非拡張型心筋症の心筋生検所見に特徴はあるか 拡張型心筋症との比較	第46回心筋生検研究会 学術集会	昭和大学上篠記念館 12/6-7 2024	有村 忠聰
9	国内シンポジウム: 超急性期から維持期までの地域包括心臓リハビリテーションの取り組み: 現状と今後の展開 Community-based comprehensive cardiac rehabilitation from hyperacute phase to phase 3: current status and future perspectives	第89回日本循環器学会 学術集会	パシフィコ横浜 3/28 2025	末松 保憲

〈国内研究助成金〉

1	抗がん剤の心毒性に対する beta-arrestin-biased orthosteric ligands の有用性	文部科学省 基盤研究 (C) (一般)	2024	三浦伸一郎 (代表)
2	心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	文部科学省 基盤研究 (B) (一般)	2024	三浦伸一郎 (代表: 有馬 久富)
3	腸内細菌から動脈硬化を予測する: AI を用いた挑戦	文部科学省 挑戦的研究 (萌芽)	2024	三浦伸一郎 (代表: 有馬 久富)
4	HDL 機能を利用した心臓リハビリテーションによる心血管疾患予後因子の解明	文部科学省 基盤研究 (C) (一般)	2024	三浦伸一郎 (代表: 北島 研)
5	大動脈瘤の予防薬開発を目指した新規分子機序の解明	文部科学省 基盤研究 (C) (一般)	2024	桑野 孝志 (代表)
6	連続血圧を用いた超短期血圧変動による心不全 重症度の予測判定	一般財団法人 医療・介護・教育研究財団 ふくおか「臨床医学研究賞」	2024	末松 保憲 (代表)
7	非侵襲連続血圧計による心筋酸素消費量指標開発と最適な運動処方アルゴリズムの実用化	文部科学省 基盤研究 (C) (一般)	2024	末松 保憲 (代表)

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	高血圧フォーラム2024	日本高血圧学会	東京 5/25-26 2024	三浦伸一郎
---	--------------	---------	-----------------------	-------

〈学会活動〉

1	日本機能性医用食品学会	理事	2024	三浦伸一郎
2	日本心臓リハビリテーション学会	理事	2024	三浦伸一郎
3	日本循環器学会	理事	2024	三浦伸一郎
4	和温療法学会	理事	2024	三浦伸一郎
5	日本高血圧学会	理事	2024	三浦伸一郎
6	日本内分泌学会	評議員	2024	三浦伸一郎
7	日本動脈硬化学会	評議員	2024	三浦伸一郎
8	日本高血圧学会	評議員	2024	三浦伸一郎
9	日本腫瘍循環器学会	評議員	2024	三浦伸一郎
10	日本心不全学会	代議員	2024	三浦伸一郎
11	日本再生医療学会	代議員	2024	三浦伸一郎
12	日本心血管内分泌学会	評議員	2024	三浦伸一郎
13	日本心臓リハビリテーション学会	評議員	2024	三浦伸一郎
14	国際心臓研究学会	評議員	2024	三浦伸一郎
15	日本循環器学会	社員	2024	三浦伸一郎
16	日本内科学会	評議員	2024	三浦伸一郎
17	日本冠疾患学会	評議員	2024	三浦伸一郎
18	日本抗加齢医学会	評議員	2024	三浦伸一郎
19	日本循環器予防学会	評議員	2024	三浦伸一郎
20	日本心臓病学会	評議員	2024	三浦伸一郎
21	ARIA	学会理事	2024	杉原 充
22	CCT	世話人	2024	杉原 充

〈研究に関係した賞〉

1	NEO-HYPERTENSION －社会と協奏する新高血圧学－	第46回日本高血圧学会総会 学会賞	2024	三浦伸一郎
2	寒冷凝集素症に伴う Blue toe 症候群に対し て和温療法が奏功した1例	第3回和温療法学会学術集会 優秀賞	2024	末松 保憲
3	Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease: From the FU-CCTA Registry	福岡大学医学会第90回例会 優秀賞	2024	安心院勇佑
4	Investigating the Association between Coronary Artery Disease and the Liver Fibrosis-4 Index in Patients Who Underwent Coronary Computed Tomography Angiography: A Cross-Sectional Study	Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress 2025 サテライトシンポジウム Poster Presentation Award	2025	平田 哲夫

- | | | | | |
|---|--|---|------|-------|
| 5 | The effects of exercise on blood pressure in patients with life-style related disease and the other physical conditions depending on the type of exercise and geographic region: a systematic review and meta-analysis | Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress 2025
サテライトシンポジウム
Poster Presentation Award | 2025 | 末松 保憲 |
| 6 | Elucidation of the Cardioprotective Mechanisms of Selective Sodium Glucose transporter-2 inhibitors in Heart Failure with Reduced Left Ventricular Ejection Fraction | Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress 2025
サテライトシンポジウム
Young Investigator Award | 2025 | 津留 陸 |

消化器内科学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|--|-------------------------|--|
| 1 | Inhibitory Effect of Pyra-Metho-Carnil on the Differentiation and Maturation of Macrophages in Normal and Cancer Microenvironments. | ANTICANCER RESEARCH International Journal of Cancer Research and Treatment | 44(8) : 3557-3565, 2024 | Kitaguchi T, Matsumoto T, Yoshida K, Hamaguchi Y, Maruta G, Maeoka H, Ishikura S, Nakano M, Ishida Y, Hirai F, Aoki M, Kodama S, Shirasawa S, Tsunoda T. |
| 2 | Tranilast Inhibits TRPV2 and Suppresses Fibrosis Progression and Weight Gain in a NASH Model Mouse. | ANTICANCER RESEARCH International Journal of Cancer Research and Treatment | 44(8) : 3593-3604, 2024 | Nagata T, Shakado S, Yamauchi E, Tokushige H, Miyayama T, Yamauchi R, Fukuda H, Fukunaga A, Tanaka T, Takata K, Yokoyama K, Hirai F. |
| 3 | Association of blood group O with a recurrent risk for acute lower gastrointestinal bleeding from a multicenter cohort study. | Scientific Reports | 14(1) : 13983, 2024 | Suzuki S, Tominaga N, Aoki T, Sadashima E, Miike T, Kawakami H, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Hikichi T, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Kaise M, Nagata N. |
| 4 | Radial force and wire structure determine the onset of covered self-expandable metal stent migration in endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy: Measurement of sliding-resistance force using a porcine model | J Hepatobiliary Pancreat Sci | 31(11) : 840-849, 2024 | Koga T, Yamada H, Ishida Y, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Fukuyama M, Kojima N, Hirai F |

5	Risankizumab for Ulcerative Colitis: Two Randomized Clinical Trials	Journal of American Medical Association	332(11) : 881–897, 2024	Louis E, Schreiber S, Panaccione R, Bossuyt P, Biedermann L, Colombel JF, Parkes G, Peyrin-Biroulet L, D'Haens G, Hisamatsu T, Siegmund B, Wu K, Boland BS, Melmed GY, Armuzzi A, Levine P, Kalabic J, Chen S, Cheng L, Shu L, Duan WR, Pivorunas V, Sanchez Gonzalez Y, D'Cunha R, Neimark E, Wallace K, Atreya R, Ferrante M, Loftus EV Jr; INSPIRE and COMMAND Study Group.
6	Efficacy and safety of mirikizumab as induction and maintenance therapy for Japanese patients with moderately to severely active ulcerative colitis: a subgroup analysis of the global phase 3 LUCENT-1 and LUCENT-2 studies.	Intestinal research	22(2) : 172–185, 2024	Kobayashi T, Matsuoka K, Watanabe M, Hisamatsu T, Hirai F, Milata J, Li X, Morris N, Arora V, Ishizuka T, Matsuo K, Satoi Y, Milch C, Hibi T.
7	Structural factors influencing the clinical performance of 0.025-inch guidewires for pancreatobiliary endoscopy: An experimental study.	Endoscopy International Open	12(5) : E666–E675, 2024	Koga T, Tsuchiya N, Ishida Y, Kitaguchi T, Matsumoto K, Fukuyama M, Kojima S, Kojima N, Hirai F.
8	Impact of twice-daily budesonide foam administration on early clinical response and endoscopic remission in patients with ulcerative colitis: a post hoc analysis.	Journal of Gastroenterology and Hepatology	39(11) : 2367–2376, 2024	Watanabe K, Hirai F, Kobayashi K, Takeuchi K, Kurosu S, Inagaki K, Iwayama KI, Naganuma M.
9	Efficacy and safety of mirikizumab in patients with moderately-to-severely active Crohn's disease: a phase 3, multicentre, randomised, double-blind, placebo-controlled and active-controlled, treat-through study	Lancet	404(10470) : 2423–2436, 2024	Ferrante M, D'Haens G, Jairath V, Danese S, Chen M, Ghosh S, Hisamatsu T, Kierkus J, Siegmund B, Bragg SM, Crandall W, Durand F, Hon E, Lin Z, Lopes MU, Morris N, Protic M, Carlier H, Sands BE; VIVID Study Group.
10	Feasibility and safety of EUS-guided biliary drainage in inexperienced centers: a multicenter study in southwest Japan	Gastrointestinal Endoscopy	S0016–5107(24) 03495–3, 2024	Koga T, Ishida Y, Hashigo S, Shimokawa Y, Harima H, Okamoto K, Ohno A, Miyagahara T, Fujita T, Fukuchi S, Takahashi K, Taguchi H, Araki N, Ohtsuka Y, Uekitani T, Tsuneyoshi K, Akiyama T, Ishigaki N, Maruo T, Saito H, Ihara R, Yamasuji A, Oe S, Yoshinari M, Sagami R, Fujimori N, Fukuda Y, Ozawa E, Jikuya K, Shinohara H, Sen-Yo M, Ueki T, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Fukuyama M, Hirai F.

11	Involvement of Mediterranean fever gene mutations in colchicine-responsive enterocolitis: a retrospective cohort study	EBioMedicine	doi:10.1016/j.ebiom.2024.105454	Nakase H, Wagatsuma K, Kobayashi T, Matsumoto T, Esaki M, Watanabe K, Kunisaki R, Takeda T, Arai K, Ibuka T, Ishikawa D, Matsuno Y, Sakuraba H, Ueno N, Yokoyama K, Saruta M, Hokari R, Yokoyama J, Tamano S, Nojima M, Hisamatsu T; MEFV-IBDU Group.
12	炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン	Gastroenterological Endoscopy	66(6): 1387-1426, 2024	松本 主之, 久松 理一, 江崎 幹宏, 大森 鉄平, 櫻庭 裕丈, 新崎信一郎, 杉本 健, 竹中 健人, 長沼 誠, 馬場 重樹, 久部 高司, 平岡佐規子, 藤谷 幹浩, 松浦 稔, 梁井 俊一, 渡辺 憲治, 緒方 晴彦, 安藤 朗, 仲瀬 裕志, 大塚 和朗, 平井 郁仁, 藤城 光弘, 五十嵐良典, 田中 信治, 日本消化器内視鏡学会, 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患政策研究事業難治性炎症性腸管障害に関する調査研究(久松班)
13	High risk stigmata and treatment strategy for acute lower gastrointestinal bleeding: a nationwide study in Japan.	Endoscopy	56(4): 291-301, 2024	Aoki T, Sadashima E, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Hayakawa Y, Fujishiro M, Kaise M, Nagata N; CODE BLUE-J Study collaborators.
14	Validation of British Society of Gastroenterology guidelines for acute lower GI bleeding from 8956 cases in Japan.	Gastrointestinal Endoscopy	doi:10.1016/j.gie.2024.11.020	Kinjo K, Aoki T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Hikichi T, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Watanabe K, Hisabe T, Yao K, Kaise M, Nagata N.

- 15 Clinical performance of endoscopic ultrasound-guided tissue acquisition for perivascular soft-tissue cuffing suspected to be extravascular migratory metastases of pancreatic or bile duct cancer (with video) Digestive Endoscopy 2024 Dec 26. doi:10.1111/den.14983. Online ahead of print. Maehara K, Hijioka S, Nagashio Y, Maruki Y, Yamashige D, Okamoto K, Agarie D, Yagi S, Fukuda S, Kuwada M, Komori Y, Koga T, Kanno A, Imamura T, Saito Y, Okusaka T

- 16 Guidelines for endoscopic diagnosis and treatment of inflammatory bowel diseases. Digestive Endoscopy doi:10.1111/den.15002. Online ahead of print. Matsumoto T, Hisamatsu T, Esaki M, Omori T, Sakuraba H, Shinzaki S, Sugimoto K, Takenaka K, Naganuma M, Bamba S, Hisabe T, Hiraoka S, Fujiya M, Matsuura M, Yanai S, Watanabe K, Ogata H, Andoh A, Nakase H, Ohtsuka K, Hirai F, Fujishiro M, Igarashi Y, Tanaka S.

- 17 Guselkumab in patients with moderately to severely active ulcerative colitis (QUASAR): phase 3 double-blind, randomised, placebo-controlled induction and maintenance studies. Lancet 405(10472) : 33–49, 2025 Rubin DT, Allegretti JR, Panés J, Shipitofsky N, Yarandi SS, Huang KG, Germinaro M, Wilson R, Zhang H, Johanns J, Feagan BG, Hisamatsu T, Lichtenstein GR, Bressler B, Peyrin-Biroulet L, Sands BE, Dignass A; QUASAR Study Group.

- 18 Anti-integrin $\alpha v\beta 6$ antibody as a biomarker for diagnosing ulcerative colitis: a nationwide multicenter validation study. Journal of Gastroenterology 60(1) : 86–95, 2025 Okabe M, Yamamoto S, Shiokawa M, Hisamatsu T, Yamazaki H, Nakanishi R, Hamada K, Kitamoto H, Kuwada T, Uza N, Sakatani A, Fujii T, Ohno M, Matsuura M, Shibuya T, Ohmiya N, Ooi M, Hoshi N, Moriya K, Tsuchiya K, Yamaguchi Y, Kunisaki R, Takahara M, Takagi T, Takehara T, Hirai F, Kakimoto K, Esaki M, Nakase H, Kinjo F, Torisu T, Kanmura S, Narimatsu K, Matsuoka K, Hiraga H, Yokoyama K, Honzawa Y, Naganuma M, Saruta M, Kodama Y, Chiba T, Seno H.

- 19 Outcome and Prognosis of Invasive Treatment for Hepatocellular Carcinoma in Very Elderly Patients Over 90 Years Old. Turkish Journal of Gastroenterology 13, 36(6) : 381–389, 2025 Yokoyama K, Tokushige H, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Takata K, Tanaka T, Shakado S, Sakisaka S, Hirai F.

20	Diagnostic accuracy and cut-off values of serum leucine-rich alpha-2 glycoprotein for Crohn's disease activity in the small bowel.	Journal of Gastroenterology	doi:10.1007/s00535-025-02223-1. Online ahead of print.	Okita M, Takenaka K, Hirai F, Ashizuka S, Iijima H, Bamba S, Fujii T, Watanabe K, Shimodaira Y, Shiga H, Hiraoka S, Inokuchi T, Yamamura T, Emoto R, Matsui S.
----	--	-----------------------------	--	--

〈症例報告〉

1	Disappearance of Hepatocellular Adenoma in a Patient with Cornelia de Lange Syndrome after Treatment with Transcatheter Arterial Embolization.	Internal Medicine	63(11): 1569-1573, 2024	Takata K, Kitaguchi T, Tokushige H, Nagata T, Miyayama T, Shibata K, Fukuda H, Yamauchi R, Fukunaga A, Tanaka T, Yokoyama K, Shakado S, Yoshimitsu K, Kusano H, Sakisaka S, Hirai F.
2	Two cases of severe oral mucositis caused by atezolizumab plus bevacizumab combination therapy for hepatocellular carcinoma.	Clinical Journal of Gastroenterology	17(3): 523-529, 2024	Shimoji Y, Yamauchi R, Shibata K, Fukuda H, Fukunaga A, Tanaka T, Takata K, Yokoyama K, Shakado S, Hirai F.
3	胃静脈瘤 Case Study 直視型超音波内視鏡を用いて内視鏡的組織接着剤注入法を施行した胃静脈瘤の1例	消化器内視鏡	36(12): 1694-1696, 2024	横山 圭二, 宮山 隆志, 山内 涼, 釈迦堂 敏, 平井 郁仁
4	Emphysematous Gastritis with Hepatic Portal Venous Gas.	Internal Medicine	64(5): 797-798, 2025	Takata K, Maeda T, Kuno N, Hirai F

〈総説〉

1	小腸・大腸 Crohn 病 病型分類	胃と腸 増大号 消化管疾患の分類2024	59(4): 575, 2024	久能 宣昭, 平井 郁仁
2	小腸・大腸 Crohn 病 モントリオール分類	胃と腸 増大号 消化管疾患の分類2024	59(4): 576-577, 2024	松岡 弘樹, 平井 郁仁
3	クローン病診療の最前線と課題 ー疫学から治療までー	日本消化器病 学会雑誌	121(7): 523-534, 2024	平井 郁仁, 芦塚 伸也, 久能 宣昭
4	肝門部胆管狭窄の診断ストラテジー	臨牀消化器内科	39(13): 1601-1610, 2024	石田 祐介, 土屋 直壮, 古賀 毅彦, 松元 慶亮, 福山 真, 平井 郁仁
5	主題 炎症性腸疾患の長期経過 Crohn 病の長期予後	胃と腸	59(10): 1531-1542, 2024	今給黎 宗, 芦塚 伸也, 犬尾 和子, 柯 懿玲, 木村 俊大, 黒木 大世, 能丸 遼平, 松岡 弘樹, 久能 宣昭, 船越 禎広, 塩川 桂一, 長谷川 傑, 平井 郁仁
6	【大腸の炎症を内視鏡で診る】総論 大腸の炎症性疾患の診断アルゴリズム	消化器内視鏡	36(11): 1491-1498, 2024	平井 郁仁, 黒木 大世, 芦塚 伸也

7	総論 6. 循環動態を含む全身管理（術前・術中・術後）	消化器内視鏡 ハンドブック 改訂 第3版	60-68, 2024	平井 郁仁, 船越 禎広, 岡 政志
---	--------------------------------	----------------------------	-------------	-----------------------

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Prospective observational study of a novel self-assembling peptide hemostatic gel for initial hemostasis in endoscopic sphincterotomy-related hemorrhage	European Society of Gastrointestinal Endoscopy DAYS 2024	Germany April 25-27 2024	Ishida Y, Koga T, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Fukuyama M, Kuno N, Funakoshi S, Ashizuka S, Hirai F
2	Measurement of sliding force of covered metal stents for migration risk assessment in EUS-guided hepaticogastrostomy.	Asian Pacific Digestive Week 2024	Indonesia November 21-24 2024	Koga T, Yamada H, Ishida Y, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Fukuyama M, Hirai F
3	Areview of the actual use and efficacy of Carotegrasto methyl in our hospital	GI Week 2025 The 18 IGICS	Tokyo, Japan February 21-22 2025	Kurogi T, Ashizuka S, Nomaru R, Matsuoka H, Imakiire S, Kuno N, Funakoshi S, Hirai F
4	（ランチョンセミナー） 経口α4インテグリン阻害剤カログラ錠の好適症例を考える	第110回日本消化器病学会 総会	徳島 5/9-5/11 2024	芦塚 伸也
5	（教育講演） 炎症性腸疾患診療の最前線 ～診断から最新治療まで～	2024年度日本内科学会 生涯教育講演会 A セッション	大阪 5/12 2024	平井 郁仁
6	（サテライトセミナー） 小腸狭窄病変への挑戦 ～安全・確実な治療を目指して～	第107回日本消化器内視鏡 学会総会	東京 5/30-6/1 2024	平井 郁仁
7	（ハンズオンセミナー） EUS 抽出法/EUS + FNA	第107回日本消化器内視鏡 学会総会	東京 5/30-6/1 2024	石田 祐介
8	（シンポジウム） 当施設での大腸憩室出血に使用した Reopenable クリップの有効性の検討	第117回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	北九州 6/21-6/22 2024	松岡 弘樹, 船越 禎広, 久能 宣昭, 芦塚 伸也, 平井 郁仁
9	（シンポジウム） 当院におけるクローン病に対するリサンキズ マブの使用成績	第123回日本消化器病学会 九州支部例会	北九州 6/21-6/22 2024	能丸 遼平, 久能 宣昭, 芦塚 伸也, 船越 禎広, 平井 郁仁
10	（シンポジウム） 当院における切除可能及び切除可能境界膵癌 診療の現状と課題	第123回日本消化器病学会 九州支部例会	北九州 6/21-6/22 2024	土屋 直壮, 石田 祐介, 古賀 毅彦, 松元 慶亮
11	（シンポジウム） EUS-BD は安全に導入可能か：丸山胆膵多施 設共同研究	第117回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	北九州 6/21-6/22 2024	古賀 毅彦, 石田 祐介, 下川 雄三, 階子 俊平, 平井 郁仁
12	（シンポジウム） 進行肝細胞癌に対するアテゾリズマブ＋ ペバシズマブ治療においてコラボレーション 治療は予後延長に寄与する	第123回日本消化器病学会 九州支部例会	北九州 6/21-6/22 2024	田中 崇, 高田 和英, 横山 圭二, 釈迦堂 敏, 平井 郁仁
13	（シンポジウム） 高 NH3血症を有する肝硬変患者への3年以 上のリファキシミン長期投与効果の検討と肝 性胸腹水コントロールにおける課題	第123回日本消化器病学会 九州支部例会	北九州 6/21-6/22 2024	横山 圭二, 山内 涼, 徳重 裕陽, 宮山 隆志, 永田 貴大, 柴田久美子, 福田 洋美, 福永 篤志, 高田 和英, 田中 崇, 釈迦堂 敏, 平井 郁仁

14	(専修医発表) 巨大肝嚢胞の自然破裂に対して腹腔鏡下開窓術を行った1例	第123回日本消化器病学会 九州支部例会	北九州 6/21-6/22 2024	木村 遼, 高田 和英, 徳重 裕陽, 宮山 隆志, 柴田久美子, 福田 洋美, 山内 涼, 福永 篤志, 田中 崇, 横山 圭二, 釈迦堂 敏, 平井 郁仁
15	(シンポジウム) アテゾリズマブ・ペバシズマブ併用治療において治療経過中に経皮的にラジオ波焼灼術を施行した症例の検討	第60回日本肝臓研究会	姫路 7/12 2024	田中 崇, 徳重 裕陽, 宮山 隆志, 柴田久美子, 福田 洋美, 山内 涼, 福永 篤志, 高田 和英, 横山 圭二, 釈迦堂 敏, 平井 郁仁
16	(シンポジウム) 当科におけるクローン病狭窄病変に対する内視鏡的拡張術の成績	第49回日本大腸肛門病学会 九州地方会	福岡 9/21 2024	今給黎 宗, 芦塚 伸也, 犬尾 和子, 柯 懿玲, 木村 俊大, 黒木 大世, 能丸 遼平, 松岡 弘樹, 久能 宣昭, 船越 禎広, 平井 郁仁
17	(ワークショップ) 当施設における潰瘍性大腸炎に合併した腫瘍性病変に対する診療の現状	第49回日本大腸肛門病学会 九州地方会	福岡 9/21 2024	船越 禎広, 芦塚 伸也, 柯 懿玲, 犬尾 和子, 木村 俊大, 黒木 大世, 能丸 遼平, 今給黎 宗, 松岡 弘樹, 久能 宣昭, 棟近 太郎, 田淵 史典, 向坂 秀人, 稲吉 康治, 濱崎 慎, 長谷川 傑, 平井 郁仁
18	(ワークショップ) 当院におけるアゾセミドを用いた腹水・浮腫コントロールの実際・臨床像	第31回日本門脈圧亢進症 学会総会	高知 9/26-9/27 2024	山内 涼, 横山 圭二, 徳重 裕陽, 宮山 隆志, 柴田久美子, 田中 崇, 高田 和英, 入江 真, 平井 郁仁
19	(主題セッション) 当院における小腸カプセル内視鏡検査の現状～IBD 患者と非 IBD 患者の比較を中心に～	第62回日本小腸学会 学術集会	東京 10/19 2024	久能 宣昭, 木村 俊大, 黒木 大世, 能丸 遼平, 今給黎 宗, 松岡 弘樹, 船越 禎広, 芦塚 伸也, 平井 郁仁
20	(ブレックファーストセミナー16) IBD の基準薬を最新の知見から見直す	第32回日本消化器関連学会 週間 (JDDW2024) 第108回日本消化器内視鏡 学会総会	神戸 10/31-11/3 2024	平井 郁仁
21	(ブレックファーストセミナー36) IBD 診療のトータルマネジメント～診断から治療までを考える～	第32回日本消化器関連学会 週間 (JDDW2024) 第66回消化器病学会	神戸 10/31-11/3 2024	平井 郁仁
22	(ランチョンセミナー62) 実臨床における適正使用のポイント	第32回日本消化器関連学会 週間 (JDDW2024) 第108回日本消化器内視鏡 学会総会	神戸 10/31-11/3 2024	平井 郁仁
23	(シンポジウム) 当院における小腸カプセル内視鏡検査の現状～腫瘍性病変を中心に～	第118回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	鹿児島 11/15-11/16 2024	木村 俊大, 久能 宣昭, 船越 禎広, 芦塚 伸也, 平井 郁仁
24	(ワークショップ) 悪性腹水例に対する最適な内視鏡的胆道ドレナージ術を再考する	第118回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	鹿児島 11/15-11/16 2024	古賀 毅彦, 石田 祐介, 土屋 直壮, 松元 慶亮, 平井 郁仁

25	(ワークショップ) 90歳以上の超高齢者に対する侵襲的肝細胞癌 治療の成績と予後の検討	第124回日本消化器病学会 九州支部例会	鹿児島 11/15-11/16 2024	宮山 隆志, 横山 圭二, 釈迦堂 敏, 平井 郁仁
26	(パネルディスカッション) 肝臓に対する ablation 治療にて皮膚熱傷を 来した症例の検討	第3回日本アブレーション 研究会	金沢 2/8 2025	田中 崇, 徳重 裕陽, 宮山 隆志, 福田 洋美, 山内 涼, 福永 篤志, 高田 和英, 横山 圭二, 釈迦堂 敏, 平井 郁仁

〈国内研究助成金〉

1	「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」 診断基準・治療指針改訂プロジェクト	厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業)	2024	平井 郁仁 (プロジェクトリーダー) (代表者:久松 理一)
2	クローン病の活動性に関連する要因分析と寛 解維持への睡眠障害改善効果の検証	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	平井 郁仁, 芦塚 伸也 (代表者:森崎 直子)
3	インフラマソーム関連腸炎の病態解明ならび に診断法確立	難治性疾患実用化研究事業 (AMED)	2024	平井 郁仁 (代表者:仲瀬 裕志)
4	炎症性腸疾患におけるアドレノメデュリンの 病態意義の会名と予後予測因子としての応用	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	芦塚 伸也 (代表)
5	炎症性腸疾患患者の仕事と治療の両立支援体 制の構築に向けた, 仮想空間トレーニングを 用いた炎症性腸疾患専門医育成プロジェクト	公募型医学教育プロジェク ト助成 (ファイザー)	2024	芦塚 伸也 (代表)
6	炎症性腸疾患患者の5-ASA 不耐症例に関す る検討	臨床研究奨励基金	2023	久能 宣昭 (代表)
7	内視鏡下で留置した胆管ステントの逸脱現象 の力学的解明と逸脱防止策の提案	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	石田 祐介 (代表者:山田 宏)

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第32回福大消化器診療連携の会	KKR ホテル	6/11 2024	平井 郁仁
2	第49回日本大腸肛門病学会九州地方会 第40回九州ストーマリハビリテーション研究会	アクロス福岡	9/21 2024	平井 郁仁
3	七隈消化管カンファランス特別講演会	Web 配信	2/6 2025	平井 郁仁

〈学会活動〉

1	アレルギー消化器疾患研究会	世話人	2024	平井 郁仁
2	日本アブレーション研究会	幹事	2024	田中 崇
3	日本カプセル内視鏡学会	理事	2024	平井 郁仁
4	日本消化管学会	代議員	2024	平井 郁仁
5	日本消化器病学会	評議員	2024	平井 郁仁, 釈迦堂 敏, 芦塚 伸也
6	日本門脈圧亢進症学会	評議員	2024	横山 圭二
7	日本炎症性腸疾患学会	理事	2024	平井 郁仁
8	日本臨床分子形態学会	評議員	2024	釈迦堂 敏

9	日本肝臓学会西部会	評議員	2024	釈迦堂 敏, 横山 圭二, 田中 崇
10	日本小腸学会	理事	2024	平井 郁仁
11	日本消化器内視鏡学会	社団評議員	2024	平井 郁仁
12	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	2024	石田 祐介
13	日本消化器内視鏡学会九州支部	幹事	2024	平井 郁仁
14	日本消化器内視鏡学会九州支部	評議員	2024	平井 郁仁, 芦塚 伸也, 船越 禎広, 久能 宣昭, 石田 祐介, 古賀 毅彦
15	日本消化器病学会九州支部	幹事	2024	平井 郁仁
16	日本消化器病学会九州支部	評議員	2024	平井 郁仁, 芦塚 伸也, 船越 禎広, 釈迦堂 敏, 横山 圭二, 田中 崇, 高田 和英, 山内 涼, 石田 祐介, 古賀 毅彦
17	日本大腸検査学会	評議員	2024	平井 郁仁
18	日本大腸肛門病学会九州支部	幹事	2024	平井 郁仁
19	日本内科学会	評議員	2024	平井 郁仁

呼吸器内科学

〈原著〉

1	Surfactant protein D prevents mucin overproduction in airway goblet cells via SIRP α .	Sci. Rep.	14(1): 1799, 2024	Hata K., Tsubouchi K., Suzuki K., Eto D., Ando H., Yanagihara T., Kan-o, K., Okamoto I.
2	Immunotherapy With Radiotherapy for Brain Metastases in Patients With NSCLC	JTO Clin Res Rep.	5(4): 100655, 2024	Tozuka T, Minegishi Y, Yamaguchi O, Watanabe K, Toi Y, Saito R, Nagai Y, Tamura Y, Shoji T, Odagiri H, Ebi N, Sakai K, Kanaji N, Izumi M, Soda S, Watanabe S, Morita S, Kobayashi K, Seike M.
3	Prognostic impact of clinical factors for immune checkpoint inhibitor with or without chemotherapy in older patients with non-small cell lung cancer and PD-L1 TPS $\geq$ 50	Front Immunol.	15: 1348034, 2024	Takei S, Kawachi H, Yamada T, Tamiya M, Negi Y, Goto Y, Nakao A, Shiotsu S, Tanimura K, Takeda T, Okada A, Harada T, Date K, Chihara Y, Hasegawa I, Tamiya N, Katayama Y, Nishioka N, Morimoto K, Iwasaku M, Tokuda S, Kijima T, Takayama K.

4	Acute Exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis With Concurrent Cardiac Amyloidosis: A Technetium Pyrophosphate Study.	Cureus.	16(3) : e56358, 2024	Yanagihara T, Hatashima H, Ogata H, Moriuchi Y, Ishimatsu A, Otsuka J, Taguchi K, Moriwaki A, Yoshida M.
5	Amikacin Liposome Inhalation Suspension in the Real-World Management of Refractory Mycobacterium avium Complex Pulmonary Disease.	Cureus.	16(3) : e56622, 2024	Yanagihara T, Ogata H, Mori A, Kadowaki M, Moriuchi Y, Ishimatsu A, Otsuka J, Taguchi K, Moriwaki A, Yoshida M.
6	Exploratory mass cytometry analysis reveals immunophenotypes of cancer treatment-related pneumonitis.	Elife	12: RP87288, 2024	Yanagihara T, Hata K, Matsubara K, Kunimura K, Suzuki K, Tsubouchi K, Ikegame S, Baba Y, Fukui Y, Okamoto I.
7	A Rare Case of Platypnea-Orthodeoxia Syndrome in a Patient With Undiagnosed Atrial Septal Defect.	Cureus.	16(5) : e61260, 2024	Sanai R, Hirata T, Yanagihara T, Okamoto M, Ikeda T, Shundo Y, Hamada N, Ebi N, Inoue H, Miura SI, Fujita M.
8	Real-World Pharmacokinetics, Effectiveness, and Safety of Atezolizumab in Patients With Unresectable Advanced or Recurrent NSCLC: An Exploratory Study of J-TAIL	JTO Clin Res Rep	5(7) : 100683, 2024	Yagishita S, Goto Y, Nishio M, Akamatsu H, Hayashi H, Miura S, Tamada K, Kagamu H, Hamada A, Ohuchi M, Gemma A, Yoshino I, Misumi T, Hata A, Hara S, Kijima T, Fujita M, Iwasawa S, Nakagawa S, Tatsuno M, Mitsudomi T.
9	Skipping Breakfast and Progression of Chronic Kidney Disease in the General Japanese Population: The Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease (ISSA-CKD).	Kidney Blood Press Res.	49(1) : 472-479, 2024	Takahashi K, Inoue Y, Tada K, Hiyamuta H, Ito K, Yasuno T, Sakaguchi T, Katsuki S, Shinohara Y, Nohara C, Okutsu S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Mukoubara S, Arima H, Masutani K.
10	Clinical Association Between Immune-related Adverse Events and Treatment Efficacy in Patients With Non-small-cell Lung Cancer Treated With Nivolumab-Ipilimumab-based Therapy.	Anticancer Res.	44(7) : 3087-3095, 2024	Ebi N, Inoue H, Igata F, Okuma R, Kinoshita E, Kawabata T, Tan I, Osaki Y, Ikeda T, Nakao A, Shundo Y, Hamada N, Fujita M.
11	Comparison of Real-world Efficacy and Safety of Atezolizumab and Durvalumab in Combination With Chemotherapy for First-line Treatment of Extensive-stage Small-cell Lung Cancer	Anticancer Res.	44(7) : 3175-3183, 2024	Igata F, Inoue H, Ikeda T, Nakao A, Ebi N, Fujita M.

12	Unraveling the influence of TTF-1 expression on immunotherapy outcomes in PD-L1-high non-squamous NSCLC: a retrospective multicenter study	Front Immunol.	15: 1399889, 2024	Nishioka N, Kawachi H, Yamada T, Tamiya M, Negi Y, Goto Y, Nakao A, Shiotsu S, Tanimura K, Takeda T, Okada A, Harada T, Date K, Chihara Y, Hasegawa I, Tamiya N, Masui T, Sai N, Ishida M, Katayama Y, Morimoto K, Iwasaku M, Tokuda S, Kijima T, Takayama K.
13	Successful Treatment of Refractory Asthma Clinically Diagnosed As Eosinophilic Granulomatosis With Polyangiitis in a Hairdresser Using Tezepelumab.	Cureus.	16(9) : e68570, 2024	Yanagihara T, Igata F, Fujita M.
14	Impact of docetaxel plus ramucirumab therapy on interstitial lung disease in recurrent advanced non-small cell lung cancer patients.	Transl Lung Cancer Res.	13(10) : 2573-2584, 2024	Ebi N, Inoue H, Fujimoto Y, Chen M, Sanai R, Kushima N, Osaki Y, Ikeda T, Nakao A, Shundo Y, Yanagihara T, Hamada N, Fujita M.
15	Depth of response and treatment outcomes of immune checkpoint inhibitor-based therapy in patients with advanced non-small cell lung cancer and high PD-L1 expression: An exploratory analysis of retrospective multicenter cohort	Invest New Drugs	42(5) : 538-546, 2024	Tachibana Y, Morimoto K, Yamada T, Kawachi H, Tamiya M, Negi Y, Goto Y, Nakao A, Shiotsu S, Tanimura K, Takeda T, Okada A, Harada T, Date K, Chihara Y, Hasegawa I, Tamiya N, Katayama Y, Nishioka N, Iwasaku M, Tokuda S, Kijima T, Takayama K.
16	Association between Immune-Related Adverse Events and Atezolizumab in Previously Treated Patients with Unresectable Advanced or Recurrent Non-Small Cell Lung Cancer	Cancer Res Commun	4(11) : 2858-2867, 2024	Hayashi H, Fujita M et al
17	Update of prognosis and characteristics of chronic obstructive pulmonary disease in a real-world setting: a 5-year follow-up analysis of a multi-institutional registry.	BMC Pulm Med.	24(1) : 556, 2024	Takano T, Tsubouchi K, Hamada N, Ichiki K, Torii R, Takata S, Kawakami S, Nakagaki N, Yoshida M, Kitasato Y, Tobino K, Harada E, Ishii H, Wataya H, Maeyama T, Fujita M, Yatera K, Okamoto M, Yabuuchi H, Kiyomi F, Tokunaga S, Nakanishi Y, Okamoto I.

- 18 Distinctive clinical features of radiological pleuroparenchymal fibroelastosis with nontuberculous mycobacterial pulmonary disease: A multicenter retrospective cohort study
Int J Infect Dis. 148: 107233, 2024
Tanaka H, Asakura T, Okamori S, Furuuchi K, Yagi M, Nakayama Y, Kuramoto J, Yagi K, Hase I, Kamata H, Fujiwara K, Nakao A, Masugi Y, Sato Y, Kanai Y, Namkoong H, Fukunaga K, Nakagawa T, Morimoto K, Fujita M, Hasegawa N.
- 19 Preserved ratio impaired spirometry and severity of obstructive sleep apnea: An observational cross-sectional study.
Respir Med. 234: 107806, 2024
Ogata H, Nakano H, Yanagihara T, Moriuchi Y, Enokizu-Ogawa A, Ishimatsu A, Otsuka J, Furukawa T, Taguchi K, Moriwaki A, Yoshida M.
- 20 Diffuse Alveolar Hemorrhage Due to Macrolide-Refractory Mycoplasma pneumoniae Diagnosed by FilmArray Analysis of Bronchoalveolar Lavage Fluid.
Cureus. 16(12): e75525, 2024
Nakashima T, Yanagihara T, Sanai R, Fujimoto Y, Nakao A, Shundo Y, Hamada N, Ebi N, Inoue H, Fujita M.
- 21 Exercise-Induced Oxygen Desaturation and Outcomes After Nintedanib Therapy for Fibrosing Interstitial Lung Disease in Patients Without Dyspnea.
J Clin Med. 13(24): 7865, 2024
Okamoto M, Yanagihara T, Fujimoto K, Chikasue T, Tabata K, Zaizen Y, Tominaga M, Sumi A, Nishii Y, Matsuo N, Nouno T, Matsuura S, Kawaguchi A, Hoshino T.
- 22 Clinical impact of cancer cachexia on the outcome of patients with non-small cell lung cancer with PD-L1 tumor proportion scores of $\geq 50\%$ receiving pembrolizumab monotherapy versus immune checkpoint inhibitor with chemotherapy
Oncoimmunology . 14(1): 2442116, 2024
Kawachi H, Yamada T, Tamiya M, Negi Y, Kijima T, Goto Y, Nakao A, Shiotsu S, Tanimura K, Takeda T, Okada A, Harada T, Date K, Chihara Y, Hasegawa I, Tamiya N, Katayama Y, Nishioka N, Morimoto K, Iwasaku M, Tokuda S, Shimose T, Takayama K.
- 23 Severity and prognosis of COVID-19 complicated by autoimmune pulmonary alveolar proteinosis.
Respir Investig. 63(1): 20–26, 2025
Arai T, Inoue Y, Akasaka K, Masunaga A, Fujita M, Yamaguchi E, Saigusa M, Murakami K, Kurahara Y, Tsuyuguchi K, Suzuki T, Miyazaki Y, Bando M, Suda T.
- 24 Immune complexome analysis reveals an autoimmune signature predictive of COVID-19 severity.
Clin Biochem. 135: 110865, 2025
Moriishi M, Takazono T, Hashizume J, Aibara N, Kutsuna YJ, Okamoto M, Sawai T, Hoshino T, Mori Y, Fukuda Y, Awaya Y, Yamanashi H, Furusato Y, Yanagihara T, Miyamoto H, Sato K, Kodama Y, Mizukami S, Sakamoto N, Yamamoto K, Sakamoto K, Yanagihara K, Izumikawa K, Maeda T, Nakashima M, Fukushima K, Mukae H, Ohyama K.

25	Immunophenotyping of T-cells in lung malignancies and cryptogenic organizing pneumonia.	J Clin Med.	14(2) : 316, 2025	Yanagihara T.*, Hata K., Matsubara K., Kunimura K., Suzuki K., Tsubouchi K., Ikegame S., Fukui Y., Okamoto I.
26	Idiopathic Inflammatory Myopathies-Associated Interstitial Lung Disease in Adults	Tuberc Respir Dis (Seoul)	88(1) : 26-44, 2025	Moda M, Yanagihara T, Nakashima R, Sumikawa H, Shimizu S, Arai T, Inoue Y.
27	Predictive factors of progression in mild fibrosing interstitial lung disease patients with gender-age-physiology score of 3 or less.	Respir Investig	63(1) : 109-117, 2025	Okamoto M, Fujimoto K, Chikasue T, Yanagihara T, Tabata K, Zaizen Y, Tominaga M, Sumi A, Takeoka H, Matsuo N, Nouno T, Kawaguchi A, Hoshino T.
28	Regimen Selection for Chemoimmunotherapy in Nonsquamous Non-Small Cell Lung Cancer with Low PD-L1 Expression: A Multicenter Retrospective Cohort Study	Clin Lung Cancer.	26(3) : e190-e198.e4, 2025	Hata T, Yamada T, Goto Y, Amano A, Negi Y, Watanabe S, Furuya N, Oba T, Ikoma T, Nakao A, Tanimura K, Taniguchi H, Yoshimura A, Fukui T, Murata D, Kaira K, Shiotsu S, Hibino M, Okada A, Chihara Y, Kawachi H, Kijima T, Takayama K.
29	Exploration of clinical Biomarkers for guiding treatment selection between chemotherapy and combination therapy with Atezolizumab, Bevacizumab, Carboplatin, and Paclitaxel in EGFR-Mutant NSCLC patients after EGFR-TKI Therapy: The SPIRAL-STEP study	Lung Cancer.	201 : 108447, 2025	Morimoto K, Yamada T, Furuya N, Tanaka H, Yoshimura A, Oba T, Hibino M, Fukuda T, Goto Y, Nakao A, Ogusu S, Okazaki Y, Harada T, Ota T, Masubuchi K, Mikami K, Hata T, Matsumoto S, Honda R, Date K, Chihara Y, Takayama K.
30	Clinical impact of hypomagnesemia induced by necitumumab plus cisplatin and gemcitabine treatment in patients with advanced lung squamous cell carcinoma: a subanalysis of the NINJA study	Ther Adv Med Oncol	17 : 1758835925 1318850, 2025	Tanzawa S, Yoshioka H, Misumi T, Miyauchi E, Ninomiya K, Murata Y, Takeshita M, Kinoshita F, Fujishita T, Sugawara S, Kawashima Y, Hashimoto K, Mori M, Miyanaga A, Hayashi A, Tanaka H, Honda R, Nojiri M, Sato Y, Hata A, Ishikawa N, Kozuki T, Kawamura T, Saito G, Yamaguchi T, Asada K, Tetsumoto S, Tanaka H, Watanabe S, Umeda Y, Yamaguchi K, Nishii K, Tsuruno K, Misumi Y, Kuraishi H, Yoshihara K, Nakao A, Kubo A, Yokoyama T, Watanabe K, Seki N.

- | | | | | |
|----|---|--------------------|---------------------------------------|---|
| 31 | Comparative analysis of first-line treatment in NSCLC including unresectable stage III (IIIB/IIIC) and stage IV with low PD-L1 expression: Clinical trial eligible versus ineligible patients | Lung Cancer. | 200:
108104,
2025 | Hata T, Yamada T, Goto Y, Amano A, Negi Y, Watanabe S, Furuya N, Oba T, Ikoma T, Nakao A, Tanimura K, Taniguchi H, Yoshimura A, Fukui T, Murata D, Kaira K, Shiotsu S, Hibino M, Okada A, Chihara Y, Kawachi H, Kijima T, Takayama K. |
| 32 | Comprehensive immunophenotyping reveals distinct tumor microenvironment alterations in anti-PD-1 sensitive and resistant syngeneic mouse model. | Sci Rep. | 15(1) :
8311,
2025 | Inoue H, Hamasaki T, Inoue K, Nakao A, Ebi N, Minomo H, Nagata I, Fujita M, Horai N. |
| 33 | Skin disorder within 30 days is a favorable prognostic factor in patients with lung squamous cell carcinoma treated with necitumumab plus gemcitabine and cisplatin: a sub-analysis of the NINJA study | Ther Adv Med Oncol | 17:
17588359241
312503,
2025 | Kinoshita F, Tanzawa S, Misumi T, Yoshioka H, Miyauchi E, Ninomiya K, Murata Y, Takeshita M, Yamaguchi M, Sugawara S, Kawashima Y, Hashimoto K, Mori M, Miyanaga A, Hayashi A, Tanaka H, Honda R, Nojiri M, Sato Y, Yamamoto K, Masuda K, Kozuki T, Kawamura T, Suzuki T, Yamaguchi T, Asada K, Tetsumoto S, Tanaka H, Watanabe S, Umeda Y, Yamaguchi K, Kuyama S, Tsuruno K, Misumi Y, Kuraishi H, Yoshihara K, Nakao A, Kubo A, Yokoyama T, Watanabe K, Seki N. |
| 34 | Involvement of Naïve T cells in the Pathogenesis of Osimertinib-induced Pneumonitis. | Sci. Rep. | 15(1) :
10545,
2025 | Ando H, Tsubouchi K., Yanagihara Y., Hata K., Eto D., Suzuki K., Hamada N., Okamoto I. |
| 35 | Impact of TTF-1 Expression on the Prognostic Prediction of Patients with NSCLC with PD-L1 Expression Levels of 1% to 49%, Treated with Chemotherapy vs Chemoimmunotherapy: A Multicenter, Retrospective Study | Cancer Res Treat | 57(2) :
412-421,
2025 | Nishioka N, Hata T, Yamada T, Goto Y, Amano A, Negi Y, Watanabe S, Furuya N, Oba T, Ikoma T, Nakao A, Tanimura K, Taniguchi H, Yoshimura A, Fukui T, Murata D, Kaira K, Shiotsu S, Hibino M, Okada A, Chihara Y, Kawachi H, Kijima T, Takayama K. |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|--|----------------------|------------------------|---|
| 1 | Effective treatment of inhaled corticosteroid and bronchodilator for “lymphocytic interstitial pneumonia” in primary Sjögren’s syndrome. | Respir Med Case Rep. | 47:
101969,
2024 | Moriuchi Y., Yanagihara T., Ogata H., Amemiya M., Ogawa A., Ishimatsu A., Otsuka J., Taguchi K., Kadowaki M., Maemura H., Moriwaki A., Yoshida M. |
|---|--|----------------------|------------------------|---|

2	A case of pneumocystis pneumonia developed during rheumatoid arthritis treatment with methotrexate and golimumab.	Cureus	16(1) : e52944, 2024	Yanagihara T., Oka Y., Moriwaki A., Moriuchi Y., Ogata H., Ishimatsu A., Otsuka J., Taguchi K., Yoshida M.
3	Relapsing eosinophilic pneumonia in a patient with recurrent breast cancer receiving abemaciclib plus endocrine therapy.	Respirol Case Rep.	12(3) : e01320, 2024	Ogata H., Koga C., Yanagihara T., Moriuchi Y., Enokizu-Ogawa A., Ishimatsu A., Otsuka J., Taguchi K., Moriwaki A., Tokunaga E., Yoshida M.
4	A rare case of platypnea-orthodeoxia syndrome in a patient with undiagnosed atrial septal defect.	Cureus	16(5) : e61260, 2024	Sanai R., Hirata T., Yanagihara T., Okamoto M., Ikeda T., Shundo Y., Hamada N., Ebi N., Inoue H., Miura S., Fujita M.
5	Spontaneous Resolution of Abdominal Pseudohernia Following Lung Cancer Surgery: A Case Report	Cureus	16(7) : e64250, 2024	Chen M., Kawashita Y., Abe S., Ueda T., Yamaguchi J.
6	Successful treatment of refractory asthma clinically diagnosed as eosinophilic granulomatosis with polyangiitis in a hairdresser using Tezepelumab.	Cureus	16(9) : e68570, 2024	Yanagihara T., Igata F., Fujita M.
7	Invasive tracheobronchial aspergillosis: a fatal complication in a patient with treated mediastinal lung adenocarcinoma.	Cureus	16(9) : e70024, 2024	Ikeda T., Yanagihara T., Chen M., Sanai R., Osaki Y., Kikushima M., Aoki M., Hamada Y., Hamasaki M., Hamada N., Fujita M.
8	Small Intestine Metastasis Leads to the Diagnosis of Thoracic SMARCA4-Deficient Undifferentiated Tumor: A Case Report.	Cureus.	16(9) : e68364, 2024	Sanai R., Yanagihara T., Ikeda T., Koga K., Shundo Y., Hamada N., Ebi N., Inoue H., Hamada Y., Hamasaki M., Fujita M.
9	Candida Epiglottitis in a Patient Undergoing Chemotherapy for Small Cell Lung Cancer: A Case Report	Cureus	16(10) : e72607, 2024	Kushima N., Yanagihara T., Ikeda T., Chen M., Hamada N., Fujita M.
10	Distinctive clinical features of radiological pleuroparenchymal fibroelastosis with nontuberculous mycobacterial pulmonary disease: A multicenter retrospective cohort study.	Int J Infect Dis.	148 : 107233, 2024	Tanaka H., Asakura T., Okamori S., Furuuchi K., Yagi M., Nakayama Y., Kuramoto J., Yagi K., Hase I., Kamata H., Fujiwara K., Nakao A., Masugi Y., Sato Y., Kanai Y., Namkoong H., Fukunaga K., Nakagawa T., Morimoto K., Fujita M., Hasegawa N.
11	Diffuse alveolar hemorrhage due to macrolide-refractory Mycoplasma pneumoniae diagnosed by FilmArray analysis of bronchoalveolar lavage fluid.	Cureus	16(12) : e75525, 2024	Nakashima T., Yanagihara T., Sanai R., Fujimoto Y., Nakao A., Shundo Y., Hamada N., Ebi N., Inoue H., Fujita M.

12	Tracheal Pleomorphic Adenoma With Severe Airway Obstruction	Cureus	16(12) : e76341, 2024	Kushima N, Himeji D, Yanagihara T, Maekawa K, Marutsuka K.
13	Successful treatment of refractory Mycobacterium avium complex pulmonary disease with sitafloxacin after failed amikacin liposome inhalation suspension therapy.: A Case Report	Cureus	17(1) : e77645, 2025	Chen M., Yanagihara T., Kushima N., Ikeda T., Shundo Y., Hamanda N., Fujita M.
14	Early diagnosis of relapsing polychondritis with airway involvement: A case report.	Cureus	17(3) : e81101, 2025	Kushima N., Yanagihara T., Himuro N., Shundo Y., Hamada N., Fujita M.
15	Effective management of refractory hepatic hydrothorax with hypertonic glucose pleurodesis.	Cureus	17(3) : e81083, 2025	Hashimoto S., Yanagihara T., Kushima N., Sanai R., Ikeda T., Hamada N., Fujita M.

〈総説〉

1	アミカシンリボソーマル吸入用懸濁液 (アリケイス)	呼吸器内科	45: 605-610, 2024	藤田 昌樹
2	気管支拡張症の治療 マクロライド以外の治療	呼吸器ジャーナル	72: 236-242, 2024	藤田 昌樹
3	肺 MAC 症とリンパ球, サイトカイン研究	非結核性抗酸菌症診療 Up to Date	2025	藤田 昌樹
4	(特集: 高齢者の健康長寿と血压管理) 高齢者診療における SaMD の可能性	日本臨床	82(4) : 622-626, 2024	吉村 力, 有馬 久富
5	【睡眠関連呼吸障害の呼吸器的新展開】睡眠関連呼吸障害と慢性咳嗽	呼吸器内科	46(5) : 453-457, 2024	吉村 力
6	産業医実務における提言「睡眠をめぐる近年の知見と職域での対応 3」労働者の睡眠時無呼吸症候群	産業医学ジャーナル	47(1) : 67-72, 2024	吉村 力
7	肺サルコイドーシスにおける最近のトピックス	日サ会誌	44: 15-19, 2024	濱田 直樹, 柳原 豊史
8	Idiopathic inflammatory myopathies-associated interstitial lung disease in adults.	Tuberc Respir Dis.	88(1) : 26-44, 2025	Moda M., Yanagihara T., Nakashima R., Sumikawa H., Shimizu S., Arai T., Inoue Y.

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	【シンポジウム】SDB と COPD の関係	第64回日本呼吸器学会 学術講演会	横浜 Apr 5-7 2024	吉村 力
2	Multidisciplinary approach on OSA 2	East-Asia Sleep Forum combined with the 13th Sleep Respiration Forum	福岡 Apr 27 2024	Yoshimura C

3	【シンポジウム】 産業保健領域における睡眠呼吸障害の最新知見	日本睡眠学会 第48回定期学術集会	横浜 Jul 18-19 2024	吉村 力
4	【ワークショップ】 内科的立場からあなたの SAS 診療の疑問にお答えします	日本睡眠学会 第48回定期学術集会	横浜 Jul 18-19 2024	吉村 力
5	The important role of perforin against Mycobacterium avium infection in mice	The European Respiratory Society Congress 2024	Wien Sep 7-11 2024	Fujita M. et al.
6	Unveiling the immunophenotypes of pneumonitis in cancer treatment through mass cytometry exploration.	The European Respiratory Society Congress 2024	Wien Sep 7-11 2025	Yanagihara T
7	【シンポジウム】 高齢者における睡眠と高血圧の関係について	第46回日本高血圧学会総会	福岡 Oct 12-14 2024	吉村 力, 有馬 久富
8	【シンポジウム】 臨床医学における睡眠と休養の観点から	第83回日本公衆衛生学会 総会	札幌 Oct 30 2024	吉村 力
9	Real-World Application of ALIS in Managing MAC Pulmonary Disease.	The 28th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology (APSR 2024)	Hong Kong Nov 7-10 2024	Yanagihara T
10	【ランチョンセミナー】 非結核性抗酸菌症トピックスー当院でのアリ ケース導入11症例解析を踏まえてー	第71回日本呼吸器学会 中国・四国地方会 第33回日本呼吸器内視鏡 学会中国四国支部会 第75回日本結核・非結核性 抗酸菌症学会中国四国支部会	高知 Nov 29-30 2024	柳原 豊史
11	Comprehensive Immunophenotype Analysis in Anti-PD-1 Antibody Sensitive And Resistant Syngeneic Mouse Model Unravels Perforin-expressing CD4+ T Cells Dominant Cytolytic Activity	European Society of Medical Oncology Immuno-Oncology 2024	Geneva, Switzerland Dec 11-13 2024	Inoue H. et al.
12	【イブニングセミナー】 進行 ALK 融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の治療戦略～長期予後を目指して～	第65回日本肺癌学会 九州支部学術集会	福岡 Feb 8-9 2025	井上 博之
13	【アフタヌーンセミナー】 ドライバー遺伝子変異/転座陰性非扁平上皮 非小細胞肺癌に対する複合免疫療法	第94回日本呼吸器学会・ 日本結核 非結核性抗酸菌 症学会九州支部春季学術講 演会	宮崎 Mar 8 2025	井上 博之

〈国内研究助成金〉

1	動脈硬化, 心血管病, CKD に及ぼす不眠症, 睡眠時無呼吸症候群の解明	文部科学省	2024	吉村 力 (代表)
2	不眠症と睡眠時無呼吸症候群から動脈硬化・CKD 予防を科学する	文部科学省	2024	吉村 力 (代表)
3	デジタル技術を活用した生涯にわたる血圧管理に関する指針の研究開発	経済産業省	2024	吉村 力 (代表者: 有馬 久富)
4	びまん性肺傷害の早期診断と治療を目指したバイオマーカーの検索	日本学術振興会 文部科学省 基盤研究 C	2024	濱田 直樹 (代表)

5	血管リモデリングに着目した肺線維症の新たな治療戦略の構築	テルモ生命科学振興財団	2024	柳原 豊史（代表）
6	血管リモデリングを標的とした間質性肺炎の新規治療法開発	日本呼吸器学会 ベーリンガーインゲル ハイム研究助成プログラム	2024	柳原 豊史（代表）
〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉				
1	令和6年度 呼吸器若手育成セミナー	福岡大学病院 同窓会ラウンジ	6/20, 2024	藤田 昌樹
2	第65回日本肺癌学会九州支部学術集会・ 第48回日本呼吸器内視鏡学会九州支部総会	福岡大学病院 メディカルホール	2/8-9, 2025	藤田 昌樹
〈学会活動〉				
1	日本結核・非結核性抗酸菌症学会	理事	2024	藤田 昌樹
2	日本肺サーファクタント・界面医学会	理事	2024	藤田 昌樹
3	Asian pan-pacific respiratory society	Chair of educational committee assembly (Respiratory infection) deputy head	2024	藤田 昌樹
4	日本内科学会	代議員	2024	藤田 昌樹
5	日本呼吸器学会	代議員	2024	藤田 昌樹, 井上 博之, 吉村 力
6	日本感染症学会	評議員	2024	藤田 昌樹
7	日本化学療法学会	評議員	2024	藤田 昌樹
8	日本肺サーファクタント・界面医学会	評議員	2024	藤田 昌樹
9	日本呼吸器内視鏡学会	評議員	2024	藤田 昌樹, 吉村 力, 海老 規之
10	日本結核・非結核性抗酸菌症学会	評議員	2024	藤田 昌樹
11	日本肺癌学会	評議員	2024	藤田 昌樹, 井上 博之, 海老 規之
12	日本睡眠学会	評議員	2024	吉村 力
13	日本臨床生理学会	評議員	2024	吉村 力
14	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	代議員	2024	吉村 力
15	日本循環器病予防学会	評議員	2024	吉村 力
16	日本高血圧学会	評議員	2024	吉村 力
17	日本疫学会	代議員	2024	吉村 力
18	日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会	呼吸器部会副部長	2024	濱田 直樹
〈研究に関係した賞〉				
1	急性骨髄性白血病の化学療法中に発症し抗菌薬治療により改善した Empysematous hepatitis の一例	内科専攻医賞	2025	陳 邁也

〈原著〉

- 1 Current use of angiotensin II receptor blockers and angiotensin-converting enzyme inhibitors for hypertension in patients with chronic kidney disease with proteinuria: a cross-sectional study based on real-world data. Hypertens. Res. 48(1): 244-255, 2025 Tada K, Nakano Y, Takahashi K, Hiyamuta H, Watanabe M, Ito K, Yasuno T, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Masutani K, Arima H.

- 2 Effects of renal denervation on blood pressure in patients with hypertension: a latest systematic review and meta-analysis of randomized sham-controlled trials Hypertens. Res. 47(10): 2745-2759, 2024 Oct Ogoyama Y, Abe M, Okamura K, Tada K, Katsurada K, Shibata S, Kai H, Rakugi H, Node K, Yokoi H, Kario K, Arima H.

- 3 Smartphone application-based intervention to lower blood pressure: a systematic review and meta-analysis Hypertens. Res. 48(2): 492-505, 2025 Feb Abe M, Hirata T, Morito N, Kawashima M, Yoshida S, Takami Y, Fujimoto T, Kawasoe S, Shibukawa T, Segawa H, Yamanokuchi T, Ishida S, Takahashi K, Tada K, Kato Y, Sakima A, Arima H.

- 4 Resistance exercise has an antihypertensive effect comparable to that of aerobic exercise in hypertensive patients: a meta-analysis of randomized controlled trials Hypertens. Res. 48(2): 733-743, 2025 Feb Morita H, Abe M, Suematsu Y, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura SI.

5	Differences in the effects of exercise on blood pressure depending on the physical condition of the subject and the type of exercise: a systematic review and meta-analysis	Hypertens. Res.	48(2) : 720-732, 2025 Feb	Suematsu Y, Morita H, Abe M, Uehara Y, Koyoshi R, Fujimi K, Ideishi A, Takata K, Kato Y, Hirata T, Yahiro E, Morito N, Kitajima K, Yano Y, Satoh A, Yoshimura C, Ishida S, Okutsu S, Takahashi K, Shinohara Y, Sakaguchi T, Katsuki S, Tada K, Fujii T, Funakoshi S, Hu Y, Satoh T, Ohnishi H, Okamura K, Mizuno H, Arakawa K, Asayama K, Ohtsubo T, Ishigami T, Shibata S, Fujita T, Munakata M, Ohishi M, Ichihara A, Katsuya T, Mukoyama M, Rakugi H, Node K, Arima H, Miura SI.
6	More rapid progression of brain atrophy in patients on peritoneal dialysis compared with hemodialysis: The VCOHP Study.	Hypertens. Res.	47(4) : 887-897, 2024	Tsuruya K, Yoshida H, Yamada S, Haruyama N, Tanaka S, Tsuchimoto A, Eriguchi M, Fujisaki K, Torisu K, Nakano T, Masutani K, Kitazono T.
7	Combined evaluation of glomerular phospholipase A2 receptor and immunoglobulin G subclass in membranous nephropathy.	Clin. Kidney. J.	17(6) : sfae104, 2024	Ueki K, Tsuchimoto A, Matsukuma Y, Ataka E, Okamoto H, Tanaka S, Masutani K, Kitazono T, Nakano T.
8	Blood Hemoglobin Concentrations and the Incidence of Lower Extremity Peripheral Arterial Disease in Patients Undergoing Hemodialysis: 10-Year Outcomes of the Q-Cohort Study.	J Am Heart Assoc	13(15) : e033853, 2024	Kohara C, Yamada S, Tanaka S, Hiyamuta H, Kitamura H, Arase H, Shimamoto S, Taniguchi M, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T.
9	Association between Hemoglobin A1c and Renal Arteriolar Sclerosis in Subjects Presenting without any Apparent Kidney Dysfunction.	J Atheroscler Thromb.	31(8) : 1215-1224, 2024	Matsukuma Y, Tsuchimoto A, Masutani K, Ueki K, Tanaka S, Haruyama N, Okabe Y, Nakamura M, Kitazono T, Nakano T.
10	Association between roxadustat use and suppression of thyroid function: a systematic review and meta-analysis.	J. Pharm. Health. Care. Sci.	10(1) : 30, 2024.	Nakano Y, Mitsuboshi S, Tada K, Masutani K.
11	Skipping Breakfast and Progression of Chronic Kidney Disease in the General Japanese Population: The Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease (ISSA-CKD).	Kidney. Blood. Press. Res.	49(1) : 472-479, 2024	Takahashi K, Inoue Y, Tada K, Hiyamuta H, Ito K, Yasuno T, Sakaguchi T, Katsuki S, Shinohara Y, Nohara C, Okutsu S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Mukoubara S, Arima H, Masutani K.

12	Oral bacteria are altered in patients with diabetes, cardiovascular diseases, and cancer. However, the oral microbiome of patients with chronic kidney disease (CKD), including those receiving renal replacement...	Ren. Replace. Ther.	10:63, 2024	Yasuno T, Tada K, Takahashi K, Watanabe M, Ito K, Arima H, Masutani K
13	Association between proteinuria and mineral metabolism disorders in chronic kidney disease: the Japan Chronic Kidney Disease Database Extension (J-CKD-DB-Ex)	Sci Rep	14(1): 27481, 2024	Shimamoto S, Nakahara T, Yamada S, Nagasu H, Kishi S, Nakashima N, Tsuruya K, Okada H, Tamura K, Narita I, Maruyama S, Yano Y, Yokoo T, Wada T, Wada J, Kanda E, Kataoka H, Nangaku M, Kashiwara N, Nakano T.
14	Relationship between abdominal circumference and the incidence of hyperuricemia in the general Japanese population	Sci Rep.	25:14(1): 4573.2024	Kawano K, Ueno T, Maeda T, Nohara C, Maki K, Iwanaga K, Morinaga A, Funakoshi S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T, Mukobara S, Kawanami D, Masutani K, Arima H.
15	Non-fasting and fasting serum triglyceride concentrations and new-onset hyperuricemia in the general Japanese population: ISSA-CKD study.	Sci. Rep.	15(1): 5764, 2025	Sakaguchi T, Funakoshi S, Kawano K, Ueno T, Maki K, Morinaga A, Iwanaga K, Inoue Y, Shinohara Y, Katsuki S, Takahashi K, Ishida S, Fujii T, Abe M, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Tada K, Ito K, Mukobara S, Masutani K, Inoue T, Nagamitsu S, Arima H.
16	Significance of Perivascular Aggregates in Kidney Allografts: Evaluation of 1-Year Protocol Biopsies Using Recent Banff Classification.	Transplant. Proc.	56(3): 499-504, 2024	Masutani K, Nakagawa K, Matsukuma Y, Ueki K, Ataka E, Tsuchimoto A, Okabe Y, Nakamura M, Kitazono T, Nakano T.

〈症例報告〉

1	死戦期の急性腎障害のため移植の適応判断に苦慮した脳死下献腎移植の一例.	九州人工透析研究会誌	8:42-46, 2024	櫻井 裕子, 宮崎 健, 多田 和弘, 冷牟田浩人, 伊藤 建二, 安野 哲彦, 中村 信之, 羽賀 宣博, 升谷 耕介
2	多職種で入院治療へ介入した重度精神運動発達遅滞者の腎移植.	日本臨床腎移植学会雑誌	12(2): 272-276, 2024	横山 陽子, 矢野加那子, 別府 愛子, 窪山 矢季, 伊藤 具恵, 伊藤 建二, 升谷 耕介, 宮崎 健, 中村 信之, 羽賀 宣博, 永江 寛子, 野田扶美枝

- | | | | | |
|---|--|--------------|----------------------------|--|
| 3 | メトホルミン大量内服患者に対して血液透析を実施した一例. | 腎と透析 | 98(1):
122-125,
2025 | 柴田 稜子, 尾崎 智美,
中村 翼, 吉山 直政,
石井 英博, 渡邊 真穂,
Waters Brian, 久保 真一,
升谷 耕介 |
| 4 | Lipoprotein glomerulopathy with markedly increased arterial stiffness successfully treated with a combination of fenofibrate and losartan: a case report | BMC Nephrol. | 20:25(1):
171,
2024 | Kato J, Okonogi H,
Kanzaki G, Katsumata H,
Nakada Y, Sagasaki M,
Komine K, Ito K,
Saito T, Matsunaga A,
Tokutou K, Honda K,
Tsuboi N, Yokoo T. |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|--------------------------------|--------|---|--------------|
| 1 | 腎病理検査における最近の進歩. | 臨床検査 | 64増大号, AKI・CKD の診断・治療に臨床検査を活かせ. 449-454,
2024 | 升谷 耕介 |
| 2 | 突然足がむくんできたのですが, 何か病気があるのでしょうか? | 内科 | 133 増大号, 患者さんからよく尋ねられる内科診療の Question. 1009-1011, 2024 | 伊藤 建二, 升谷 耕介 |
| 3 | 移植後感染症. | 腎と透析 | 96 (5):
688-693,
2024 | 升谷 耕介 |
| 4 | コレステロール塞栓の病態と治療. | 日本臨牀 | 82(増刊号5):
225-229,
2024 | 嶋本 聖, 升谷 耕介 |
| 5 | 腎移植患者の糖尿病治療薬. | 腎と透析 | 97(2):
203-207,
2024 | 多田 和弘, 升谷 耕介 |
| 6 | 膠原病に合併する慢性腎臓病 (CKD) とその評価法. | 九州リウマチ | 44(2):
51-55,
2024 | 升谷 耕介 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|-------------|------|--------------------|------------|
| 1 | 今日の治療指針2025 | 医学書院 | pp612-613,
2025 | 升谷 耕介 (分担) |
|---|-------------|------|--------------------|------------|

〈国際学会と国内学会 (シンポジウムまたは招待講演) 発表〉

- | | | | | |
|---|---|--|--|--|
| 1 | Skipping Breakfast and Progression of Chronic Kidney Disease in a General Japanese Population | 61st European Renal Association Congress | Stockholm, Sweden
May 23-26
2024 | K. TAKAHASHI, Y. INOUE,
K. TADA, H. HIYAMUTA,
K. ITO, T. YASUNO,
H. ARIMA, and
K. MASUTANI |
| 2 | (シンポジウム)
移植腎機能廃絶時の透析再導入あるいは二次移植における諸問題. | 第69回日本透析医学会
学術集会・総会 | 横浜
6/7-6/9
2024 | 升谷 耕介 |

3	(シンポジウム) 早期腎機能障害と高血糖が血中ペントシジン 濃度に与える影響の検討	第67回日本腎臓学会 学術総会	横浜 6/28-29 2024	伊藤 建二, 高橋 宏治, 多田 和弘, 前田 俊樹, 篠原由紀子, 井上 和, 佐藤 敦, 阿部真紀子, 吉村 力, 安野 哲彦, 有馬 久富, 升谷 耕介
4	Even a mild decrease in glomerular filtration rate affects serum pentosidine concentrations more strongly than diabetic conditions.	Kidney Health In Aging and Aged Societies JSN/ERA Symposium	Kyoto, Japan September 14-15, 2024	Kenji Ito, Koji Takahashi, Kazuhiro Tada, Toshiaki Maeda, Yukiko Shinohara, Yori Inoue, Atsushi Sato, Makiko Abe, Chikara Yoshimura, Tetsuhiko Yasuno, Hisatomi Arima, Kosuke Masutani
5	Synergistic effect of peripheral arterial disease and nutritional disorder on the mortality in diabetic hemodialysis patients	Kidney Health In Aging and Aged Societies JSN/ERA Symposium	Kyoto, Japan September 15, 2024	Maho Watanabe, Kenji Ito, Tetsuhiko Yasuno, Koji Takahashi, Kazuhiro Tada, Katsuhisa Miyake, Naoko Himuro, Takao Saito, Kosuke Masutani
6	A case of COVID-19 vaccine induced collapsing FSGS successfully treated with LDL apheresis	Kidney Health In Aging and Aged Societies JSN/ERA Symposium	Kyoto, Japan September 15, 2024	Mizuki Tanaka, Kenji Ito, Yori Inoue, Naoko Himuro, Hiroyuki Hiyamuta, Maho Watanabe, Tetsuhiko Yasuno, Katsuhisa Miyake, Noriko Uesugi, Kosuke Masutani
7	(シンポジウム) 一次性ネフローゼ症候群に対する薬物治療.	第45回日本アフェレシス 学会学術大会	大阪 10/12-10/14 2024	升谷 耕介

〈国内研究助成金〉

1	移植腎に形成される三次リンパ組織が長期移 植腎機能に与える影響とその機序の解明	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 C	2024	升谷 耕介 (代表)
2	糖尿病性腎症保護因子 PKM2に着目した残 存病態の解明と新規治療法の開発	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 C	2024	升谷 耕介 (代表者: 横溝 久)
3	病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与 する口腔内細菌叢異常を解明する	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 C	2024	升谷 耕介 (代表者: 安野 哲彦)
4	不眠症と睡眠時無呼吸症候群から動脈硬化・ CKD 予防を科学する	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 C	2024	升谷 耕介 (代表者: 吉村 力)
5	心房細動における脳心血管病予防のための降 圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 B	2024	升谷 耕介 (代表者: 有馬 久富)
6	動脈硬化, 心血管病, CKD に及ぼす不眠症, 睡眠時無呼吸症候群の解明	日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 C	2024	升谷 耕介 (代表者: 吉村 力)

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第30回日本アフェレシス学会九州地方会	福岡大学病院 福大メディカルホール	4/20/2024	升谷 耕介
---	---------------------	----------------------	-----------	-------

〈学会活動〉

1	日本腎臓学会	評議員	2024	升谷 耕介
2	日本臨床腎移植学会	評議員	2024	升谷 耕介
3	日本アフェレシス学会	評議員	2024	升谷 耕介, 伊藤 建二
4	日本腎臓リハビリテーション学会	代議員	2024	升谷 耕介
5	日本透析医学会	評議員	2024	升谷 耕介
6	日本内科学会九州支部	評議員	2024	

脳神経内科学

〈原著〉

1	Takotsubo cardiomyopathy in Guillain-Barré syndrome.	J Neurol	271(7), 4067-4074, 2025	Terayama A, Kuwahara M, Yoshikawa K, Yamagishi Y, Samukawa M, Yamashita S, Onishi K, Nagano T, Tatsumi C, Ishii J, Kawamoto M, Tokashiki T, Deguchi S, Deguchi K, Ishida A, Baba Y, Yamaguchi S, Kusunoki S, Nagai Y.
2	Efficacy and Safety of a New Delivery Assist Catheter with a Flexible, Spindle-Shaped Shaft in Mechanical Thrombectomy.	World Neurosurg	187, e997-e1003, 2024	Takeshita S, Nii K, Tsugawa J, Ishii A, Fukumoto H, Hanada H, Inoue R, Sakamoto K, Higashi T
3	Switching from oral ropinirole to ropinirole transdermal patch in patients with Parkinson's Disease: an observational study	Neurol Neurochir Pol.	58(4), 465-467, 2024	Yasutaka Y, Mishima T, Fujioka S, Ogata K, Kamimura H, Tsuboi Y.
4	Factors affecting continuation rates of opicapone: A retrospective study at a single center in Japan	Clin Neurol Neurosurg	108875, 2025	Yasutaka Y, Mishima T, Ogata K, Yokote A, Kamimura H, Baba Y

〈症例報告〉

1	短期集中リハビリテーションにより高次脳機能が改善したパーキンソン病患者の一例	Journal of Clinical Rehabilitation	33(4), 394-398, 2025	佐久間香那, 橋本 圭司, 小西 正浩, 馬場 康彦, 川手 信行, 市川 博雄
2	Tacrolimus 中止後に心筋炎を再発した抗 titin 抗体陽性重症筋無力症の1例	神経治療学	41(4), 694-696, 2025	鍋島 陽子, 正路 大樹, 高橋 聖也, 安本 太郎, 野元 祥平, 二村 明德, 金野 竜太, 馬場 康彦
3	Acute Cerebellar Manifestations without Limbic Involvement in GABAB Receptor Autoimmune Encephalitis: Case Report and Literature Review	Cerebellum	23(6), 2650-2654, 2025	Yasumoto T, Onizawa K, Mori S, Obi T, Keicho M, Watanabe S, Nabeshima Y, Komuro H, Takahashi S, Futamura A, Baba Y, Kinno R

4	Three Cases of Subdural Hematoma with Transient Neurological Deficits: Importance of Sulcal Hyperintensity in Magnetic Resonance Imaging Fluid-attenuated Inversion Recovery Images.	Internal Medicine	64(7), 1101-1106, 2025	Takahashi N, Mishima T, Nakamura D, Fujioka S, Tsuboi Y.
---	--	-------------------	------------------------------	--

〈著書〉

1	機能性神経障害診療ハンドブック 脳神経内科, 精神科, 総合診療科のギャップを埋める	中外医学社	Ⅱ 機能性神経障害, 各論, 6 機能性チック, 2024	高橋 信敬, 藤岡 伸助, 坪井 義夫 (分担)
2	脳神経内科 クリニカルアップデート	日本医事新報社	pp112-114, 2024	三嶋 崇靖 (分担)

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	認知症の病態と正しい理解～認知症患者さんの心理・尊厳と意思決定能力～	第49回日本大腸肛門病学会九州地方会・第40回九州ストーリーリハビリテーション研究会	福岡, 9/1, 2024	合馬 慎二
2	パーキンソン病の治療概論	日本神経学会九州地方会, 令和6年度日本神経学会九州地区生涯教育講演会	福岡, 3/16, 2025	馬場 康彦

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第247回日本神経学会九州地方会	福岡大学病院	3/15, 2025	馬場 康彦
---	------------------	--------	---------------	-------

〈学会活動〉

1	日本神経学会	代議員	2024	馬場 康彦
2	日本神経治療学会	評議員	2024	馬場 康彦
3	日本ニューロモデュレーション学会	評議員	2024	馬場 康彦
4	日本パーキンソン病・運動障害疾患学会	評議員	2024	馬場 康彦
5	日本認知症予防学会	代議員	2024	馬場 康彦

精神医学

〈原著〉

1	Lower plasma tumor necrosis factor- α is associated with symptomatic remission in patients with schizophrenia	Journal of Psychiatric Research	177(2024): 299-304	Ryo Asada, Hikaru Hori, Leo Gotoh, Kiyohiro Yasumatsu, Hitoshi Iida, Hiroaki Kawasaki
2	The association between benzodiazepine prescriptions and the risk of laxative use in schizophrenia treatment	WILEY Neuropsychopharmacology Reports	2024;00: 1-7	Shinichiro Ochi, Takashi Tsuboi, Naomi Hasegawa, Hikaru Hori
3	Inflammation-stratified augmentation of vortioxetine with celecoxib; Results from a double-blind, randomized, placebo-controlled trial in major depressive disorder	WILEY Journal of Neurochemistry	2024;168: 1817-1825	Erhan Kavakbasi, Emma Sampson, Natalie T. Mills, Hikaru Hori

- | | | | | |
|---|--|---------------------------------------|---|--|
| 4 | Characteristics of patients with mood disorders and schizophrenia who attempt suicide: a 15-year cross-sectional study in Japan | Academia Mental Health and Well-Being | 2024, 12.19 | Harada K, Eto N, Leo Gotoh, Masato Masuda, Masahiro Ishida, Yuta Okamoto, Hikaru Hori - Academia Mental Health and Well-Being. |
| 5 | Qualitative analysis of blood from patients engaging in deliberate self-harm: Difference between prescribed and detected drugs. | Neuropsychopharmacology Reports. | 2024;00:1-12.
DOI:10.1002/npr2.12492 | Masato Masuda, Brian Waters, Leo Gotoh, Yoshihiko Nakamura, Yoshifumi Kato, Shigeki Nabeshima, Shin-ichi Kubo, Nobuaki Eto, Hiroaki Kawasaki |
| 6 | Surgical Concepts and Long-term Outcomes of Thalamic Deep Brain Stimulation in Patients with Severe Tourette Syndrome: A Single-center Experience. | Neurol Med Chir (Tokyo) | 2024 Aug 15; 64(8): 289-298 | Morishita T, Sakai Y, Iida H, Tanaka H, Permana GI, Kobayashi H, Tanaka SC, Abe H. |
| 7 | The effect of education regarding treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders on psychiatrists' hypnotic medication prescribing behavior: a multicenter study. | BMC Psychiatry | 2024 May 29; 24(1): 399 | Nakamura T, Furihata R, Hasegawa N, Kodaka F, Muraoka H, Ichihashi K, Ochi S, Numata S, Tsuboi T, Makinodan M, Iida H, Onitsuka T, Kashiwagi H, Takeshima M, Hashimoto N, Nagasawa T, Usami M, Yamagata H, Takaesu Y, Miura K, Matsumoto J, Ohi K, Yamada H, Hori H, Inada K, Watanabe K, Hashimoto R, Yasui-Furukori N. |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|--|----------------------------|--------------------|--|
| 1 | Bipolar disorder and Lewy body dementia: case report and literature review | frontiers in Psychiatry | 4-Jun-24 | Sayuri Nakamura, Hiroko Sugawara, Ryo Asad, Akito Hatanaka and Hikaru Hori |
| 2 | How to survive the violent destruction of structures | IPSO Journal 2023 | 2024, 72-77 | Nobuaki Eto |
| 3 | Microlesion Effect Induced by Electrode Implantation in the Posteroventral Globus Pallidus Interna for Severe Dystonic Tics. | Tremor Other HyperkinetMov | 2024 18:14:5 | Permana GI, Morishita T, Tanaka H, Iida H, Fujioka S, Abe H. |
| 4 | 精神運動性焦燥や希死念慮が前景に立つ大うつ病性障害に気分安定薬の投与を先行し抗うつ薬で改善した3症例 | 精神科治療学
星和書店 | 40(1):97-104, 2025 | 田上 真次, 小林 克治, 角 典哲, 秋山 典子, 菅原 裕子, 池田 学 |
| 5 | コロナ禍の電話面接への変更プロセスで浮かび上がったもの | 精神分析研究 | Vol.68 No.4 2024 | 原田 康平 |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|---|---|----------------|-----|
| 1 | Practice Guidelines for Bipolar Disorder by the JSMD (Japanese Society of Mood Disorders) | PCN Psychiatry and Clinical Neurosciences | REVIEW ARTICLE | 堀 輝 |
|---|---|---|----------------|-----|

2	大学病院の就労支援におけるデイケアの役割	日本デイケア学会誌 デイケア実践研究	Vol.28 No.1, 76-79, 2024	堀 輝
3	双極性障害と就労	日社精医誌	33: 162-168, 2024	堀 輝
4	精神疾患診療ガイドラインの普及活動	診断と治療 2024年増刊号	vol.112/Suppl	堀 輝
5	特集 うつ病 外来治療 労働者のうつ病治療	精神科 Resident	Vol.5 No.1 2024	堀 輝
6	溶連菌感染症関連小児自己免疫性神経精神疾患 (PANDAS)/シデナム舞踏病	精神科治療学	第39巻増刊号 2024, 10	中野和歌子, 堀 輝
7	精神疾患の診断	月刊薬事 10月臨時増刊号	2024.10 vol66 No.14	菅原 裕子, 堀 輝
8	日常診療で認知機能評価をするために知っておきたいこと 特集「Measurement Based Care のススメー忙しい臨床で評価するにはー」	臨床精神薬理	27: 397-402, 2024	菅原 裕子, 堀 輝
9	治療抵抗性双極性障害へのアプローチ 特集「治療抵抗例・難渋例の精神疾患治療 Update」	臨床精神薬理	27: 457-463, 2024	菅原 裕子
10	透析患者の精神疾患の病態に応じた向精神薬 の使い方と注意点 特集「サイコネフロロジー：透析・移植」	腎と移植	Vol.96 No.3 2024.3 317-321	菅原 裕子
11	うつ病治療中に双極性障害を疑う際の薬物療 法のポイント 特集ーこんなときどうする？ いまさら聞けないうつ病治療における薬物療 法ー虎の巻	精神科治療学	39(8): 845-849, 2024	菅原 裕子
12	こどもの自殺. 特集 こどもまんなかメンタ ルヘルス～メンタルヘルスの観点から「こど もまんなか社会」を考える～	ふくおか精神保健	69: 58-63, 2024	衛藤 暢明
13	自殺. 特集 思春期医療に向き合う～苦手意 識からの脱却	小児内科	56(9), 1419-1422, 2024	衛藤 暢明
14	指定発言 コロナ禍における自殺の実態	日精診 Journal, 第29回, 学術研究会特集号	187-191, 2024	衛藤 暢明
15	Individual Fitness Score (IFS) による治療ガ イドラインー致率の評価 臨床での活用に向 けて	精神医学	66巻9号 2024年9月	福本健太郎, 稲田 健, 村岡 寛之, 井手 健太, 小高 分聰, 越智紳一郎, 安田 由華, 飯田 仁志, 堀 輝, 大井 一高, 市橋 香代, 伊藤 颯姫, 川俣 安史, 古郡 規雄, 橋本 亮太
16	【ECT 増強療法-エキスパートコンセンサス に向けて】電気けいれん療法における発作誘 発困難例への対応法に関する文献レビュー (総説)	総合病院精神医学	36巻1号 Page20-25 (2024.01)	諏訪 太朗 (京都大学医学部附属病院 精神科神経科), 安田 和幸, 飯田 仁志, 内沼虹衣菜, 青木 宣篤, 川島 啓嗣, 嶽北 佳輝

17	第21回日本スポーツ精神医学会特集 シンポジウムⅠ 「運動やスポーツの精神科臨床への応用」 双極性障害治療と運動療法	スポーツ精神医学	2024: 21:2-6	濱田 文仁, 堀 輝, 菅原 裕子, 飯田 仁志, 畑中 聡仁, 緒方 宗玄, 熊谷 浩紀, 増田 将人, 浅田 瞭, 岡本 雄太, 安松 聖滉, 波多江流世, 佐賀裕実香, 本間みゆき, 横山 浩之, 矢野 里佳, 富山 裕子, 吉田 哲也, 山口 佳美, 後藤 玲央, 川嵯 弘詔
18	デイケアにおける運動・スポーツ ー体育療法の技法を通してー	スポーツ精神医学	2024: 21:14-18	横山 浩之
19	デイケアにおける思春期・青年期の患者のス ポーツ	日本デイケア学会誌 デイケア実践研究	28(1): 51-55, 2024	横山 浩之
20	一卵性双生児双極性障害不一致例の DNA メ チル化解析によって同定された SLC6A4 の高 メチル化	九州神経精神医学	2024, 69(2): 96-100	菅原 裕子
21	自殺予防に向けた医療機関の多職種連携 ー現場のジレンマと期待ー	心の健康69号 兵庫県精神保健福祉協会	27-71, 2024年1月	衛藤 暢明

〈著書〉

1	第2章現場で出会う症状のアセスメントと初 期治療・ケア 8 怒り/サイコネフロロジー診療ガイド	株式会社メディカ出版	2024, 59-62	菅原 裕子
2	ER・救急で役立つ精神科救急 A to Z 三宅康史（編）	日本医事新報社	pp.38-48, 2024	衛藤 暢明（分担）
3	希死念慮が疑われた時の対応. こどもたちの ための Well-Care Visits マニュアル	子ども家庭科学研究班	2024: 135-136	衛藤 暢明（分担）
4	医師・看護師のための 認知症プライマリケ アまるごとガイド 最新知識に基づくステー ジアプローチ	中央法規出版	pp.51-53, 81-87, 2024	飯田 仁志（分担）

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	うつ病の認知機能障害の治療	第9回 CEPD 研究会	東京 5/18 2024	堀 輝
2	失敗から学ぶうつ病治療. 特異症例から学ぶ	第33回日本臨床精神神経 薬理学会	東京 5/24 2024	堀 輝
3	うつ病の認知機能, 社会認知機能のリハビリ テーション	第33回日本臨床精神神経 薬理学会	東京 5/25 2024	堀 輝
4	うつ病労働者の復職時の評価	第33回日本臨床精神神経 薬理学会	東京 5/25 2024	堀 輝
5	統合失調症急性期を乗り越えた後… ー精神科医の立場からー	第33回日本臨床精神神経 薬理学会	東京 5/26 2024	堀 輝

6	抗うつ薬の有効性と安全性はどのように評価されるべきか	第120回日本精神神経学会	札幌 6/20 2024	堀 輝
7	認知機能障害評価を忙しい臨床現場で活用する方法	第120回日本精神神経学会	札幌 6/22 2024	堀 輝
8	精神科医の立場からタスクシフトシエアを考える	第7回 Future Pharmacist Forum	Online	堀 輝
9	中等症・重症うつ病のガイドラインドラフト	第21回日本うつ病学会 学術総会	大阪 7/12 2024	堀 輝
10	うつ病診療における認知機能障害評価の現状と課題	第21回日本うつ病学会 学術総会	大阪 7/12 2024	堀 輝
11	抗うつ薬はいつまで継続するのが適切か？	第21回日本うつ病学会 学術総会	大阪 7/13 2024	堀 輝, 加藤 正樹, 田近 亜蘭, 青木 裕見
12	運動・スポーツと気分・不安障害研究	第22回日本スポーツ精神 医学会	大阪 8/31 2024	堀 輝
13	統合失調症リカバリーに向けた評価と介入	第27回日本精神保健・ 予防学会	東京 11/23 2024	堀 輝
14	シンポジウム 「様々な年代が入り混じる福岡大学病院デイ ケアの特徴と工夫している点」	第103回福岡デイケア研究 協議会	福岡 6/29 2024	吉村 裕太
15	教育セミナー これからの自殺対策に向けたシステム作りを 考える	第37回日本総合病院精神医 学会	熊本 11/30 2024	衛藤 暢明
16	How to survive the violent destruction of structures	Asia-Pacific Conference IPSO Program Paper Award Session	Australia Sydney 5/2 2024	Nobuaki Eto
17	A trial of an outpatient clinic focusing on suicide survivors in Japan	The 20th European Symposium on Suicide and Suicidal Behaviour	Rome, Italy, Aug 29th, 2024	Nobuaki Eto
18	精神分析家への訓練, そのリアル	日本精神分析協会 第42回学術大会	東京 6/9 2024	衛藤 暢明
19	(パネル) 中学生の重症自殺未遂者に対する精神分析的 アプローチ. 精神分析からみた児童精神医学 臨床	日本精神分析協会 第42回学術大会	東京 2024年6月9日	衛藤 暢明
20	(シンポジウム) 救急医療で出会う自殺企図者とその家族の精 神療法. 精神療法委員会 委員会企画シンポ ジウム コンサルテーション・リエゾン場面 における精神療法について	第120回日本精神神経学会 学術集会	札幌市 2024年6月21日	衛藤 暢明

21	(シンポジウム) 総合病院における集団精神療法との出会いと 学びについて。一般シンポジウム 集団精神 療法と出会うには－教育と研修、そして実践 へ－	第120回日本精神神経学会 学術集会	札幌市 2024年6月21日	衛藤 暢明
22	(シンポジウム) 新型コロナウイルスと自殺未遂者。一般シン ポジウム 自殺未遂者ケアのいま	第120回日本精神神経学会 学術集会	札幌市 2024年6月22日	衛藤 暢明
23	(シンポジウム) 精神科で行う自死遺族のケア。自殺遺族のケ ア	第48回日本自殺予防学会	埼玉市 2024年9月15日	衛藤 暢明
24	(シンポジウム) 指定発言。コロナ禍における自殺の実態	第48回日本自殺予防学会	埼玉市 2024年9月15日	衛藤 暢明
25	(パネル) 思春期の自殺	第18回思春期医学臨床講習会 日本小児科学会	福岡市 2024年10月13日	衛藤 暢明
26	(パネル) 力動的精神医学からみた自殺予防とポストベ ンション	日本精神分析学会 第70回大会 教育研修セミ ナー	名古屋市 2024年11月8日	衛藤 暢明
27	(パネル) 大学病院での臨床とプライベート・プラク ティス。プライベート・プラクティスを構成 するもの	日本精神分析学会 第70回大会 医療問題員 会・臨床心理委員会合同企 画	名古屋市 2024年11月9日	衛藤 暢明
28	(シンポジウム) 精神分析からみた災害支援－同時多発的心的 外傷に向き合う－大会シンポジウム 精神力 動的アプローチの現状と課題	日本精神分析学会 第70回大会 医療問題員 会・臨床心理委員会合同企 画	名古屋市 2024年11月10日	衛藤 暢明
29	(シンポジウム) 若年者の自殺企図への対応。令和6年度 第 14回自殺対策講演会「ライフステージに応じ た自殺予防の多様性～若年者、働く世代、高 齢者～」	日本精神神経科診療所協会	オンライン 2024年2月16日	衛藤 暢明
30	(シンポジウム) 思春期の自殺予防	日本社会精神医学会 共催シンポジウム	東京 2025年3月13日	衛藤 暢明
31	強迫神経症の中年男性に対する精神分析療法	日本精神分析協会 第42回学術大会	東京 2024年6月8日	衛藤 暢明
32	(シンポジウム) 「明日から使える実臨床における向精神薬使 用の新常識2024」	第54回日本神経精神薬理学会 第34回日本臨床精神神経 薬理学会合同年会	東京 2024年5月24日	飯田 仁志
33	(シンポジウム) 「ECT 地域連携システムの構築とその将来 像：ECT の均てん化に向けて」	第120回日本精神神経学会 学術総会	札幌 2024年6月21日	飯田 仁志
34	(ワークショップ) 「うつ病を有する女性患者の妊娠・出産にどう 対応するか？～模擬症例を通して考える～」	第120回日本精神神経学会 学術総会	札幌 2024年6月21日	飯田 仁志
35	(ワークショップ) 「統合失調症心理教育ワークショップ～上手 な診察の受け方のコツ（うけコツ）～」	第120回日本精神神経学会 学術総会	札幌 2024年6月21日	飯田 仁志
36	(パネルディスカッション) 「周産期リエゾンにおける臨床実践」	第37回日本総合病院精神医 学会総会	熊本 2024年11月29日	飯田 仁志

〈国内研究助成金〉

1	オミックスと長期評価による適切なゴールを目指す気分障害の革新的治療の基盤構築	文部科学省 基盤研究 C	2024	堀 輝 (代表者：加藤 正樹)
2	緊張病の分子生物学的病態解明を目指した横断/縦断研究	文部科学省 基盤研究 C	2024	堀 輝 (代表者：嶺北 佳輝)
3	認知症徘徊者検知システムの実証実験と介護者の介護負担度への影響	文部科学省 基盤研究 C	2024	堀 輝 (代表者：掛田 遥)
4	交替勤務うつ病労働者の復職に関する多面的研究	文部科学省 基盤研究 C	2024	堀 輝 (代表者)
9	精神医療分野における治療の質を評価するQIとその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証	日本医療研究開発機構 (AMED)	2023/4～2025/3	堀 輝 (代表者：橋本 亮太)
10	AI 技術を活用した統合失調症の早期診断医療機器プログラムの開発	日本医療研究開発機構 (AMED)	2021/4～2026/3	堀 輝 (代表者：橋本 亮太)
5	自殺念慮をもつ身体疾患のある在宅療養者に対する訪問看護実践ガイドラインの開発	厚生労働省 科研	2023-2027	衛藤 暢明 (代表者：千々岩友子)
6	双極性障害エピソードノムマーカーと薬剤反応性についての検討	文部科学省 基盤研究 C	2024	菅原 裕子 (代表)
7	精神病性うつ病の異質性と薬物治療反応性についての検討	若手・女性研究基盤構築 支援事業	2024	菅原 裕子
8	自殺関連行動後の患者に対する精神科デイケアの効果についての検討	臨床研究奨励基金	R5.10.2～ R6.10.1	吉村 裕太

〈学会活動〉

1	日本臨床精神神経薬理学会	理事	2024	堀 輝
2	日本スポーツ精神医学会	理事	2024	堀 輝, 横山 浩之
3	日本デイケア学会	理事	2024	飯田 仁志, 横山 浩之
4	九州集団療法研究会	理事	2024	吉村 裕太
5	躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会	幹事	2024	堀 輝
6	日本精神神経学会	代議員	2024	堀 輝, 衛藤 暢明
7	日本生物学的精神医学会	評議員	2024	堀 輝
8	九州精神神経学会	評議員	2024	堀 輝
9	日本ストレス学会	評議員	2024	堀 輝
10	日本神経精神薬理学会	評議員	2024	堀 輝
11	日本総合病院精神医学会	評議員	2024	堀 輝
12	日本臨床精神神経薬理学会	評議員	2024	堀 輝, 菅原 裕子
13	日本うつ病学会	評議員	2024	堀 輝, 菅原 裕子
14	日本スポーツ精神医学会	評議員	2024	堀 輝, 畑中 聡仁, 横山 浩之

15	日本デイケア学会	評議員	2024	飯田 仁志, 横山 浩之
16	日本社会精神医学会	評議員	2024	衛藤 暢明
17	日本自殺予防学会	評議員	2024	衛藤 暢明
18	日本精神分析学会	運営委員	2024	衛藤 暢明

〈研究に関係した賞〉

1	IPSO (International Psychoanalytic Studies Organization) Paper Award	How to survive the violent destruction of structures	2024	Nobuaki Eto
2	PCN Reports reviewer award	日本精神神経学会	2024	堀 輝
3	2023 PCN Reviewer Awards	日本精神神経学会	2024	菅原 裕子
4	NPPR Reviewer Award 2024	日本神経精神薬理学会	2024	菅原 裕子

小児科学

〈原著〉

1	研修基幹施設における成育基本法に関する意識調査	日本小児科学会雑誌	128(3) : 535-542 2024	永光信一郎, 三牧 正和, 田中 恭子, 種市 尋宙, 今西 洋介, 上原 里程, 神蘭 淳司, 小松 充孝, 阪下 和美, 重見 大介, 仙田 昌義, 西崎 直人, 藤井智香子, 堀内 清華, 岬 美穂, 吉原 重美, 井原 健二, 日本小児科学会成育基本法推進委員会
2	心身相関をベースとした子どもの心の診療連携における課題と提言	日本小児科学会雑誌	128(6) : 851-858 2024	田中 恭子, 岡田あゆみ, 永光信一郎 他
3	ヒトパピローマウイルス (HPV: Human papillomavirus) ワクチン接種を促進するための検討: 福岡大学でのアンケート調査の結果を基に	思春期学	42(2) : 353-363 2024	児島加奈子, 瀬戸上貴資, 伊東 和俊, 西岡 笑子, 岡山 久代, 松浦 賢長, 川名 敬, 榊原 秀也, 永光信一郎
4	Co-culture of vascular endothelial cells enhances corticosterone production in steroid hormone-producing cells generated from adipose-derived mesenchymal stromal cells	Scientific reports	14(1) : 18804 2024	Niimi T, Tanaka T, Aoyagi C, Onda Y, Nagamitsu S, Kodama S
5	Body weight and eating attitudes influence improvement of depressive symptoms in children and preadolescents with eating disorders: a prospective multicenter cohort study	BMC Pediatrics	24(1) : 551 2024	Suzuki Y, Nagamitsu S, Eshima N, Inoue T, etc
6	Clinical Significance of miR-4535 and miR-191-5p in Maternal Serum as Independent Biomarkers for Severe Chorioamnionitis.	Cureus	16(10) : e72120 2024	Ishida K, Kiyoshima C, Urushiyama D, Hirakawa T, Imi S, Hamasaki M, Nagamitsu S, Nomiyama M, Hata K, Yotsumoto F.
7	精神疾患患者を親にもつ子どもへのインタビュー調査	子どもの心とからだ	33(3) : 298-306 2024	松岡美智子, 石井 隆大, 永光信一郎, 小曾根基裕

8	Assessment of intra-amniotic colonization based on copy numbers of 16S ribosomal deoxyribonucleic acid: A diagnostic and prognostic study	J Obstet Gynaecol Res	51(2): e16223 2025 Feb	Urushiyama D, Kiyoshima C, Hirakawa T, Shibata M, Imi S, Kurakazu M, Miyata K, Setoue T, Nagamitsu S, Nomiya M, Nakabayashi K, Yotsumoto F, Hata K, Miyamoto S
9	Infantile Epileptic Spasms Syndrome Complicated by Leigh Syndrome and Leigh-Like Syndrome: A Retrospective, Nationwide, Multicenter Case Series.	Pediatric Neurology	157: 29-38 2024	Sasaki M, Okanishi T, Matsuoka T, Yoshimura A, Maruyama S, Shiohama T, Hoshino H, Mori T, Majima H, Matsumoto H, Kobayashi S, Chiyonobu T, Matsushige T, Nakamura K, Kubota K, Tanaka R, Fujita T, Enoki H, Suzuki Y, Nakamura S, Fujimoto A, Maegaki Y.
10	ジュベール症候群関連疾患を有し精神運動発達遅滞を呈した1歳児においてホームエクササイズが発達を促進する一助となった1症例	小児理学療法学	2(1): 16-23 2024	山本 晨平, 吉田 泰子, 押川 達郎, 小川 厚, 井上 貴仁, 塩手 仁也, 藤井 裕子, 伊崎 輝昌
〈症例報告〉				
1	COVID-19流行下の受診控えにより相対的亜鉛過剰による銅欠乏性貧血をきたした医療的ケア児の1例	小児内科	56(4): 723-725 2024	宗近 瑞希, ハツ賀秀一, 林 仁美, 佐々木聡子, 女川 裕馬, 笹岡 大記, 永光信一郎
2	頭頂葉に生じた Spontaneous superficial parenchymal and leptomeningeal hemorrhage (SSPLH) の2例	福岡大学医学紀要	51(2): 71-76 2024	藤川紘志朗, 瀬戸上貴資, 児島加奈子, 松川 格, 小寺 達朗, 音田 泰裕, 川野 裕康, 新居見俊和, 太田 栄治, 永光信一郎
3	著明な成長障害にもかかわらず診断まで4年を要した萎縮性甲状腺炎	福岡大学医学紀要	51(2): 77-80 2024	佐伯 瞳, 古賀 信彦, 児島加奈子, 佐々木聡子, ハツ賀秀一, 永光信一郎
4	Acute liver failure worsened after respiratory syncytial virus infection in an infant with spinal muscular atrophy type I after receiving onasemnogene abeparvovec.	Brain and Development Case Reports	2(3): 100022 2024	Sakemi S, Fujita T, Kaku N, Yatsuga S, Ito K, Sasaoka D, Yamaguchi H, Hayashi H, Inoue T, Higashi K, Sakai Y, Ohga S, Nagamitsu S.
5	知的運動退行を伴うけいれん発作、情動脱力発作を呈し、新生児期の肝障害の既往を契機に Niemann-Pick 病 C 型の診断に至った9歳男児	脳と発達	56(3): 225 2024	岡田 真人, 丸山 大地, 武谷 一徹, 酒見 菖平, 淀川 弘章, 藤井 裕子, 塩手 仁也, 平井 貴彦, 小川 厚, 井上 貴仁
〈総説〉				
1	思春期の特性と必要な配慮 思春期診療の現状と思春期健診 思春期健診マニュアル, ヘルスプロモーション	小児内科	56(9): 1318-1323 2024	永光信一郎

2	カレントセラピー 川崎病－最近の進歩－：「免疫グロブリン」	ライフメディコム	42(4)：312-316 2024	吉兼由佳子
3	ポストコロナを見据えた小児医療～ライソゾーム病，重症複合免疫不全症，脊髄性筋萎縮症の拡大新生児スクリーニングをふまえて～	佐賀県小児科医報	50：2-6 2024	井上 貴仁
4	点状軟骨異形性症	周産期医学	54(12)：1654-1658 2024	ハツ賀秀一

〈著書〉

1	小児チック症診療ガイドライン	診断と治療社	2024	チック症診療ガイドライン 策定ワーキンググループ (永光信一郎)/編
2	こどもたちのための Well-Care Visits マニュアル	令和5年度こども家庭科学 研究費補助金「身体的・精神的・社会的 (biopsychosocial) に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究」班	2024	永光信一郎 (研究代表者)
3	1 か月児健康診査マニュアル	令和6年度こども家庭科学 研究費補助金「こどもの健やかな成長・発達のためのバイオサイコソーシャルの観点 (身体的・精神的・社会的な観点) からの切れ目のない支援の推進のための研究」班	2024	永光信一郎 (研究代表者)

〈国際学会と国内学会 (シンポジウムまたは招待講演) 発表〉

1	RELIABLE PREDICTION OF CORONARY ARTERY LESIONS DUE TO THE TREATMENT-RESISTANT KAWASAKI DISEASE PRIOR TO INITIAL TREATMENT WITH NEUTROPHILS AND TOTAL BILIRUBIN VALUES	4th International Kawasaki Disease Symposium	Montreal, October 26-29, 2024	Yukako Yoshikane, Tatsuki Miyamoto, Shinichiro Nagamitsu
2	Development of a biomarker to predict refractory cases in Kawasaki disease patients -towards the development of diagnostic kit-	American Heart Association Scientific Sessions	Chicago November. 16-18 2024	Yukako Yoshikane, Ryuji Fukazawa, Makoto Watanabe, Atsuhito Takeda, Shinichi Takatsuki, Keiichi Hirono, Taichi Kato, Kazuyuki Ikeda, Naho Kobayashi, Kenji Suda, Hazumu Nagata, Kyoko Imanaka-Yoshida
3	Parathyroid adenoma in a 12-year-old boy with incidental hypercalcemia	The 62nd Annual ESPE Meeting 2024	Liverpool November. 16-18 2024	Nobuhiko Koga, Shuichi Yatsuga, Hitomi Saiki, Kanako Kojima, Fusako Sasaki, Shinichiro Nagamitsu

4	(教育講演) 中高生の自殺願望とメンタルヘルス対策	第71回日本小児保健協会 学術集会	札幌 6/23 2024	永光信一郎
5	(シンポジウム) 子供のスリープヘルス疫学研究から社会実装 に向けて	第48回日本睡眠学会 学術集会	神奈川 7/19 2024	永光信一郎
6	(特別講演) 5歳児健診と発達障害診療	第51回西濃小児科医会 学術講演会	岐阜 9/14 2024	永光信一郎
7	(特別講演) こども未来戦略 - 5歳児健診 -	第49回静岡県小児保健協会 学術集会	静岡 12/1 2024	永光信一郎
8	(シンポジウム) 子どもの摂食障害への対応力向上を目指して	第64回日本心身医学会 九州地方会	福岡 2/8 2025	永光信一郎
9	(特別講演) 小児科医の挑戦 - 5歳児健診をすべてのこどもに -	第164回日本小児科学会 栃木県地方会	栃木 3/16 2025	永光信一郎

〈国内研究助成金〉

1	こどもの健やかな成長・発達のためのバイオサイコソーシャルの観点（身体的・精神的・社会的な観点）からの切れ目のない支援の推進のための研究	こども家庭科学研究費 補助金	2024	永光信一郎（代表）
2	成育医療等基本方針に基づいた指標・施策の中間評価，およびモニタリングに関する研究	こども家庭科学研究費 補助金	2024	永光信一郎 （代表者：山縣然太郎）
3	母子保健情報のデジタル化とデータの利活用を推進するための研究	こども家庭科学研究費 補助金	2024	永光信一郎 （代表者：梅澤 明弘）
4	思春期のメンタルヘルス診断・予防的支援としての ICT を活用した「こころの学校健診」開発研究	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)	2024	永光信一郎 （代表者：土生川千珠）
5	ギガスクールを活用した子どものメンタルヘルス支援 - 教育・医療連携アプリの開発 -	学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）	2024	永光信一郎（代表）
6	子どものメンタルヘルス疾患に対する ICT を活用した早期介入実装化研究	福岡大学領域別重点研究	2024	永光信一郎（代表）
7	新規リコンビナント免疫グロブリン製剤の開発と臨床応用を目指す研究 科学研究費助成事業	学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）	2024	吉兼由佳子（代表）
8	効率的な免疫グロブリン製剤の川崎病急性期治療薬への応用	領域別研究部研究チーム (生命科学研究部)	2024	吉兼由佳子（代表）
9	新生児ウレプラズマ感染症の病態解析と治療戦略の確立	日本学術振興会科学研究費 若手研究	2024	伊東 和俊（代表）

10	ミトコンドリア病の診療水準や QOL 向上を目指した調査研究	厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患政策研究事業)	2024	ハツ賀秀一 (代表者：三牧正和)
----	--------------------------------	-------------------------------	------	---------------------

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第8回日本小児内分泌学会九州・沖縄地方会	福岡大学病院 福大メディカルホール	2/23, 2025	佐々木聡子
---	----------------------	----------------------	---------------	-------

〈学会活動〉

1	日本小児心身医学会	理事長	～2024.9	永光信一郎
2	日本小児心身医学会	理事，代議員	2024	永光信一郎
3	日本思春期学会	理事	2024	永光信一郎
4	子どものこころ専門医機構	理事	2024	永光信一郎
5	日本睡眠協会	理事	2024	永光信一郎
6	日本小児保健協会	理事	2024	永光信一郎
7	日本睡眠学会	幹事	2024	永光信一郎
8	日本小児神経学会	評議員	2024	永光信一郎，藤田 貴子， ハツ賀秀一
9	日本小児科学会	代議員	2024	永光信一郎，吉兼由佳子
10	日本小児内分泌学会	評議員	2024	ハツ賀秀一
11	日本内分泌学会	評議員	2024	ハツ賀秀一
12	日本ミトコンドリア学会	評議員	2024	ハツ賀秀一
13	日本川崎病学会	代議員	2024	吉兼由佳子
14	日本臨床神経生理学会	代議員	2024	藤田 貴子

皮膚科学

〈原著〉

1	Deucravacitinib in plaque psoriasis: 2-year safety and efficacy results from the phase 3 poetyk trials.	Br J Dermatol	190(5): 668-679, 2024	Lebwohl M, Warren RB, Sofen H, Imafuku S, Paul C, Szepietowski JC, Spelman L, Passeron T, Vritzali E, Napoli A, Kisa RM, Buck A, Banerjee S, Thaçi D, Blauvelt A.
2	Mature IL-36 γ Induces Stratum Corneum Exfoliation in Generalized Pustular Psoriasis by Suppressing Corneodesmosin.	J Invest Dermatol	144(4): 764-773, e4, 2024	Sato E, Imayoshi H, Tsutsui Y, Shimizu H, Imafuku S.
3	Dose escalation of biologic treatment in patients with moderate-to-severe psoriasis in Japan.	Exp Dermatol	33(5): e15067, 2024	Tada Y, Soliman AM, Ishii K, Sakuma R, Pinter A, Davis M, Nunag D, Buessing M, Puig L, Imafuku S.

4	Comparative effectiveness of treatments on time to remission in atopic dermatitis: real-world insights.	J Cutan Immunol Allergy	7:12974, 2024	Sato E, Arima H, Ito K, Iwata M, Imafuku S.
5	Systemic therapy for psoriasis and the risk of cutaneous infections.	J Dermatol	51(7): 939-949, 2024	Higashi Y, Imafuku S, Tsuruta N, Murotani K, Western Japan Inflammatory Skin Disease Research Group
6	Safety and effectiveness of apremilast in Japanese patients with psoriatic disease: Results of a post-marketing surveillance study.	J Dermatol	51(7): 950-963, 2024	Ohtsuki M, Okubo Y, Saeki H, Igarashi A, Imafuku S, Abe M, Chaudhari S, Yaguchi M, Emoto A, Morita A.
7	Exploratory Efficacy Evaluation of Apremilast for the Treatment of Japanese Patients with Palmoplantar Pustulosis: 32-Week Results from a Phase 2, Randomized, Placebo-Controlled Study.	Derma Ther (Heidelb)	14(7): 1863-1873, 2024	Okubo Y, Terui T, Kobayashi S, Sano S, Morita A, Imafuku S, Tada Y, Abe M, Yaguchi M, Kimura T, Shimauchi J, Zhang W, Amouzadeh H, Murakami M.
8	Cendakimab in Patients With Moderate to Severe Atopic Dermatitis: A Randomized Clinical Trial.	JAMA Dermatol	160(8): 856-864, 2024	Blauvelt A, Guttman-Yassky E, Lynde C, Khattri S, Schlessinger J, Imafuku S, Tada Y, Morita A, Wiseman M, Kwiek B, Machkova M, Zhang P, Linaberry M, Li J, Zhang S, Franchin G, Charles ED, De Oliveira CH MC, Silverberg JI.
9	An exploratory study of the efficacy and safety of amenamevir for the treatment of herpes zoster in patients receiving immunosuppressive drugs.	J Dermatol	51(10): 1279-1289, 2024	Imafuku S, Takeuchi S, Urabe K, Arakawa M, Sasaki R, Oka D, Yamamoto T, Ono F, Shirahama S, Yasumoto S, Fukuda H.
10	Spesolimab, the first-in-class anti-IL-36R antibody: From bench to clinic.	J Dermatol	51(11): 1379-1391, 2024	Morita A, Okubo Y, Imafuku S, Terui T.
11	Real-world safety and efficacy of biologics in elderly patients with psoriasis: A multicenter observational study.	J Dermatol	51(12): 1634-1640, 2024	Ohata C, Anezaki H, Yanase T, Katayama E, Kaneko S, Saito K, Yamane M, Nakamaru S, Tsuruta N, Okazaki F, Ito K, Kikuchi S, Koike Y, Miyagi T, Sugita K, Nakahara T, Takezaki D, Saruwatari H, Yoshida Y, Yonekura K, Higashi Y, Sawada Y, Chinuki Y, Yamaguchi K, Imafuku S.

- | | | | | |
|----|--|------------------|-----------------------------|---|
| 12 | Deucravacitinib onset of action and maintenance of response in phase 3 plaque psoriasis trials. | J Dermatol Treat | 35(1) :
2371045,
2024 | Korman NJ, Warren RB, Bagel J, Armstrong AW, Gooderham M, Strober B, Thaçi D, Morita A, Imafuku S, Foley P, Sofen H, Zheng M, Hippeli L, Kisa RM, Banerjee S, Blauvelt A. |
| 13 | Expert consensus on systemic therapy for plaque psoriasis with limited skin involvement in JAPAN: Results from a DELPHI study. | J Dermatol | 52(1) :
56–66,
2025 | Morita A, Okubo Y, Imafuku S, Tada Y, Abe M, Gibson AEJ, Becker F, Bogoeva N, Ohtsuki M. |
| 14 | Blood DNA virome associates with autoimmune diseases and COVID-19. | Nat Genet | 57(1) :
65–79,
2025 | Sasa N, Kojima S, Koide R, Hasegawa T, Namkoong H, Hirota T, Watanabe R, Nakamura Y, Oguro-Igashira E, Ogawa K, Yata T, Sonehara K, Yamamoto K, Kishikawa T, Sakaue S, Edahiro R, Shirai Y, Maeda Y, Nii T, Chubachi S, Tanaka H, Yabukami H, Suzuki A, Nakajima K, Arase N, Okamoto T, Nishikawa R, Namba S, Naito T, Miyagawa I, Tanaka H, Ueno M, Ishitsuka Y, Furuta J, Kunimoto K, Kajihara I, Fukushima S, Miyachi H, Matsue H, Kamata M, Momose M, Bito T, Nagai H, Ikeda T, Horikawa T, Adachi A, Matsubara T, Ikumi K, Nishida E, Nakagawa I, Yagita-Sakamaki M, Yoshimura M, Ohshima S, Kinoshita M, Ito S, Arai T, Hirose M, Tanino Y, Nikaido T, Ichiwata T, Ohkouchi S, Hirano T, Takada T, Tazawa R, Morimoto K, Takaki M, Konno S, Suzuki M, Tomii K, Nakagawa A, Handa T, Tanizawa K, Ishii H, Ishida M, Kato T, Takeda N, Yokomura K, Matsui T, Uchida A, Inoue H, Imaizumi K, Goto Y, Kida H, Fujisawa T, Suda T, Yamada T, Satake Y, Ibata H, Saigusa M, Shirai T, Hizawa N, Nakata K; Japan COVID-19 Task Force; Imafuku S, Tada Y, Asano Y, Sato S, Nishigori C, Jinnin M, Ihn H, et al. |

- 15 Safety and Efficacy of Deucravacitinib in Moderate to Severe Plaque Psoriasis for Up to 3 Years: An Open-Label Extension of Randomized Clinical Trials. JAMA Dermatol 161(1) : 56–66, 2025
Armstrong AW, Lebwohl M, Warren RB, Sofen H, Imafuku S, Ohtsuki M, Spelman L, Passeron T, Papp KA, Kisa RM, Vaile J, Berger V, Vritzali E, Hoyt K, Colombo MJ, Scotto J, Banerjee S, Strober B, Thaçi D, Blauvelt A.
- 16 Psychological burden and its correlates in patients with chronic plaque psoriasis attending three tertiary care centers in Sri Lanka. Arch Dermatol Res 317(1) : 269, 2025
Liyanage A, Liyanage G, Wijenayake B, Yapa B, Pushparani M, De Silva V, Imafuku S, Lekamwasam s.
- 17 Deucravacitinib in Japanese patients with plaque, generalized pustular, or erythrodermic psoriasis: Patient-reported outcomes in the POETYK PSO-4 study. J Dermatol 52(2) : 353–358, 2025
Tada Y, Armstrong AW, Imafuku S, Okubo Y, Morita A, Zhong Y, Zhuo J, Becker B, Napoli A, Banerjee S, Ohtsuki M.
- 18 Global Delphi consensus on treatment goals for generalized pustular psoriasis. Br J Dermatol 192(4) : 706–716, 2025
Barker JN, Casanova E, Choon SE, Foley P, Fujita H, Gonzalez C, Gooderham M, Marrakchi S, Puig L, Romiti R, Thaçi D, Zheng M, Strober B; Partnering for Innovation and Excellence in Rare Skin Diseases (PIONEERS®) Working Group and the DELPHI Panel: Magariños G, Reich A, Nakano J, Gao X, Zhang F, El Sayed M, Welzel J, Gisondi P, Yaacob YBC, Prignano F, Tada Y, Jo SJ, van der Kerkhof P, Casanova E, Rivera R, Schmitt-Egenolf M, Tsai TF, Baskan EB, Burden D, Mostaghimi A, Reisner D, Eyerich K, Stratigos A, Pavlovsky L, Quintero DGV, Imafuku S, Becker J, Affandi A, Cortés C, Carrascosa JM, Wiseman M, Viguier MA, Bhutani T.
- 19 Cutaneous Adverse Events Following COVID-19 Vaccination in Japan: A Questionnaire Survey. Cureus 17(3) : e80257, 2025
Yamamura Y, Nakashima C, Kagawa N, Aoyama Y, Yamamoto A, Kawahira H, Kubota Y, Nakajima S, Nakahara T, Fuyuno Y, Tsuruta D, Matsumoto A, Matsuo R, Abe R, Yuki A, Takahashi H, Takahashi C, Imafuku S, Sato E, Fujiwara S, Yasuda M, Tada Y, Hayashi K, Katoh N, Watanabe D, Otsuka A.

20	Efficacy and safety of nemolizumab and topical corticosteroids for prurigo nodularis: results from a randomized double-blind placebo-controlled phase II/III clinical study in patients aged ≥ 13 years.	Br J Dermatol	191 (2) : 200-208, 2024	Yokozeaki H, Murota H, Matsumura T, Komazaki H; Nemolizumab-JP11 Study Group: Abe M, Abe R, Amano H, Anzai S, Arase N, Asahina A, Chinuki Y, Fujimoto M, Fujita N, Fukumoto T, Fukunaga A, Fukuzawa M, Hamada T, Hattori T, Hayashi K, Higuchi T, Honda T, Idezuki T, Igarashi A, Igawa K, Igawa S, Imafuku S, Kamiya H, Kanazawa N, Katagiri K, Kataoka Y, Kato A, Katoh N, Katsunuma T, Kawachi Y, Kume A, Manabe K, Maruyama R, Matsumoto K, Matsuyama T, Mitsui H, Miyagaki T, Mizukawa Y, Mizutani Y, Morita A, Moriwaki S, Muto J, Nagano T, Nakahara T, Nishie H, Ogita A, Oiso N, Otsuka A, Sakai H, Satoh T, Seishima M, Shibata-Kikuchi S, Shirasaki F, Suga Y, Sugiura K, Taguchi S, Takagi H, Takahashi H, Takahashi S, Takahashi T, Tanaka A, Tanizaki H, Toyofuku K, Tsukamoto K, Umebayashi Y, Urabe K, Watanabe D, Watanabe H, Watanabe K, Yagami A.
----	---	---------------	-------------------------------	--

〈症例報告〉

1	活性型ビタミン D3外用薬により高カルシウム血症を生じた尋常性乾癬の1例	西日本皮膚科	86 (2) : 136-142, 2024	荒巻ひろ, 山口 和記, 今福 信一
2	好酸球性心筋炎を併発した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の1例	西日本皮膚科	86 (3) : 223-228, 2024	吉村 麻衣, 大賀 保範, 今福 信一
3	再発性多発軟骨炎と大球性貧血を来し, 遺伝子検査にて診断し得た VEXAS 症候群の1例	西日本皮膚科	86 (3) : 243-246, 2024	高野 彩加, 佐藤 絵美, 筒井 ゆき, 古賀 佳織, 今福 信一
4	乳児時から長期間観察し, COVID-19感染後に使用したセクキヌマブで安定した小児乾癬の1例	西日本皮膚科	86 (4) : 373-379, 2024	荒巻ひろ, 伊藤宏太郎, 今福 信一
5	未治療のアトピー性皮膚炎患者に発症した感染性心内膜炎の1例	西日本皮膚科	86 (4) : 395-400, 2024	大久保和貴子, 柴山 慶継, 古賀 佳織, 今福 信一
6	A case of bullous pemphigoid following administration of anti-IL-31 receptor A antibody.	J Dermatol	51 (9) : 1252-1255, 2024	Masuyuki R, Sato E, Imafuku S.

〈総説〉

- | | | | | |
|----|---|----------------------|-----------------------|--|
| 1 | Multiple linear spiradenomas and ALPK1 mutation: A case report and literature review. | Australas J Dermatol | 65(1): 71-73, 2024 | Furukawa Y, Koga M, Oyama T, Koga K, Takagi S, Imafuku S. |
| 2 | アトピー性皮膚炎患者への抗 IL-4受容体 α 鎖抗体製剤, 抗 IL-13抗体製剤使用時の眼科的注意点 | 西日本皮膚科 | 86(1): 9-15, 2024 | 海老原伸行, 今福 信一, 栗本沙里奈, 大槻マミ太郎 |
| 3 | 【水疱をきたす疾患】単純ヘルペスの抗体価, 拡散検査を再考する | 皮膚病診療 | 46(3): 220-224, 2024 | 宮地 素子, 今福 信一 |
| 4 | 【最近のトピックス2024】皮膚疾患治療のポイント 再発性単純ヘルペスのアメナメビルによる patient initiated therapy | 臨床皮膚科 | 78(5): 137-140, 2024 | 今福 信一 |
| 5 | JAK 阻害薬使用中のヘルペス感染症 その対策の “あと一步” | MB Derma | 348: 115-124, 2024 | 今福 信一 |
| 6 | 図説 Pacinian Neuroma | 西日本皮膚科 | 86(5): 449-450, 2024 | 三原 崇, 佐藤 絵美, 松田 絵奈, 古賀 佳織, 今福 信一 |
| 7 | 【各疾患まだわかっていないこと】アトピー性皮膚炎 | 皮膚科 | 6(5): 417-423, 2024 | 佐藤 絵美 |
| 8 | 【最近のトピックス2024】皮膚疾患の病態 汎発型膿疱性 | 臨床皮膚科 | 78(5): 60-64, 2024 | 佐藤 絵美 |
| 9 | 臨床検査 Q&A ツァンク試験での注意点や細胞像鏡検のコツなどがあれば教えて下さい | Medical Technology | 52(4): 411-413, 2024 | 古賀 文二, 古賀 佳織 |
| 10 | リウマチ性疾患の皮膚病変について | 九州リウマチ | 45(1): 8-12, 2025 | 今福 信一 |
| 11 | 带状疱疹診療ガイドライン2025 | 日本皮膚科学会雑誌 | 135(3): 527-556, 2025 | 浅田 秀夫, 伊東 秀記, 西村 友紀, 今福 信一, 小野 文武, 新熊 悟, 渡辺 大輔, 松尾 光馬, 山口 重樹, 山本 剛伸, 柴田 知之, 井上 幸次, 外山 望, 岡 大五, 羽藤 直人 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|------------------|----------------------|--------------------------|--------------|
| 1 | 疾患編21 結節性紅斑 | 治りにくい皮膚疾患・どうする？ | メディカルレビュー社 p.54-55, 2024 | 佐藤 絵美, 今福 信一 |
| 2 | XV感染症 Bウイルス 2.水痘 | 皮膚疾患 最新の治療 2025-2026 | 南江堂 p.199 | 清水 裕毅 |

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|--------------------------|----------------|---------------|-------|
| 1 | （教育講演）
専門医試験および更新の注意点 | 第123回日本皮膚科学会総会 | 京都 6/6-9 2024 | 今福 信一 |
|---|--------------------------|----------------|---------------|-------|

2	(教育講演) 専門医試験および更新の注意点	第76回日本皮膚科学会西部 支部学術大会	徳島 9/7-8 2024	今福 信一
3	(教育講演) 専門医試験および更新の注意点	第88回日本皮膚科学会東部 支部学術大会	宮城 9/14-15 2024	今福 信一
4	(教育講演) 専門医試験および更新の注意点	第75回日本皮膚科学会中部 支部学術大会	愛知 10/12-13 2024	今福 信一
5	治りにくい皮膚疾患・どうする？ 【オンデマンド】結節性紅斑	第75回日本皮膚科学会中部 支部学術大会	愛知 10/12-13 2024	佐藤 絵美, 今福 信一
6	(教育講演) 専門医試験および更新の注意点	第88回日本皮膚科学会東京 支部学術大会	東京 11/16-17 2024	今福 信一
7	Real-World Data on Systemic Interventions for Psoriasis in Japan: Biologics, Small Molecules, and Treatment Persistence.	2025 32nd KSID Annual Meeting	Seoul, Korea March 28-29 2025	Imafuku S, Sato A, Tsuruta N, Arima H.
8	Frequency of acne and acne scars in patients with neurofibromatosis 1.	2024 Global Neurofibromatosis Conference	Brussels, Belgium June 20-25 2024	Koga M, Imafuku S.
9	Mature IL-36 γ Induces Stratum Corneum Exfoliation in Generalized Pustular Psoriasis by Suppressing Corneodesmosin.	2nd Asian Society for Psoriasis 2024 in Seoul	Seoul, Korea August 31 2024	Imafuku S, Sato A, Tsuruta N, Arima H.
10	Characteristics of psoriatic arthritis patients with digital radiological deformity in Fukuoka University Psoriasis Registry.	2nd Asian Society for Psoriasis 2024 in Seoul	Seoul, Korea August 31 2024	Shimizu H, Muratani S, Katayama S, Ohga Y, Sato E, Naito R, Shibayama Y, Koga M, Ito K, Imafuku S.
11	Herpes Zoster and Herpes Simplex Infections in Patients From Japan and Korea With Moderate-to-Severe Atopic Dermatitis Following Treatment With Abrocitinib in the JADE Clinical Program.	EADV Congress 2024	Amsterdam, Netherlands September 25-28 2024	Imafuku S, Hirose T, Yumoto M, Chung SB, Chittuluru K, Koppensteiner H, Yoshida M, Cho SH, Watanabe D.
12	Correlation of SF-36v2 score with disease burden and patient background in Japanese patients with psoriasis vulgaris.	The 10th International Congress Psoriasis from Gene to Clinic	London, UK December 5-7 2024	Imafuku S, Sato A, Tsuruta N, Arima H.
〈国内研究助成金〉				
1	神経皮膚症候群および色素性乾皮症・ポル フィリン症の学際的診療体制に基づく医療 最適化と患者 QOL 向上のための研究	厚生労働科学研究費 難治性疾患政策研究事業	2024	今福 信一 (代表者：朝比奈昭彦)
〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉				
1	日本皮膚科学会第412回福岡地方会	ホテルニューオータニ博多	3/9, 2025	今福 信一

〈学会活動〉

1	日本皮膚科学会	理事	2024	今福 信一
2	日本皮膚科学会西部支部	代議員	2024	今福 信一, 古賀 文二
3	日本皮膚科学会福岡地方会	監事	2024	清水 裕毅
4	日本レックリングハウゼン病学会	理事	2024	今福 信一
5	日本研究皮膚科学会	評議員・推薦委員	2024	今福 信一
6	日本脊椎関節炎学会	評議員	2024	今福 信一
7	日本皮膚免疫アレルギー学会	代議員	2024	今福 信一
8	日本乾癬学会	理事	2024	今福 信一
9	福岡市性感染症（STD）研究会	顧問	2024	今福 信一
10	日本小児皮膚科学会	運営委員	2024	今福 信一
11	日本性感染症学会	代議員	2024	今福 信一

〈研究に関係した賞〉

1	Mature interleukin-36 γ induces stratum corneum exfoliation in generalized pustular psoriasis by suppressing corneodesmosin	第7回 Janssen Psoriasis Award 基礎研究部門金賞	2024	佐藤 絵美
---	--	--------------------------------------	------	-------

放射線医学

〈原著〉

1	Multiparametric assessment of microvascular invasion in hepatocellular carcinoma using gadoxetic acid-enhanced MRI	Abdom Radiol (NY)	49(5): 1467-1478, 2024	Fujita N, Ushijima Y, Ishimatsu K, Okamoto D, Wada N, Takao S, Murayama R, Itoyama M, Harada N, Maehara J, Oda Y, Ishigami K, Nishie A
2	Gallbladder fossa nodularity in the liver as observed in alcoholic liver disease patients: Analysis based on hepatobiliary phase signal intensity on gadoxetate-enhanced MRI and extracellular volume fraction calculated from routine CT data	Global Health & Medicine	30(3): 183-189, 2024	Sato K, Tanaka S, Urakawa H, Murayama R, Hisatomi E, Takayama Y, Yoshimitsu K
3	Safety and clinical contribution of computed tomography-guided biopsy for cervical spine lesion	Minim Invasive Ther Allied Technol	33(3): 171-175, 2024	Okamoto D, Ushijima Y, Fujita N, Ishimatsu K, Murayama R, Itoyama M, Ishigami K
4	特集／日常診療での超音波検査のおさえどころ：超音波検査の要点と盲点	臨床と研究	101(7): 781-786, 2024	藤光 律子, 吉満 研吾
5	【肝胆膵の common disease にみる非典型的画像所見】限局性結節性過形成	画像診断	44(12): 1154-1162 2024	高山 幸久, 村山 僚, 田中 慎二, 佐藤 圭亮, 吉満 研吾

- | | | | | |
|----|---|-------------------|--|---|
| 6 | The usefulness of combined analysis using CIScore and VSRAD parameters for differentiating between dementia with Lewy body and Alzheimer's disease | Jpn J Radiol | 42(10):
1206-1212,
2024 | Honda G, Nagamachi S,
Takahashi M, Higuma Y,
Tani T, Hida K,
Yoshimitsu K, Ogomori K,
Tsuboi Y |
| 7 | 画像診断と病理：MASLD/MASH に対する PDF 法の診断能 - NAFLD/NASH の MRI による診断能に関する知見を基に | 肝臓クリニカルアップデート | 10(2):
207-210,
2024 | 高山 幸久, 村山 僚,
田中 慎二, 佐藤 圭亮,
吉満 研吾 |
| 8 | Effectiveness of deep learning-based reconstruction for improvement of image quality and liver tumor detectability in the hepatobiliary phase of gadoteric acid-enhanced magnetic resonance imaging | Abdom Radiol (NY) | 49(10):
3450-3463,
2024 | Takayama Y, Sato K,
Tanaka S, Murayama R,
Jingu R, Yoshimitsu K |
| 9 | Heterogeneous development of liver fibrosis in chronic hepatitis C patients; assessment by extracellular volume fraction map generated from routine clinical CT data | Eur J Radiol | 182:
111845. doi:
10.1016/
j.ejrad.2024.
111845,
2025 | Hisatomi E, Tanaka S,
Sato K, Goto N,
Murayama R, Arima H,
Takayama Y, Yoshimitsu K |
| 10 | 【読影のお作法 - 連続画像スライスで追う腹骨盤部急性疾患の診断 -】
急性疾患：胆管・胆嚢
(急性胆管炎, irAE 硬化性胆管炎, 急性胆嚢炎, 胆嚢十二指腸瘻, 胆石イレウス) | 臨床画像 | 41(2):
136-146,
2025 | 高山 幸久, 村山 僚,
田中 慎二, 佐藤 圭亮,
吉満 研吾 |
| 11 | Chronological change of gallbladder fossa nodularity in the liver as observed in patients with alcoholic liver disease: cross-sectional and longitudinal observation | Jpn J Radiol | doi:10.1007/
s11604-025-
01741-5.
2025 | Sato K, Hisatomi E,
Tanaka S, Goto N,
Murayama R, Takayama Y,
Yoshimitsu K |
| 12 | The cortical high-flow sign in oligodendroglioma, IDH-mutant and 1p/19q-codeleted is correlated with histological cortical vascular density | Neuroradiology | 67(2):
291-298,
2025 | Yamashita K, Murayama R,
Itoyama M, Kikuchi K,
Kusunoki M, Kuga D,
Hatae R, Fujioka Y,
Otsuji R, Fujita N,
Yoshimoto K, Ishigami K,
Togao O |
| 13 | Prediction of the wall-invasion pattern of advanced gallbladder carcinoma using extracellular volume fraction | Jpn J Radiol | doi:10.1007/
s11604-025-
01768-8,
2025 | Takayama Y, Koga T,
Hamada Y, Tanaka S,
Sato K, Murayama R,
Ishida Y, Kajiwara M,
Yoshimitsu K |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|---|------------|-------------------------------|--|
| 1 | Desmoplastic small round cell tumor の 2 例 CT/MRI 所見 | 臨床放射線 | 69(3):
387-392,
2024 | 眞鍋 友輔, 佐藤 圭亮,
高山 幸久, 田中 慎二,
村山 僚, 後藤奈帆子,
吉満 研吾, 濱田 義浩 |
| 2 | Disappearance of hepatocellular adenoma in a patient with cornelia de lange Syndrome after treatment with transcatheter arterial embolization | Intern Med | 63(11):
1569-1573,
2024 | Takata K, Kitaguchi T,
Tokushige H, Nagata T,
Miyayama T, Shibata K,
Fukuda H, Yamauchi R,
Fukunaga A, Tanaka T,
Yokoyama K, Shakado S,
Yoshimitsu K, Kusano H,
Sakisaka S, Hirai F |

3	高度嚢胞変性と急速増大を呈し破裂に至った胃 GIST の 1 例	臨床放射線	69(6): 867-872. 2024	中原 孝, 村山 僚, 佐藤 圭亮, 田中 慎二, 高山 幸久, 横 研二, 濱田 義浩, 吉満 研吾
---	----------------------------------	-------	----------------------------	--

〈総説〉

1	勤務医会だよりー能登半島地震に寄せて	福岡市医報	65(3) No. 694 p.15, 2024	吉満研吾
2	Correction to: Multiparametric assessment of microvascular invasion in hepatocellular carcinoma using gadoxetic acid-enhanced MRI	Abdom Radiol (NY)	49(7): 2559-2560, 2024	Fujita N, Ushijima Y, Ishimatsu K, Okamoto D, Wada N, Takao S, Murayama R, Itoyama M, Harada N, Maehara J, Oda Y, Ishigami K, Nishie A
3	もうすぐ定年	画像診断	44(10): 987, 2024	吉満 研吾
4	巻頭言 “Have fun in Radiology! Have fun in Fukuoka”	新医療	51(10): 15, 2024	吉満 研吾
5	巻頭言 医療・医学教育とデジタルトランスフォーメーション (DX)	季刊 きんむ医	No.211: 1-3, 2024	吉満 研吾

〈著書〉

1	5) 肝 MRI Q43: MRI で肝線維化はわかるのでしょうか?	MRI 一問一答 撮像法選択と読影に“必ず”役立つ基礎知識 (編) 平井俊範・工藤興亮・堀 正, 株式会社 Gakken	p.233-235, 2024	高山 幸久 (分担)
2	6) 胆道系・膵 MRI Q50: 結石症をどのように撮像・読影しますか?	MRI 一問一答 撮像法選択と読影に“必ず”役立つ基礎知識 (編) 平井俊範・工藤興亮・堀 正, 株式会社 Gakken	p.250-251, 2024	佐藤 圭亮 (分担)
3	6) 胆道系・膵 MRI Q53: 胆嚢癌をどのように撮像・読影しますか?	MRI 一問一答 撮像法選択と読影に“必ず”役立つ基礎知識 (編) 平井俊範・工藤興亮・堀 正, 株式会社 Gakken	p.256-257, 2024	高山 幸久 (分担)
4	2) 胆嚢病変 2-4 胆嚢壁内の異常所見	この所見をみたらどう考える? 肝胆膵鑑別診断の Key Point (編) 石神康生, 小林 聡	p.136-146 Gakken KEYBOOK Plus, 2025	高山 幸久 (分担)

〈国際学会と国内学会 (シンポジウムまたは招待講演) 発表〉

1	(シンポジウム) (領域講習: 診断) 「MRI による躯幹部の更なる定量化/効率化～形態から機能まで～」 RSY8-3. MR エラストグラフィー: 最近の話題	第83回日本医学放射線学会 総会	横浜 4/11-4/14 2024	吉満 研吾
---	---	---------------------	-------------------------	-------

2	(シンポジウム) ROP 1-5 ECV を用いた進行胆嚢癌の筋層浸潤様式の推測	第83回日本医学放射線学会 総会	横浜 4/11-4/14 2024	高山 幸久
3	(招待講演) 肝臓の画像診断：MRE と肝癌の washout について	第9回東海肝癌フォーラム	名古屋 6/21 2024	吉満 研吾
4	(招待講演) 肝癌の画像診断：MRE と washout について	第34回北海道肝癌研究会	札幌 7/9 2024	吉満 研吾
5	(招待講演) 肝臓診療への放射線科としての関わり～MR elastography と LEN-TACE 療法	第32回鹿児島肝癌研究会	鹿児島 9/13 2024	高山 幸久
6	(招待講演) ESO3-2：DL 再構成の最先端：上腹部への応用	第52回日本磁気共鳴医学会 大会	千葉 9/20-9/22 2024	吉満 研吾
7	(シンポジウム) AI 技術 (denoise, super-resolution) を用いた腹部イメージング：技術的特徴と臨床応用の現状：Deep-learning 画像再構成技術の肝プロトコルへの応用	第52回日本磁気共鳴医学会 大会	千葉 9/20-9/22 2024	佐藤 圭亮
8	(シンポジウム) びまん性肝疾患の画像バイオマーカーの進歩と課題 SY29-3：T1p を用いた肝線維化、壊死炎症、肝機能評価	第52回日本磁気共鳴医学会 大会	千葉 9/20-9/22 2024	高山 幸久
9	(シンポジウム) 指導医養成講座 5.「放射線診断・治療」領域：MDCT	第60回 日本胆道学会学術 集会	名古屋 10/10-10/11 2024	高山 幸久
10	(招待講演) 肝の画像診断：最近の話題	第39回広島臨床画像研修会	広島 11/16 2024	吉満 研吾
11	(招待講演) 腹部（領域講習1）消化器癌画像診断のポイント「肝外胆管癌、膵癌の術前画像診断得意分野にして楽しく読影しよう」	第38回 JCR ミッドウィン ターセミナー	熊本 1/25-1/26 2025	高山 幸久
12	(シンポジウム) 腹部 これで完璧！肝外胆管癌・膵癌、直腸癌の読影レポート作成	第38回 JCR ミッドウィン ターセミナー	熊本 1/25-1/26 2025	高山 幸久
13	(招待講演) 上腹部領域における ECVmap の有用整： SURESubtraction iodine mapping vs Spectral imaging system	Advanced Imaging Seminar 2025 (AIS 2025)	東京 3/15 2025	吉満 研吾

〈国内研究助成金〉

1	320例エリアディテクタ CT を用いた新たなデータ解析手法の創成と臨床応用に関する研究	受託研究	2024	吉満 研吾 (代表)
---	--	------	------	------------

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会	福岡国際会議場	10/18-20 2024	吉満 研吾
2	第46回九州 IVR 研究会	アクロス福岡	12/21 2024	吉満 研吾

〈学会活動〉

1	日本腹部放射線学会	副代表理事	2024	吉満 研吾
2	日本画像医学会	理事	2024	吉満 研吾
3	日本肝癌研究会	理事	2024	吉満 研吾
4	Asian Society of Abdominal Radiology (アジア腹部放射線学会)	理事	2024	吉満 研吾
5	APLIS	幹事	2024	吉満 研吾
6	APPLE (The Asia-Pacific Primary Liver Cancer Expert Association)	幹事	2024	吉満 研吾
7	日本医学放射線学会	代議員	2024	吉満 研吾, 高山 幸久
8	日本磁気共鳴医学会	代議員	2024	吉満 研吾
9	日本がん検診・診断学会	評議員	2024	吉満 研吾
10	日本核医学会 評議員	評議員	2024	吉満 研吾
11	肝血流動態・機能イメージ研究会	代表世話人	2024	吉満 研吾
12	日本消化器病画像診断研究会	執行部世話人	2024	吉満 研吾
13	断像画像研究会	世話人	2024	吉満 研吾
14	臨床消化器病研究会	世話人	2024	吉満 研吾
15	日本腹部造影エコー・ドプラ診断研究会	世話人	2024	吉満 研吾
16	日本肝がん分子標的治療研究会	世話人	2024	吉満 研吾
17	日本 IVR 学会	代議員	2024	高山 幸久
18	第60回日本医学放射線学会秋季臨床大会	事務局長	2024	高山 幸久
19	九州 IVR 研究会	事務局長	2024	高山 幸久

〈研究に関係した賞〉

1	JCR ニュース画像診断症例クイズ Question 35	一般社団法人 日本放射線 科専門医会・医会 最優秀賞	2024	佐藤 圭亮
2	JCR ニュース画像診断症例クイズ Question 37	一般社団法人 日本放射線 科専門医会・医会 最優秀賞	2024	佐藤 圭亮

消化器外科学

〈原著〉

1	Complications associated with loop ileostomy: analysis of risk factors	Techniques in Coloproctology	doi:10.1007/ s10151-024- 02926-2024	Matsumoto Y, Aisu N, Nagano H, Yoshimatsu G, Hasegawa S
2	Association Between Changes in Plasma Capecitabine Concentrations and Adverse Events in the Treatment of Colorectal Cancer.	Cureu	doi:10.7759/ cureus.71341 2024	Hashimoto Y, Yoshida Y, Yamada T, Yoshimatsu G, Yoshimura F, Hasegawa S

3	Enzymatic Fat Dissolution Improves Detection of Small Lymph Nodes in Colon Cancer Surgery	Cureu	doi:10.7759/cureus.53792 2024	Kajitani R, Munechika T, Matsumoto Y, Nagano H, Aisu N, Yoshimatsu G, Yoshimura F, Hasegawa S
4	A pilot study on the safety and efficacy of neoadjuvant chemo-adoptive immunotherapy for locally advanced rectal cancer	Oncology Letters	doi.org/10.3892/ol.2024.14234 2024	Okazawa Y, Yoshida Y, Yamada T, Hasegawa S et al.
5	Effect of heating insufflation tube of AirSeal system on laparoscopic surgery .	Scientific Reports	doi:10.1038/s41598-023-50321-y. 2024	Yoshimatsu G, Sahara K, Ohno R, Kajitani R, Munechika T, Matsumoto Y, Nagano H, Watanabe T, Aisu N, Yoshida Y, Hasegawa S
6	Robotic Left Hepatectomy Using the Glissonean Approach and Saline-Linked Bipolar Clamp-Crush Technique .	The International Journal of Medical Robotics and Computer Assisted Surgery .	doi:10.1002/rcs.2674. 2024	Masatoshi Kajiwara, Shigetoshi Naito, Takahide Sasaki, Ryo Nakashima, Suguru Hasegawa
7	Novel scale for evaluating the therapeutic efficacy of per-oral endoscopic myotomy in achalasia .	Journal of Gastroenterology	doi:10.1007/s00535-024-02119-6. 2024	Takahashi K, Sato H, Shimamura Y, Abe H, Shiwaku H et al.
8	Persistent body-weight change on achalasia and peroral endoscopic myotomy: a multicenter cohort study	Journal of Gastroenterology	doi:10.1007/s00535-024-02205-9. 2024	Takahashi K, Sato H, Shimamura Y, Abe H, Shiwaku H et al.
9	Robotic Left Hepatectomy Using the Glissonean Approach and Saline-Linked Bipolar Clamp-Crush Technique .	The International Journal of Medical Robotics and Computer Assisted Surgery	doi:10.1002/rcs.2674. 2024	Kajiwara M, Naito S, Sasaki T, Nakashima R, Hasegawa S
10	Real-world efficacy of radiomics versus clinical predictors for microvascular invasion in patients with hepatocellular carcinoma	Hepatology Research	doi.org/10.1111/hepr.14149 2024	Shotaro Kinoshita, Masatoshi Kajiwara et al.
11	The porcine islet-derived organoid showed the characteristics as pancreatic duct .	scientific reports	doi:10.1038/s41598-024-57059-1. 2024	Naoaki Sakata, Gumpei Yoshimatsu, Ryo Kawakami, Kazuaki Nakano, Teppei Yamada et al.
12	Pancreatic extracellular volume fraction on routine contrast-enhanced computed tomography can predict pancreatic fibrosis and postoperative pancreatic fistula	Pancreatology	doi:10.1016/j.pan.2024.12.003. 2024	Sasaki T, Takayama Y, Tanaka S, Hamada Y, Nakashima R, Naito S, Kajiwara M, Hasegawa S
13	Clinical epidemiology of the endoscopic, laparoscopic, and surgical resection of malignant gastric tumors in Japan, 2014–2021: a retrospective study using open data from a national claims database .	Gastric Cancer	doi:10.1007/s10120-024-01553-y. 2024	Sako A, Yada T, Fujiya K, Nakashima R et al.

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|---|-----------------------|---|--|
| 1 | Laparoscopic Sigmoid Colectomy for Transverse Colonic Varices Due to an Inferior Mesenteric Arteriovenous Fistula | Surgical Case Reports | doi:10.1186/s40792-024-01911-z.
2024 | Munechika T, Shiokawa K, Takeshita I, Shimokobe H, Sahara K, Matsumoto Y, Aisu N, Yoshimatsu G, Hasegawa S |
| 2 | Paget 現象を呈した肛門管原発神経内分泌癌の1例 | 日本消化器外科学会雑誌 | 57(6):
308-318
2024 | 山門 仁, 吉松 軍平,
森本 光昭, 長野 秀紀,
松本 芳子, 棟近 太郎,
梶谷 竜路, 吉田陽一郎,
濱崎 慎, 長谷川 傑 |
| 3 | 胸痛を伴った食道運動障害の2例 | 胃と腸 | 59巻9号
pp.1279-1286
2024 | 草場 裕之, 塩飽 洋生,
塩飽 晃生, 長谷川 傑 |
| 4 | Multidisciplinary management of locally recurrent rectal cancer with carbon ion radiotherapy followed by prophylactic removal of the irradiated bowel | Surgical Case Reports | doi:10.1186/s40792-024-01811-2.
2024 | Ken Nagata et al. |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|--|-------|------------------------------|--|
| 1 | 腹腔鏡下・ロボット支援下結腸癌手術におけるトラブルシューティング | 消化器外科 | 47(7):
787-798
2024 | 赤崎 卓之, 塩川 桂一,
竹下 一生, 下河邊久陽,
佐原くるみ, 棟近 太郎,
松本 芳子, 吉松 軍平,
長谷川 傑 |
| 2 | 結腸癌切除術における術野展開のコツ | 消化器外科 | 47(1):
31-45
2024 | 棟近 太郎, 塩川 桂一,
下河邊久陽, 佐原くるみ,
松本 芳子, 吉松 軍平,
愛洲 尚哉, 長谷川 傑 |
| 3 | ロボット支援手術時代の若手外科医教育 下部消化管 (解説) | 消化器外科 | 47(12):
1435-1443
2024 | 佐原くるみ, 赤崎 卓之,
塩川 桂一, 竹下 一生,
下河邊久陽, 棟近 太郎,
長野 秀紀, 松本 芳子,
吉松 軍平, 長谷川 傑 |
| 4 | 大腸 ロボット支援 S 状結腸切除術 (解説) | 臨床外科 | 79(13):
1368-1378
2024 | 吉松 軍平, 塩川 桂一,
竹下 一生, 下河邊久陽,
佐原くるみ, 棟近 太郎,
長野 秀紀, 松本 芳子,
長谷川 傑 |
| 5 | XR (extended reality) 技術を併用した肝臓手術シミュレーションとロボット支援肝切除 | 手術 | 78(7):
1125-1134
2024 | 内藤 滋俊, 梶原 正俊,
中島 亮, 佐々木貴英,
長谷川 傑 |
| 6 | 【食道・胃のロボット支援手術を極める 技術認定取得を目指して】食道癌に対するロボット支援食道切除術 (解説) | 消化器外科 | 47(11):
1263-1275
2024 | 吉村 文博, 佐藤 誠也,
入江 久世, 是枝 寿彦,
橋本 恭弘, 島岡 秀樹,
山田 哲平, 横 研二,
長谷川 傑 |
| 7 | 【食道胃接合部癌診療のすべて】食道空腸再建術 (ダブルトラクト法) 縦隔高位吻合 (解説) | 消化器外科 | 47(6):
695-705
2024 | 橋本 恭弘, 島岡 秀樹,
山田 哲平, 横 研二,
吉村 文博, 長谷川 傑 |

8	【必携 消化器・一般外科医のための外科解剖アトラス】大腸 右側結腸癌手術に必要な局所解剖	手術	78巻4号 Page561-568 2024	愛洲 尚哉, 濱畑 圭佑, 赤崎 卓之, 佐原くるみ, 棟近 太郎, 長谷川 傑
9	食道運動障害の診断と治療	日本消化器内視鏡学会	66巻8号 p.1570-1580 2024	塩飽 洋生, 塩飽 晃生, 大宮 俊啓
10	【緩和ケア・サイコオンコロジー・サポーティブケアの新しい景色】がん薬物療法に伴う末梢神経障害診療ガイドライン2023年版	CLINICAL ONCOLOGY 腫瘍内科	33巻1号 Page29-34 2024	華井 明子, 吉田陽一郎

〈著書〉

1	◆上級医が行っている食道良性疾患の診かた・治しかた D 食道アカラシア 3 食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術 (POEM)	日本医事新報社	pp.151-157 2024	塩飽 洋生, 塩飽 晃生, 塩川 桂一, 長谷川 傑
---	---	---------	--------------------	-------------------------------

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	(国際学会) Recent advancement of endoscopic Suturing	TOKYO Live 2024	東京 4/6-4/7 2024	Hironari Shiwaku
2	(イブニングセミナー) VIO3を用いた粘膜下層内視鏡 (Submucosal endoscopy)	第107回日本消化器内視鏡学会総会	東京 5/30 2024	塩飽 洋生
3	(国際学会) Per Oral Endoscopic Myotomy - A Decade of Innovation POEM - How it begins?!	ENDO2024 4th World Congress of GI Endoscopy	Seoul Korea 7/4-7/6 2024	Hironari Shiwaku, Akio Shiwaku, Haruhiro Inoue, Suguru Hasegawa
4	(ワークショップ) 食道運動障害診療における最新の知見 進化するアカラシア診療 ～10年の臨床経験とその成果～	第78回日本食道学会学術集会	東京 7/4-7/5 2024	塩飽 洋生, 塩飽 晃生, 白壁 勝大, 赤崎 卓之, 入江 久世, 山内 皓介, 塩川 桂一, 草場 裕之, 長谷川 傑
5	(パネルディスカッション) 『斜走筋の温存および食道体部の筋層切開長の制限は, POEM 後の逆流性食道炎の改善に寄与するか』	第107回日本消化器内視鏡学会総会	東京 5/30 2024	塩飽 洋生, 塩飽 晃生, 長谷川 傑
6	(招待講演) 高齢者機能評価によるがん治療最適化プロジェクト	第61回日本癌治療学会	福岡 10/25 2024	吉田陽一郎
7	(シンポジウム) 化学療法誘発性末梢神経障害のマネジメントー薬物療法のエビデンスー	第22回日本臨床腫瘍学会学術集会	神戸 3/8 2025	吉田陽一郎
8	(招待講演) Educational Hands-on Seminar	第37回日本内視鏡外科学会	福岡 12/6 2024	内藤 滋俊
9	(ワークショップ) XR (VR + MR) 技術による低侵襲肝切除の術前シミュレーションと手術アシスト	第37回日本内視鏡外科学会定期学術集会	福岡 12/5-12/7 2024	内藤 滋俊

10	(ワークショップ) ロボット手術から解る詳細な解剖、攻め方の 変化、腹腔鏡下手術へのフィードバック「微 細解剖を意識した右側結腸癌に対するロボッ ト手術」	第17日本ロボット外科学会 学術集会	宇都宮市 3/7-8 2025	松本 芳子
11	(ワークショップ) 骨盤内他臓器浸潤癌に対する TaTME 手技 「再発進行直腸腫瘍に対する経肛門／会陰ア プローチ」	第37回日本内視鏡外科学会 総会	福岡 12/6 2024	松本 芳子
12	(ワークショップ) 両極端からみた直腸癌手術：拡大手術と縮小 手術	第79回日本消化器外科学会 総会	下関市 7/18 2024	松本 芳子
13	(シンポジウム) 拡大手術の技術継承－開腹から鏡視下手術ま で「進行再発直腸癌に対する Ta/Tp (経肛門 /会陰内視鏡) アプローチの技術継承」	第124回日本外科学会定期 学術集会	名古屋市 4/19 2024	松本 芳子
14	(パネルディスカッション) われわれの手技：合併症低減に向けたストー マ造設手技と合併症に対する外科的対応「回 腸双孔式ストーマの合併症低減を目指して」	第79回日本大腸肛門病学会 学術集会	横浜市 11/29 2024	松本 芳子
15	(ワークショップ) 本邦における直腸癌に対する括約筋温存手術 と直腸切断術の手術成績の比較	第79回日本消化器外科学会 総会	下関市 7/17-19 2024	長野 秀紀
16	(ワークショップ) 多様性を活かす大腸癌ロボット支援下手術教 育「ロボット大腸癌手術の教育的取り組み」	第37回日本内視鏡外科学会 総会	福岡 12/5-7 2024	佐原くるみ

〈国内研究助成金〉

1	「がん診療連携拠点病院等の施設間の支持療 法の均てん化の実現に資する研究」	厚生労働省 科学研究 がん対策推進総 合研究事業	2024	吉田陽一郎 (代表者：全田 貞幹)
2	消化器がんに対する免疫チェックポイント阻 害剤治療の腫瘍免疫学的評価とその意義	文部科学省 科研費 R4-R7	2024	山田 哲平 (代表)

〈学会活動〉

1	日本外科学会	代議員	2024	長谷川 傑
2	日本内視鏡外科学会	評議員	2024	長谷川 傑, 塩飽 洋生, 吉村 文博
3	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	2024	塩飽 洋生
4	日本臨床外科学会	評議員	2024	吉村 文博
5	日本食道学会	評議員	2024	吉村 文博
6	日本肝胆膵外科学会	評議員	2024	梶原 正俊
7	日本がんサポーターブケア学会	評議員	2024	吉田陽一郎

〈研究に関係した賞〉

- | | | | | |
|---|---|--|------|-------|
| 1 | 軟性内視鏡による新しい結紮法
Endoscopic Ligation Technique (ELT) の臨床経験 | 第16回福岡県医学会総会
一般演題の部
優秀賞 | 2024 | 塩飽 洋生 |
| 2 | 大腸癌細胞の治療耐性獲得に関わる GPR77
を標的とした治療薬開発のための基礎研究 | 第62回日本がん治療学会学術集会
日本癌治療学会/KFCR 小林がん振興会 * 公募型若手研究助成 | 2024 | 永田 健 |

〈特許取得〉

- | | | | | |
|---|-------|----|------------------------|-------|
| 1 | 皮膚貼付材 | 日本 | 7648135
(令和7年3月10日) | 吉田陽一郎 |
|---|-------|----|------------------------|-------|

呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|--|------------------------------------|---------------------------------|--|
| 1 | Successful endoscopic approach for peripheral neuroblastic tumors in children. | Pediatr Int | 66(1):
e15754,
2024 | Kawakubo N, Maniwa J, Irie K, Tamaki A, Fukuta A, Souzaki R, Obata S, Nagata K, Matsuura T, Tajiri T. |
| 2 | Effects of case volume on short- and long-term outcomes following cadaveric lung transplantation in Japan. | J Thorac Dis | 29;16(2):
1473-1479,
2024 | Chida M, Inoue T, Nakajima T, Okada Y, Oishi H, Nakajima J, Sato M, Yoshino I, Suzuki H, Nakajima D, Shintani Y, Kanou T, Toyooka S, Miyoshi K, Shiraishi T, Sato T, Matsumoto K, Nagayasu T, Hoshikawa Y, Matsuda Y, Maeda S, Date H. |
| 3 | Chest wall tuberculosis: precision surgery with indigo carmine in limited cases for safe and intuitive lesion excision. | Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg | 5;38(3),
2024 | Abe S, Okabayashi K, Tokuishi K, Nakashima H, Maekawa S, Hamatake D, Sato T. |
| 4 | Factors related to post-thoracotomy pain following robotic-assisted thoracic surgery. | Asian J Endosc Surg | 17(2):
e13302,
2024 | Tokuishi K, Wakahara JI, Ueda Y, Miyahara S, Nakashima H, Masuda Y, Waseda R, Shiraishi T, Sato T. |
| 5 | Analysis of 25 surgical cases of thymic neuroendocrine tumors and thymic carcinoma. | J Cardiothorac Surg | 16;19(1):
225,
2024 | Midorikawa K, Miyahara S, Nishino N, Ueda Y, Waseda R, Shiraishi T, Sato T. |
| 6 | The Effectiveness of Deflux® Treatment for Vesicoureteral Reflux Following Pediatric Renal Transplantation: A Single-Institution Challenging Experience. | J Pediatr Surg | 59(4):
616-620,
2024 | Obata S, Nagata K, Suematsu S, Nishiyama K, Okabe Y, Kondo T, Maniwa J, Fukuta A, Kawakubo N, Yanagi Y, Miyata J, Matsuura T, Ohga S, Nakamura M, Tajiri T. |

7	Stromal CD73 Expression in Breast Cancer: Subtype-specific Expression and its Prognostic Significance.	Anticancer Res	44(8): 3637-3643, 2024	Tanaka M, Aoki M, Masuda Y, Yoshinaga Y, Hamasaki M, Iwasaki A, Sato T.
8	Qualitative inductive analysis of the lives of women with persistent cloaca based on their narratives.	Pediatr Surg Int	20:40(1): 236, 2024	Miyata J, Hamada Y, Hayashishita S, Fujita A, Izaki T, Obata S(6th), Kondo T, Fukuta A, Kawakubo N, Nagata K, Tamaki A, Maniwa J, Takahashi Y, Matsuura T, Taguchi T, Tajiri T.
9	Effect of revised organ transplant law in Japan on lung transplantation.	Surg Today	54(10): 1220-1226, 2024	Imamura Y, Nakajima D, Kanou T, Shintani Y, Sugimoto S, Toyooka S, Hoshikawa Y, Matsumoto K, Nagayasu T, Suzuki H, Maeda S, Chida M, Shiraishi T, Sato T, Sato M, Nakajima J, Oishi H, Okada Y, Date H.
10	肺外科における再手術～残肺全摘術における血管処理～	肺癌	64(3): 227-228, 2024	白石 武史, 宮原 聡, 早稲田龍一, 金田 司朗, 若原 純一, 増田 佳子, 中島 裕康, 徳石 恵太, 上田雄一郎, 佐藤 寿彦
11	Effect of revised organ transplant law in Japan on lung transplantation.	Surg Today	54(10): 1220-1226, 2024	Imamura Y, Nakajima D, Kanou T, Shintani Y, Sugimoto S, Toyooka S, Hoshikawa Y, Matsumoto K, Nagayasu T, Suzuki H, Maeda S, Chida M, Shiraishi T, Sato T, Sato M, Nakajima J, Oishi H, Okada Y, Date H.
12	CARE-radiology statement explanation and elaboration: reporting guideline for radiological case reports.	BMJ Evid Based Med	22:29(6): 399-408, 2024	Wang M, Luo X, Xiao X, Zhang L, Wang Q, Wang S, Wang X, Xue H, Zhang L, Chen Y, Lei J, Štupnik T, Scarci M, Fiorelli A, Laisaar T, Fruscio R, Elkhayat H, Novoa NM, Davoli F, Waseda R, Estill J, Norris SL, Riley DS, Tian J.
13	How many cases do young pediatric surgeons need to experience to achieve autonomy in performing pediatric endoscopic surgery? A nationwide survey to establish an ideal curriculum for pediatric endoscopic surgery in Japan.	Pediatr Surg Int	31:41(1): 54, 2024	Murakami M, Kurashima Y, Ogawa K, Yokoyama S, Obata S, Miyano G, Ishimaru T, Kawashima H, Uchida H, Tajiri T, Yamataka A, Okuyama H, Ieiri S.

14	急性精巣上体炎の臨床像の後方視的検討 精巣萎縮に注目して	日本小児外科学会雑誌	60(2):p147-152, 2024	増田 吉朗, 小幡 聡, 近藤 琢也, 福田 篤久, 川久保尚徳, 柳 佑典, 永田 公二, 宮田 潤子, 松浦 俊治, 田尻 達郎
----	---------------------------------	------------	-------------------------	--

〈症例報告〉

1	First clinical application of a surgical robot with haptic force feedback function for thoracic surgery: a case report.	Shanghai Chest	8: 16, 2024	Ueda Y, Miyahara S, Tokuishi K, Nakajima H, Waseda R, Shiraishi T, Sato T.
2	乳房血管肉腫の2例 －原発性と続発性の経験－	乳癌の臨床.	39/5:435-443, 2024	小野 周子, 田中 益美, 吉永 康熙, 佐藤 寿彦, 青木光希子
3	A case of giant nipple adenoma.	Surg Case Rep	10, 70, 2024	Ono S, Tanaka M, Yoshinaga Y, Sato T, Aoki M.
4	Case Report: The importance of early intervention for gastroesophageal reflux disease caused by hiatal hernia.	Front Pediatr	13: 12: 1305585. doi: 10.3389/fped. 2024.1305585. eCollection 2024.	Kakiuchi T, Obata S, Koji A, Minematsu N, Fuchigami M, Fukuta A, Tajiri T, Yoshiura M.

〈総説〉

1	福岡大学における働き方改革時代に対応した呼吸器外科手術教育－新世代の模擬臓器が可能にするサステナブルな手術修練－	胸部外科	77(7): 546-549, 2024	早稲田龍一, 佐藤 寿彦
---	--	------	----------------------------	--------------

〈著書〉

1	特集「胸部外科手術の基本手技とコツ2024」 「頸部気管形成」	胸部外科	77(10): p.835-842 2024	早稲田龍一, 佐藤 寿彦(分担 編) 小野 稔, 千田 雅之
2	「LPEC 法のすべて」 「LPEC 法の運針法－胃運針操作の基本とワイパー型運針の問題点」	南山堂 東京	17-23, 2024	廣瀬龍一郎, 渋谷 勇一, 小幡 聡, 林田 真(分担 編) 髙原 裕夫, 浦尾 正彦, 西原 実

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	【特別講演】 Surgical Treatment of Lung Cancer : Current Status of Minimally Invasive Surgery in Japan	The 2024 Annual Meeting of the Taiwan Surgical Association (TSA2024)	台湾 3/16 2024	佐藤 寿彦
2	【シンポジウム】 我が国の肺移植が向かう道	第124回日本外科学会定期 学術集会	名古屋 4/18～20 2024	白石 武史
3	【ワークショップ】 力覚フィードバック機能を備えた手術支援ロボット Suroa を用いた胸部外科手術における初臨床症例についての検討	第124回日本外科学会定期 学術集会	名古屋 4/18～20 2024	上田雄一郎
4	【シンポジウム】 医工学の進歩と呼吸器外科の発展：現状と未来 「より精緻な手術の普及を目指して－RFID マーキングシステムと触覚のあるロボットの開発と今後」	日本医工学治療学会第40回 学術大会	名古屋 5/25～26 2024	佐藤 寿彦

5	【ワークショップ】 安全技術認定に通るユニポート VATS とは 「安全な単孔式胸腔鏡手術の普及のために－ 安全技術認定制度について」	第41回日本呼吸器外科学会 学術集会	軽井沢 5/31～6/1 2024	佐藤 寿彦
6	総合診療対策委員会報告 肺移植術保険点数 適正化へ向けた試み	第41回日本呼吸器外科学会 学術集会	軽井沢 5/31～6/1 2024	白石 武史
7	【シンポジウム】 気管手術の到達点「Tracheal surgery: State of the art Our 30-year challenge for airway surgery」～福岡大学30年の経験と到達点～	第41回日本呼吸器外科学会 学術集会	軽井沢 5/31～6/1 2024	白石 武史
8	【会長企画 PS】 RFID マーキングシステムを使用した精密肺 縮小手術の現在位置 ～切除マージンの境界を極める～	第41回日本呼吸器外科学会 学術集会	軽井沢 5/31～6/1 2024	上田雄一郎
9	【ワークショップ】 本邦の中規模肺移植実施施設の現状 －症例集積に伴う変化から考える－	第41回日本呼吸器外科学会 学術集会	軽井沢 5/31～6/1 2024	早稲田龍一
10	【特別講演】 低侵襲で挑む困難症例～ロボットから単孔ま で～	第33回岐阜胸部外科フォー ラム	岐阜 6/7 2024	佐藤 寿彦
11	【ビデオワークショップ】 当科における RATS スリーブ気管支切除再 建手技	第47回日本呼吸器内視鏡学 会学術集会	大阪 6/27～28 2024	早稲田龍一
12	Role of RATS and Hybrid RAS in Fukuoka University	Chung Shan International Early Lung Cancer Summit	台中 9/14 2024	早稲田龍一
13	【分野別シンポジウム】 「医師の働き方改革」施行から半年:肺移植の 実施体制は変わったか?	第60回日本移植学会総会	長崎 9/12～14 2024	白石 武史
14	【シンポジウム】 レシピエントの社会参加の現状も踏まえた移 植後成績～福岡大学の実情	第60回日本移植学会総会	長崎 9/12～14 2024	宮原 聡
15	【招待講演】 The Last Holy Grail in the Thoracic Surgery: Tracheal Transplant	The 16th KATSO Annual Meeting	韓国 9/27 2024	佐藤 寿彦
16	【パネルディスカッション】 喉頭・気管領域の良性気道狭窄に対する根治 的気道再建術	第75回日本気管食道科学会 総会ならびに学術講演会	仙台 10/15～16 2024	早稲田龍一
17	【ワークショップ】 ロボット支援下呼吸器外科手術の進歩 「ロボット手術の適応とは－小型から進行癌 まで」	第62回日本癌治療学会学術 集会	福岡 10/24～26 2024	佐藤 寿彦
18	【領域横断プログラム】 部臓器移植医療のサステナビリティ	第77回日本胸部外科学会定 期学術集会	金沢 11/1～4 2024	白石 武史
19	The 20-year experience of Fukuoka University Lung Transplant Program ~ Our unilateral “preferred” lung transplant protocol and results ~	Asian Transplantation Week 2024	韓国 11/14～16 2024	白石 武史

20	【招待講演】 Localization Techniques for Pulmonary Nodules	The 32nd Annual Congress of the Association of Thoracic and Cardiovascular Surgeons of Asia	クアラルンプール 11/22 2024	佐藤 寿彦
21	【特別講演】 「臓器移植」と「輸血」：似て非なる2つの移 植医療	日本輸血・細胞治療学会日 本輸血・細胞治療学会九州 支部会第71回総会・第92回 例会	福岡 11/30 2024	白石 武史
22	ロボット支援手術の現状とこれから	第29回日本内視鏡外科学会 教育セミナー	福岡 12/5 2024	佐藤 寿彦
23	【シンポジウム】 小児内視鏡外科の将来に向けて審査委員会の 果たすべき役割-内視鏡解剖と手術法の解析 とその共有-	第37回日本内視鏡外科学会 総会	福岡 12/5～7 2024	廣瀬龍一郎
24	【特別シンポジウム】 AOB コンセンサス会議 横隔膜融合領域 ディスカッサント	第37回日本内視鏡外科学会 総会	福岡 12/5～7 2024	早稲田龍一
25	【シンポジウム】 空気圧駆動手術支援ロボット「サロア」の呼 吸器領域における臨床経験の報告.	第37回日本内視鏡外科学会 総会	福岡 12/5～7 2024	中島 裕康
26	【パネルディスカッション】 小児外科領域「小児内視鏡外科手術 どう やって学びましたか？」	第37回日本内視鏡外科学会 総会	福岡 12/5～7 2024	小幡 聡
27	【招待講演】 Novel localization methods for lung resection (Robot bronchoscopic localization with novel technology) the 3rd speaker of Session 1	The 3rd Bowoon Symposium	韓国 2/8 2025	佐藤 寿彦
28	【シンポジウム】 ロボットの進化と真価を享受する (New Commer) 「進化するサロア・羽ばたく hinotori～呼吸 器外科領域ロボット～」	第17回日本ロボット外科学 会学術集会	宇都宮 3/7～8 2025	佐藤 寿彦

〈国内研究助成金〉

1	新コンセプトの模擬臓器と AI で実現する持 続可能な呼吸器外科手術修練システムの構築	文部科学省 科学研究費 基盤 (C)	2024	早稲田 龍一
2	肺移植後の在宅呼吸機能モニタリング・解析 と予測モデル開発：多施設共同研究	文部科学省 科学研究費 基盤 (B)	2024	早稲田 龍一
3	肺癌における肺腔内腫瘍散布像 (STAS) の in vitro モデル作成およびその機序の解明	文部科学省 科学研究費 基盤研究 (C)	2024	中島 裕康
4	力覚フィードバック機能を有する革新的手術 支援ロボットの研究開発	文部科学省 科学研究費 若手研究	2024	上田雄一郎
5	新規評価システム搭載型高度手術シミュレー ター開発と効果検証に関する研究	文部科学省 科学研究費 基盤研究 (C)	2024	小幡 聡

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第68回 九州肺移植検討会	ハイブリッド	2024/6/21	白石 武史
2	第69回 九州肺移植検討会	ハイブリッド	2024/9/20	白石 武史
3	第70回 九州肺移植検討会	ハイブリッド	2024/12/20	白石 武史
4	第71回 九州肺移植検討会	ハイブリッド	2025/3/21	白石 武史

〈学会活動〉

1	日本内視鏡外科学会	理事	2024	佐藤 寿彦
2	日本呼吸器外科学会	理事	2024	佐藤 寿彦
3	日本肺癌学会	理事	2024	佐藤 寿彦
4	American College of Chest Physicians 日本部会	理事	2024	佐藤 寿彦
5	Asian Thoracic Academy	理事	2024	佐藤 寿彦
6	日本胸部外科学会	評議員	2024	佐藤 寿彦, 白石 武史, 早稲田龍一
7	日本肺癌学会	評議員	2024	佐藤 寿彦, 白石 武史, 早稲田龍一
8	日本呼吸器内視鏡学会	評議員	2024	佐藤 寿彦, 白石 武史, 早稲田龍一, 上田雄一郎
9	日本呼吸器外科学会	評議員	2024	佐藤 寿彦, 白石 武史, 早稲田龍一, 上田雄一郎, 増田 佳子
10	日本ロボット外科学会	評議員	2024	佐藤 寿彦
11	日本乳癌学会評議委員	評議員	2024	吉永 康熙
12	日本乳房オンコプラスチックサージャリー 学会	評議員	2024	吉永 康熙
13	日本内視鏡外科学会	評議員	2024	廣瀬龍一郎, 白石 武史, 早稲田龍一, 小幡 聡
14	日本小児外科学会	評議員	2024	廣瀬龍一郎
15	日本嚢胞性肺疾患学会	評議員	2024	白石 武史
16	日本気管食道科学会	評議員	2024	白石 武史
17	日本移植学会	評議員	2024	白石 武史
18	日本臨床外科学会	評議員	2024	早稲田龍一
19	呼吸器胸腔鏡手術研究会	評議員	2024	早稲田龍一
20	Pleural disease working group of ESTS (欧州胸部外科学会)	評議員	2024	早稲田龍一
21	日本コンピュータ外科学会	評議員	2024	小幡 聡
22	日本外科学会	評議員	2024	増田 佳子

〈特許取得〉

1	医療用蛍光装置 FU-390	日本	第7646176号 (2025.3.7)	早稲田龍一
2	気管支塞栓材料	日本	第7650469号	上田雄一郎

心臓血管外科学

〈原著〉

1	Relationship between false lumen morphology and entry tear in acute type A aortic dissection	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	65(2) : I10.1093/ ejcts/ezad389, 2024	Masato Furui, Noriko Uesugii, Hitoshi Matsumurai, Yoshio Hayashida, Go Kuwaharai, Mitsuru Fujii, Masayuki Shimizui, Yuichi Moritai, Chihaya Itoi, Masato Hayama, Hideichi Wada
2	Spinal Cord Injury Risk in Open Repair for Descending Thoracic and Thoracoabdominal Aneurysm	Annals of Vascular Diseases	17(3) : 241-247, 2024	Masato Furui , Hitoshi Matsumura, Yoshio Hayashida, Go Kuwahara, Mitsuru Fujii, Masayuki Shimizu, Yuichi Morita, Chihaya Ito, Masato Hayama, Kayo Wakamatsu, Hideichi Wada
3	Efficacy of Neonatal Porcine Bone Marrow-Derived Mesenchymal Stem Cell Xenotransplantation for the Therapy of Hind Limb Lymphedema in Mice	Cell Transplant	doi:10.1177/ 09636897241260195, 2024	Yuichi Morita, Naoaki Sakata, Masuhiro Nishimura, Ryo Kawakami, Masayuki Shimizu, Gumpei Yoshimatsu, Osamu Sawamoto, Shinichi Matsumoto, Hideichi Wada, Shohta Kodama

〈症例報告〉

1	Repair of a right coronary artery rupture with perforated right ventricle following spontaneous pseudoaneurysm: a case report	Surgical Case Reports	10(1) :142. doi: 10.1186/s40792- 024-01941-7, 2024	Masato Furui, Hitoshi Matsumura, Yoshio Hayashida, Go Kuwahara, Masayuki Shimizu, Yuichi Morita, Yuta Matsuoka, Chihaya Ito, Masato Hayama, Kayo Wakamatsu, Hideichi Wada
2	A case of mitral regurgitation due to bilateral undifferentiated papillary muscles with detailed preoperative diagnosis of associated morphological abnormalities	General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases	doi:10.1186/ s44215-024- 00152-8, 2024	Masato Hayama, Chihaya Ito, Yuichi Morita, Masayuki Shimizu, Masato Furui, Hitoshi Matsumura, Yoshio Hayashida, Mizuki Sumi, Go Kuwahara, Kiyoyuki Eishi and Hideichi Wada

- | | | | | |
|---|--|--------------|--------------------------|--|
| 3 | 下肢静脈瘤シアノアクリレート血管内塞栓術後の遅発型アレルギーに対しグルー充填静脈全抜去した結果,薬剤誘発性リンパ球刺激試験が陰性化した一例 | 静脈学 | 35(1):
29-33,
2024 | 中山真悠子, 鈴木 博之,
和田 秀一 |
| 4 | Total Arch Replacement for a Patient with Cold Agglutinin 寒冷凝集素陽性患者に対し軽度低体温循環停止下に前弓部置換術を施行した1例 | 日本心臓血管外科学会雑誌 | 54:
27-30,
2025 | Yuko Nakao, Kazuki Hisatomi,
Yutaro Ryu, Masayuki Takura,
Syunsuke Taguchi,
Hiromitsu Teratani,
Shun Nakaji,
Ichiro Matsumaru,
Takashi Miura |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|---|--------------------------|--------------------------------|---|
| 1 | 日本血管外科学会第39回教育セミナーテキスト 真性大動脈瘤の治療「胸部下行大動脈瘤(open)について」 | 日本血管外科学会 | 15-20,
2024 | 和田 秀一 |
| 2 | 【浮腫性疾患を極めるー鑑別診断から治療・指導までー】局所性浮腫 深部静脈血栓症 | 臨床と研究 | 101(10):
1232-1236,
2024 | 桑原 豪, 和田 秀一 |
| 3 | 【動脈・静脈の疾患2024(上)ー最新の診断・治療動向ー】動脈・静脈疾患(四肢, 体幹) 下肢静脈瘤 病因と病態 動脈・静脈の疾患2024(上) | 日本臨床 | 82 増刊4:
333-336,
2024 | 和田 秀一 |
| 4 | 2024年働き方改革は始まった 若手心臓血管外科医の今 | 日本心臓血管外科学会雑誌 | 53(5):
U1~U6,
2024 | 日高 秀昭, 岩橋 啓介,
新崎 翔吾, 早麻 政斗,
岸上 赳大, 寺園 和哉,
森 晃佑, 田口 駿介,
阿部 貴文, 古賀 佑一 |
| 5 | Balloon and Glue Technique: A Modification of Distal Reinforcement to Prevent Anastomotic New Entry, Reducing Replacement Range in Acute Type A Aortic Dissection | Journal of Chest Surgery | 58(2):
65-69,
2025 | Masato Furui, Go Kuwahara,
Yuta Sukehiro, Hideichi Wada |

〈国際学会と国内学会(シンポジウムまたは招待講演)発表〉

- | | | | | |
|---|---|---|---------------------------|---------------|
| 1 | Treatment Strategies for Acute Type A Aortic Dissection with Impaired Perfusion | STS-ASCVTS Aortic Summit 2024 | 東京
11/14-11/16
2024 | Chihaya Ito |
| 2 | Experience with TEVAR for Kommerell's Diverticulum | The 13th Korea-Japan Joint Meeting for Vascular Surgery | 神奈川
6/29-6/30
2024 | Hayama Masato |

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|--|---------|------|-------|
| 1 | 日本血管外科学会 | 理事・編集委員 | 2024 | 和田 秀一 |
| 2 | 日本心臓血管外科学会 | 評議員 | 2024 | 和田 秀一 |
| 3 | 日本胸部外科学会 | 評議員 | 2024 | 和田 秀一 |
| 4 | 日本外科学会 | 代議員 | 2024 | 和田 秀一 |
| 5 | General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases (GTCC) | 編集委員 | 2024 | 和田 秀一 |

〈研究に関係した賞〉

- | | | | | |
|---|--|---------------------|------|-------|
| 1 | Rescue of murine hind limb ischemia via angiogenesis and lymphangiogenesis promoted by cellular communication network factor 2 | 第26回福岡大学医学紀要優秀論文賞金賞 | 2024 | 清水 真行 |
|---|--|---------------------|------|-------|

脳神経外科学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|--------------------------------|----------------------|--|
| 1 | Surgical Concepts and Long-term Outcomes of Thalamic Deep Brain Stimulation in Patients with Severe Tourette Syndrome: A Single-center Experience | Neurol Med Chir (Tokyo) | 64(8): 289-298, 2024 | Morishita T, Sakai Y, Iida H, Tanaka H, Permana GI, Kobayashi H, Tanaka SC, Abe H. |
| 2 | Clinical characteristics and management of vertebral artery dissection without definitive imaging features: A single center cohort study | Interdisciplinary Neurosurgery | 37: 101985, 2024 | Fukumoto H, Morishita T, Takemoto K, Kobayashi H, Kawano D, Horio Y, Iwaasa M, Inoue T, Abe H. |
| 3 | Impact of distribution of carotid intraplaque neovessels on plaque vulnerability | J Stroke Cerebrovasc Dis | 33(10): 107859, 2024 | Takeshita S, Inoue K, Ogata T, Ishii A, Uesugi N, Hamasaki M, Abe H, Tsugawa J. |
| 4 | Embolization of posterior fossa meningiomas supplied with meningohypophyseal trunk by using n- BCA and dual balloon protection | AJNR Am J Neuroradiol | 46(4): 720-724, 2024 | Tega J, Takemoto K, Koga T, Kawano D, Yoshinaga S, Tanaka H, Yamashiro K, Enomoto T, Fukumoto H, Horio Y, Kobayashi H, Morishita T, Iwaasa M, Abe H. |
| 5 | 足根管症候群に対する後脛骨動脈移所を併用した足底神経除圧術の手術手技 | 脊髄外科 | 38(1): 37-41, 2024 | 田尻 崇人, 金 景成, 井須 豊彦, 藤原 史明, 磯部 正則, 安部 洋 |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|---|--------------------------------|---------------------|--|
| 1 | Successful endovascular treatment of a ruptured saccular aneurysm arising from a fenestrated proximal anterior cerebral artery | Interdisciplinary Neurosurgery | 36: 101964, 2024 | Senju K, Horio Y, Morishita T, Kawano D, Koga T, Oda K, Fukumoto H, Amamoto T, Kobayashi H, Takemoto K, Abe H. |
| 2 | Tremor Rebound Due to a Deep Brain Stimulation Electrode Fracture with Normal Impedance Treated by Rescue Thalamotomy in a Patient with Essential Tremor: A Case Report | Interdisciplinary Neurosurgery | 36(2): 101975, 2024 | Hashikawa T, Permana GI, Morishita T, Koga T, Tanaka H, Kobayashi H, Abe H. |
| 3 | Ruptured distal anterior inferior cerebellar artery aneurysm years after stereotactic radiosurgery for vestibular schwannoma: A case report and literature review | Surg Neurol Int | 15: 213, 2024 | Wakuta N, Yoshioka T, Irie Y, Tsugu H, Abe H. |
| 4 | Case report: thrombectomy for left internal carotid artery occlusion with ipsilateral dual accessory middle cerebral arteries | Acta Neurochir (Wien) | 166(1): 442, 2024 | Tega J, Horio Y, Suzuki K, Oka Y, Takemoto K, Abe H. |

5	Usefulness of Ligamentotaxis With Balloon Kyphoplasty for Delayed Lumbar Radiculopathy Resulting From Osteoporotic Vertebral Fracture: A Case Report	Cureus	16(12) , 2024	Fujiwara F, Uchikado H, Irie Y, Inoue T, Abe H.
6	Syringobulbia による延髄症状が前景に立った頸髄血管芽腫の1例	脊髄外科	38(3) : 249-253, 2024	森口 真哉, 松本順太郎, 福本 博順, 田尻 崇人, 榎本 年孝, 小林 広昌, 竹本光一郎, 森下 登史, 安部 洋
7	A Case of Acute Ischemic Stroke due to Tandem Lesion Treated with Endovascular Thrombectomy by Internal Carotid Artery Direct Puncture	Journal of Neuroendovascular Therapy	19(1) , 2025	Taro Kusakabe, Yutaka Fukushima, Shinichiro Yoshino, Katsuyuki Hirakawa, Yoshinobu Horio, Hiroshi Abe
8	Management of eight cases of subarachnoid hemorrhage using transpulmonary thermololition during clazosentan therapy	Interdisciplinary Neurosurgery	39 : 101997 , 2025	Hiroto Iyota, Yasumasa Kawano, Hironori Fukumoto, Takato Tajiri, Mitsutoshi Iwaasa, Sinichi Morimoto, Yoshito Izutani, Shintaro Yamasaki, Kazuya Yamauchi, Hiroki Hatomoto, Hiroshi Abe, Yoshihiko Nakamura
9	Successful Rescue Treatment for Acute Ischemic Stroke Due to Intracranial Atherosclerotic Disease Using the Neuroform Atlas Stent	Cureus	17(2) : e78569 , 2025	Yuta Oka, Yoshinobu Horio, Jota Tega, Koichiro Takemoto, Hiroshi Abe
10	Intraventricular Pilocytic Astrocytoma in a 75-Year-Old Adult Patient: A Case Report	Cureus	17(2) : e79589 , 2025	Naoki Wakuta, Hitoshi Tsugu, Kenichi Nishiyama, Mikiko Aoki, Hiroshi Abe
11	Two Cases of Tumor-induced Osteomalacia Resulting in Surgical Resection During Burosumab Therapy	Internal Medicine	DOI:0.2169/ internalmedicine . 4958-24 , 2025	Dai Nagata, Yuichi Takashi, Mayuko Yamamot , Kyoko Toyokawa, Kensuke Makihata, Haruki Koganemaru, Saki Hideshima, Yoshimi Muta, Hisashi Yokomizo, Hironori Fukumoto, Shizuhide Nakayama, Hiroko Muta, Mikiko Aoki, Hiroshi Abe, Takuaki Yamamoto, Makoto Hamasaki, Daiji Kawanami
12	MRA, CTA and three-dimensional rotational angiography of incidentally detected bilateral accessory middle cerebral arteries	Surgical and Radiologic Anatomy	47(103) , 2025	Yuta Oka, Yoshinobu Horio, Jota Tega, Koichiro Suzuki, Rina Shibayama, Ryuhei Takeyama, Koichiro Takemoto, Hiroshi Abe

〈総説〉

1	運動障害に対する脳神経外科的治療法の発展	臨床精神医学	53(7) : 859-867 , 2024	森下 登史, 安部 洋
---	----------------------	--------	------------------------------	-------------

2	日常診療で遭遇する可能性の高い運動障害	きんむ医	208：27-30, 2024	森下 登史, 安部 洋
3	手術（疾患） 髄膜腫 テント髄膜腫	脳神経外科速報	増刊 82-89, 2024	安部 洋
4	脳神経外科診療における痙縮の治療選択肢	脳神経外科ジャーナル	33(10): 684-691, 2024	森下 登史, 安部 洋

〈著書〉

1	振戦（第Ⅵ章 定位脳手術の適応疾患とその病態）	厚生統計協会	p.189-199, 2024	森下 登史, 井上 亨, 安部 洋
2	脳梗塞診療読本 第4版 静脈性脳梗塞	中外医学社	p.470-480, 2024	竹本光一郎, 安部 洋(分担)

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（シンポジウム） 未破裂脳動脈瘤に対するバイパス併用治療の問題点	第33回日本脳ドック学会総会	広島, 6/14-15, 2024	安部 洋
2	（シンポジウム） 深部バイパスのための手術手技	日本脳神経外科学会 第83回学術総会	横浜, 10/16-18, 2024	安部 洋
3	（シンポジウム） 脳血管内治療時代の IC-PC 動脈瘤のクリッピング術	第28回脳血管外科ビデオカンファレンス	大阪, 1/17, 2025	安部 洋
4	（シンポジウム） トゥレット症に対する脳深部刺激部位についての考察	第64回日本定位・機能神経外科学会	東京, 2/7-8, 2025	森下 登史
5	（招待講演） Basic Concepts of Tremor Surgery	The World Society for Stereotactic and Functional Neurosurgery Congress 2024	Chicago, 9/3-6, 2024	森下登史
6	（招待講演） Biomarkers and DBS for Tourette Syndrome	CNS 2024 Annual Meeting	Texas, 9/28-10/2, 2024	森下 登史
7	（シンポジウム） 後頭蓋窩血管芽腫に対する外科解剖に基づいた治療戦略	第29回日本脳腫瘍の外科学会	高知, 10/4-5, 2024	小林 広昌
8	（シンポジウム） 脳神経減圧術における徹底した基本手技の統一化ともたらす効果	第27回日本脳神経減圧術学会	東京, 2/6, 2025	小林 広昌
9	（シンポジウム） 脳血管外科手術における低侵襲化の進歩 － Key hole clipping と One coin bypass －	第54回日本脳卒中の外科学会	大阪, 3/6-8, 2025	小林 広昌
10	（シンポジウム） 内視鏡下 keyhole アプローチにおける脳組織変形に関する術前シミュレーションソフトを応用した解剖学的検討	第31回日本神経内視鏡学会	東京, 11/7-8, 2024	山城 慧

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|---------------------------------|-------------------|------|------------|
| 1 | 計算論モデルと脳神経画像解析によるトゥレット症重症化機序の解明 | 文部科学省
基盤研究 (C) | 2024 | 森下 登史 (代表) |
| 2 | 「橋渡し研究プログラム」九州大学拠点
シーズ A | AMED | 2024 | 森下 登史 (代表) |

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

- | | | | | |
|---|---|------------------------|------------|-------------|
| 1 | Neurosurgery Hands on Workshop in
Fukuoka 2024 | 福岡大学医学部本館 3 階
A 会議室 | 8/24, 2024 | 安部 洋, 小林 広昌 |
| 2 | 第149回日本脳神経外科九州支部会 | 福岡大学病院
多目的ホール | 3/15, 2025 | 安部 洋 |

〈長期海外研修〉

- | | | | | |
|---|-----------------------------------|-------------------|-----------------------|-------|
| 1 | 後頭蓋窩の微小解剖研究, 頭蓋底病変に対する
神経内視鏡手術 | アメリカ
スタンフォード大学 | 2024.11～
2025.1.28 | 小林 広昌 |
|---|-----------------------------------|-------------------|-----------------------|-------|

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|------------------------------|----------|------|-----------------------|
| 1 | 日本脳神経外科学会 | 代議員 | 2024 | 安部 洋, 竹本光一郎,
小林 広昌 |
| 2 | 日本脳卒中の外科学会 | 代議員 | 2024 | 安部 洋, 小林 広昌 |
| 3 | 日本脳卒中学会 | 代議員 | 2024 | 安部 洋, 竹本光一郎,
小林 広昌 |
| 4 | 日本脳神経血管内治療学会 | 代議員 | 2024 | 竹本光一郎 |
| 5 | 日本微小脳神経外科解剖研究会 | 代表世話人・幹事 | 2024 | 安部 洋, 小林 広昌 |
| 6 | International Rhoton Society | 評議員, 副会長 | 2024 | 安部 洋 |
| 7 | 日本ニューロモデュレーション学会 | 評議員 | 2024 | 森下 登史 |
| 8 | 日本定位・機能神経外科学会 | 評議員 | 2024 | 森下 登史 |

整形外科科学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|--|----------|----------------------------------|--|
| 1 | Arthroscopic margin convergence of large-sized rotator cuff tears does not lead to better clinical outcome compared with conventional repair | JSES Int | 2024,
Mar 28;8(4):
785-790 | Shibata T, Shibata Y,
Minokawa S, Miyake S,
Izaki T. |
|---|--|----------|----------------------------------|--|

2	Time elapsed from definitive diagnosis to surgery for osteonecrosis of the femoral head: a nationwide observational study in Japan.	BMJ Open.	2024 Mar 29;14(3): e082342.	Nakamura J, Fukushima W, Ando W, Hagiwara S, Kawarai Y, Shiko Y, Kawasaki Y, Sakai T, Ito K, Arishima Y, Chosa E, Fujimoto Y, Fujiwara K, Hasegawa Y, Hayashi S, Imagama T, Inaba Y, Ishibashi Y, Ishidou Y, Ito H, Ito H, Ito J, Jinno T, Kabata T, Kaku N, Kaneuji A, Kishida S, Kobayashi S, Komiya S, Kubo T, Majima T, Mashima N, Mawatari M, Miki H, Miyatake K, Motomura G, Nagoya S, Nakamura H, Nakamura Y, Nakanishi R, Nakashima Y, Nakasone S, Nishii T, Nishiyama T, Ohta Y, Ohzono K, Osaki M, Sasaki K, Seki T, Shishido T, Shoji T, Sudo A, Takagi M, Takahashi D, Takao M, Tanaka S, Tanaka T, Tetsunaga T, Ueshima K, Yamamoto K, Yamamoto T, Yamamoto Y, Yamasaki T, Yasunaga Y, Sugano N.
3	Intramuscular hybrid nerve sheath tumor of the thigh: case report and literature review	In Vivo	2024 Mar-Apr; 38(2): 971-974.	Chijiwa Y, Sano J, Nishio J.
4	Outcomes of Balloon Kyphoplasty for Vertebral Compression Fractures in Patients with Diffuse Idiopathic Skeletal Hyperostosis at the Distal End or Adjacent Vertebra of the Fused Segments	Asian Spine J	2024 Apr; 18(2): 244-250.	Sanada K, Tanaka J, Ohta H, Kida Y, Shiokawa T, Shibata T, Hagihara S, Yamamoto T.
5	Changing trends in traumatic spinal cord injury in an aging society: Epidemiology of 1152 cases over 15 years from a single center in Japan.	PLoS One.	2024 May 16; 19(5): e0298836.	Yokota K, Sakai H, Kawano O, Morishita Y, Masuda M, Hayashi T, Kubota K, Ideta R, Aiji Y, Koga R, Murai S, Ifuku R, Uemura M, Kishimoto J, Watanabe H, Nakashima Y, Maeda T.
6	Predicting the Progression of Spasticity in the Early Phase of Spinal Cord Injury: A Prospective Cohort Study.	J Neurotrauma.	2024 May; 41(9-10): 1122-1132.	Yokota K, Kawano O, Sakai H, Morishita Y, Masuda M, Hayashi T, Kubota K, Ideta R, Aiji Y, Koga R, Murai S, Ifuku R, Uemura M, Katoh H, Nakashima Y, Maeda T.

7	Incidence and clinical outcome of lateral femoral cutaneous nerve injury after periacetabular osteotomy.	Bone Joint J.	2024 May 1;106-B (5 Supple B) : 11-16.	Fujita J, Doi N, Kinoshita K, Seo H, Doi K, Yamamoto T.
8	Temporal dynamics of gait function in acute cervical spinal cord injury.	BMC Musculoskelet Disord.	2024 Jun 3;25(1) : 430.	Okayasu H, Hayashi T, Yokota K, Kawano O, Sakai H, Morishita Y, Masuda M, Kubota K, Ito H, Maeda T.
9	Life Course Epidemiology of Hip Osteoarthritis in Japan: A Multicenter, Cross-Sectional Study.	J Bone Joint Surg Am.	2024 Jun 5; 106(11) : 966-975.	Sato T, Yamate S, Utsunomiya T, Inaba Y, Ike H, Kinoshita K, Doi K, Kawano T, Shiimoto K, Hara T, Sonoda K, Kaneuji A, Takahashi E, Shimizu T, Takahashi D, Kohno Y, Kabata T, Inoue D, Matsuda S, Goto K, Mawatari T, Baba S, Takagi M, Ito J, Nakashima Y, Japanese Hip OA Consortium : Yamaguchi R, Motomura G, Hamai S, Kawahara S, Hara D, Hyonmin C, Yamamoto T, Seo H, Matsunaga T, Shin S, Fukui , Ichiseki T, Kuroda Y, Kawai T, Okuzu Y, Kawano K, Sueda R, Hagio S, Harada S, Takakubo Y, Sameshima T.
10	Assessment of the Hip Flexor Muscles Shortly after Curved Periacetabular Osteotomy using Magnetic Resonance Imaging.	J Arthroplasty.	2024 Jun ;39(6) : 1450-1454.	Yoshimura F, Matsunaga T, Kinoshita K, Seo H, Doi K, Yamamoto T.
11	Risk of Axillary Nerve Injury With Medial Support Screws in Intramedullary Nails: An Anatomical Study	Cureus	2024 Jul 8;16(7) : e64119.	Kobayashi S, Miyake S, Shibata T, Matsunaga K, Hata N, Izaki T, Yamamoto T.
12	A Morphological Study of Distal Femoral Varus Deformity.	Cureus.	2024 Jul 18; 16(7) : e64822.	Hara J, Maeyama A, Ishimatsu T, Matsunaga T, Nakayama S, Yamamoto T.
13	Return to Sports Activity After Microfracture for Osteochondral Lesion of the Talus in Skeletally Immature Children.	Foot Ankle Int.	2024 Jul;45(7) : 711-722.	Tomonaga S, Yoshimura I, Hagio T, Ishimatsu T, Sugino Y, Fukagawa R, Taniguchi Y, Yamamoto T.
14	Bone morphology and physical characteristics of the pro-cyclist hip joint	International Orthopaedics	2024 Jul; 48(7) : 1879-1886.	Akiho S, Hashida R, Tagawa Y, Maeyama A, Kinoshita K, Kanazawa K, Matsuse H, Hara M, Yamamoto T
15	Patellar height changes sequentially after medial open wedge high tibial osteotomy: Evaluation using shear wave elastography.	J Orthop Sci. in press	2024 Aug 13: S0949-2658(24) 00148-9.	Kudo Y, Maeyama A, Ishimatsu T, Matsunaga T, Nakayama S, Yamamoto T.

16	Pathophysiology of abnormal compensation ability of the subtalar joint in the varus knee.	J Orthop Sci.	2024 Sep;29(5) : 1259–1264.	Miyazaki K, Maeyama A, Matsunaga T, Ishimatsu T, Yamamoto T.
17	The Correlation between the Elastic Modulus of the Achilles Tendon Enthesis and Bone Microstructure in the Calcaneal Crescent.	Tomography.	2024 Oct 10; 10(10) : 1665–1675.	Doi K, Moazamian D, Namiranian B, Statum S, Afsahi AM, Yamamoto T, Cheng KY, Chung CB, Jerban S.
18	Use of oblique view in periacetabular osteotomy and delayed postoperative weight bearing reduce delayed union in the ischium after one year	Sci Rep	2024 Oct 10; 14(1) : 23720.	Kinoshita K, Fujita J, Matsunaga T, Seo H, Hideshima Y, Yoshimura F, Yamamoto T
19	Risk Factors for High Repair Tension During Rotator Cuff Repair.	Orthop J Sports Med.	2024 Oct 9; 12(10) : 23259671241276445.	Miyake S, Shibata T, Kobayashi S, Matsunaga K, Hata N, Shibata Y, Izaki T, Yamamoto T.
20	Lower body bone fractures have high mortality rates and poor prognosis in the patients with hemodialysis.	Ther Apher Dial.	2024 Oct; 28(5) : 690–696.	Yoshikawa K, Kishi T, Takamori A, Kitajima A, Goto T, Nakayama S, Yamanouchi K, Takagi K, Hirooka Y, Fujimoto K, Nagata N, Nagata O, Kuroki F, Fukuda N, Akiyoshi Y, Yamamoto T.
21	Application of indocyanine green fluorescence angiography in evaluating blood flow in rotator cuff tears: a preliminary study	J Shoulder Elbow Surg	2024 Oct; 33(10) : 2149–2158.	Shibata T, Doi N, Shibata Y, Minokawa S, Miyake S, Izaki T.
22	Minimum 10-Year Survivorship of Uncemented Acetabular Reconstruction With Bulk Femoral Head Autografting in Crowe Type IV Developmental Hip Dysplasia.	J Arthroplasty.	2024 Oct ; 39(10) : 2542–2546.	Suzuki M, Masuda T, Kanno T, Inoue M, Abe S, Yamamoto T.
23	Bone formation of the coracoid bone graft after the Bristow procedure assessed using three-dimensional computed tomography.	J Orthop Sci.	2024 Nov ; 29(6) : 1382–1388.	Minokawa S, Shibata Y, Shibata T, Kosaka H, Izaki T.
24	Mid-term outcomes of compaction autologous bone grafting in uncemented primary total hip replacement stems	Arch Orthop Trauma Surg.	2024 Dec 12; 145(1) : 29.	Abe S, Inoue M, Mikami T, Honke H, Suzuki M, Kanno T, Masuda T.
25	Efficacy and safety of baricitinib in rheumatoid arthritis patients with moderate renal impairment: a multicenter propensity score matching study.	BMC Rheumatol.	2024 Dec 18; 8(1) : 69.	Maeyama A, Kondo M, Harada H, Shono E, Nagamine R, Tsuru T, Inoue Y, Nakashima M, Yamasaki Y, Niuro H, Nakashima Y, Yamamoto T.
26	The Pathology of Osteonecrosis of the Femoral Head	Osteonecrosis	First Online: 18 January 2025 pp 209–217	Yamamoto T, Jo WL.
27	The Role of Coagulopathy in the Pathogenesis and Prevention of Corticosteroid-Induced Osteonecrosis	Osteonecrosis	First Online: 18 January 2025 pp 331–336	Yamamoto T, Motomura G, Yamaguchi R.

28	Transtrochanteric Curved Varus Osteotomy for the Treatment of Osteonecrosis of the Femoral Head	Osteonecrosis	First Online: 18 January 2025 pp 435–442	Yamamoto T, Ikemura S.
29	A nosographic and etiopathogenetic framework for subchondral bone marrow lesions in the knee: A narrative review	J Exp Orthop.	2025 Jan 16; 12(1) : e70071.	Andriolo L, Sangiorgio A, Galea A, Linder-Ganz E, Orth P, Shabshin N, Yamamoto T, Filardo G.
30	Incidence and Risk Factors of Ulnar Neuropathy After the Surgical Treatment of Distal Humeral Fractures	Cureus	2025, 17(3) : e81506.	Ogasawara M, Tanaka H, Tsukano H, Tashima H, Yamamoto T.
31	軟骨下脆弱性骨折を究める	日整会誌 (J. Jpn. Orthop. Assoc.)	98: 261–266, 2024	山本 卓明
32	健常成人における膝完全伸展のための関節遊び	日本膝関節学会誌	2024, 1(1) : 2–3	麻生 大貴, 浅山 勲
33	ジュベール症候群関連疾患を有し精神運動発達遅滞を呈した1歳児においてホームエクササイズが発達を促進する一助となった1症例	小児理学療法学 (2758–6456)	2024, 2(1) : 16–23	山本 晨平, 吉田 泰子, 押川 達郎, 小川 厚, 井上 貴仁, 塩手 仁也, 藤井 裕子, 伊崎 輝昌
34	母指CM関節症に対するSutureButtonを併用した靱帯再建関節形成術後3年における骨孔変化	日手会誌	2024, 40(6) : 723–726	田中 秀明
35	橈骨遠位端骨折後にビスホスホネートを投与した閉経後女性における二次骨折発生危険因子の検討	整形外科と災害外科	2024, 73(1) : 196–199	浦田 健児, 大茂 壽久, 樋高 由久, 下河邊 久雄, 濱田 賢治, 大友 一, 清水 建詞, 田原 尚直
36	外科的治療に至った仙骨嚢腫の特徴 保存治療例との比較	整形外科と災害外科	2024, 73(3) : 402–405	仲里 尚峻, 柴田 達也, 田中 潤, 塩川 晃章, 眞田 京一, 萩原 秀祐, 佐々木颯太, 山本 卓明
37	当科における人工股関節全置換術に対するカクテル注射後の副作用の調査	整形外科と災害外科	2024, 73(3) : 433–437	飯塚 英允, 木下 浩一, 瀬尾 哉, 松永 大樹, 秀島 義章, 吉村 郁弘, 山本 卓明
38	セメントレスシステムを用いた人工股関節置換術の治療成績 Tapered Wedge 型と Tapered Rectangle 型の比較検討	整形外科と災害外科	2024, 73(3) : 442–445	大屋 慶知, 瀬尾 哉, 木下 浩一, 松永 大樹, 秀島 義章, 山本 卓明
39	Preserve stem β 及び a を用いた人工骨頭置換術後のステムの初期固定性の比較検討	整形外科と災害外科	2024, 73(3) : 449–451	重常 公彦, 坂本 哲哉, 野村 智洋, 蓑川 創, 小阪 英智, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
40	Inheritor stem を用いた人工股関節全置換術における Woodpecker 使用の有用性	整形外科と災害外科	2024, 73(3) : 455–457	藤井 芳裕, 瀬尾 哉, 木下 浩一, 松永 大樹, 秀島 義章, 山本 卓明
41	DLMO 術後の中足骨突出度が患者立脚型評価に及ぼす影響	整形外科と災害外科	2024, 73(3) : 483–487	宗近源太郎, 萩尾 友宣, 吉村 一郎, 石松 哲郎, 杉野 裕記, 朝長 星哉, 深川 遼, 谷口 善政, 山本 卓明

42	足根骨癒合症患者における癒合部切除術後のスポーツ復帰	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 488-490	島 涼, 石松 哲郎, 朝長 星哉, 萩尾 友宣, 杉野 裕記, 金澤 和貴, 吉村 一朗, 山本 卓明
43	遠位脛骨斜め骨切り術後の抜釘術が臨床成績に及ぼす影響	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 503-505	師井 良太, 杉野 裕記, 萩尾 友宣, 石松 哲郎, 深川 遼, 朝長 星哉, 谷口 善政, 吉村 一朗, 山本 卓明
44	再発性手根管症候群の原因は何か? 術中所見の検討を中心に	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 529-531	岡 秀彦, 橋野 悠也, 廣田 高志, 山本 卓明
45	頸椎疾患と手根管症候群の重複神経障害の検討	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 532-535	上村涼太郎, 廣田 高志, 橋野 悠也, 田中 潤, 塩川 晃章, 柴田 達也, 山本 卓明
46	当院救命救急センターにおける高エネルギー外傷に伴う頸椎頸髄損傷の特徴	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 558-560	井上 裕太, 塩川 晃章, 田中 潤, 柴田 達也, 眞田 京一, 萩原 秀祐, 佐々木颯太, 山本 卓明
47	外傷性胸腰椎破裂骨折に対する後方固定術の治療成績と固定方法の検討	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 561-565	古賀 大智, 柴田 達也, 田中 潤, 塩川 晃章, 眞田 京一, 萩原 秀祐, 佐々木颯太, 山本 卓明
48	COVID-19流行下における小児上腕骨顆上骨折の手術治療経験	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 586-588	田村 謙伍, 廣田 高志, 三宅 智, 橋野 悠也, 山本 卓明
49	MRI 検査を用いた若年者における正常半月板の形態についての検討	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 625-629	溝口 隆成, 野村 智洋, 小阪 英智, 坂本 哲哉, 蓑川 創, 古賀 幹朗, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
50	内側半月板後根断裂における関節鏡下修復術(pull-out 法)の approach の検討	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 630-633	柳邊 崇志, 小阪 英智, 野村 智洋, 坂本 哲哉, 蓑川 創, 古賀 幹朗, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
51	翻転腱板断裂に対する low tension triple-row 法の治療成績	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 641-643	河浪 徳志, 三宅 智, 柴田 光史, 小林 駿介, 松永 慶, 畑 直文, 山本 卓明
52	選別された外傷性肩関節前方不安定症の患者に対する鏡視下バンカート修復術の治療成績	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 648-650	樫田 祐輔, 三宅 智, 柴田 光史, 小林 駿介, 松永 慶, 畑 直文, 山本 卓明
53	コンタクトスポーツアスリートの外傷性肩関節不安定症に対する烏口突起移行術の治療成績	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 651-655	廣田 登, 蓑川 創, 柴田 陽三, 野村 智洋, 坂本 哲哉, 小阪 英智, 伊崎 輝昌, 山本 卓明

54	前・後期高齢者の腱板断裂に対する鏡視下腱板修復術の術後成績の比較	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 656-659	前田 祐斗, 柴田 光史, 三宅 智, 小林 駿介, 松永 慶, 畑 直文, 蓑川 創, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
55	高齢者の非外傷性肩腱板断裂における手術時期の検討	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 660-664	波田 将晃, 柴田 光史, 三宅 智, 小林 駿介, 松永 慶, 畑 直文, 蓑川 創, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
56	全人工膝関節置換術後冠状面アライメントと術後臨床成績の関連	整形外科と災害外科	2024, 73(4): 708-711	五島漱志朗, 前山 彰, 原 純也, 石松 哲郎, 松永 大樹, 中山 鎮秀, 秀島 義章, 山本 卓明
57	CWHTO 術後の脛骨形態変化と膝蓋大腿関節への影響	整形外科と災害外科	2024, 73(4): 728-730	又野 佑太, 石松 哲郎, 工藤 悠貴, 前山 彰, 松永 大樹, 中山 鎮秀, 山本 卓明
58	高位脛骨骨切り術における併存疾患と不可視出血量の関係性	整形外科と災害外科	2024, 73(4): 735-738	黒岩 慶成, 松永 大樹, 島田 哲郎, 石松 哲郎, 中山 鎮秀, 前山 彰, 山本 卓明
59	JOACMEQ による頸椎椎弓形成術後の年齢別成績評価 若年群, 前期高齢群, 後期高齢群の比較	整形外科と災害外科	2024, 73(4): 742-745	松本 和宏, 田中 潤, 萩原 秀祐, 塩川 晃章, 柴田 達也, 眞田 京一, 佐々木颯太, 山本 卓明
60	Extravasation のない骨盤骨折における出血因子の解明	整形外科と災害外科	2024, 73(4): 788-791	城間 将人, 石橋 卓也, 宮崎弘太郎, 仲村 佳彦, 喜多村泰輔, 石倉 宏恭, 山本 卓明

〈症例報告〉

1	Serial Magnetic Resonance Arthrography for a Midsubstance Capsular Tear in a Patient With Traumatic Anterior Shoulder Instability	Cureus	2024 Apr 29; 16(4): e59247.	Matsunaga K, Miyake S, Izaki T, Shibata T, Yamamoto T.
2	Desmoplastic fibroblastoma (collagenous fibroma) of the knee: a case report and literature review	Cancer Diagn Progn	2024 Nov 3;4(6): 825-827.	Shinohara Y, Chijiwa Y, Nishio J
3	Osteochondral fragment fixation for Freiberg's disease: a report of three cases	JOS Case Reports in press	Available online 25 November 2024	Fukagawa R, Yoshimura I, Hagio T, Ishimatsu T, Sugino Y, Tomonaga S, Taniguchi Y, Yamamoto T.
4	Corticosteroid-associated osteonecrosis of the femoral head in an 87-year-old patient following treatment for COVID-19-associated pneumonia: A case report.	Skeletal Radiol.	2024 Dec;53(12): 2741-2744.	Yoshimura F, Doi K, Kinoshita K, Seo H, Matsunaga T, Yamamoto T.
5	Bilateral Snapping Knee in a Patient with Rheumatoid Arthritis Accompanied by Sjögren's Syndrome-A Case Report	Journal of Orthopaedic Case Reports	2024 Dec: 14(12): 18-21	Yamasaki Y, Maeyama A, Takeuchi M, Yamamoto T.

6	A case of high tibial osteotomy in a patient with psoriatic arthritis	Mod Rheumatol Case Rep.	2025 Jan 23: rxaf007.	Koga M, Maeyama A, Ishimatsu T, Hagio T, Shibata T, Yamasaki Y, Sugino Y, Yamamoto T.
7	Two Cases of Tumor-induced Osteomalacia Resulting in Surgical Resection During Burosumab Therapy.	Intern Med.	2025 Mar 8.	Nagata D, Takashi Y, Yamamoto M, Toyokawa K, Makihata K, Koganemaru H, Hideshima S, Muta Y, Yokomizo H, Fukumoto H, Nakayama S, Muta H, Aoki M, Abe H, Yamamoto T, Hamasaki M, Kawanami D.
8	思春期アスリートに生じた下腿外側コンパートメント症候群の1例	九州・山口スポーツ医・科学研究会会誌	2024, 35: 8-10	萩尾 友宣, 吉村 一郎, 蓑川 創, 石松 哲郎, 杉野 裕記, 朝長 星哉, 深川 遼, 山本 卓明
9	遠位橈尺関節掌側脱臼を伴う背側 Barton・chauffeur 合併骨折の1例	骨折	47(1): 113-117, 2025	春島慎之介, 中村 厚彦, 稲光 秀明
10	手根管開放術を契機に診断された多発性骨髄腫の1例	整形外科と災害外科	2024, 73(1): 68-70	飯田倫太郎, 廣田 高志, 村岡 邦秀, 田中 秀明, 山本 卓明
11	距骨下関節脱臼骨折の1例	整形外科と災害外科	2024, 73(1): 174-177	古賀 幹朗, 蓑川 創, 野村 智洋, 坂本 哲哉, 小阪 英智, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌
12	小児後十字靱帯附着部裂離骨折に対しアンカーを用い固定した1例	整形外科と災害外科	2024, 73(2): 262-265	上田 章貴, 諸岡 孝明, 木村 岳弘, 石川 貴晴, 櫻木 高秀
13	距骨下脱臼の1例	整形外科と災害外科	2024, 73(2): 325-328	市川 賢, 金澤 和貴, 酒井 政彦, 秋穂 俊輔, 泉 秀樹
14	明らかな Gd 造影効果を認めず囊腫病変との鑑別を要した硬膜内神経鞘腫の1例	整形外科と災害外科	2024, 73(2): 337-341	今田 優, 清水 建詞, 大友 一, 森光 洋介, 濱田 賢治, 田原 尚直
15	腰椎椎弓切除後に馬尾嵌頓を認めた1例	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 406-408	西山 祐加, 塩川 晃章, 田中 潤, 柴田 達也, 眞田 京一, 萩原 秀祐, 佐々木 颯太, 山本 卓明
16	急速に進行する下肢麻痺に対して硬膜切除術を行った肥厚性硬膜炎の一例	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 412-414	吉村 陽貴, 井口 洋平, 田原 健一, 藤村 省太, 木田 吉城, 大田 秀樹, 竹光 義治
17	足部・足関節開放骨折に伴った足根骨周囲の脱臼3例	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 472-477	當銘 晋作, 宮崎弘太郎, 石橋 卓也, 喜多村泰輔, 石倉 宏恭, 山本 卓明
18	外側楔状骨脱臼骨折の1例	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 478-482	恵濃 大輔, 金澤 和貴, 秋穂 俊輔, 泉 秀樹, 大森 治希

19	当院で経験した Jeffery 型骨折の 2 例	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 574-579	小川宗一郎, 松下 優, 佐々木貴之, 酒井 鴻, 田代 勇人, 木村 太一, 平林 健一, 馬場 覚, 小宮 紀宏, 塚本 伸章, 林田 光正, 前 隆男
20	尺骨非定型骨折の一例	整形外科と災害外科	2024, 73(3): 677-679	田代 勇人, 平林 健一, 佐々木貴之, 酒井 鴻, 小川宗一郎, 木村 太一, 馬場 覚, 松下 優, 小宮 紀宏, 塚本 伸章, 林田 光正, 前 隆男
21	高度外反変形膝関節症に対して膝周囲骨切り術を施行した一例	整形外科と災害外科	2024, 73(4): 731-734	市川 賢, 花田 弘文, 野村 耕平, 原 純也, 大島由貴子, 竹山 文徳, 相良 智之, 山口 史彦, 久保 勝裕, 藤原 明, 原 道也
22	大腿骨転子部骨折術後に大腿骨頭壊死を生じた 2 例	整形外科と災害外科	2024, 73(4): 792-795	西野 良, 松永 大樹, 木下 浩一, 瀬尾 哉, 秀島 義章, 吉村 郁弘, 山本 卓明
23	痙攣発作後に生じた両側大腿骨転子部骨折の 1 例	整形外科と災害外科	2024, 73(4): 796-798	坪根 遼平, 中村 厚彦, 稲光 秀明, 矢野 竜大, 倉光 正憲, 酒井 政彦, 片岡 佑太, 春島慎之介
24	脛骨近位部に発生した Brodie 膿瘍の 2 例	整形外科と災害外科	2024, 73(4): 843-846	金澤 和彦, 中山 鎮秀, 松永 大樹, 石松 哲郎, 前山 彰, 山本 卓明

<総説>

1	Atypical Spindle Cell/Pleomorphic Lipomatous Tumor: A Review and Update.	Cancers	2024, 16(18): 3146	Nishio J, Nakayama S, Chijiwa Y, Koga, M, Aoki M.
2	Giant Cell Tumor of Soft Tissue: An Updated Review.	Journal of clinical medicine	2024, 16(10): 1941	Nishio J, Nakayama S, Koga K, Aoki M.
3	Keratin-Positive Giant Cell-Rich Tumor: A Review and Update.	Cancers	2024, 13(10): 2870	Nishio J, Nakayama S, Koga K, Aoki M.
4	Unlocking the secrets: Understanding cellular dynamics under ultrasound stimulation	Bulletin of the Japan Society of Sonochemistry	2024:18: 8-12	Feril LB Jr, Tachibana K, Kida H, Endo H, Yamasaki Y, Ogawa R.
5	A nosographic and etiopathogenetic framework for subchondral bone marrow lesions in the knee: A narrative review	J Exp Orthop.	2025:12: e70071.	Andriolo L, Sangiorgio A, Galea A, Linder-Ganz, Orth P, Shabshin N, Yamamoto T, Filardo G.
6	Fibroma of Tendon Sheath Revisited.	In vivo	2025, 39(2): 613-620	Shinohara Y, Nishio J, Nakayama S, Koga M, Aoki M, Koga T.
7	治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 外反母趾	日本医事新報	2024, 5249: 46-47	吉村 一郎

8	【リバーズ型人工肩関節置換術(RSA)の最前線】RSAの機種の特徴と選択	関節外科	2024, 43(7): 683-691	伊崎 輝昌
9	医療人としての私の心構え	きんむ医	2024, 12(211): 4	山本 卓明
10	医療人としての心構え	きんむ医	2024, 12(211): 29	鎌田 聡

〈著書〉

1	今日の治療指針 2025 18 整形外科 特発性大腿骨頭壊死症	医学書院	Vol.67, 2025: 1123-1124	山本 卓明
2	Advances in Total Hip Arthroplasty idiopathic osteonecrosis of the femoral head	Springer	411-415, 2024	Kinoshita, K,Yamamoto T
3	臨床整形外科 Lecture それ本当に“いわゆる五十肩”ですか？ 注意すべき鑑別疾患	医学書院	2024, 59(7):945-952	三宅 智
4	関節外科 寛骨臼形成不全に対する Curved periacetabular osteotomy	メジカルビュー社	44(2), 64-71, 2025	木下 浩一
5	肩腱板断裂に対する低い修復張力下での Triple-row 法	arthrex.co.jp (web)	2024	三宅 智
6	肩腱板断裂に対する低い張力下での肩鏡視下 腱板修復術 － JuggerKnot®を用いた triple-row 法－	ZIMMER BIOMET TIMES (web)	2024	三宅 智

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	パネルディスカッション1 「非解剖学的腱板の ARCR はどこまで可能か？」 Repair integrity and clinical outcome after low-tension ARCR using the single- or triple- row technique with triple-loaded anchors	SAFO2024/大阪肩関節鏡 フォーラム2024	大阪市 2024/3/30	三宅 智
2	教育研修講演6 膝周囲骨切り術成績向上のために考えるべき こと	第142回中部日本整形外科 災害外科学会・学術集会	米子市 2024/4/12-13	前山 彰
3	Evaluation of Peroneal Nerve Status in Closed Wedge High Tibial Osteotomy	21ST. ESSKA CONGRES	Milan, Italy 2024/5/8-10	Ishimatsu T, Maeyama A, Matsunaga T, Yamamoto T.
4	Evaluation of the patient satisfaction with implant removal after open wedge high tibial osteotomy	21ST. ESSKA CONGRES	Milan, Italy 2024/5/8-10	Hara J, Maeyama A, Ishimatsu T, Matsunaga T, Nakayama S, Yamamoto T.
5	シンポジウム57 特発性大腿骨頭壊死症に対する関節温存治療 大腿骨頭回転骨切り術の長期成績	第97回日本整形外科学会学 術総会	福岡市 2024/5/22-26	山本 卓明
6	教育研修講演25 大腿骨頭回転骨切り術の手技と成績	第97回日本整形外科学会学 術総会	福岡市 2024/5/22-26	山本 卓明

7	大腿骨頭回転骨切り術の長期成績	第97回日本整形外科学会学術総会	福岡市 2024/5/22-26	山本 卓明
8	Change of Spinal Cord Alignment within 1 Week after Cervical Laminoplasty	Spine Across the Sea 2024	Kauai, Hawaii 2024/7/29	Shibata T, Kida Y, Tanaka J, Ota H, Iguchi Y, Shiokawa T, Sanada K, Hagihara S, Sasaki S, Yoshimura A, Yamamoto T.
9	The Role of Osteotomy in Joint Preservation	The 22nd International Meeting of Association Research Circulation Osseous ARCO 2024 in Osaka	大阪市 September 6-7, 2024	Yamamoto T.
10	Subchondral Insufficiency Fractures: Where Are We?	50TH ANNUAL MUSCULOSKELETAL DIAGNOSTIC MEETING	LE CENTRE SHERATON MONTREAL HOTEL MONTREAL, QUEBEC, CANADA SEPTEMBER 15-20, 2024	Yamamoto T.
11	Fundamental Study on the Response of Nanobubbles to Low-Frequency Ultrasound and Doxorubicin Drug Delivery	The 23rd Annual International Symposium on Therapeutic Ultrasound	Taipei, Taiwan 2024/9/19-22	Yamasaki Y, Kida H, Koga T, Endo H, Feril LB Jr., Tachibana K.
12	学会特別講演・招待講演 Hip perservation (2) Diagnosis and treatment of osteonecrosis of the femoral head	2024 SHANGHAI KAIYUAN HIP SYMPOSIUM	Waigaoqiao Sheraton, Pudong, Shanghai September 21, 2024	Yamamoto T.
13	学会特別講演・招待講演 Hip perservation (2) Anterior rotational osteotomy for a subchondral insufficiency fracture in young patients	2024 SHANGHAI KAIYUAN HIP SYMPOSIUM	Waigaoqiao Sheraton, Pudong, Shanghai September 21, 2024	Yamamoto T.
14	パネルディスカッション D2TRA にしない治療戦略と整形外科医の役割を語る	Orthopedic Consortium in Rheumatology 2024 整形外科医による整形外科医のための RA シンポジウム	東京都 2024/9/22	前山 彰
15	教育研修講演 8 知っておくべき軟骨下脆弱性骨折に関する最新トピックス	第39回日本整形外科学会基礎学術集会	東京都 2024/10/17-18	山本 卓明
16	Diagnosis And Treatment Of Osteonecrosis Of The Femoral Head	The 68TH Annual Congress of the Korea Orthopaedic Association 2024	Swiss Grand Convention Center 2024/10/17-19	Yamamoto T.
17	教育研修講演 4 DDH：成人期の骨切り術（CPO/SPO） Curved periacetabular osteotomy の特徴と手技の変遷	第51回日本股関節学会学術集会	岡山市 2024/10/25-26	木下 浩一, 瀬尾 哉, 松永 大樹, 土肥憲一郎, 秀島 義章, 吉村 郁弘, 山本 卓明

18	教育講演 知っておくべき軟骨課脆弱性骨折の診断と治療	福井県臨床整形外科医会教育研修会	福井県 2024/10/31	山本 卓明
19	Effect of Sagittal Alignment on Peri-stem Bone Reaction in Total Hip Arthroplasty with Zweymuller Stem	ORS 2025	Phoenix 2025/2/8	Kenichiro Doi, Fumihito Yoshimura, Koichi Kinoshita, Hajime Seo, Taiki Matsunaga, Hideaki Hideshima, Takuaki Yamamoto
20	Subchondral Fractures in the Hip and Knee	Orthopaedic Reaserch Meeting	Mayo Clinic, Phoenix, Arizona, USA 2025/2/12-14	Yamamoto T.

〈国内研究助成金〉

1	寛骨臼移動術後の骨切り部の早期癒合を目的とした検討	アカデミックコントリビューションプログラム	令和6年度	木下 浩一
2	ナノバブルによる Ewing 肉腫の IGF-1R 抗体-shRNA 治療の開発研究	ふくおか公衆衛生推進機構がん研究助成金（基金分）	令和6年度	山崎裕太郎（代表）
3	一酸化炭素封入ウルトラファインバブルによる革新的なバイオフィルム形成制御法の研究開発	福岡大学若手・女性研究基盤構築	令和6年度	山崎裕太郎（代表）
4	IGF-1R 抗体-shRNA 搭載ナノバブルを用いた Ewing 肉腫の治療	科研費 若手研究(基金分)	令和6年度	山崎裕太郎（代表）
5	病態解析に基づいた軟骨課脆弱性骨折の治療法構築と予防法開発	科研費 基盤研究（C）一般	令和6年度	山本 卓明（代表）
6	足部内在筋筋力が下肢機能に及ぼす影響の解明	科研費 基盤研究（C）一般	令和6年度	吉村 一郎（代表）
7	AT メジャーを用いた足関節外側靱帯損傷患者における術前後/後療法の経過管	共同研究	令和6年度	吉村 一郎
8	JATEC（Japan Advanced Trauma Evaluation and Care）にて定義される高エネルギー外傷に伴う頸椎頸髄損傷の特徴と社会復帰関連因子の検討	JA 共済交通事故医療研究助成	令和6年度	田中 潤

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	骨粗鬆症診療フォーラム	福岡市	2024/9/24	山本 卓明
2	第52回福岡大学医学部整形外科学教室開講記念会	福岡市	2024/9/28	山本 卓明
3	第29回 Fukuoka Knee Society	福岡市	2024/10/19	山本 卓明
4	第45回 Fukuoka 運動器カンファレンス	福岡市	2024/11/15	山本 卓明
5	第79回七隈ハンドカンファレンス	福岡市	2024/11/22	廣田 高志
6	第23回七隈整形外科懇話会	福岡市	2024/12/3	山本 卓明
7	第36回九州・山口スポーツ医・科学研究会	福岡市	2024/12/14	山本 卓明
8	第24回福岡整形外科研究会（FOC）	福岡市	2025/1/25	山本 卓明

〈長期海外研修〉

1	The role of shear force in the development of spontaneous osteonecrosis of the knee: patient-specific three-dimensional finite element analysis	米国, Department of Radiology, UC San Diego	2023/4/2～ 2025/7/31	土肥憲一郎
2	Comparative study of acetabular coverage and impingement of DDH in Japanese and American populations	米国, Department of Orthopaedic Surgery, Boston Children's Hospital, Harvard Medical School, Boston, Massachusetts, USA.	2024.4～現在	鈴木 正弘

〈学会活動〉

1	公益社団法人日本整形外科学会	代議員	2024年度	山本 卓明, 吉村 一郎
2	公益社団法人日本整形外科学会	学術研究企画委員会委員, 特発性大腿骨頭壊死症診療 ガイドライン策定委員会	2024年度	山本 卓明
3	公益社団法人日本整形外科学会	専門医資格認定委員	2024年度	吉村 一郎
4	日本股関節学会	副理事長, 執行部委員会担 当理事, 国際委員会担当理 事, 倫理委員会担当理事, 股関節温存治療レジス トリー委員	2024年度	山本 卓明
5	日本股関節学会	評議員	2024年度	山本 卓明, 木下 浩一
6	日本関節病学会	理事	2024年度	山本 卓明
7	日本足の外科学会	理事, 評議員, 学術委員会 担当理事, 査読委員	2024年度	吉村 一郎
8	西日本整形災害外科学会	理事, 評議員	2024年度	山本 卓明
9	西日本整形災害外科学会	編集委員	2024年度	山本 卓明, 前山 彰
10	日本 Knee Osteotomy and Joint Preservation 研究会	幹事	2024年度	前山 彰
11	日本画像医学会	評議員	2024年度	山本 卓明
12	日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	評議員	2024年度	前山 彰
13	日本スポーツ整形外科学会	代議員	2024年度	吉村 一郎, 前山 彰, 石松哲郎
14	日本膝関節学会	広報・ニュースレター委員 会 SNS 担当委員	2024年度	前山 彰
15	日本膝関節学会	評議員	2024年度	前山 彰, 石松 哲郎
16	日本リウマチ学会	評議員	2024年度	前山 彰
17	日本肩関節学会	代議員	2024年度	三宅 智
18	膝関節フォーラム	世話人	2024年度	前山 彰
19	日本リハビリテーション医学会	代議員	2024年度	山本 卓明, 鎌田 聡

20	日本リハビリテーション医学会九州地方会	幹事	2024年度	山本 卓明, 鎌田 聡
21	日本急性期リハビリテーション医学会	代議員	2024年度	鎌田 聡
22	日本靴医学会	評議員	2024年度	吉村 一郎
23	福岡リウマチ懇話会	世話人	2024年度	前山 彰
24	九州 MIST（最小侵襲脊椎治療学会）	世話人	2024年度	田中 潤
25	九州足の外科研究会	幹事	2024年度	吉村 一郎
26	股 Osteotomy を語る会	股 Osteotomy を語る会世話人	2024年度	山本 卓明
27	公益財団法人整形災害外科学研究助成財団	選考委員会委員	2024年度	山本 卓明
28	西日本脊椎研究会	世話人	2024年度	田中 潤
29	脊椎フォーラム	世話人	2024年度	田中 潤
30	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員	2024年度	山本 卓明
31	福岡スポーツ研究会	世話人	2024年度	山本 卓明
32	福岡生活習慣病運動療法研究会	世話人	2024年度	前山 彰
33	福岡県集団検診協議会	骨粗鬆症検診部会委員会委員	2024年度	山本 卓明
34	福岡県整形外科医会	理事	2024年度	山本 卓明
35	福岡県専門研修プログラム委員会	調整委員	2024年度	前山 彰
36	福岡市医師会	福岡市勤務医会監事, 医師連盟執行委員, 補欠代議員, 福岡市勤務医会理事	2024年度	山本 卓明
37	九州 Knee Osteotomy 研究会	世話人	2024年度	前山 彰
38	九州膝関節研究会	幹事	2024年度	前山 彰
39	九州リウマチ学会	運営委員会	2024年度	前山 彰
40	福岡足の外科カンファレンス	代表世話人	2024年度	吉村 一郎
41	福岡労働局	労災診療指導委員会委員	2024年度	山本 卓明
42	第39回日本整形外科学会基礎学術集会	査読委員	2024年度	吉村 一郎
43	第98回日本整形外科学会学術集会	査読委員	2024年度	吉村 一郎
44	福岡市	福岡市 MICE アンバサダー	2024年度	山本 卓明
45	倫理委員会	倫理委員会委員（第3条第1項第1号委員）	2024年度	前山 彰

〈研究に関係した賞〉

1	日本シグマックス賞 「shear wave elastography を用いた足底腱膜炎に対するストレッチングの作用メカニズム解明とプロトコルの確立」	公益財団法人整形災害外科学研究助成財団	2024年	杉野 裕記
2	財団賞 「変形性膝関節症に対する siRNA 搭載ナノバブルを用いた治療の開発研究 － The development of siRNA-loaded nanobubble treatments for knee osteoarthritis －」	公益財団法人整形災害外科学研究助成財団	2024年	山崎裕太郎, 貴田 浩志
3	第17回福岡県医学会総会ポスター優秀賞 変形性股関節症における両側 THA の先行股と後行股の比較	第17回福岡県医学会総会	2024年	麻生 大貴, 浅山 勲
4	若手研究者賞 Bristow 法における移行骨片の経時的体積変化	第147回西日本整形・災害外科学会学術集会	2024年	高原 真穂, 蓑川 創, 柴田 陽三, 野村 智洋, 坂本 哲哉, 小阪 英智, 古賀 幹朗, 伊崎 輝昌
5	Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy .	令和 6 年度烏帽子会研究奨励賞優秀賞	2024年	小田 大嘉
6	Incidence and clinical outcome of lateral femoral cutaneous nerve injury after periacetabular osteotomy: a prospective cohort study with ≥3-year follow-up .	令和 6 年度烏帽子会研究奨励賞優秀賞	2024年	藤田 潤
7	Effect of plantar fascia-specific stretching and Achilles tendon stretching on shear wave elasticity of the plantar fascia in healthy subjects.	令和 6 年度烏帽子会研究奨励賞優秀賞	2024年	杉野 裕記
8	Efficacy of bone marrow stimulation for arthroscopic knotless suture bridge rotator cuff repair : A prospective randomized controlled trial	第 3 回福岡大学医学部整形外科教室同門会学術奨励賞	2024年	柴田 光史
9	Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy .	第 3 回福岡大学医学部整形外科教室同門会学術奨励賞	2024年	小田 大嘉
10	Intercruciate trans-septal approach (経前後十字靱帯間膝後方区画進入法) を用いた膝関節鏡下手術の成績	第52回福岡大学医学部整形外科教室最優秀演題賞	2024年	藤原 久徳
11	変形性股関節症における両側 THA の先行股と後行股の比較	第52回福岡大学医学部整形外科教室最優秀演題賞	2024年	麻生 大貴
12	変性腰椎すべり症に対する制動術と椎体間固定術の比較：10年間の追跡調査	第52回福岡大学医学部整形外科教室優秀演題賞	2024年	藤村 省太
13	セメントタイプのリバーstype人工肩関節置換術後の臨床成績と上腕骨側の放射線学的変化	第52回福岡大学医学部整形外科教室優秀演題賞	2024年	井上 奨大
14	Curved periacetabular osteotomy 術後 1 年における骨切り部遷延癒合の形態評価	第52回福岡大学医学部整形外科教室優秀演題賞	2024年	松本悠太郎
15	The Best Doctors in Japan 2024-2025	Teladoc HEALTH	2024年	前山 彰
16	治験者エントリー数 第 3 位	福岡大学病院	2024年	前山 彰

形成外科学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|--------------------|---------------------------------|--|
| 1 | RAD52-mediated repair of DNA double-stranded breaks at inactive centromeres leads to subsequent apoptotic cell death. | Nucleic Acids Res. | 52(21):
12961-12975,
2024 | Maruta G, Maeoka H,
Tsunoda T, Akiyoshi K,
Takagi S, Shirasawa S,
Ishikura S. |
|---|---|--------------------|---------------------------------|--|

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|--|----|----------------------|--|
| 1 | 一次二期乳房再建における術後血腫を契機として診断に至った von Willebrand 病の 1 例 | 創傷 | 15(3):86-91,
2024 | 三浦 莉理, 進来 壘,
吉村 希, 鈴木翔太郎,
岡本 理沙, 川上 善久,
高木 誠司 |
|---|--|----|----------------------|--|

〈総説〉

- | | | | | |
|---|----------------------------------|--------|-----------------------------|------------------------|
| 1 | Ⅲ. 躯幹 胸郭再建における創傷治癒 | 形成外科 | Vol.67増刊号:
164-167, 2024 | 大山 拓人, 高木 誠司 |
| 2 | 私の診療経験から 他科でもお役立ていただきたい形成外科の最新治療 | 臨床と研究 | 101(9):
1173-1177, 2024 | 高木 誠司, 谷 ありさ |
| 3 | 胸郭変形に対する手術シミュレーション | PEPARS | 215:
63-68, 2024 | 高木 誠司, 鈴木翔太郎,
谷 ありさ |
| 4 | 尿管管遺残症摘出後の膈形成 | 形成外科 | 67(11):
1193-1198, 2024. | 前山 徹, 前岡 尚憲,
高木 誠司 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|--|--------------|-------------------|------------|
| 1 | 第 I 編総論 第 1 章形成外科総論 E 形成外科の院内での役割と他科とのかかわり | 標準形成外科学第 8 版 | pp.15-17,
2025 | 高木 誠司 (分担) |
|---|--|--------------|-------------------|------------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|---|---------------------|------------------------|--|
| 1 | （シンポジウム）
先天性眼瞼下垂症の筋膜移植術, 筋膜の成長期を含めた経時的変化～眼瞼・眉毛位置計測ソフトを用いて～ | 第42回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会 | 東京
11/14～15
2024 | 小柳 俊彰, 板宮 朋基,
中野亜希人, 大慈弥裕之,
高木 誠司 |
| 2 | （アワードセッション）
最終的な変形を最小限にする鳩胸手術の工夫－ Nuss 変法と胸肋挙上術を併用した 1 例－ | 第30回日本形成外科手術手技学会 | 愛知
3/1
2025 | 梶原 丈照, 大塚 駿太,
谷 ありさ, 小柳 俊彰,
鈴木翔太郎, 森田 愛,
大山 拓人, 高木 誠司 |

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

- | | | | | |
|---|----------------------|------------------------------|---------------|-------|
| 1 | 第34回日本シミュレーション外科学会 | 福岡大学医学部 RI 講義棟
3 階 RI 大講堂 | 12/7,
2024 | 高木 誠司 |
| 2 | 第125回九州・沖縄形成外科学会学術集会 | 福岡大学七隈校舎 8 号館
831 教室 | 3/8,
2025 | 高木 誠司 |

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|-----------------------|-----|------|-------|
| 1 | Craniofacial Center | 理事 | 2024 | 高木 誠司 |
| 2 | 日本形成外科手術手技学会 | 理事 | 2024 | 高木 誠司 |
| 3 | 日本形成外科学会 | 評議員 | 2024 | 高木 誠司 |
| 4 | 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 | 評議員 | 2024 | 高木 誠司 |

5	日本フットケア・足病医学会	評議員	2024	高木 誠司
6	日本シミュレーション外科学会	評議員	2024	高木 誠司
7	日本手外科学会	代議員	2024	高木 誠司
8	日本頭蓋顎顔面外科学会	代議員	2024	高木 誠司
9	Nuss 法漏斗胸手術手技研究会	世話人	2024	高木 誠司
10	日本形成外科学会	評議員	2024	大山 拓人

眼科学

〈原著〉

1	Computer modelling study of volume kinetics in intraocular segments following airbag impact using finite element analysis	Clin Ophthalmol	18, 2575-2582, 2024	Ikeda A, Shimokawa A, Harada K, Tsukahara-Kawamura T, Huang J, Ozaki H, Uchio E.
2	Long-term observation of prognostic factors and clinical outcome of vernal keratoconjunctivitis in childhood	Clin Ophthalmol	18, 2339-2347, 2024	Shimokawa A, Ikeda A, Harada K, Takahashi R, Huang J, Tsukahara-Kawamura T, Ozaki H, Uchio E.
3	Simulation of changes in tensile strain by airbag impact on eyes after trabeculectomy by using finite element analysis	Clin Ophthalmol	18, 1353-1370, 2024	Suzuki S, Ikeda A, Uemura T, Harada K, Takahashi R, Huang J, Tsukahara-Kawamura T, Ozaki H, Kadonosono K, Uchio E.
4	Evaluation of anti-adenoviral effects of the polyvinyl alcohol iodine ophthalmic solution	Japanese Journal of Ophthalmology	68, 64-69, 2024	Tomoko Tsukahara-Kawamura, Nozomu Hanaoka, Eiichi Uchio
5	Finite element analysis of changes in deformation of intraocular tissues by airbag impact in eyes of various axial lengths	Clin Ophthalmol	18, 699-712, 2024	Ueno T, Fujita H, Harada K, Kawamura-Tsukahara T, Ozaki H, Uchio E.
6	転倒による眼球離脱	臨床眼科	75(5): 558-561 2024	尾崎 弘明, 伊崎 亮介, 原田 一宏, 内尾 英一

〈症例報告〉

1	トリアムシノロンアセトニド眼瞼皮下注射後に成長障害を認めた春季カタルの1例	アレルギーの臨床	44(4), 277-280, 2024	原田 一宏, 上野 智弘, 高橋 理恵, 川村 朋子, 内尾 英一
2	大腸癌術後にみられた皮質盲の1例	臨床眼科	78(6), 677-682, 2024	富士本成美, 尾崎 弘明, 木場重紀子, 副島 園子, 内尾 英一
3	COVID-19ワクチン（コミナティ）接種後に角膜移植後拒絶反応をきたし再移植を要したDSAKEの1例	あたらしい眼科	41(4)/ 444-448/2024	音田佳代子, 川村 朋子, 北谷 諒介, 原田 一宏, 上野 智弘, 内尾 英一

〈総説〉

1	未熟児網膜症に対する抗 VEGF 薬硝子体内注射の経験からみえてくること	眼科手術	59(4) 743-746.2024	高橋 理恵
---	--------------------------------------	------	--------------------	-------

- | | | | | |
|---|--|----------------|-----------------------------|-------|
| 2 | 熟児網膜症の新たな治療戦略 ROP の新国際分類・最新治療・短期合併症について. | 日本周産期・新生児医学会雑誌 | 37(1)
68-71.2024 | 高橋 理恵 |
| 3 | 春季カタルに対する外科的治療【6年前の常識は現在の非常識！－ AI 時代へ向かう今日の眼科医へ】結膜・角膜 性感染症とアデノウイルス結膜炎性感染症とアデノウイルス結膜炎 | 臨床眼科 | 78(11),
106-110,
2024 | 川村 朋子 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|-------------------------------|-----|------------------|-------|
| 1 | ウイルス性結膜炎／眼科疾患最新の治療 2025-2027 | 南江堂 | 88,
2024 | 内尾 英一 |
| 2 | デノウイルス, AHC ウイルス検査／眼科検査ガイド第3版 | 文光堂 | 711-713,
2024 | 内尾 英一 |
| 3 | ステロイド緑内障／眼科疾患最新の治療 2025-2027 | 南江堂 | 163-164/2024 | 尾崎 弘明 |

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|---|--------------------------|----------------|-------|
| 1 | 深層層状角膜移植術の位置づけ | 第94回九州眼科学会；角膜シンポジウム | 熊本, 5.24, 2024 | 原田 一宏 |
| 2 | 病態を解き明かす研究の最前線・古くて新しいアデノウイルス | 第94回九州眼科学会；角膜シンポジウム | 熊本, 5.24, 2024 | 川村 朋子 |
| 3 | 結膜炎を極める・抗原検出キット | 眼感染症・炎症・アレルギー学会・合同シンポジウム | 札幌, 7・6・2024 | 川村 朋子 |
| 4 | Evaluation of anti-adenoviral effects of the polyvinyl alcohol iodine ophthalmic solution | ARVO2024 | 米国, 5・6・2024 | 川村 朋子 |
| 5 | Three-year outcome of omdenepag isopropyl in primary open angle glaucoma and preperimetric glaucoma | ARVO2024 | 米国, 5・6・2024 | 尾崎 弘明 |
| 6 | Did herpetic keratitis increase after the introduction of SARS-CoV-2 vaccination? | ARVO2024 | 米国, 5・6・2024 | 原田 一宏 |
| 7 | Classification of subtypes in vernal keratoconjunctivitis (VKC) by cluster analysis | ARVO2024 | 米国, 5・6・2024 | 福田 将吾 |

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|---------------------------------------|-----------------|------|-----------|
| 1 | アデノウイルス結膜炎の感染メカニズムと環境生態形式に関するウイルス学的研究 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 内尾 英一（代表） |
| 2 | 眼科領域の新型アデノウイルス治療薬候補の型別有用性の基礎的および臨床的評価 | 文部科学省
若手研究 | 2024 | 川村 朋子（代表） |

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

- | | | | | |
|---|----------------------|-------------------------|-----------|-------|
| 1 | 第50回福岡大学眼科研究会 | 福岡大学メディカルホール | 5/18/2024 | 内尾 英一 |
| 2 | 西日本オキュラーサーフェスクラブ2024 | オリエンタルホテル福岡
博多ステーション | 6/22/2024 | 内尾 英一 |
| 3 | 第53回福岡眼科研究会 | 電気ビル共創館 | 7/20/2024 | 内尾 英一 |

〈学会活動〉

1	日本眼科学会	評議員	2024	内尾 英一
2	Japanese Journal of Ophthalmology	Editor	2024	内尾 英一
3	日本眼炎症学会	評議員	2024	内尾 英一
4	日本アレルギー学会	代議員	2024	内尾 英一
5	日本眼感染症学会	監事, 評議員	2024	内尾 英一
6	日本眼科アレルギー学会	理事	2024	内尾 英一
7	日本アレルギー学会九州・沖縄支部	事務局長	2024	原田 一宏

〈研究に関係した賞〉

1	「ヨウ素・ポリビニルアルコール点眼液の抗アデノウイルス効果の評価	日本眼感染症学会学術奨励賞（三井賞）	2024	川村 朋子
---	----------------------------------	--------------------	------	-------

耳鼻咽喉科学

〈原著〉

1	Effectiveness of Outpatient Treatment in Ear, Nose, and Throat Clinics for Dysphagia and the Role of Questionnaires.	Cureus	16(8)DOI: 10.7759/cureus.66369 2024	Yamano T, Kimura S, Wada K, Omori F, Nakamura A, Fukuyo K
2	Pharyngeal Complications Following Two-Jaw Surgery	Cureus	16(12): e76539 2024	Yamano T, Tanaka T, Kimura S, Omori F, Wada K, Yokoo Y, Izumi K, Nakamichi C, Ikeda M
3	当科における口腔癌術後の嚥下障害に関する臨床的研究	耳鼻と臨床	70(5): 248-254 2024	益永 拓也, 田浦 政彦, 木村 翔一, 坂田健太郎, 前原 宏基, 打田 義則, 妻鳥敬一郎, 末田 尚之, 坂田 俊文
4	当院での甲状腺未分化癌症例の検討	耳鼻と臨床	70(6): 335-342 2024	宮城 慎平, 瓜生 英興, 青谷亜由美, 澄川あゆみ, 藤原 義宜, 内 龍太郎, 田村 真吾, 大賀 才路, 中島 寅彦
5	当院における小児構音障害の特徴	耳鼻と臨床	71(1): 6-11 2025	和田佳央理, 大森 史隆, 西平 弥子, 木村 翔一, 山野 貴史
6	Collaboration Between Acute Hospitals and Nursing Homes for Dysphagia Management: A Comparative Study of Patients With and Without Pneumonia-Related Hospitalization	Cureus	DOI: 10.7759/cureus.81400 2025.3	Yamano T, Kimura S, Omori F, Wada K, Tanaka M, Tsutsumi T.
7	Scientific reports : Spatial transcriptomics of the epipharynx in long COVID identifies SARS-CoV-2 signalling pathways and the therapeutic potential of epipharyngeal abrasive therapy	nature	8618 2025.3.12	Nishi K, Yoshimoto S, Tanaka T, Kimura S, Tsunoda T, Watanabe A, Teranaka K, Oguma Y, Ogawa H, Kumai T, Yamano T

〈症例報告〉

1	再生不良性貧血を合併した下咽頭癌の1例	耳鼻と臨床	70(3): 144-149, 2024	榑 和哉, 田浦 政彦, 木村 翔一, 坂田健太郎, 打田 義則, 末田 尚之, 坂田 俊文, 中島 勇太, 石橋 英樹
---	---------------------	-------	-------------------------	--

〈国内研究助成金〉

1	聴き取りづらい音韻の個人差に対する新たな補聴方式の開発	独立行政法人日本学術振興会 基盤研究(C)(一般)	2024	坂田 俊文 (代表者: 森山 剛)
---	-----------------------------	---------------------------	------	----------------------

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	日本耳鼻咽喉・頭頸部外科学会 第197回福岡県地方部会	福岡大学病院メディカル ホール	12/7, 2024	坂田 俊文
---	--------------------------------	--------------------	---------------	-------

〈学会活動〉

1	日本耳鼻咽喉頭頸部外科学会	代議員	2024	坂田 俊文
2	日本耳鼻咽喉頭頸部外科学会福岡県地方部会	副部会長	2024	坂田 俊文
3	日本耳鼻咽喉頭頸部外科学会福岡県地方部会	幹事	2024	末田 尚之
4	日本耳鼻咽喉頭頸部外科学会福岡県地方部会	幹事	2024	妻鳥敬一郎
5	日本喉頭科学会	評議員	2024	坂田 俊文
6	日本嚥下医学会	評議員	2024	坂田 俊文
7	日本口腔咽頭科学会	評議員	2024	坂田 俊文
8	日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会	評議員	2024	坂田 俊文
9	耳鼻咽喉科臨床学会	運営委員	2024	坂田 俊文

〈研究に関係した賞〉

1	福岡県医学会一般部門ポスター賞「訪問診療利用者の肺炎発症予測因子の検討」	福岡県医学会	2024	木村 翔一
2	鼻洗浄が上気道の細菌叢動態に及ぼす影響	第197回福岡県地方部会 曾田豊二記念財団研究奨励賞	2024	木村 翔一

腎泌尿器外科学

〈原著〉

1	Clinicopathological characteristics of adrenocortical carcinoma in the Kyushu-Okinawa area of Japan	Int J Urol	31(5): 484-491, 2024	Shotaro Nakanishi, Yumi Fukushima, Junichi Inokuchi, Tomoaki Hakariya, Hiroaki Kakinoki, Hideki Enokida, Katsuaki Chikui, Hirofumi Matsuoka, Toshitaka Shin, Shoichiro Mukai, Tomomi Kamba, Masatoshi Eto, Ryoichi Imamura, Mitsuru Noguchi, Tsukasa Igawa, Nobuhiro Haga, Toshiyuki Kamoto, Naohiro Fujimoto, Seiichi Saito
---	---	------------	----------------------------	--

2	Factors related to nocturia-specific quality of life in renal transplantation patients	LUTS	16(3): e12517, 2024	Nobuyuki Nakamura, Taiki Emoto, Yuichiro Fukuhara, Takeshi Miyazaki, Chikao Aoyagi, Naotaka Gunge, Yu Okabe, Hiroshi Matsuzaki, Aiko Fujikawa, Chizuru Nakagawa, Masahiro Tachibana, Fumihiko Yamasaki, Kosuke Tominaga, Kazuna Tsubouchi, Shintaro Aso, Nobuhiro Haga
3	Assessment of the degree of minimal invasiveness in completely retroperitoneal robot-assisted nephroureterectomy	J Endourol: Videourology	Vol.38, No.1, 2024	Takeshi Miyazaki, Taiki Emoto, Chikao Aoyagi, Yuichiro Fukuhara, Fumihiko Yamasaki, Chizuru Nakagawa, Masahiro Tachibana, Kosuke Tominaga, Naotaka Gunge, Yu Okabe, Kazuna Tsubouchi, Hiroshi Matsuzaki, Nobuyuki Nakamura, and Nobuhiro Haga
4	ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術の安全性と有用性の検討－腹腔鏡下腎盂形成術との比較	Jpn J Endourol Robot	37(1): 131-136, 2024	宮崎 健, 麻生信太郎, 立花 昌寛, 中川 千鶴, 藤川 愛子, 郡家 直敬, 岡部 雄, 坪内 和女, 松崎 洋吏, 中村 信之, 松岡 弘文, 羽賀 宣博
5	Improvement of medication adherence for desmopressin by adjusting the prescription dosage in male patients with overactive bladder: A claims database analysis	Neurourol Urodyn	43(8): 2207-2213, 2024	Kazuna Tsubouchi, Toshiki Maeda, Taiki Emoto, Chikao Aoyagi, Wataru Matsuoka, Fumihiko Yamasaki, Chizuru Nakagawa, Yuichiro Fukuhara, Kosuke Tominaga, Naotaka Gunge, Takeshi Miyazaki, Yu Okabe, Hiroshi Matsuzaki, Nobuyuki Nakamura, Hisatomi Arima, Nobuhiro Haga
6	The Mayo Adhesive Probability Score as a Predictor of Postoperative Renal Function in Robot-assisted Partial Nephrectomy	Cancer Diagn Progn	4: 652-657, 2024	Hiroshi Matsuzaki, Kazuna Tsubouchi, Yu Okabe, Takeshi Miyazaki, Naotaka Gunge, Kosuke Tominaga, Yuichiro Fukuhara, Masahiro Tachibana, Chizuru Nakagawa, Fumihiko Yamasaki, Nobuyuki Nakamura, Nobuhiro Haga

7	Robot-Assisted Partial Nephrectomy after off-Clamp Dividing the Wide and Thick Isthmus for Renal Cancer in the Isthmus of Horseshoe Kidney	J Endourol: Videourology	Vol.38, No.1, 2024	Hiroshi Matsuzaki, Chikao Aoyagi, Masahiro Tachibana, Toshihiro Zaizen, Tomoki Shinohara, Kazutaka Nakaya, Maiko Fujiwara, Yuki Matsuo, Takeshi Miyazaki, Taiki Emoto, Kosuke Tominaga, Naotaka Gunge, Yu Okabe, Nobuyuki Nakamura, Nobuhiro Haga
8	Identification of risk factors associated with oral 5-aminolevulinic acid induced adverse events in photodynamic diagnosis transurethral resection of bladder tumor	Photodiagnosis Ther	Photodyn 49: 104291, 2024	Yu Okabe, Yuichiro Fukuhara, Wataru Matsuoka, Nobuyuki Nakamura, Hiroshi Matsuzaki, Takeshi Miyazaki, Naotaka Gunge, Kosuke Tominaga, Kazuna Tsubouchi, Masahiro Tachibana, Chizuru Nakagawa, Fumihiko Yamazaki, Nobuhiro Haga
9	Underactive bladder as defined by the International Continence Society in the 2023 Japan Community Health Survey	Int J Urol	32(1): 51-59, 2025	Noritoshi Sekido, Kenji Omae, Yasue Kubota, Takahiko Mitsui, Naoya Masumori, Nobuhiro Haga, Motoaki Saito, Ryuji Sakakibara, Mikako Yoshida, Satoru Takahashi
10	令和5年度福岡市における前立腺がん検診	福岡市医報	66(1): 58-63, 2025	古賀 寛史, 中村 元信, 松崎 洋吏, 横溝 晃, 角田 雄一, 阿部 裕典, 猪口 淳一, 野瀬 清孝, 平 浩志, 後藤 健, 御厨 学, 江藤 正俊, 田中 正利, 内藤 誠二, 羽賀 宣博
11	Is seated voiding associated with lower urinary tract symptoms, health conditions, or marital status? Findings by age group from the 2023 Japan Community Health Survey	Int J Urol	32(2): 204-211, 2025	Noritoshi Sekido, Nobuhiro Haga, Kenji Omae, Yasue Kubota, Takahiko Mitsui, Naoya Masumori, Motoaki Saito, Ryuji Sakakibara, Mikako Yoshida, Satoru Takahashi
12	Prevalence and Risk Factors of Stress Urinary Incontinence in a Japan Community Health Survey in 2023 – Differences between Males and Females –	BJUI Compass	6(2): e70004, 2025	Nobuhiro Haga, Mikako Yoshida, Takahiko Mitsui, Noritoshi Sekido, Naoya Masumori, Kenji Omae, Motoaki Saito, Yasue Kubota, Ryuji Sakakibara, Satoru Takahashi

- | | | | | |
|----|---|------------|----------------------------|--|
| 13 | Clinical Features and Current Pharmacotherapy of OAB in Practice: Ideal and Reality. | Adv Ther | 42:
1094-1107,
2025 | Kazuna Tsubouchi,
Hisatomi Arima,
Taiki Emoto,
Hiroshi Nakazawa,
Takahiro Kitano,
Masashi Mikami,
Chikao Aoyagi,
Hiroshi Matsuzaki,
Kosuke Tominaga,
Naotaka Gunge,
Takeshi Miyazaki, Yu Okabe,
Nobuyuki Nakamura,
Yuichiro Fukuhara,
Masahiro Tachibana,
Chizuru Nakagawa,
Fumihiko Yamazaki,
Nobuhiro Haga |
| 14 | Effect of ICG Fluorescence-Assisted New Nerve-Sparing of Robot-Assisted Radical Prostatectomy on Lower Urinary Tract Symptoms | Int J Urol | 32(3):
285-292,
2025 | Gunge N, Fukuhara Y,
Matsuoka W, Fumihiko Y,
Tachibana M, Nakagawa C,
Tominaga K, Aoyagi C,
Miyazaki T, Okabe Y,
Tsubouchi K, Matsuzaki H,
Nakamura N, Haga N. |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|------------------------------------|------------|----------------------------|--|
| 1 | 術前診断が困難であった大腿神経原発の後腹膜神経鞘腫 | 西日泌 | 86(3):
140-145,
2024 | 中川 千鶴, 松崎 洋吏,
山崎 史裕, 立花 昌寛,
福原悠一朗, 富永 光将,
郡家 直敬, 宮崎 健,
岡部 雄, 坪内 和女,
中村 信之, 羽賀 宣博 |
| 2 | 生体腎移植時に外腸骨静脈内に静脈結石を認めた一例 | 西日泌 | 86(6)
320-324,
2024 | 福原悠一朗, 中村 信之,
松崎 洋吏, 坪内 和女,
岡部 雄, 宮崎 健,
郡家 直敬, 富永 光将,
藤川 愛子, 中川 千鶴,
立花 昌寛, 麻生信太郎,
山崎 史裕, 羽賀 宣博 |
| 3 | 多職種で入院治療へ介入した重度精神運動発達遅滞患者の腎移植 | 日臨腎移植会誌 | 12(2):
272-276,
2024 | 横山 陽子, 矢野加那子,
別府 愛子, 伊藤 具恵,
宮崎 健, 中村 信之,
永江 寛子, 野田扶美枝,
伊藤 健二, 升谷 耕介,
羽賀 宣博, 窪山 矢季 |
| 4 | 術前の針生検で確定診断が得られなかった成人発症腎芽腫 | 西日泌 | 87(2):
73-77,
2024 | 松尾 勇輝, 松崎 洋吏,
財前 俊宏, 篠原 知樹,
中谷 和貴, 藤原 舞子,
江本 大紀, 富永 光将,
郡家 直敬, 宮崎 健,
岡部 雄, 中村 信之,
羽賀 宣博 |
| 5 | 死戦期の急性腎障害のため移植の適応判断に苦慮した脳死下献腎移植の一例 | 九州人工透析研究会誌 | 8:
42-46,
2024 | 櫻井 裕子, 宮崎 健,
多田 和弘, 冷牟田浩人,
伊藤 建二, 安野 哲彦,
中村 信之, 羽賀 宣博,
升谷 耕介 |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|----------------------------------|------------|-------------------------------|--|
| 1 | 炎症性腸疾患と結石性疾患 | 総合診療 | 34(8):
922-923,
2024 | 宮島 茂郎, 石井 龍,
高津 典孝, 久部 高司,
羽賀 宣博 |
| 2 | 治療の実際 ここだけは押さえない! 排尿障害の診断と治療 | 臨床と研究 | 101(9):
1167-1172,
2024 | 羽賀 宣博, 坪内 和女,
江本 大紀, 立花 昌寛,
青柳 力夫, 山崎 史裕,
中川 千鶴, 福原悠一朗,
富永 光将, 郡家 直敬,
宮崎 健, 岡部 雄,
松崎 洋吏, 中村 信之 |
| 3 | 各論 5 腎泌尿器疾患 (診断と治療)
14. 過活動膀胱 | 腎と透析 | 97(増刊):
481-486,
2024 | 羽賀 宣博, 江本 大紀,
立花 昌寛, 松尾 勇輝,
藤原 舞子, 中谷 和貴,
篠原 知樹, 財前 俊宏,
中川 千鶴, 富永 光将,
郡家 直敬, 宮崎 健,
岡部 雄, 松崎 洋吏,
中村 信之 |
| 4 | 貧血治療は科学である | 九州人工透析研究会誌 | 8:
103-110,
2024 | 中村 信之 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|---|------|--------------|-------|
| 1 | 今日の治療指針
2025年版 (Volume67)
診療ガイドライン解説
22. 過活動膀胱診療ガイドライン [第3版]
(2022) | 医学書院 | pp.2035-2042 | 羽賀 宣博 |
| 2 | 今日の診断指針第9版
Ⅱ疾患編 20泌尿器・男性性器疾患
副腎の外科的疾患 | 医学書院 | pp.1650-1651 | 羽賀 宣博 |

〈国際学会と国内学会 (シンポジウムまたは招待講演) 発表〉

- | | | | | |
|---|--|--------------------------------------|--------------------------------------|---|
| 1 | (パネルディスカッション)
ロボット支援膀胱全摘除の尿路変向の工夫
ー Low Volume 施設における術式標準化, 教育,
トラブルシューティングー | 第111回日本泌尿器科学会
総会 | 横浜市
4/25-27
2024 | Nobuhiro Haga, Yu Okabe,
Takeshi Miyazaki,
Fumihiko Yamazaki,
Chizuru Nakagawa,
Masahiro Tachibana,
Tsubouchi Kazuna,
Yuichiro Fukuhara,
Kosuke Tominaga,
Naotaka Gunge,
Hiroshi Matsuzaki,
Nobuyuki Nakamura |
| 2 | (国際学会, パネルディスカッション)
Implantation of NR5A1-induced
steroidogenic cells derived from human
adipose tissue-derived mesenchymal
stem/stromal cells into adrenal-insufficiency
model mice. | 2024 Annual Meeting -
San Antonio | San Antonio,
USA
5/3-6
2024 | Chikao Aoyagi |
| 3 | 高齢 OAB 患者の現状と課題 | 第37回日本老年泌尿器科学会 | 和歌山市
5/17-18
2024 | 羽賀 宣博 |

4	エキスパート解説 (RARN/RAPP) ロボット支援腎摘除術	第9回ロボット支援手術ビデオ講習会(Web開催)	6/14 2024	羽賀 宣博
5	(シンポジウム) 小児精巣腫瘍の現状と課題	第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会	水戸市 7/10-12 2024	羽賀 宣博, 山崎 史裕, 青柳 力夫, 立花 昌寛, 福原悠一朗, 富永 光将, 郡家 直敬, 宮崎 健, 松崎 洋吏, 岡部 雄
6	(パネリスト) 腹腔鏡下右副腎摘除術(経腹膜到達法)	第54回泌尿器腹腔鏡ビデオ講習会(Web開催)	7/27 2024	羽賀 宣博
7	(教育セミナー) 高齢 OAB 患者の現実と問題点	第31回日本排尿機能学会	郡山市 9/5-7 2024	羽賀 宣博
8	(山口脩記念講演) 果てしなき排尿研究への道－山口先生を追い 続けて－	第31回日本排尿機能学会	郡山市 9/5-7 2024	羽賀 宣博
9	(国際学会) Prevalence and Risk Factors of Stress Urinary Incontinence in a Japan Community Health Survey in 2023 (JaCS 2023) – Differences between Males and Females –	The 54th meeting of the International Continence Society (ICS 2024)	Madrid, Spain 10/23-25 2024	Haga N, Yoshida M, Mitsui T, Sekido N, Masumori N, Omae K, Saito M, Kubota Y, Sakakibara R, Takahashi S.
10	(国際学会) The effect of new nerve-sparing on lower urinary tract symptoms in robot-assisted radical prostatectomy	The 54th meeting of the International Continence Society (ICS 2024)	Madrid, Spain 10/23-25 2024	Gunge N, Haga N, Matsuzaki H, Yu O, Miyazaki T, Tominaga K
11	(シンポジウム) 前立腺肥大症の内科的・外科的治療選択	第76回西日本泌尿器科学会 総会	佐賀市 10/31-11/2 2024	江本 大紀
12	(ワークショップ) 完全後腹膜アプローチによるロボット支援腎 尿管全摘除術における手技の工夫	第38回日本泌尿器内視鏡・ ロボティクス学会総会	千葉市 11/28-30 2024	宮崎 健
13	(国際学会, シンポジウム) RALP – Functional Outcomes– Tips and Tricks	North American Robotic Urology Society 2025(Las Vegas)	Las Vegas, Nevada, USA 2/27-3/1 2025	Nobuhiro Haga
14	(国際学会) Robot-Assisted Partial Nephrectomy after Diving the Isthmus for Renal Cancer in the Isthmus of Horseshoe Kidney.	North American Robotic Urology Society 2025(Las Vegas)	Las Vegas, Nevada, USA 2/27-3/1 2025	Nobuhiro Haga

〈国内研究助成金〉

1	低活動膀胱に対する miRNA を用いた革新的 低侵襲診断法の確立	日本学術振興会 基盤研究 (C)	2024	羽賀 宣博 (代表)
2	一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機 序解明	日本学術振興会 基盤研究 (C)	2024	中村 信之 (代表)
3	前立腺癌に対する高精度神経温存手術手技の 開発	公益財団法人山口内分泌疾 患研究振興財団 2024年度奨学寄附金	2024	羽賀 宣博

4	一般医家を対象とした過活動膀胱の薬物治療に関する実態調査と適切な薬物治療に関する啓発活動	ファイザー公募型医学教育プロジェクト助成 過活動膀胱または神経因性膀胱の適切な診断と治療推進のための教育	2024	羽賀 宣博
5	過活動膀胱に対するビッグデータを用いた Precision medicine の確立	令和6年度福岡大学若手・女性研究基盤構築支援事業	2024	富永 光将

〈学会活動〉

1	日本排尿機能学会	理事	2024	羽賀 宣博
2	日本泌尿器内視鏡ロボティクス学会	理事	2024	羽賀 宣博
3	日本泌尿器科学会	代議員	2024	羽賀 宣博, 中村 信之
4	日本排尿機能学会	代議員	2024	羽賀 宣博
5	日本泌尿器内視鏡ロボティクス学会	代議員	2024	羽賀 宣博, 岡部 雄, 宮崎 健
6	日本小児泌尿器科学会	代議員	2024	羽賀 宣博
7	日本腎泌尿器疾患予防医学研究会	世話人	2024	羽賀 宣博
8	泌尿器科再建再生研究会	世話人	2024	羽賀 宣博
9	日本尿路結石症学会	世話人	2024	羽賀 宣博
10	日本移植学会	代議員	2024	中村 信之
11	日本臨床腎移植学会	評議員	2024	中村 信之
12	腎移植血管外科研究会	世話人	2024	中村 信之

〈研究に関係した賞〉

1	診断上興味のある症例：腎	第125回九州泌尿器科連合 地方会学術集会 優秀演題賞	2024	松尾 勇輝
---	--------------	-----------------------------------	------	-------

産科婦人科学

〈原著〉

1	Clinical Prediction of Retained Products of Conception: Combining Obstetric History and Ultrasound for Improved Accuracy in Severe Postpartum Hemorrhage	Cureus	16(2): e53651.2024	Mariko Kurakazu, Masamitsu Kurakazu, Chihiro Kiyoshima, Koichiro Shigekawa, Toyofumi Hirakawa, Kenichi Yoshikawa, Tomohiro Ito, Daichi Urushiyama, Kohei Miyata, Fusanori Yotsumoto
2	Adipose-derived Mesenchymal Stem Cells Regenerate Thin Endometrium and Restore Fertility	福岡大学医学紀要	51(2): 47-57, 2024	Hirakawa Toyofumi, Yotsumoto Fusanori, Imi Shiori, Yoshihara Sei-ichi, Miyamoto Shingo

3	Transwell Culture with Adipose Tissue-Derived Stem Cells and Fertilized Eggs Mimics the In Vivo Development of Fertilized Eggs to Blastocysts in the Fallopian Tube: An Animal Study	Antioxidants	13(6) , 704, 2024	Toyofumi Hirakawa, Kazuhiko Nakabayashi , Noriko Ito, Daichi Urushiyama, Kenichiro Hata, Shiori Imi, Mami Shibata, Kohei Miyata, Fusanori Yotsumoto, Shin' ichiro Yasunaga, Tsukasa Baba and Shingo Miyamoto
4	Safety and Potential Effect of Intrauterine Infusion of Autologous Adipose Tissue-Derived Regenerative Cells in Patients With Implantation Failure: A Pilot Study	Cureus	16(3) : e57220.2024	Fusanori Yotsumoto, Kenichi Yoshikawa, Toyofumi Hirakawa, Daichi Urushiyama, Chihiro Kiyoshima, Hisatomi Arima, Shohta Kodama, Hiroaki Nishikawa, Shin' ichiro Yasunaga, Shingo Miyamoto
5	Clinical Significance of miR-4535 and miR-191-5p in Maternal Serum as Independent Biomarkers for Severe Chorioamnionitis	Cureus	16(10) : e72120.2024	Koko Ishida, Chihiro Kiyoshima, Daichi Urushiyama, Toyofumi Hirakawa, Shiori Imi, Makoto Hamasaki, Shinichiro Nagamitsu, Makoto Nomiyama, Kenichiro Hata, Fusanori Yotsumoto
6	Adipose-derived Mesenchymal Stem Cell Transplantation Improves Ovarian Function and Oocyte Quality in Aged Mice	Anticancer Res	44(8) : 3577–3586.2024	Toyofumi Hirakawa, Fusanori Yotsumoto, Shiori Imi, Noriko Ito, Keisuke Ishiwata, Kazuhiko Nakabayashi, Asako Watanabe, Naoto Shirasu, Daichi Urushiyama, Kohei Miyata, Shinya Takahashi, Tsukasa Baba, Kenichiro Hata, Shin' ichiro Yasunaga, and Shingo Miyamoto.
7	Cardiotocography-Based Experimental Comparison of Artificial Intelligence and Human Judgment in Assessing Fetal Asphyxia During Delivery	Cureus	17(1) : e78282.2025	Kohei Miyata, Chihiro Shibata, Hiroaki Fukunishi, Kazunari Hemmi, Hayato Kinoshita, Toyofumi Hirakawa, Daichi Urushiyama, Masamitsu Kurakazu, Fusanori Yotsumoto
8	Effectiveness of the Traditional Japanese Herbal Medicine, Yokuinin (Kampo), in the Treatment of Cervical Precancerous Lesions	Cureus	17(1) : e77114.2025	Chihiro Kiyoshima, Ibuki Kimura, Koko Ishida, Tomoka Hirano, Tomohiro Ishida, Koichiro Shigekawa, Kenichi Yoshikawa, Fusanori Yotsumoto

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|---|----------|----------------------|--|
| 1 | Placental Adhesion Subsequent to Uterine Preservation via Resuscitative Endovascular Balloon Occlusion of the Aorta: A Case Report | Cureus | 16(12): e75732. 2024 | Koshiro Nagata, Toyofumi Hirakawa, Daisuke Izuchi, Daichi Urushiyama, Fusanori Yotsumoto |
| 2 | A Case of OHVIRA (Obstructed Hemivagina and Ipsilateral Renal Anomaly) Syndrome Diagnosed After Signs of Infection During Pregnancy | Cureus | 16(9): e69823.2024 | Toyofumi Hirakawa, Daichi Urushiyama, Masamitsu Kurakazu, Fusanori Yotsumoto |
| 3 | 胎児超音波断層法で出生前に診断した点状軟骨異形成症の2例 | 福岡大学医学紀要 | 51(1), 35-40, 2024 | 石田 倖子, 井樋 大介, 漆山 大知, 讃井 純子, 倉員 正光, 宮田 康平, 四元 房典 |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|---|------------------------|-----------------------|--------------|
| 1 | 【産婦人科領域】子宮内マイクロバイオーーム研究 | 別冊 Bio Clinica：慢性炎症と疾患 | 13(1), 10-15 | 漆山 大知 |
| 2 | 【「次」につなぐ「周産期医療」－次回妊娠への対策と次世代への影響を考える】早産既往妊婦に対する戦略 炎症関連の早産 | 周産期医学 | 54(4), 469-474, 2024 | 漆山 大知 |
| 3 | 私の診療経験から 予防できる子宮頸がん HPV ワクチンで未来を変えるために | 臨牀と研究 | 101(7), 895-898, 2024 | 四元 房典 |
| 4 | 1 外陰の腫瘍・類腫瘍 C 外陰癌 | 産科婦人科疾患最新の治療 2025-2027 | 189-190, 2025 | 吉川 賢一, 四元 房典 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|--------------------------------|---------|-------------|-----------|
| 1 | 産科婦人科手術で初めて執刀する時に必ずみ
ておく教科書 | 株式会社南江堂 | 54-58, 2024 | 漆山 大知（分担） |
|---|--------------------------------|---------|-------------|-----------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|---|---|--------------------------|-------|
| 1 | 人工知能（AI）の産婦人科領域への応用
～研究から臨床まで AI 分析を生かす～ | 第76回日本産科婦人科学
会・学術講演会 | 横浜,
4/20,
2024 | 四元 房典 |
| 2 | [S07] Share the prevention and
management of preterm birth (PTB) in
FAOPS countries | The 23th Congress of the
Federation of Asia and
Oceania Perinatal Societies | 韓国（ソウル）,
9/6,
2024 | 漆山 大知 |

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|--|------------------------------|------|-----------|
| 1 | 統合転写プロファイルとマルチモーダル AI
分析を用いた EAOC 予測診断システムの構
築 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 四元 房典 |
| 2 | マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の
神経発達障害に関わる分子の同定 | 文部科学省
若手研究 | 2024 | 漆山 大知 |
| 3 | マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の
予後不良因子の同定と治療法の開発 | 柿原科学技術研究財団
令和6年度研究助成金 | 2024 | 漆山 大知 |
| 4 | マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の
予後不良因子の同定 | 令和6年度福岡大学若手・
女性研究基盤構築支援事業 | 2024 | 漆山 大知（代表） |

5	エクソソーム医療材による新たな体外受精液 および凍結保存液の開発	柿原科学技術研究財団 令和6年度研究助成金	2024	平川 豊文
〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉				
1	第28回日本バイオ治療法学会学術集会	TKP ガーデンシティ博多 新幹線口	12/7, 2024	四元 房典
〈学会活動〉				
1	日本産科婦人科学会	代議員	2024	四元 房典
2	日本婦人科腫瘍学会	代議員	2024	四元 房典
3	日本周産期・新生児医学会	評議員 A（産科）領域	2024	四元 房典, 倉員 正光, 漆山 大知
4	日本バイオ治療法学会	幹事	2024	四元 房典
5	日本早産学会	幹事	2024	漆山 大知
〈研究に関係した賞〉				
1	脂肪組織由来間葉系幹細胞のエクソソームが 胚細胞に与える効果	日本バイオ治療法学会学術 集会 最優秀賞	2024	平川 豊文
麻酔科学				
〈原著〉				
1	Effects of palliative intrathecal analgesia on patients with refractory cancer bone pain	J Anesth	38(3): 405-411, 2024	Haraga I, Kosugi T, Sadashima E, Yumiba T, Kubo M, Ishikawa-Konishi A, Akiyoshi K
2	Incidence of sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor-associated perioperative ketoacidosis in surgical patients: a prospective cohort study	J Anesth	38(4): 464-474, 2024	Seki H, Kuratani N, Shiga T, Iwasaki Y, Karita K, Yasuda K, Yamamoto N, Nakanishi Y, Shigematsu K, Kobayashi K, Saito J, Kondo I, Yaida N, Watanabe H, Higashi M, Shirasaka T, Doshu-Kajiura A, Edanaga M, Tanaka S, Ikumi S, Ito S, Okada M, Yorozu T
3	Continuous administration of ouabain ameliorates persistent allodynia in neuropathic pain model mice	Med.Bull Fukuoka Univ.	52(1): 1-9, 2025	Ochiai S, Shibata S, Nemoto T, Kuwahara M, Kita T, Shinoda Y, Komatsu T, Akiyoshi K, Kita S, Iwamoto T
〈総説〉				
1	環境問題	臨床麻酔	48(6): 761-766, 2024	重松 研二
2	症例ライブラリー：周術期の高体温「緊急手 術中の体温上昇。情報が限られた中でどう鑑 別する？」	LiSA	31(7): 640-3, 2024	楠本 剛, 秋吉浩三郎

- | | | | | |
|---|---|------|----------------------------|-------|
| 3 | 症例ライブラリー：術中の緊急コンバージョン：方向転換に対する迅速な対応「TAVI中の急激な血圧低下」 | LiSA | 31(12):
1151-5,
2024 | 山田 宗範 |
| 4 | 症例ライブラリー：術中の緊急コンバージョン：方向転換に対する迅速な対応「クールな緊急コンバージョンを目指せ！」 | LiSA | 31(12):
1160-1,
2024 | 秋吉浩三郎 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|--------------------------|--------|---------------------|--------------------|
| 1 | Q&A 循環管理：麻酔科専門医が答える74の疑問 | 克誠堂出版 | pp.158-164,
2024 | 楠本 剛,
秋吉浩三郎（分担） |
| 2 | 麻酔科研修ノート第4版 | 診断と治療社 | pp.101-103,
2024 | 重松 研二（分担） |

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|----------------------------------|-------------------|-----------------------|-------|
| 1 | （教育講演）
産科危機的出血への対応 | 日本麻酔科学会第71回学術集会 | 神戸
6/6-8
2024 | 佐藤 聖子 |
| 2 | （ワークショップ）
改訂臨床工学技士法と業務遂行上の注意点 | 第52回日本集中治療医学会学術集会 | 福岡
3/14-16
2025 | 重松 研二 |

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|--------------------------------------|-----------------|------|-----------|
| 1 | ミクログリアサブセット制御異常に基づく複合性局所疼痛症候群発症機序の解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 柴田 志保（代表） |
|---|--------------------------------------|-----------------|------|-----------|

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|------------------------|------|------|--------------|
| 1 | NPO 法人 ABCD sonography | 理事 | 2024 | 秋吉浩三郎 |
| 2 | 日本麻酔科学会 | 代議員 | 2024 | 秋吉浩三郎, 重松 研二 |
| 3 | 日本心臓血管麻酔学会 | 理事 | 2024 | 秋吉浩三郎 |
| 4 | 日本ペインクリニック学会 | 評議員 | 2024 | 秋吉浩三郎, 柴田 志保 |
| 5 | 日本医療ガス学会 | 常任理事 | 2024 | 秋吉浩三郎 |
| 6 | 日本集中治療医学会 | 評議員 | 2024 | 重松 研二 |
| 7 | 日本循環制御医学会 | 評議員 | 2024 | 秋吉浩三郎 |
| 8 | 日本神経麻酔集中治療学会 | 評議員 | 2024 | 秋吉浩三郎 |
| 9 | 小児麻酔学会 | 評議員 | 2024 | 秋吉浩三郎 |

歯科口腔外科学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|-----------------|--|---|
| 1 | Primary intraosseous squamous cell carcinoma with pagetoid spread arising in periapical odontogenic epithelium of the maxilla | Med Mol Morphol | doi:
10.1007/s
00795-024-
00418-8.,
2024 | Shiho Hashiguchi,
Ryosuke Kita,
Aya Yoshino, Kaori Koga,
Hiromasa Hasegawa,
Makoto Hamasaki,
Seiji Kondo |
|---|---|-----------------|--|---|

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|---|-----------------------|------------------------|--|
| 1 | A case of odontogenic myxoma in the anterior maxillary region of a young girl | Oral Science in Japan | 2024
21-23,
2024 | Shintaro Ishida,
Ryosuke Kita, Ryosuke Mano,
Aya Yoshino, Naoko Aoyagi,
Seiji Kondo |
|---|---|-----------------------|------------------------|--|

〈総説〉

- | | | | | |
|---|---|----------------------------|------------------------------|---|
| 1 | Lingually displaced third molar root and its salvage treatment can lead to lingual nerve damage | Journal of Dental Sciences | 19(4) :
2443-2444
2024 | Kai-Chien Wang,
Bey-Rong Guo, Aya Yoshino,
Chih-Yuan Fang |
| 2 | 睡眠×嚥下：嚥下専門医からみた睡眠時無呼吸：嚥下と無呼吸の接点 | 歯界展望 | 143(5) ,
942-955,
2024 | 梅本 丈二, 山口 浩平,
奥野健太郎 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|---|-------|---------------------|-----------|
| 1 | 睡眠歯科の羅針盤 28人の専門家による臨床実践 睡眠×嚥下 嚥下専門家からみた睡眠時無呼吸 ～嚥下と無呼吸の接点～ | 医歯薬出版 | pp.102-112,
2025 | 梅本 丈二（分担） |
|---|---|-------|---------------------|-----------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|--|--|---|--|
| 1 | （国際学会）
Comparison of Dysphagia Between Patients with PSP-RS and PSP-P | European Society for Swallowing Disorders (ESSD 2024) 14th Annual Congress | Münster, Germany .
September 23-27
2024 . | Yuki Iwashita,
George Umemoto,
Hajime Arahata,
Yoshio Tsuboi |
| 2 | （国際学会）
Post-mortem examination of patients with COVID-19: multi-organ necropsies including the tongue | 第37回台湾顎面外科学会学術大会 | Taichun, Taipei
March 8-9
2025 | Aya Yoshino, Seiji Kondo,
Harutaka Katano,
Hiroko Okura,
Yoshihiko Nakamura |
| 3 | （シンポジウム）
口腔内装置治療の疑問にお答えします | 日本睡眠学会第48回定期学術集会 | 横浜
7/18-19
2024 | 梅本 丈二 |

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|--|-----------------------------|------|-----------|
| 1 | 動脈硬化性疾患における代謝調整栄養因子、分枝鎖アミノ酸による口腔－腸連関制御機構の解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 近藤 誠二（代表） |
| 2 | 神経疾患における睡眠時ブラキシズムと睡眠障害に関する研究 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 梅本 丈二（代表） |
| 3 | 重症感染症の重篤化と口腔－腸連関の関連性解明 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 吉野 綾（代表） |
| 4 | 口腔－腸内性菌叢と人工呼吸器関連肺炎（VAP） | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 喜多 涼介（代表） |
| 5 | 人工呼吸器関連肺炎続発患者における口腔－腸内細菌叢相関の集中治療施設間比較 | 文部科学省
基盤研究 C | 2024 | 眞野 亮介（代表） |
| 6 | COVID-19患者の肺外ネクロブシ－検体の病理学的所見と口腔衛生管理との関連性福岡大学領域別重点研究 | 福岡大学領域別重点研究 | 2024 | 近藤 誠二（代表） |
| 7 | リンパ管内皮細胞 Tumor necrosis factor receptor 2（TNFR2）の機能解析－リンパ管内皮細胞特異的 TNFR2-KO マウスを用いた口腔扁平上皮癌リンパ節転移モデルの解析－ | 公益信託 九州大学医学部
同窓会国際研究助成基金 | 2024 | 橋口 志保（代表） |

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

- | | | | | |
|---|---------------|-----------|------------------|-------|
| 1 | 第33回日本口腔感染症学会 | 福岡県歯科医師会館 | 9/21-22,
2024 | 近藤 誠二 |
|---|---------------|-----------|------------------|-------|

〈長期海外研修〉

- | | | | | |
|---|--|----------------------------|-------------------|-------|
| 1 | リンパ管内皮細胞 Tumor necrosis factor receptor 2 (TNFR2) の機能解析ーリンパ管内皮細胞特異的 TNFR2-KO マウスを用いた口腔扁平上皮癌リンパ節転移モデルの解析ー | アメリカ
Harvard University | 2024.4～
2026.3 | 橋口 志保 |
|---|--|----------------------------|-------------------|-------|

〈学会活動〉

- | | | | | |
|----|-------------------|-----|------|-------|
| 1 | 日本口腔外科学会 | 代議員 | 2024 | 近藤 誠二 |
| 2 | 日本口腔科学会 | 評議員 | 2024 | 近藤 誠二 |
| 3 | 日本口腔感染症学会 | 理 事 | 2024 | 近藤 誠二 |
| 4 | 日本口腔感染症学会 | 代議員 | 2024 | 近藤 誠二 |
| 5 | 日本有病者歯科医療学会 | 代議員 | 2024 | 近藤 誠二 |
| 6 | 日本神経摂食嚥下・栄養学会 | 理 事 | 2024 | 梅本 丈二 |
| 7 | 日本睡眠学会 | 評議員 | 2024 | 梅本 丈二 |
| 8 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 | 評議員 | 2024 | 梅本 丈二 |
| 9 | 日本老年歯科医学会 | 代議員 | 2024 | 梅本 丈二 |
| 10 | 日本歯科麻酔学会 | 代議員 | 2024 | 瀬戸 美夏 |

臨床検査医学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|----------------|------------------------------|---|
| 1 | Relationship between 2nd-generation angiotensin receptor blockers and the risk of hypotension in COVID-19 patients admitted to hospital | Hypertens Res. | 47(7):
1943-1951,
2024 | Yoshihara F, Matsuzawa Y, Nakatsuka K, Kirigaya J, Takeuchi I, Kimura K, Konishi M, Tamura K, Fukui K, Tsukahara K, Shimizu H, Iwabuchi K, Yamada Y, Saka K, Sato Y, Ogawa M, Hayakawa K, Ohmagari N, Ikeda S, Akao M, Shimomura H, Kihara Y, Yoshimoto A, Morita M, Kumada N, Ogata S, Nishimura K, Arisato T, Matsuo M, Kishida M, Yasuda S, Ogawa H. |
| 2 | Does Sinus Rhythm Restoration in Patients With Atrial Fibrillation Undergoing Pulmonary Vein Isolation Have Acute Hemodynamic Benefits? | Cardiol Res. | 15(4):
298-308,
2024 | Komaki T, Mohri N, Ideishi A, Tashiro K, Koyanagi N, Miura SI, Ogawa M. |

- | | | | | |
|---|---|----------------|-----------------------------|---|
| 3 | Smartphone application-based intervention to lower blood pressure: a systematic review and meta-analysis | Hypertens Res. | 48(2) :
492-505,
2025 | Abe M, Hirata T,
Morito N, Kawashima M,
Yoshida S, Takami Y,
Fujimoto T, Kawasoe S,
Shibukawa T, Segawa H,
Yamanokuchi T, Ishida S,
Takahashi K, Tada K,
Kato Y, Sakima A,
Arima H. |
| 4 | An investigation of the association between atrial fibrillation and the liver fibrosis-4 index in patients who underwent coronary computed tomography angiography | Hypertens Res. | 48(2) :
640-649,
2025 | Hirata T, Shiga Y,
Tashiro K, Higashi S,
Tachibana T, Kawahira Y,
Suematsu Y, Kuwano T,
Sugihara M, Ogawa M,
Miura SI. |
| 5 | Differences in the effects of exercise on blood pressure depending on the physical condition of the subject and the type of exercise: a systematic review and meta-analysis | Hypertens Res. | 48(2) :
720-732,
2025 | Suematsu Y, Morita H,
Abe M, Uehara Y,
Koyoshi R, Fujimi K,
Ideishi A, Takata K,
Kato Y, Hirata T,
Yahiro E, Morito N,
Kitajima K, Yano Y,
Satoh A, Yoshimura C,
Ishida S, Okutsu S,
Takahashi K, Shinohara Y,
Sakaguchi T, Katsuki S,
Tada K, Fujii T,
Funakoshi S, Hu Y,
Satoh T, Ohnishi H,
Okamura K, Mizuno H,
Arakawa K, Asayama K,
Ohtsubo T, Ishigami T,
Shibata S, Fujita T,
Munakata M, Ohishi M,
Ichihara A, Katsuya T,
Mukoyama M, Rakugi H,
Node K, Arima H,
Miura SI. |
| 6 | Resistance exercise has an antihypertensive effect comparable to that of aerobic exercise in hypertensive patients: a meta-analysis of randomized controlled trials | Hypertens Res. | 48(2) :
733-743,
2025 | Suematsu Y, Morita H,
Abe M, Uehara Y,
Koyoshi R, Fujimi K,
Ideishi A, Takata K,
Kato Y, Hirata T,
Yahiro E, Morito N,
Kitajima K, Yano Y,
Satoh A, Yoshimura C,
Ishida S, Okutsu S,
Takahashi K, Shinohara Y,
Sakaguchi T, Katsuki S,
Tada K, Fujii T,
Funakoshi S, Hu Y,
Satoh T, Ohnishi H,
Okamura K, Mizuno H,
Arakawa K, Asayama K,
Ohtsubo T, Ishigami T,
Shibata S, Fujita T,
Munakata M, Ohishi M,
Ichihara A, Katsuya T,
Mukoyama M, Rakugi H,
Node K, Arima H,
Miura SI. |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|--|--------------|----------------------|---|
| 1 | The Mechanism and Management of Pneumopericardium Caused by Right Ventricular Lead Perforation | Cardiol Res. | 15(6): 472-476, 2024 | Komaki T, Ueno Y, Mohri N, Ideishi A, Tashiro K, Miura SI, Ogawa M. |
|---|--|--------------|----------------------|---|

〈総説〉

- | | | | | |
|---|-------------------------------|------------|----------------------|-------|
| 1 | 生理検査の Up to Date 心室期外収縮の検査と治療 | 日本臨床検査医学会誌 | 72(5): 403-407, 2024 | 小川 正浩 |
|---|-------------------------------|------------|----------------------|-------|

〈著書〉

- | | | | | |
|---|-------------------|-------|------------------|------------|
| 1 | 日本臨牀 増刊号 「不整脈診療学」 | 日本臨牀社 | pp.336-341, 2025 | 小川 正浩 (分担) |
|---|-------------------|-------|------------------|------------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|------------------------------------|-------------------------|-----------------|-------|
| 1 | （招待講演）
心不全合併心房細動の治療と心臓リハビリテーション | 第30回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 | 神戸 7/13-14 2024 | 小川 正浩 |
|---|------------------------------------|-------------------------|-----------------|-------|

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|---|--------------------|------|-----------------------------|
| 1 | 腸内細菌から動脈硬化を予測する：AI を用いた挑戦 | 文部科学省
挑戦的研究（萌芽） | 2024 | 小川 正浩
（代表者：有馬 久富） |
| 2 | 心房細動における脳心血管病予防のための降圧目標を解明する国際共同大規模臨床試験 | 文部科学省
基盤研究（B） | 2024 | 小川 正浩, 高田 耕平
（代表者：有馬 久富） |
| 3 | 情報通信技術を用いた遠隔栄養指導有用性の検討 | 文部科学省
若手研究 | 2024 | 高田 耕平（代表者） |

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

- | | | | | |
|---|---|------------------------------------|------------|-------|
| 1 | 第70回日本臨床検査医学会九州地方会・第36回日本臨床化学会九州支部総会・第5回日本医療検査科学会九州地方会 合同学会 | 福岡大学病院メディカルホール, 多目的室, 同窓会ラウンジ, 談話室 | 2/22, 2025 | 小川 正浩 |
|---|---|------------------------------------|------------|-------|

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|-----------------------------------|---|------|--------------|
| 1 | Asia Pacific Heart Rhythm Society | Faculty | 2024 | 小川 正浩 |
| 2 | 日本循環器学会 | 社員 | 2024 | 小川 正浩, 森戸 夏美 |
| 3 | 日本循環器学会 | FJCS, 循環器専門医資格認定審査診療実績表評価者 | 2024 | 小川 正浩 |
| 4 | 日本不整脈心電学会 | 評議員, 情報広報委員会委員, 倫理委員会 利益相反部会, 専門医認定制度委員会 資格更新部会, 編集委員会 「心電図」編集部 | 2024 | 小川 正浩 |
| 5 | 臨床心臓電気生理研究会 | 幹事 | 2024 | 小川 正浩 |
| 6 | 日本臨床検査医学会 | 評議員 | 2024 | 小川 正浩 |

救命救急医学

〈原著〉

- 1 Clinical characteristics and management of vertebral artery dissection without definitive imaging features: A single center cohort study
Interdisciplinary Neurosurgery- Advanced Techniques and Case Management
Available online 24 April, 2024
DOI: 10.1016/j.inat.2024.101985
Hironori Fukumoto, Takashi Morishita, Koichiro Takemoto, Hiromasa Kobayashi, Dai Kawano, Yoshinobu Horio, Mitsutoshi Iwaasa, Tooru Inoue, Hiroshi Abe
- 2 AN69ST 膜と PMMA 膜における Filter LifeTime の比較検討
日本急性血液浄化学会雑誌
15(1): 48-53, 2024
山崎慎太郎, 松本 舞, 城尾 和司, 山内 和也, 鳩本 広樹, 仲村 佳彦, 石倉 宏恭
- 3 ATF5-Mediated Mitochondrial Unfolded Protein Response (UPRmt) Protects Neurons Against Oxygen-Glucose Deprivation and Cerebral Ischemia
Stroke
55: 1904-1913, 2024
DOI: 10.1161/STROKEAHA.123.045550
Hong An, Bing Zhou, Kazuhide Hayakawa, Violeta Duran Laforet, Ji-Hyun Park, Yoshihiko Nakamura, Emiri T. Mandeville, Ning Liu, Shuzhen Guo, Zhanyang Yu, Jingfei Shi, DiWu, Wenlu Li, Eng H. Lo, Xunming Ji
- 4 Genotypic Shift and Diversification of MRSA Blood Stream Isolates in a University Hospital Setting: Evidence from a 12-Year Observational Study
antibiotics
DOI: 10.3390/antibiotics1307067 2024
Yuka Motomura, Motoyasu Miyazaki, Mitsuhiro Kamada, Shinichi Morimoto, Yoshihiko Nakamura, Tomomitsu Satho, Tohru Takata, Nobuhiro Kashige
- 5 Qualitative analysis of blood from patients engaging in deliberate self-harm: Differences between prescribed and detected drugs
Neuropsychopharmacology Reports
44: 809-820, 2024
DOI: 10.1002/npr2.12492
Masato Masuda, Brian Waters, Leo Gotoh, Yoshihiko Nakamura, Yoshifumi Kato, Shigeki Nabeshima, Shin-ichi Kubo, Nobuaki Eto, Hiroaki Kawasaki
- 6 Molecular and cellular mechanisms of mitochondria transfer in models of central nervous system disease.
Journal of cerebral blood flow and metabolism
DOI 10.1177/0271678X2413002 2024/11/14
Takafumi Nakano, Keiichi Irie, Koichi Matsuo, Kenichi Mishima, Yoshihiko Nakamura
- 7 Association Between Major Adverse Cardiovascular Events and Left Ventricular Mass Index in Patients Who Have Undergone Coronary Computed Tomography Angiography: From the FU-CCTA Registry
Cardiol Res.
15(3): 134-143, 2024
Tetsuo Tachibana, Yuhei Shiga, Kohei Tashiro, Sara Higashi, Yuka Shibata, Yuto Kawahira, Yuta Kato, Takashi Kuwano, Makoto Sugihara, Shin-ichiro Miura
- 8 Considering the Possible Role of Pharmacists According to the Presence or Absence of Lifestyle-Related Diseases at the Time of Coronary CT Examination and Trends of Medication Use for These Diseases by Medical Doctors
pharmacy
2024, 12, 99.
<https://doi.org/10.3390/pharmacy12040099>
Erika Miura-Takahashi, Kohei Tashiro, Yuhei Shiga, Yuto Kawahira, Sara Higashi, Yuki Otsu, Hidetoshi Kamimura, Shin-ichiro Miura

9	Efficacy and Safety of a New Delivery Assist Catheter with a Flexible, Spindle-Shaped Shaft in Mechanical Thrombectomy	WORLD NEUROSURGERY	2024,187: e997-e1003. https://doi.org/10.1016/j.wneu.2024.05.025	Sho Takeshita, Kouhei Nii, Jun Tsugawa, Ayako Ishii, Hironori Fukumoto, Hayatsura Hanada, Ritsuro Inoue, Kimiya Sakamoto, Toshio Higashi
10	Patellar height changes sequentially after medial openwedge high tibial osteotomy: Evaluation using shearwave elastography	Journal of Orthopaedic Science	Available online 13 August 2024 https://doi.org/10.1016/j.jos.2024.07.008	Yuki Kudo, Akira Maeyama, Tetsuro Ishimatsu, Taiki Matsunaga, Shizuhide Nakayama, Takuaki Yamamoto
11	Association between pre-treatment with statin and its inhibitory effect on the onset of coronary artery disease at the time of coronary computed tomography angiography: a new look at an old medication	Heart and Vessels	2024 Oct;39(10): 845-856. doi: 10.1007/s00380-024-02407-4. Epub 2024 Apr 30.	Erika Miura-Takahashi, Kohei Tashiro, Yuhei Shiga, Yuto Kawahira, Yuta Kato, Takashi Kuwano, Makoto Sugihara, Yuki Otsu, Hidetoshi Kamimura, Shin-Ichiro Miura
12	Pathophysiology of abnormal compensation ability of the subtalar joint in the varus knee	Journal of Orthopaedic Science	29(5): 1259-1264, 2024	Kotaro Miyazaki, Akira Maeyama, Taiki Matsunaga, Tetsuro Ishimatsu, Takuaki Yamamoto
13	Veno-venous extracorporeal membrane oxygenation 管理を要した重症 COVID-19 患者の消化管出血合併に関する検討	臨床救急医学会雑誌	27: 751-756, 2024	大藏 裕子, 二宮 駿, 丸山 隼一, 森本 紳一, 川野 恭雅, 山崎慎太郎, 鳩本 広樹, 山内 和也, 仲村 佳彦
14	Embolization of posterior fossa meningiomas supplied with meningohypophyseal trunk by using n-BCA and dual balloon protection	Am J Neuroradiol	2024 Oct 17: ajnr.A8536. doi: 10.3174/ajnr.A8536.	Jota Tega, Koichiro Takemoto, Takayuki Koga, Dai Kawano, Shintaro Yoshinaga, Hideaki Tanaka, Kei Yamashiro, Toshiyuki Enomoto, Hironori Fukumoto, Yoshinobu Horio, Hiromasa Kobayashi, Takashi Morishita, Mitsutoshi Iwaasa, Hiroshi Abe
15	CWHTO 術後の脛骨形態変化と膝蓋大腿関節への影響	整形外科と災害外科	73: (4) 728~730, 2024.	又野 佑太, 石松 哲郎, 工藤 悠貴, 前山 彰, 松永 大樹, 中山 鎮秀, 山本 卓明
16	Extravasation のない骨盤骨折における出血因子の解明	整形外科と災害外科	73: (4) 788~791, 2024.	城間 将人, 石橋 卓也, 宮崎弘太郎, 仲村 佳彦, 喜多村泰輔, 石倉 宏恭, 山本 卓明
17	Therapeutic mitochondria treatment amplifies macrophage-mediated phagocytosis and recycling exocytosis	Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism	2025, doi: 10.1177/0271678X251326871	Masayoshi Tanaka, Shin Ishikane, Dong Bin Back, Ester Licastro, Fang Zhang, Ji Hyun Park, Elga Esposito, Giuseppe Pignataro, Takafumi Nakano, Yoshihiko Nakamura, Kazuhide Hayakawa

〈症例報告〉

- 1 Successful transition from intravenous to inhalation anesthesia for respiratory management of coronavirus disease pneumonia: A case report
Acute Medicine & Surgery 2024;11: e70010. DOI:10.1002/ams2.70010, 2024
Reijiro Kato, Yuhei Irie, Yoshito Izutanik, Hiroyasu Ishikura

- 2 Case report of pharmacokinetic analysis of continuous intravenous infusion of fentanyl in a patient with severe burn: burn shock stage complicates pain management.
Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2024;10: 41 DOI:10.1186/s40780-024-00363-9
Takafumi Nakano, Yasuhisa Oida, Shinichi Morimoto, Kentaro Muranishi, Soichiro Ushio, Takuya Yamashina, Masanobu Uchiyama, Kenichi Mishima, Kiyoyuki Kitaichi, Yoshihiko Nakamura, Koichi Matsuo

- 3 Adult severe community-acquired pneumonia with bloodstream infection caused by *ψ* USA 300: A case report
Diagnostic Microbiology & Infectious Disease Available online 26 November 2024 DOI: /10.1016/j.diagmicrobio.2024.116630
Shinichi Morimoto, Mituhiro Kamada, Yuka Motomura, Nobuhiro Kashig, Motoyasu Miyazaki, Yoshihiko Nakamura, Tohru Takata

- 4 What Is the Optimal Antithrombotic Therapy for Valsalva Thrombus Following Transcatheter Aortic Valve Replacement?
Journals of the American College of Cardiology 2024 Aug, 29(16):102455
Yuta Kato, Yuto Kawahira, Midori Miyazaki, Tetsuo Hirata, Go Kuwahara, Makoto Sugihara, Shinichiro Miura

- 5 足部・足関節開放骨折に伴った足根骨周囲の脱臼3例
整形外科と災害外科 73(3):472-477, 2024
當銘 晋作, 宮崎弘太郎, 石橋 卓也, 喜多村泰輔, 石倉 宏恭, 山本 卓明

- 6 Successful endovascular treatment of a ruptured saccular aneurysm arising from a fenestrated proximal anterior cerebral artery
Interdisciplinary Neurosurgery 36: 101964, 2024
Senju K, Horio Y, Morishita T, Kawano D, Koga T, Oda K, Fukumoto H, Amamoto T, Kobayashi H, Takemoto K, Abe H.

- 7 短報 CG02N Analyzer Accurately Measures Fibrinogen Level in Whole Blood in the Presence of Low- or High-Dose Heparin.
Indian journal of hematology & blood transfusion : an official journal of Indian Society of Hematology and Blood Transfusion 40(1):161-165 2024年1月
Yoshihiko Nakamura, Junichi Maruyama, Takehiro Umemura, Kota Hoshino, Yuhei Irie, Shinichi Morimoto, Yoshito Izutani, Hiroyasu Ishikura

- 8 Management of eight cases of subarachnoid hemorrhage using transpulmonary thermololition during clazosentan therapy
Interdisciplinary Neurosurgery doi.org/10.1016/j.inat.2025.101997
Hiroto Iyota, Yasumasa Kawano, Hironori Fukumoto, Takato Tajiri, Mitsutoshi Iwaasa, Sinichi Morimoto, Yoshito Izutani, Shintaro Yamasaki, Kazuya Yamauchi, Hiroki Hatomoto, Hiroshi Abe, Yoshihiko Nakamura

- | | | | | |
|---|-------------------------|----------|--------------------------|--|
| 9 | 頸椎から腰椎に生じた広範囲脊椎硬膜外膿瘍の1例 | 九州救急医学雑誌 | 24(1):
29-33,
2025 | 勝村 万実, 森本 紳一,
加藤礼次郎, 二宮 駿,
丸山 隼一, 弓削 理絵,
喜多村泰輔, 仲村 佳彦 |
|---|-------------------------|----------|--------------------------|--|

〈総説〉

- | | | | | |
|---|--|---|--|--|
| 1 | 重症度評価, モニタリングとしてのプレセプシンの有用性 | 日本急性血液浄化学会雑誌 | 15(1):
17-22,
2024 | 仲村 佳彦, 山崎慎太郎 |
| 2 | Molecular and cellular mechanisms of mitochondria transfer in models of central nervous system disease. | Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism | DOI: 10.1177/
0271678X
241300223
2024/11/14 | Takafumi Nakano, Keiichi Irie,
Koichi Matsuo,
Kenichi Mishima,
Yoshihiko Nakamura |
| 3 | 【実地医家における脳卒中診療のポイント】くも膜下出血 | 臨床と研究 | 101(11):
1372-1377, 2024 | 河野 大, 安部 洋 |
| 4 | シンポジウム 骨粗鬆症リエゾンサービスにおける整形外科の役割; 骨折リエゾンサービスクリニカルスタンダードと二次性骨折予防 | 日整会誌 | 98: 368-371,
2024 | 福田 文雄, 原 夏樹,
林 豪毅 |
| 5 | 【脆弱性骨盤輪骨折-診断・治療と予後】脆弱性骨盤輪骨折に対する仰臥位単純CTと側臥位単純CT(仰側臥位CT法)での不安定性の診断 | 整形・災害外科 | 67(6):
721-726, 2024 | 岡田 祥明, 福田 文雄,
安藤 恒平, 善家 雄吉,
林 豪毅, 弓指 恵一 |
| 6 | Clinical practice guidelines for management of disseminated intravascular coagulation in Japan 2024: part 4-trauma, burn, obstetrics, acute pancreatitis/liver failure, and others | International Journal of Hematology | doi.org/
10.1007/
s12185-025-
03918-0
Published online:
31 January 2025 | Mineji Hayakawa,
Yoshinobu Seki,
Takayuki Ikezoe,
Kazuma Yamakawa,
Kohji Okamoto,
Shigeki Kushimoto,
Yuichiro Sakamoto,
Yuki Itagaki, Yuki Takahashi,
Hiroyasu Ishikura,
Toshihiko Mayumi,
Toshihisa Tamura,
Kenji Nishio, Yu Kawazoe,
Ayami Shigeno,
Yudai Takatani,
Akihito Tampo,
Yoshihiko Nakamura,
Katsunori Mochizuki,
Noritaka Yada,
Kaoru Kawasaki,
Akira Kiyokawa,
Mamoru Morikawa,
Mitsuhiro Uchiba,
Takeshi Matsumoto,
Hidesaku Asakura,
Seiji Madoiwa,
Toshimasa Uchiyama,
Shinya Yamada, Shin Koga,
Takashi Ito, Toshiaki Iba,
Noriaki Kawano,
Satoshi Gando, Hideo Wada,
Committee of the Clinical
Practice Guidelines for
Disseminated Intravascular
Coagulation 2024, the Japanese
Society on Thrombosis,
Hemostasis |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|---|------|------------------|-----------|
| 1 | 付録 A. 筋肉注射（ワクチン接種）の方法と注意点 ;感染症薬学のひきだし 疾患・治療・制御の基本から応用まで | 医学書院 | PP.448-457, 2024 | 喜多村泰輔（分担） |
|---|---|------|------------------|-----------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|----|--|--------------------------|--------------------|--|
| 1 | パネルディスカッション5 頭部外傷に対する各施設の治療指針 - ICP oriented treatment の Real world - :救命のために頭蓋内圧 (ICP) モニターを挿入する重要性 | | | 田尻 崇人 |
| 2 | パネルディスカッション4 ECMO ナースの必要性和教育 (第2弾) ;Transport における ECMO ナースのスキルセットと教育 | 第46回日本呼吸療法医学会
学術集会 | 2024/06/28
山形市 | 丸山 隼一, 山上 七祐,
安武 麻衣, 四井 泰大,
川鍋 智子, 村西謙太郎,
川野 恭雅, 仲村 佳彦 |
| 3 | パネルディスカッション5 呼吸管理戦略を標す:ECMO 撤退の決断をどうするのか? ;呼吸 ECMO 撤退とそのプロセス | 第46回日本呼吸療法医学会
学術集会 | 2024/06/28
山形市 | 丸山 隼一, 川野 恭雅,
鳩本 広樹, 山崎慎太郎,
山崎 玲子, 森本 紳一,
村西謙太郎, 泉谷 義人,
喜多村泰輔, 仲村 佳彦 |
| 4 | シンポジウム2 「ECMO を用いた集中治療~困難な症例に挑む~」;体重200kg 超の重症 COVID-19患者に V-V ECMO を導入し管理成し得た例 | 日本集中治療医学会
第8回九州支部学術集会 | 2024/07/27
宮崎市 | 泉谷 義人, 森本 紳一,
村西謙太郎, 丸山 隼一,
星野 耕大, 入江 悠平,
山崎 玲子, 川野 恭雅,
喜多村泰輔, 仲村 佳彦 |
| 5 | シンポジウム 能登半島地震2-②亜急性期;能登半島地震 発災早期からの自動ラップ式簡易トイレの設置の重要性 | 第27回日本臨床救急医学会
総会・学術集会 | 2024/07/19
鹿児島市 | 喜多村泰輔, 森野 一真,
田中 潤一, 高橋 武史 |
| 6 | 教育セミナー1 ;トロンボモジュリンの敗血症診療における位置づけと抗炎症作用の可能性 | 日本集中治療医学会
第8回九州支部学術集会 | 2024/7/27
宮崎市 | 仲村 佳彦 |
| 7 | 特別講演2 :医療従事者の負担を減らすだけでなく患者の予後を変えるか?振動メッシュネブライザーの可能性;人工呼吸管理中の吸入療法 | 日本集中治療医学会
第8回九州支部学術集会 | 2024/7/27
宮崎市 | 村西謙太郎 |
| 9 | シンポジウム 福岡大学病院救命救急センター/ECMO センターにおける新興感染症重症 COVID-19診療 | 第33回日本口腔感染症学会
総会学術大会 | 2024/9/21
福岡市 | 仲村 佳彦 |
| 10 | シンポジウム2「救急・集中治療領域の未来へつなぐアフエレス」
敗血症に対するサイトカイン吸着能を有する持続的血液浄化療法におけるヘモフィルターの可能性 | 第45回日本アフエレス学会
学術大会 | 2024/10/13
大阪市 | 仲村 佳彦 |
| 11 | シンポジウム5 重症患者における鎮痛・鎮静・せん妄・睡眠の実態と対策
1.重症患者における眠剤投与の実態 | 第52回日本救急医学会総
会・学術集会 | 2024/10/13
仙台市 | 高谷 悠大, 中村 健介,
川副 友, 田中 知恵,
田上 隆, 望月 勝徳,
丹保亜希仁, 仲村 佳彦,
高橋 学, 石倉 宏恭 |
| 12 | パネルディスカッション」10 Beyond the ICU: ECMO 搬送を成功させるためのロードマップ | 第52回日本救急医学会総
会・学術集会 | 2024/10/14
仙台市 | 星野 耕大, 新里 盛朗,
富山 修志, 土屋 洋介,
大田 大樹, 丸山 隼一,
川野 恭雅, 梅村 武寛,
仲村 佳彦 |

13	シンポジウム3 急性血液浄化法に関する基礎的検討；血液浄化用 SNV ポリマー膜の血小板活性化抑制効果に関する検討：中間報告	第35回日本急性血液浄化学会学術集会	2024/10/19 甲府市	丸山 隼一, 鳩本 広樹, 山崎慎太郎, 山内 和也, 城尾 和司, 松本 舞, 仲村 佳彦
14	スポンサードシンポジウム 急性血液浄化とサイトカイン；敗血症バイオマーカーを用いた CKRT 開始基準の探索	第35回日本急性血液浄化学会学術集会	2024/10/19 甲府市	仲村 佳彦, 川野 恭雅, 森本 紳一, 村西謙太郎, 山崎慎太郎, 鳩本 広樹, 山内 和也, 城尾 和司, 松本 舞
15	シンポジウム4 急性血液浄化の最前線；当センターにおける敗血症患者に対する急性血液浄化療法の戦略	第35回日本急性血液浄化学会学術集会	2024/10/20 甲府市	仲村 佳彦, 川野 恭雅, 森本 紳一, 村西謙太郎, 山崎慎太郎, 鳩本 広樹, 山内 和也, 城尾 和司, 松本 舞
16	シンポジウム「地域医療に役立つ最新の医療」；救急医は地域医療にどのように貢献できるのか	第17回福岡県医学会総会	2025/01/26 福岡市	仲村 佳彦
17	教育セミナー（ランチョン）23 Continuous Kidney Replacement Therapy: CKRT in Sepsis/Septic AKI: global update；敗血症に対するメディエーター除去を期待した持続的腎代替療法を再考する	第52回日本集中治療医学会学術集会	2025/3/15 福岡市	仲村 佳彦
18	シンポジウム27（SY）：くも膜下出血の新たな管理：先端治療の恩恵と注意点；クラゾセンタン投与下での重症 aSAH 患者における経肺熱希釈法による水分管理の有用性	第52回日本集中治療医学会学術集会	2025/3/15 福岡市	伊與田比呂人, 川野 恭雅, 山崎慎太郎, 鳩本 広樹, 野明 純汰, 村西謙太郎, 森本 紳一, 喜多村泰輔, 岩朝 光利, 仲村 佳彦
19	教育セミナー（ランチョン）34；DIC の臨床最前線～医師と薬剤師の立場から～敗血症性 DIC 治療の実際～アンチトロンビン活性の測定意義について	第52回日本集中治療医学会学術集会	2025/3/16 福岡市	仲村 佳彦
20	Prevalence and risk factors of post-intensive care syndrome in severe covid-19 patients - a single-center prospective observational study	44th ISICEM	March 18-21, 2025, Brussels, Belgium	S Morimoto, J Noake, H Iyota, M Nakashio, J Maruyama, H Okura, Y Izutani, K Muranishi, Y Kawano, Y Nakamura
21	Predictive factors for long-term ECMO support in patients with severe covid-19	44th ISICEM	March 18-21, 2025, Brussels, Belgium	R.Kato, Y.Kawano, Y.Irie, S.Morimoto, Y.Izutani, K.Muranishi, J.Maruyama, H.Hatomoto, S.Yamasaki, Y.Nakamura
〈国内研究助成金〉				
1	重症 COVID-19患者の長期予後調査	福岡大学 領域別重点研究	2024	仲村 佳彦（代表）
2	重症 COVID-19患者の長期予後調査	福岡大学 領域別重点研究	2024	森本 紳一 （代表者：仲村 佳彦）
3	重症 COVID-19患者の長期予後調査	福岡大学 領域別重点研究	2024	泉谷 義人 （代表者：仲村 佳彦）
4	病態に強固な関連がある敗血症新規サブクラス分類の開発	基盤研究(B) (一般)	2024	森本 紳一 （代表者：工藤 大介）

〈学会活動〉

1	日本救急医学会	評議員	2024	仲村 佳彦, 喜多村泰輔
2	日本臨床救急医学会	評議員	2024	喜多村泰輔
3	日本救命医療学会	評議員	2024	喜多村泰輔
4	日本救急医学会	編集委員	2024	仲村 佳彦
5	日本救命医療学会	編集委員	2024	喜多村泰輔
6	日本エンドトキシン救命治療研究会	編集委員	2024	喜多村泰輔

総合診療学

〈原著〉

1	Preventable diagnostic errors of lower gastrointestinal perforation: a secondary analysis of a large-scale multicenter retrospective study	Journal of Emergency Medicine	17: 192, 2024	Harada T, Watari T, Watanuki S, Kushiro S, Miyagami T, Syusa S, Suzuki S, Hiyoshi T, Hasegawa S, Nabeshima S, Aihara H, Yamashita S, Tago K, Yoshimura F, Kunitomo K, Tsuji T, Hirose M, Tsuchida T, Shimizu T
2	Insufficient anti-spike RBD IgA responses after triple vaccination with intramuscular mRNA BNT162b2 vaccine against SARS-CoV-2	Heliyon	10(1)e23595, 2024	Yoshimura M, Sakamoto A, Ozuru R, Kurihara Y, Itoh R, Ishii K, Shimizu A, Chou B, Sechi Y, Fujikane A, Nabeshima S, Hiromatsu K
3	The appearance of anti-spike receptor binding domain immunoglobulin G4 responses after repetitive immunization with messenger RNA-based COVID-19 vaccines	International journal of infectious diseases	139, 1-5, 2024	Yoshimura M, Sakamoto A, Ozuru R, Kurihara Y, Itoh R, Ishii K, Shimizu A, Chou B, Nabeshima S, Hiromatsu K
4	Antiviral effect of alkaloids-free Ephedra Herb extract on respiratory syncytial virus infection	Frontiers in pharmacology	15 : 1410470, 2024	Fujikane A, Fujikane R, Hyuga S, Sechi Y, Hiyoshi T, Sakamoto A, Nishi A, Odaguchi H, Hiromatsu K, Goda Y, Ishino Y, Nabeshima S
5	Skiping Breakfast and Progression of Chronic Kidney Disease in the General Japanese Population: The Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease (ISSA-CKD)	Kidney & blood pressure research	49(1)472-479, 2024	Takahashi K, Inoue Y, Tada K, Hiyamuta H, Ito K, Yasuno T, Sakaguchi T, Katsuki S, Shinohara Y, Nohara C, Okutsu S, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Mukoubara S, Arima H, Masutani K
6	漢方診療における漢方製剤の多剤併用（ポリファーマシー）の問題～医療安全委員会報告～	日本東洋医学雑誌	75(2):144-151, 2024	牧野 利明, 関根麻里子, 嶋田 沙織, 田中耕一郎, 地野 充時, 田原 英一, 鍋島 茂樹

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	（国内学会） ウイルス疾患に効く漢方～RSV，COVID-19， インフルエンザ，感冒に漢方薬を使ってみま しょう～	第51回日本小児東洋医学会 学術集会	大阪 10/27 2024	鍋島 茂樹
2	（国内学会） 成人の急性ウイルス感染症	第33回日本口腔感染症学会 総会	福岡 9/22 2024	鍋島 茂樹
3	（シンポジウム） SARS-CoV 2 のウイルス学的特徴と病態－ Long COVID と炎症－	第74回日本東洋医学会学術 総会	大阪 5/31-6/2 2024	鍋島 茂樹
4	（シンポジウム） 発熱と体温の臨床的意義	第41回和漢医薬学会学術大 会	千葉 8/24-8/25 2024	鍋島 茂樹

〈国内研究助成金〉

1	高感度 CRP と冠動脈石灰化との関係を解明 する疫学研究	文部科学省 若手研究	2024	加藤 禎史
2	感染症発症に関与する腸内細菌叢異常を解明	文部科学省 基盤研究 C	2024	鍋島 茂樹 （代表者：武岡宏明）

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第73回福岡大学東洋医学研究会	Web	7/9, 2024	鍋島 茂樹
2	第74回福岡大学東洋医学研究会	Web	2/18, 2025	鍋島 茂樹
3	福岡大学 KAMPO Web セミナー	Web	9/17, 2024	鍋島 茂樹
4	福岡大学 KAMPO Web セミナー	Web	12/10, 2024	鍋島 茂樹

〈学会活動〉

1	日本病院総合診療医学会	事務局長	2024	鍋島 茂樹
2	日本病院総合診療医学会	理事	2024	鍋島 茂樹
3	日本病院総合診療医学会	評議員	2024	坂本 篤彦，鈴山 裕貴， 奥津 翔太
4	日本東洋医学会	九州支部長	2024	鍋島 茂樹
5	日本東洋医学会	理事	2024	鍋島 茂樹
6	日本東洋医学会	代議員	2024	鍋島 茂樹
7	和漢医薬学会	理事	2024	鍋島 茂樹
8	日本感染症学会	評議員	2024	鍋島 茂樹，坂本 篤彦
9	日本プライマリ・ケア連合学会	代議員	2024	鍋島 茂樹

福岡大学病院病理部・病理診断科

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|---|-----------------|------------------------|--|
| 1 | CT ガイド下針生検時の迅速細胞診で推定できた線維形成性小円形細胞腫瘍の一例 | 日本臨床細胞学会九州連合会雑誌 | 55:
77-82,
2024 | 坂田 祥子, 松本 慎二,
角谷 優子, 大石 朋子,
辻 雅子, 西中村恵輔,
秋吉 梨江, 小山 逸,
田中 俊裕, 濱崎 慎 |
| 2 | A Rare Case of Pleural Epithelioid Mesothelioma With a Prominent Myxoid Stroma Reported With Morphology, Fluorescent In Situ Hybridization, and Ultrastructural Findings. | Cureus | 12:
16(6) ,
2024 | Sonobe H, Omote R,
Habara T, Washio K,
Yamazoe N, Matsumoto S,
Nabeshima K, Toda H. |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|--|--------------------|------------------------------------|---|
| 1 | 臨床検査 Q&A 体腔液細胞診における反応性中皮の「反応性」とは何ですか？ | Medical technology | 52(2):
183-184,
2024 | 松本 慎二 |
| 2 | 臨床検査 Q&A 細胞診検体の溶血処理はどのように行えばよいでしょうか？ | Medical technology | 52(6):
602-607,
2024 | 山田 貴之, 松本 慎二,
吹田 大河, 植原 有紗,
羽原 利幸 |
| 3 | 【細胞診のピットフォール】中皮腫から考える体腔液（胸腹水）細胞診のピットフォール | 病理と臨床 | 42(10):
0983-0988,
2024 | 濱崎 慎, 松本 慎二 |
| 4 | 中皮腫と良性中皮細胞との鑑別診断における補助診断ツールの有用性と判定の注意点 | 病理技術 | 87(2):
50-52,
67-68,
2024 | 松本 慎二 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|--|-------|------------------|--------------------|
| 1 | 術中迅速検体の取扱いと美しい凍結標本の作製 第1部 総論 II. 3. 脳 | 文光堂 | 31-37,
2024 | 松本 慎二（分担執筆） |
| 2 | 基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方-第5版, III-体腔液の細胞診 | 近代出版社 | 96-116,
2025 | 松本 慎二
（編著・分担執筆） |
| 3 | 基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方-第6版, IX - 脳脊髄液・脳腫瘍の細胞診 | 近代出版社 | 202-220,
2026 | 松本 慎二
（編著・分担執筆） |

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|---|---------------------|----------------------|--|
| 1 | 高分化な中皮腫と免疫染色評価（教育講演：スキルアップ講座） | 第65回 日本臨床細胞学会総会春期大会 | 大阪
6/8,
2024 | 松本 慎二, 角谷 優子,
西中村恵輔, 鍋島 一樹,
濱崎 慎 |
| 2 | 中皮腫診断における体腔液細胞診の役割と進化～鑑別に有用な免疫細胞マーカーの特性と Pitfall（招聘講演） | 沖縄県臨床検査技師会細胞検査研修会 | 沖縄
10/11,
2024 | 松本 慎二 |
| 7 | 脳腫瘍の術中病理診断における圧搾細胞診の有用性（招聘講演） | 沖縄県臨床検査技師会細胞検査研修会 | 沖縄
10/12,
2024 | 松本 慎二 |
| 3 | 中皮腫診断における体腔液細胞診の役割と進化～鑑別に有用な免疫細胞マーカーの特性と Pitfall～（招聘講演） | 第2回 徳洲会山陰細胞診セミナー | 島根
11/30,
2024 | 松本 慎二 |

4	当院における病理標本作製業務の運用フロー (シンポジウム)	第58回 日臨技九州支部医学検査学会	鹿児島 11/9, 2024	西中村恵輔, 松本 慎二, 角谷 優子, 大石 朋子, 辻 雅子, 秋吉 梨江, 坂田 祥子, 小山 逸, 濱崎 慎
5	唾液腺細胞診におけるギムザ染色の有用性と 標本作製の工夫点 (シンポジウム)	第63回 日本臨床細胞学会 秋期大会	千葉 11/16, 2024	二瓶 憲俊, 齋藤萌々子, 末永 梢, 桂澤 安奈, 小滝 昇, 遠藤枝利子, 甲賀 洋光, 山口 佳子, 松本 慎二
6	中皮腫診断における体腔液細胞診の役割と進 化 ～鑑別に有用な免疫細胞マーカーの特性 と Pitfall～ (招聘講演)	北海道細胞検査士会 学術 集会	北海道 2/15, 2025	松本 慎二
8	A case of SMARCA4-deficient non-small cell lung cancer.	12th Korea, Japan, Taiwan Cytotechnology Joint Meeting	Ewha Womans University Seoul Hospital, Seoul, Korea 3/8, 2025	Shinji Matsumoto, Keisuke Nishinakamura, Yuko Kakutani, Makoto hamasaki
9	A case of pleural mesothelioma diagnosed by transbronchial brushing and washing cytology.	12th Korea, Japan, Taiwan Cytotechnology Joint Meeting	Ewha Womans University Seoul Hospital, Seoul, Korea 3/8, 2025	Keisuke Nishinakamura, Shinji Matsumoto, Yuko Kakutani, Makoto Hamasaki

〈学会活動〉

1	日本病理学会	学術評議員	2024	濱崎 慎, 濱田 義浩, 古賀 佳織
2	日本病理学会・国立がん研究センター	病理診断コンサルテーショ ン コンサルタント	2024	濱崎 慎
3	日本病理学会	センター調査個別調査部会 部会員	2024	濱崎 慎
4	日本病理学会九州沖縄支部	広報委員会委員長	2025	濱崎 慎
5	日本臨床細胞学会	細胞診ガイドライン改訂 ワーキンググループ体腔液 小委員会委員	2024	濱崎 慎
6	環境省	中央環境審議会専門委員	2024	濱崎 慎
7	環境省	環境保健部会所属専門委員	2024	濱崎 慎
8	環境省	環境保健部会石綿健康被害 判定小委員会所属専門委員	2024	濱崎 慎
9	日本石綿・中皮腫学会 (JAMIG)	理事	2024	濱崎 慎
10	日本石綿・中皮腫学会 (JAMIG), 日本肺癌 学会	中皮腫取扱い規約改定委員	2024	濱崎 慎
11	日本肺癌学会	評議員	2024	濱崎 慎
12	日本肺癌学会	病理委員会委員	2024	濱崎 慎

13	日本肺癌学会	病理委員会・アドホック胸部腫瘍改定作業小委員会委員	2024	濱崎 慎
14	日本肺癌学会	ガイドライン胸膜中皮腫小委員会委員 病理委員代表	2024	濱崎 慎
15	日本肺癌学会	悪性胸膜中皮腫ガイドライン小委員会委員 病理委員代表	2024	濱崎 慎
16	九州肺癌研究機構 (LOGIK)	LOGIK プロトコル委員 (病理)	2024	濱崎 慎
17	中皮腫細胞診研究会	幹事	2024	濱崎 慎, 松本慎二
18	日本臨床衛生検査技師会	細胞診精度管理ワーキング委員	2024	松本 慎二
19	日本臨床細胞学会 九州連合会学会	理事 (教育委員会)	2024	松本 慎二
20	日本臨床細胞学会 九州連合会学会	編集委員	2024	角谷優子
21	日本臨床細胞学会 福岡県臨床細胞学会	理事	2024	松本 慎二
22	日本臨床細胞学会細胞検査士会	理事 (学術委員長)	2024	松本 慎二
23	日本臨床細胞学会 福岡県細胞検査士会	理事 (副会長)	2024	松本 慎二
24	日本臨床細胞学会 福岡県細胞検査士会	理事 (総務委員)	2024	角谷優子
25	日本臨床細胞学会	評議員	2024	松本 慎二
26	日本臨床細胞学会	国際交流委員	2024	松本 慎二

〈研究に関係した賞〉

1	FISH 法および免疫細胞化学による体腔液細胞診の診断技術の確立ならびに精度向上の研究	第59回 小島三郎記念技術賞	2024	松本 慎二
---	---	-------------------	------	-------

福岡大学病院リハビリテーション部

〈原著〉

1	心不全ハイリスク患者の心臓リハビリテーションにおける管理栄養士の介入と療養指導	臨床と研究	101(7): 877-880, 2024	武田 由香, 松尾早希子, 志賀 悠平, 藤見 幹太, 松田 拓朗, 三浦伸一郎
2	Effect of Left Ventricular Diastolic Dysfunction on the Cardiopulmonary Exercise Test in Patients With Cardiovascular Disease.	Am J Cardiol.	1(222): 157-164, 2024	Inada Y, Suematsu Y, Matsuda T, Yano Y, Morita K, Bando K, Teshima R, Fukuda H, Fujimi K, Miura SI.

3	Usefulness of the cardiopulmonary exercise test up to the anaerobic threshold for patients aged ≥ 80 years with cardiovascular disease on cardiac rehabilitation.	J Rehabil Med.	19(56) : jrm19453, 2024	Yano Y, Suematsu Y, Matsuda T, Tsukahara K, Shirosaki M, Matsuo S, Fujimi K, Miura SI.
4	Reply to “letter to the editor: Measuring renal hemodynamics during exercise using Doppler ultrasound” .	Physiol Rep.	12(8) : e16018, 2024	Kawakami S, Yasuno T, Kawakami S, Ito A, Fujimi K, Matsuda T, Nakashima S, Masutani K, Uehara Y, Higaki Y, Michishita R.
5	経カテーテル大動脈弁植え込み術後のフレイル・身体機能へ影響を与える因子	臨床と研究	102(1) : 75-79, 2025	手島 礼子, 藤見 幹太, 末松 保憲, 加藤 悠太, 藤田 政臣, 西村 繁典, 松田 拓朗, 福田 宏幸, 荒牧 彩香, 中島 夕楓, 北島 研, 諫山 三絵, 合谷 裕子, 武田 由香, 松尾早希子, 大津 友紀, 鎌田 聡, 三浦伸一郎
6	食事性低血圧を認めた LCIG 導入パーキンソン病の 3 症例	日本神経摂食嚥下・栄養学会誌	4(1) : 1-7, 2024	大津健太郎, 井手 拓, 尾池 麻未, 岩下 由樹, 道津友里子, 藤岡 伸助, 鎌田 聡, 梅本 丈二, 坪井 義夫
7	重症下肢虚血症例に対する和温療法における理学療法士としての役割	和温療法学会誌	2:19-25, 2024	藤田 政臣, 手島 礼子, 中島 夕楓, 西村 繁典, 荒牧 彩香, 杉原 充, 末松 保憲, 藤見 幹太, 三浦伸一郎, 鎌田 聡
8	Association between Age Group at Initial Ankle Sprain and Athletic History in Patients with Chronic Ankle Instability	Biomed J Sci & Tech Res	58(5) : 50912-50921, 2024	Kyosuke Goto, Yutaka Shigemori, Ichiro Yoshimura
9	Epidemiology of Sports-Related Concussion in Japanese University Soccer Players	Brain sciences	14(8) : 827, 2024	Hiroshi Fukushima, Yutaka Shigemori, Shunya Otsubo, Kyosuke Goto, Koki Terada, Muneyuki Tachihara, Tatsuma Kurosaki, Keita Yamaguchi, Nana Otsuka, Kentaro Masuda, Rino Tsurusaki, Masahiro Inui
10	The Significance of Off-Season Tailor-Made Baseline Measurements in the Assessment of Post-Concussion in University Athletes	Brain sciences	14(8) : 835, 2024	Kyosuke Goto, Yutaka Shigemori, Yoshitaka Tanabe, Shunya Otsubo, Nana Otsuka, Koki Terada, Rino Tsurusaki, Keita Yamaguchi, Kentaro Masuda, Hiroshi Fukushima, Muneyuki Tachihara, Hironobu Shimozono, Jun Murakami
11	Characteristics of Intracranial Kinetic Loads When Sports-Related Concussion Occurs in Men’s Rhythmic Gymnastics	Brain sciences	14(7) : 698, 2024	Shunya Otsubo, Yutaka Shigemori, Sena Endo, Hiroshi Fukushima, Muneyuki Tachihara, Kyosuke Goto, Rino Tsurusaki, Nana Otsuka, Kentaro Masuda, Yuelin Zhang

〈総説〉

- | | | | | |
|---|------------|------|---------------------|------|
| 1 | 医療人としての心構え | きんむ医 | 12(211)
29, 2024 | 鎌田 聡 |
|---|------------|------|---------------------|------|

〈著書〉

- | | | | | |
|---|-------------------------------|---------|------------|---|
| 1 | お金もかからず体調万全！！ゆる走りスロー
ジョギング | オーバーラップ | 2025年3月15日 | まきりえこ（著），一般社団法人
日本スロージョギング協会（監
修） |
|---|-------------------------------|---------|------------|---|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|---|---|--|--|
| 1 | （シンポジウム）
高血圧運動療法の基本と実践 | 高血圧フォーラム2024 | コンgresスクエ
ア日本橋（東京都）
5/26
2024 | 松田 拓朗 |
| 2 | （パネルディスカッション）
「欲しい」を刺激する目標設定で高める心リ
ハ継続率 | 第30回日本心臓リハビリ
テーション学会 | 神戸国際会議場
（兵庫県）
7/13-14
2024 | 松田 拓朗, 末松 保憲,
福田 幸一, 藤見 幹太,
松尾早希子, 北島 研,
三浦伸一郎, 鎌田 聡. |
| 3 | （ランチョンセミナー）
高齢糖尿病患者の運動療法について語る
＝運動を継続しなければ改善できない症状が
ある＝ | 第11回 JADEC 年次学術集
会 | 国立京都国際会館
（京都府）
7/20
2024 | 松田 拓朗 |
| 4 | （ジョイントセッション）
臨床研究を運動指導に活かす心臓リハビリ
テーション | 第43回日本臨床運動療法学
会学術集会 | 京都府立大学
（京都府）
9/14
2024 | 松田 拓朗 |
| 5 | （教育講演）
安全で効果的な糖尿病の運動療法 | 第62回日本糖尿病学会九州
地方会 | アクロス福岡
（福岡県）
10/26
2024 | 松田 拓朗 |
| 6 | （ジョイントセッション）
地域連携で取り組む運動療法プログラムの開
発 | Alliance for Revolution
and Interventional
Cardiology Advancement
2024 | 電気ビル共創館
（福岡県）
11/23
2024 | 松田 拓朗 |
| 7 | （市民公開講座：講演）
糖尿病運動療法の最前線～賢く動いて効果を
引き出す～ | World Diabetes Day 2024
ブルーライトアップ in 福岡 | 福岡市美術館
（福岡県）
11/23
2024 | 松田 拓朗 |
| 8 | （市民公開講座：ワークショップ）
実践！新時代の運動療法～実践のコツと秘訣～ | World Diabetes Day 2024
ブルーライトアップ in 福岡 | 福岡市美術館
（福岡県）
11/23
2024 | 松田 拓朗 |
| 9 | Use of a wearable device to support self-
management after lung transplantation: A
case study | The 8th Asia Pacific
Occupational Therapy
Congress2024 | Sapporo
Convention
Center Nov 06
2024 | Koichi Hyakutake,
Masafumi Inoue,
Shigenori Nishimura,
Yoshiki Ukuda,
Koichi Nagaki,
Satoshi Kamada,
Takeshi Shiraishi |

10	Blue toe syndrome に対し和温療法と総合治療電気刺激装置を併用した1症例	第136回日本循環器学会九州地方会	かごしま県民交流センター 2024.6.29	手島 礼子, 藤見 幹太, 末松 保憲, 加藤 悠太, 藤田 政臣, 西村 繁典, 松田 拓朗, 福田 宏幸, 荒牧 彩香, 中島 夕楓, 北島 研, 諫山 三絵, 合谷 裕子, 武田 由香, 松尾早希子, 大津 友紀, 鎌田 聡, 三浦伸一郎
11	TAVR 術後のフレイル・身体機能へ影響を与える因子について	第30回日本心臓リハビリテーション学会	神戸国際会議場 (兵庫県) 7/13-14 2024	手島 礼子, 藤見 幹太, 末松 保憲, 加藤 悠太, 藤田 政臣, 西村 繁典, 松田 拓朗, 福田 宏幸, 荒牧 彩香, 中島 夕楓, 北島 研, 諫山 三絵, 合谷 裕子, 武田 由香, 松尾早希子, 大津友紀, 鎌田 聡, 三浦伸一郎
12	(シンポジウム) 高齢骨髄腫・転移性骨腫瘍患者のマネジメントについて	第49回日本骨髄腫学会	福岡国際会議場 (福岡県) 2024/5/31-6/2	鎌田 聡

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第18回福岡生活習慣病運動療法研究会	ハイブリッド開催 (福大メディカルホール)	9月9日, 2024年	前山 彰 (当番責任者), 馬渡 太郎 (当番責任者), 藤見 幹太, 松田 拓朗, 鎌田 聡, 藤原 裕矢, 二田 哲博, 松田 拓朗, 赤木 慎作, 末永 幸洋
2	第19回福岡生活習慣病運動療法研究会	ハイブリッド開催 (福大メディカルホール)	3月3日, 2025年	鎌田 聡 (当番責任者), 原田 敬 (当番責任者), 塘地 一夫, 末永 幸洋, 藤見 幹太, 松田 拓朗, 前山 彰, 松田 拓朗, 下野 大, 田邊真紀人, 馬渡 太郎

〈学会活動〉

1	福岡運動療法研究会	世話人	2012～	松田 拓朗
2	NPO 法人 足もと健康サポートネット 会報誌【FOOT LIFE GOOD LIFE】	編集長	2016～	松田 拓朗
3	一般社団法人 日本スロージョギング®協会	アドバイザー	2017～	松田 拓朗
4	NPO 法人 足もと健康サポートネット	理事	2017～	松田 拓朗
5	福岡心臓リハビリテーション研究会	世話人	2018～	松田 拓朗
6	医学的管理と運動プログラムの一体的提供を 推進する会	会員	2021～	松田 拓朗
7	日本臨床運動療法学会	評議員	2024～	松田 拓朗
8	健康運動指導士養成講習会 カリキュラム及 び教員要件 検討ワーキンググループ	構成員	2024	松田 拓朗
9	日本リハビリテーション医学会	代議員	2022～	鎌田 聡

10	日本急性期リハビリテーション医学会	代議員	2021～	鎌田 聡
11	日本リハビリテーション医学会九州地方会	幹事	2022～	鎌田 聡

〈研究に関係した賞〉

1	International Young Scientist Awards	Best Resercher	2024	Kyosuke Goto
---	--------------------------------------	----------------	------	--------------

〈特許取得〉

1	生体情報測定装置，生体情報測定方法および生体情報測定プログラム	日本	第7493811号 (2025.5.24)	上原 吉就 (60%)， 松田 拓朗 (20%)， 田上友季也 (20%)
---	---------------------------------	----	--------------------------	---

福岡大学病院薬剤部

〈原著〉

1	リフィル処方箋の現状調査と病院経営面への影響	日病薬誌	60(4): 402-407, 2024	宇都 誠志, 安高 勇気, 濱走 優人, 兼重 晋, 神村 英利
2	外来がん薬物療法における病薬連携の取り組みに対する非高齢者および高齢者の患者満足度に関する比較	医療薬学	50(5): 219-227, 2024	井上 竜一, 角 康隆, 長郷あかね, 内山 将伸, 柿本 秀樹, 大倉野将広, 武田 佳子, 五十嵐保陽, 井上 貴文, 真島 宏太, 川田 哲史, 江越 菜月, 塩入 真衣, 池内 忠宏, 兼重 晋, 緒方憲太郎, 神村 英利
3	Pharmacists' Behavioral Changes after Attending a Multi-Prefectural Palliative Care Education Program	Pharmacy	2024, 12,87. https://doi.org/10.3390/pharmacy1203008	Masahiro Yamada, Mayako Uchida, Masao Hada, Haruka Wakabayashi, Daigo Inma, Shunji Ariyoshi, Hidetoshi Kamimura, Tohru Haraguchi
4	Considering the Possible Role of Pharmacists According to the Presence or Absence of Lifestyle-Related Diseases at the Time of Coronary CT Examination and Trends of Medication Use for These Diseases by Medical Doctors	Pharmacy	2024, 12,99. https://doi.org/10.3390/pharmacy12040099	Erika Miura-Takahashi, Kohei Tashiro, Yuhei Shiga, Yuto Kawahira, Sara Higashi, Yuki Otsu, Hidetoshi Kamimura and Shin-ichiro Miura
5	Assessing the ability of the Cancer and Aging Research Group tool to predict chemotherapy toxicity in older Japanese patients: A prospective observational study.	Journal of geriatric oncology	15(6) https://doi.org/10.1016/j.jgo.2024.101814 , 2024	Masanobu Uchiyama, Motoyasu Miyazaki, Toshinobu Hayashi, Mototsugu Shimokawa, Takafumi Nakano, Hideki Kakimoto, Satoko Takaki, Haruka Fukue, Takafumi Inoue, Ryuichi Inoue, Kota Mashima, Satoshi Kawata, Yasutaka Sumi, Yasuaki Igarashi, Hidetoshi Kamimura, Koichi Matsuo
6	がん悪液質患者におけるアナモレリンの投与継続に関連する因子の探索：単施設後ろ向き研究	YAKUGAKU ZASSHI	144(7): 767-774, 2024	江川 優香, 内山 将伸, 江越 菜月, 五十嵐保陽, 安高 勇気, 中野 貴文, 松尾 宏一, 兼重 晋, 神村 英利

7	睡眠薬を服用している高齢者と非高齢者に対するレンボレキサント導入に関する後方視的調査	日老薬誌	7: 34-39, 2024	大藪 康平, 安高 勇気, 舌間 清晃, 今任 拓也, 右田 啓介, 岩崎 克典, 神村 英利
8	がん薬物療法における過敏正反応予防薬である第二世代抗ヒスタミン薬に関する後方視的調査	癌と化学療法	51(6): 631-635, 2024	柿本 秀樹, 大倉野将広, 長郷あかね, 川田 哲史, 真島 宏太, 角 康隆, 井上 竜一, 五十嵐保陽, 内山 将伸, 宮崎 元康, 兼重 晋, 緒方憲太郎, 今給黎 修, 神村 英利
9	Switching from oral ropinirole to ropinirole transdermal patch in patients with Parkinson's Disease: an observational study	Polish Journal of Neurology and Neurosurgery	58(7): 465-467, 2024	Yuki Yasutaka, Takayasu Mishima, Shinsuke Fujioka, Kentaro Ogata, Hidetoshi Kamimura, Yoshio Tsuboi
10	Impact of the First Twenty-Four-Hour Area Under the Concentration-Time Curve/Minimum Inhibitory Concentration of Vancomycin on Treatment Outcomes in Patients With Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus Bacteremia	J Clin Med Res	16(8): 325-334, 2024	Mika Higashi, Takafumi Nakano, Keisuke Sato, Yukiomi Eguchi, Norihiro Moriwaki, Mitsuhiro Kamada, Tadahiro Ikeuchi, Susumu Kaneshige, Masanobu Uchiyama, Toshinobu Hayashi, Atsushi Togawa, Koichi Matsuo, Hidetoshi Kamimura
11	福岡大学病院における薬剤アレルギー歴登録の現状	九州薬学会雑誌	78: 57-62, 2024	大塚 誠, 田渕 知佳, 濱走 優人, 佐々木史香, 釜田 充浩, 池内 忠宏, 川原 義弘, 兼重 晋, 緒方憲太郎, 神村 英利
12	アナモレリンによる肝機能障害の発現状況に関する調査	日本臨床腫瘍薬学会雑誌	38: 1-6, 2024	江越 菜月, 内山 将伸, 江川 優香, 安高 勇気, 五十嵐保陽, 井上 竜一, 中野 貴文, 松尾 宏一, 兼重 晋, 神村 英利
13	A survey on the attitudes of pharmacy students at Fukuoka University Hospital toward organ transplantation treatment	Japanese Journal of Pharmaceutical Education	8: 235-241, 2024	Yasuaki Igarashi, Yuki Otsu, Mariko Nishi, Susumu Kaneshige, Hidetoshi Kamimura
14	病院薬剤師の人材確保に向けた病院見学会の試み～薬剤師レジデントを志望する薬学生へのアンケート調査～	社会薬学	42: 76-81, 2024	池内 忠宏, 神村 英利
15	Factors affecting continuation rates of opicapone: A retrospective study at a single center in Japan	Clinical Neurology and Neurosurgery	252, https://doi.org/10.1016/j.clineuro.2025.108875 , 2025	Yuki Yasutaka, Takayasu Mishima, Kentaro Ogata, Akira Yokote, Hidetoshi Kamimura, Yasuhiko Baba

〈総説〉

- | | | | | |
|---|--|----------|----------------------------|-------|
| 1 | 同じ薬効の処方薬と OTC 薬を併用する患者にみられる傾向とは～季節性アレルギー性鼻炎（花粉症）患者を例にして～ | ふくおか県薬会報 | 37(3):
289-293,
2024 | 神村 英利 |
| 2 | オレキシン受容体拮抗薬はベンゾジアゼピン受容体作動薬の減薬をもたらすかもしれない | ふくおか県薬会報 | 38(1):
51-56,
2025 | 神村 英利 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|-----------------|-----|--------------------|-----------|
| 1 | これからの服薬指導ハンドブック | 講談社 | pp.93-112,
2025 | 神村 英利（分担） |
|---|-----------------|-----|--------------------|-----------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|---------------------|---------------|------------------|-------|
| 1 | 福岡大学病院における薬剤師・看護師連携 | 日本社会薬学会 第42年会 | 福岡 9/7-8
2024 | 神村 英利 |
|---|---------------------|---------------|------------------|-------|

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

- | | | | | |
|---|--------------------------------|------|----------------|-------|
| 1 | 第18回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会 | 福岡大学 | 10/20,
2024 | 神村 英利 |
|---|--------------------------------|------|----------------|-------|

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|--------------------------|--------|------|--------------|
| 1 | 日本医薬品安全性学会 | 社員 | 2024 | 神村 英利, 安高 勇気 |
| 2 | 日本医薬品安全性学会 | 認定試験委員 | 2024 | 安高 勇気 |
| 3 | 日本医療薬学会 | 評議員 | 2024 | 神村 英利 |
| 4 | 日本医療薬学会 | 編集委員 | 2024 | 神村 英利 |
| 5 | 日本精神薬学会 | 評議員 | 2024 | 神村 英利 |
| 6 | 日本老年薬学会 | 理事 | 2024 | 神村 英利 |
| 7 | 日本フォーミュラリ学会 | 評議員 | 2024 | 神村 英利 |
| 8 | 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 | 理事 | 2024 | 神村 英利 |

福岡大学筑紫病院循環器内科

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|---|-------------------------------------|--|
| 1 | Impact of Controlling Serum Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Triglycerides on Long-Term Clinical Outcomes in Diabetic Patients Who Have Undergone Percutaneous Coronary Intervention | Circulation reports | 6(12):
573-582
2024 Nov 7 | Maruo T, Ike A, Takamiya Y, Matsuoka Y, Shigemoto E, Kato Y, Kuwano T, Sugihara M, Kawamura A, Miura SI. |
| 2 | Evaluation of the beneficial effects of pemafibrate in hypertriglyceridemia with or without alcohol drinking (PAR-CHAT: PARmodia-CHikushi Anti-dyslipidemia Trial) | International journal of cardiology. Cardiovascular risk and prevention | 13:
24:
200359
2024 Dec 13 | Takamiya Y, Imanaga C, Ike A, Kawamura A, Urata H |
| 3 | CORRIGENDUM: Impact of Controlling Serum Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Triglycerides on Long-Term Clinical Outcomes in Diabetic Patients Who Have Undergone Percutaneous Coronary Intervention. | Circulation reports | 7(1):
57
2025 Jan 10 | Maruo T, Ike A, Takamiya Y, Matsuoka Y, Shigemoto E, Kato Y, Kuwano T, Sugihara M, Kawamura A, Miura SI. |

4	Long-term renoprotective effect of luseogliflozin in type 2 diabetes patients: CHikushi Anti-diabetes mellitus Trial-Lusefi (CHAT-Lu) .	Drug discoveries & therapeutics	18(6) : 336-342 2025 Jan 14	Takamiya Y, Imanaga C, Abe I, Kobayashi K, Ike A, Kawamura A, Urata H.
---	---	---------------------------------	--------------------------------	--

福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科

〈原著〉

1	福岡県における SGLT2阻害薬内服中の高血糖緊急症と重症低血糖の発症について	糖尿病	67(5) : 222-223, 2024	岩瀬 正典, 小林 邦久, 田尻 祐司
2	Long-term renoprotective effect of luseogliflozin in type 2 diabetes patients: CHikushi Anti-diabetes mellitus Trial-Lusefi (CHAT-Lu)	Drug Discov Ther.	18(6) : 336-342, 2025	Takamiya Y, Imanaga C, Abe I, Kobayashi K, Ike A, Kawamura A, Urata H
3	Long-term survival and durable recovery of heart failure in patients with triglyceride deposit cardiomyovasculopathy treated with tricaprin.	Nat Cardiovasc Res.	4(3) : 266-274, 2025	Hirano KI, Okamura S, Sugimura K, Miyauchi H, Nakano Y, Nochioka K, Hashimoto C, Iwanaga Y, Nakajima K, Yamaguchi S, Yasui Y, Shimamoto S, Hirano M, Okune M, Nishimura Y, Shimoyama H, Nagasawa Y, Amano T, Kuniyoshi S, Hui SP, Zaima N, Ikeda Y, Yamada T, Fujimoto S, Sakata Y, Kobayashi K.

〈著書〉

1	糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル2024	日本糖尿病学会・日本糖尿病協会 編・著 文光堂	pp.5-6, 2024	小林 邦久 (分担)
2	糖尿病看護スタンダード 第1章 図解で理解・糖尿病	日本教育・看護学会 編 照林社	pp.8-14, 2024	小林 邦久 (分担)
3	病態栄養専門管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 第8版	日本病態栄養学会 編 南江堂	pp.179-183, 2025	小林 邦久 (分担)

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	褐色細胞腫及び paraganglioma (PPGL) の current clinicopathological perspectives	第28回日本臨床内分泌病理学会学術総会	長崎市 10/11-10/12, 2024	阿部 一郎
2	CDE がひらく糖尿病（ダイアベティス）診療の未来	第59回糖尿病学の進歩	那覇市 1/24-1/25, 2025	小林 邦久

〈国内研究助成金〉

1	中性脂肪蓄積心血管症の診療，療養実態把握と医療水準の向上に資する研究	厚生労働省 難治性疾患政策研究事業	2025	小林 邦久 (代表者：平野賢一)
---	------------------------------------	----------------------	------	---------------------

〈学会活動〉

1	日本糖尿病学会	学術評議員	2024	小林 邦久
2	日本内分泌学会	学術評議員	2024	小林 邦久
3	中性脂肪学会	副代表理事	2024	小林 邦久

4	日本老年医学会	代議員	2024	小林 邦久
5	日本病態栄養学会	代議員・学術評議員	2024	小林 邦久
6	日本体質医学会	評議員	2024	小林 邦久
7	日本糖尿病合併症学会	評議員	2024	小林 邦久
8	日本臨床内分泌病理学会	評議員	2024	小林 邦久
9	日本糖尿病学会	学術評議員	2024	阿部 一郎
10	日本内分泌学会	学術評議員	2024	阿部 一郎
11	日本臨床内分泌病理学会	評議員	2024	阿部 一郎
12	日本間脳下垂体腫瘍学会	学術評議員	2024	阿部 一郎

福岡大学筑紫病院呼吸器内科

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|----------------|--------------------------------|--|
| 1 | Platythorax increases residual volume/
total lung capacity in idiopathic
pleuroparenchymal fibroelastosis. | ERJ Open Res | 10(4) :
00996-2023,
2024 | Kinoshita Y, Takenaka S,
Takata K, Utsunomiya T,
Koide Y, Wada K,
Yoshida Y, Nakashima S,
Kushima H, Ishii H. |
| 2 | Update of prognosis and characteristics of
chronic obstructive pulmonary disease in a
real-world setting: a 5-year follow-up analysis
of a multi-institutional registry. | BMC Pulm. Med | 24 :
556,
2024 | Takano T, Tsubouchi K,
Hamada N, Ichiki K,
Torii R, Takata S,
Kawakami S, Nakagaki N,
Yoshida M, Kitasato Y,
Tobino K, Harada E,
Ishii H, Wataya H,
Maeyama T, Fujita M,
Yatera K, Okamoto M,
Yabuuchi H, Kiyomi F,
Tokunaga S, Nakanishi Y,
Okamoto I. |
| 3 | Effects of Prospective Audit and Feedback in
Patients with Extended-Spectrum β -
Lactamase-Producing <i>Escherichia coli</i>
Bacteremia. | Microorganisms | 12(11) :
2275,
2024 | Yamada Y, Miyazaki M,
Kushima H, Hirata H,
Ogawa A, Komiya Y,
Hagiwara C, Nakashima A,
Ishii H, Imakyure O. |
| 4 | Diagnostic and prognostic implications of a
deep suprasternal notch in idiopathic
pleuroparenchymal fibroelastosis. | Respir. Med | 107986,
2025 | Kinoshita Y, Hirai C,
Hara K, Takenaka S,
Utsunomiya T, Yoshida Y,
Nakashima S, Kushima H,
Ishii H. |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|---|--------------------|--------------------------------|--|
| 1 | An 88-Year-Old Woman With Pneumothorax
and Black Pleural Effusion. | Chest | 165(4) :
e119-e123,
2024 | Takenaka S, Yoshimura M,
Kinoshita Y, Utsunomiya T,
Kushima H, Nimura S,
Ishii H. |
| 2 | Target sign of the lung. | Respirol. Case Rep | 12 :
e01386,
2024 | Kinoshita Y, Takata K,
Kushima H, Ishii H. |

3	A case of invasive mucinous adenocarcinoma presenting with massive bronchorrhea.	Respir. Med. Case Rep	51: 102082-102082, 2024	Takata K, Kinoshita Y, Yoshimura M, Takenaka S, Utsunomiya T, Koide Y, Wada K, Yoshida Y, Nakashima S, Kushima H, Nimura S, Ishii H.
4	Concurrent Pulmonary Sarcoidosis and Carcinomatous Lymphangitis	Intern. Med	10.2169/ internalmedicine. 5277-25,	Kushima H, Kinoshita Y, Yoshimura M, Ishii H.
〈総説〉				
1	新しい間質性肺疾患－胸膜肺実質線維弾性症 (PPFE)	内科総合誌 Medical Practice	42(1) 94-96, 2025	石井 寛
2	Cryptococcosis: Recent Perspectives	Med. Mycol. J	66: 27-31, 2025	Kushima H, Ishii H.
〈国内研究助成金〉				
1	上葉優位型肺線維症の新規バイオマーカーとしての血清 LTBP-4 の意義	文部科学省 若手研究	2024	木下 義晃 (代表)
2	アスペルギルスと細菌の微生物間インタラクション解析による重複感染病態の解明と制御	文部科学省 基盤研究 C	2024	串間 尚子 (代表者：泉川公一)
〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉				
1	筑紫呼吸器疾患勉強会 学術講演	ソラリア西鉄ホテル福岡	11/22, 2024	石井 寛
〈学会活動〉				
1	日本呼吸器学会	代議員	2024	石井 寛, 串間 尚子
2	日本サルコイドーシス・肉芽腫性疾患学会	理事・九州支部長	2024	石井 寛
3	日本肺癌学会九州支部	評議員	2024	石井 寛
4	日本感染症学会	評議員	2024	石井 寛, 串間 尚子
5	日本化学療法学会	評議員	2024	串間 尚子
6	日本医真菌学会	代議員	2024	串間 尚子
7	日本臨床微生物学会	評議員	2024	串間 尚子
8	日本内科学会九州支部	評議員	2024	石井 寛
9	日本アレルギー学会九州沖縄支部	役員	2024	石井 寛
10	日本肺サーファクタント・界面医学会	評議員	2024	石井 寛

〈原著〉

- 1 High risk stigmata and treatment strategy for acute lower gastrointestinal bleeding: a nationwide study in Japan Endoscopy 56(4): 291-301, 2024 Aoki T, Sadashima E, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Hayakawa Y, Fujishiro M, Kaise M, Nagata N, CODE BLUE-J Study collaborators.

- 2 Endoscopic and histological risk stratification for gastric cancer using gastric intestinal metaplasia J Gastroenterol Hepatol 39(9): 1910-1916
DOI: <https://doi.org/10.1111/jgh.16617>, 2024 Kawamura M, Uedo N, Yao K, Koike T, Kanesaka T, Hatta W, Ogata Y, Iwai W, Yokosawa S, Honda J, Asonuma S, Ohkata H, Ohyauchi M, Ito H, Abe Y, Ara N, Kayaba S, Shinkai H, Kanemitsu T.

- 3 膵癌遺伝子パネル検査に関する組織検体採取法の検討 胆膵の病態生理 40(1): 93-96, 2024 中島 美紀, 丸尾 達, 江崎 薫, 後野 徹宏, 田中 利幸, 平塚 裕晃, 伊原 諒, 立川 勝子, 野間栄次郎, 植木 敏晴

- 4 Association of blood group O with a recurrent risk for acute lower gastrointestinal bleeding from a multicenter cohort study Sci Rep 14(1): 13983
DOI: [10.1038/s41598-024-64476-9](https://doi.org/10.1038/s41598-024-64476-9), 2024 Suzuki S, Tominaga N, Aoki T, Sadashima E, Miike T, Kawakami H, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Hikichi T, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Kaise M, Nagata N.

5	Early resolution of bowel urgency by budesonide foam enema results in improved quality of life in patients with ulcerative colitis: a multicenter prospective observational study	Intest Res	Online ahead of print. DOI: https://doi.org/10.5217/ir.2024.00005 , 2024	Kobayashi T, Moriya K, Fujii T, Bamba S, Shinzaki S, Yamada A, Hisabe T, Sagami S, Hibiya S, Amano T, Takatsu N, Inagaki K, Iwayama K, Hibi T.
6	Case-control study of IL23R rs76418789 polymorphism, smoking, and ulcerative colitis in Japan	Cytokine	183: 156743, 2024	Miyake Y, Tanaka K, Nagata C, Furukawa S, Andoh A, Yokoyama T, Yoshimura N, Mori K, Ninomiya T, Yamamoto Y, Takeshita E, Ikeda Y, Saito M, Ohashi K, Imaeda H, Kakimoto K, Higuchi K, Nunoi H, Mizukami Y, Suzuki S, Hiraoka S, Okada H, Kawasaki K, Higashiyama M, Hokari R, Miura H, Miyake T, Kumagai T, Kato H, Hato N, Sayama K, Hiasa Y, Japan Ulcerative Colitis Study Group (including Tanaka S, Matsui T).
7	Short-term outcomes of endoscopic resection for colorectal neuroendocrine tumors: Japanese multicenter prospective C-NET STUDY	Dig Endosc	36(8): 942-951, 2024	Ito S, Hotta K, Sekiguchi M, Takeuchi Y, Oka S, Yamamoto H, Shinmura K, Harada K, Uraoka T, Hisabe T, Sano Y, Kondo H, Horimatsu T, Kikuchi H, Kawamura T, Nagata S, Yamamoto K, Tajika M, Tsuji S, Kusaka T, Okuyama Y, Yoshida N, Moriyama T, Hasebe A, So S, Saito Y, Nakahira H, Ishikawa H, Matsuda T, the C-NET STUDY Group.
8	Prospective multicenter surveillance study of branch-duct intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas; risk of dual carcinogenesis.	Pancreatology	24(7): 1141-1151 DOI: https://doi.org/10.1016/j.pan.2024.08.013 , 2024	Ohtsuka T, Maguchi H, Tokunaga S, Hijioka S, Takayama Y, Koshita S, Hanada K, Sudo K, Uehara H, Tanno S, Tada M, Kimura W, Nakamura M, Kin T, Kamata K, Masamune A, Iwashita T, Akahoshi K, Ueki T, Okamura K, Kato H, Kumagi T, Kawabe K, Yoshida K, Mukai T, Sakagami J, Hirono S, Abue M, Nakafusa T, Morita M, Shimosegawa T, Tanaka M; Japan Pancreas Society IPMN Prospective Surveillance Group.

- 9 Feasibility and safety of EUS-guided biliary drainage in inexperienced centers: a multicenter study in southwest Japan Gastrointest Endosc 101(4) : 843-852
DOI: <https://doi.org/10.1016/j.gie.2024.09.014>, 2024
Koga T, Ishida Y, Hashigo S, Shimokawa Y, Harima H, Okamoto K, Ohno A, Miyagahara T, Fujita T, Fukuchi S, Takahashi K, Taguchi H, Araki N, Ohtsuka Y, Uekitani T, Tsuneyoshi K, Akiyama T, Ishigaki N, Maruo T, Saito H, Ihara R, Yamasuji A, Oe S, Yoshinari M, Sagami R, Fujimori N, Fukuda Y, Ozawa E, Jikuya K, Shinohara H, Sen-Yo M, Ueki T, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Fukuyama M, Hirai F.
- 10 Factors influencing the discontinuation of biologic therapies in patients with ulcerative colitis J Pharm Health Care Sci 10:65
DOI: <https://doi.org/10.1186/s40780-024-00386-2>, 2024
Fukuyama A, Nakashima A, Miyazaki M, Fujiki M, Kakimoto H, Hisabe T, Imakyure O.
- 11 Proposal of classification and terminology of interventional endoscopic ultrasonography/endosonography. Dig Endosc 37(1) : 5-17
DOI: <https://doi.org/10.1111/den.14927>, 2024
Isayama H, Nakai Y, Matsuda K, Kanno Y, Hara K, Ogura T, Abe N, Katanuma A, Kitano M, Yasuda I, Okano N, Tsuchiya T, Fujita N, Inui K, Ueki T, Irisawa A, Yamano H; Subcommittee for Terminology of Interventional EUS of Japan Gastroenterological Endoscopy Society.
- 12 Validation of British Society of Gastroenterology guidelines for acute lower GI bleeding from 8956 cases in Japan Gastroenterol Endosc Online ahead of print.
DOI: [10.1016/j.gie.2024.11.020](https://doi.org/10.1016/j.gie.2024.11.020), 2024
Kinjo K, Aoki T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Hikichi T, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Watanabe K, Hisabe T, Yao K, Kaise M, Nagata N.

- | | | | | |
|------|---|---------------------|---|--|
| 13 | Serum IgG4-negative and IgG4-positive type 1 autoimmune pancreatitis present with different clinicopathological features: An analysis of a nationwide survey in Japan | Pancreatology | 25(1) :
82-88
DOI:
https://doi.org/10.1016/j.pan.2024.11.018 ,
2024 | Sano T, Kikuta K, Takikawa T, Matsumoto R, Okazaki K, Takeyama Y, Masamune A, for the Japan Pancreatitis Study Group for AIP (JPSG-AIP) . |
| 14 | Impact of long-term trends on outcomes in the management of colonic diverticular bleeding: mediation analysis in a large multicenter study | J Gastroenterol | 60(2) :
174-186
DOI:10.1007/s00535-024-02178-9,
2024 | Narimatsu K, Ishii N, Yamada A, Aoki T, Kobayashi K, Yamauchi A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Hikichi T, Toya Y, Manabe N, Nagaike K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Hokari R, Kaise M, Nagata N. |
| 15 | Evaluation of artificial intelligence: Computer-aided detection of colorectal polyps | J Anus Rectum Colon | 9(1) :
79-87,
2025 | Hiratsuka Y, Hisabe T, Ohtsu K, Yasaka T, Takeda K, Miyaoka M, Ono Y, Kanemitsu T, Imamura K, Takeda T, Nimura S, Yao K. |
| 16 | Factors affecting 1-year persistence with vedolizumab for ulcerative colitis: a multicenter, retrospective real-world study | Intest Res | Online ahead of print.
DOI:
https://doi.org/10.5217/ir.2024.00063 ,
2025 | Kobayashi T, Hisamatsu T, Motoya S, Fujii T, Kunisaki R, Shibuya T, Matsuura M, Takeuchi K, Hiraoka S, Yasuda H, Yokoyama K, Takatsu N, Maemoto A, Tahara T, Tominaga K, Shimada M, Kuno N, Fernandez JL, Ishiguro K, Cavaliere M, Deguchi H, Hibi T. |
| 〈総説〉 | | | | |
| 1 | Advanced diagnostic endoscopy in the upper gastrointestinal tract: Review of the Japan Gastroenterological Endoscopy Society core sessions | DEN Open | 4(1) :
e359,
2024 | Ueyama H, Hirasawa T, Yano T, Doyama H, Isomoto H, Yagi K, Kawai T, Yao K |
| 2 | 特集 十二指腸・小腸アトラス
Ⅱ. 炎症性疾患 自己免疫疾患・膠原病・血管炎など
潰瘍性大腸炎に伴う十二指腸病変 | 消化器内視鏡 | 36(4) :
584-585,
2024 | 久部 高司, 二村 聡 |

3	咽頭・食道/食道癌 進行度分類（食道癌取扱い規約）	胃と腸	59(4): 420-421, 2024	小野陽一郎, 二村 聡
4	胃/胃癌 拡大内視鏡分類（VS classification system）/ MESDA-G	胃と腸	59(4): 492-494, 2024	八尾 建史
5	炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン	Gastroenterol Endosc	66(6): 1387-1426, 2024	松本 主之, 久松 理一, 江崎 幹宏, 大森 鉄平, 桜庭 裕丈, 新崎信一郎, 杉本 健, 竹中 健人, 長沼 誠, 馬場 重樹, 久部 高司, 平岡佐規子, 藤谷 幹浩, 松浦 稔, 梁井 俊一, 渡辺 憲治, 緒方 晴彦, 安藤 朗, 仲瀬 裕志, 大塚 和朗, 平井 郁仁, 藤城 光弘, 五十嵐良典, 田中 信治
6	炎症性腸疾患と結石性疾患	総合診療	34(8): 922-923, 2024	宮島 茂郎, 石井 龍, 高津 典孝, 久部 高司, 羽賀 宣博
7	【虚血性腸病変を整理する】 虚血性腸病変の病理診断	胃と腸	59(7): 919-925, 2024	田邊 寛, 二村 聡, 吉村 雅代, 中島美知子, 市岡 正敏, 原岡 誠司
8	【第23回臨床消化器病研究会】「消化管の部」 の主題1, 2, 4のレビュー	胃と腸	59(8): 1170-1178, 2024	渡辺 憲治, 穂苅 量太, 後藤田卓志, 八尾 建史, 山野 泰穂, 大宮 直木
9	Ⅱ. 口腔・咽頭・食道 [治療] 食道癌 ESD 後の適切なサーベイランス法	消化器内視鏡	36 (増刊号): 103-107, 2024	小野陽一郎, 石川 智士, 久部 高司, 八尾 建史, 二村 聡
10	炎症性腸疾患の上部消化管病変	胃と腸	59(10): 1414-1422, 2024	久部 高司, 高津 典孝, 古賀 章浩, 安川 重義, 武田 輝之, 三雲 博行, 高橋 篤史, 金光 高雄, 小野陽一郎, 宮岡 正喜, 二村 聡
11	術前の壁深達度診断が困難であった胃粘液癌 の1例	胃と腸	59(11): 1689-1694, 2024	松田 恵伍, 金光 高雄, 八尾 建史, 平瀬 崇之, 小野陽一郎, 田邊 寛, 今村健太郎, 宮岡 正喜, 二村 聡, 久部 高司
12	虫垂 goblet cell adenocarcinoma	胃と腸	59(12): 1828-1829, 2024	天野 良祐, 久部 高司, 二村 聡
13	診断講座 IBD 診断・治療 マネジメントの 実際 第12回 潰瘍性大腸炎の経過中にキャンピロ バクター腸炎を合併した一例	IBD Research	18(4): 317-320, 2024	高津 典孝, 久部 高司
14	特集 基礎から学ぶ咽頭・食道内視鏡診断 [病変拾い上げのコツ]食道観察の基本とコツ	消化器内視鏡	37(1): 52-56, 2025	小野陽一郎, 八尾 建史, 二村 聡, 久部 高司

〈著書〉

1	第7章 6 セリアック病/美しい画像で見る内視鏡アトラス 下部消化管	羊土社	pp.186-187, 2024	久部 高司, 八坂 達尚 (分担)
2	第8章 4 腸間膜静脈硬化症/美しい画像で見る内視鏡アトラス 下部消化管	羊土社	pp.202-203, 2024	久部 高司, 中山 敦貴 (分担)
3	胃・十二指腸 5 胃腸上皮化生/消化管画像強調内視鏡(IEE)アトラス	文光堂	pp.116-117, 2024	金光 高雄, 八尾 建史, 二村 聡 (分担)
4	胃・十二指腸 9 腸型腺腫/消化管画像強調内視鏡(IEE)アトラス	文光堂	pp.124-125, 2024	金光 高雄, 八尾 建史, 二村 聡 (分担)
5	胃・十二指腸 17 通常型腺癌(分化型, 隆起型, WOS) /消化管画像強調内視鏡(IEE)アトラス	文光堂	pp.140-141, 2024	金光 高雄, 八尾 建史, 二村 聡 (分担)
6	胃・十二指腸 21 通常型腺癌(分化型, 0-IIc, VEC pattern) /消化管画像強調内視鏡(IEE)アトラス	文光堂	pp.148-149, 2024	金光 高雄, 八尾 建史, 二村 聡 (分担)
7	1. 急性膵炎 a 内科的治療/消化器疾患最新の治療2025-2026	南江堂	pp.321-323, 2025	伊原 諒, 植木 敏晴 (分担)

〈国際学会と国内学会(シンポジウムまたは招待講演)発表〉

1	(パネルディスカッション) 膵石症に対する長期治療成績の検討	第110回日本消化器病学会 総会	徳島, 5/9-5/11, 2024	伊原 諒, 中島 美紀, 江崎 薫, 後野 徹宏, 田中 利幸, 平塚 裕晃, 立川 勝子, 丸尾 達, 野間栄次郎, 植木 敏晴
2	(シンポジウム) 膵管内乳頭粘液産生腫瘍(IPMN)症例における術前膵液細胞診は治療方針決定に有用か	第107回日本消化器内視鏡 学会総会	東京, 5/30-6/1, 2024	永山林太郎, 植木 敏晴, 脇岡 範, 日本膵臓学会嚢胞 性膵腫瘍委員会
3	(シンポジウム) 膵癌の術前化学療法後の治療成績に関する検討	第123回日本消化器病学会 九州支部例会	北九州, 6/21-6/22, 2024	田中 利幸, 丸尾 達, 植木 敏晴, 後野 徹宏, 平塚 裕晃
4	(シンポジウム) 経皮経肝胆道鏡下 EHL による肝内総胆管結石症の治療成績	第117回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	北九州, 6/21-6/22, 2024	丸尾 達, 平塚 裕晃, 伊原 諒, 立川 勝子, 植木 敏晴
5	(シンポジウム) 閉塞性大腸腫瘍に対する緊急大腸ステント留置の治療成績	第117回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	北九州, 6/21-6/22, 2024	樋脇 久美, 大津 健聖, 平野 昭和, 佐々木 優, 宗 祐人
6	(シンポジウム) 胃 GIST に対する内視鏡的胃壁全層切除(EFTR)の導入と問題点	第117回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	北九州, 6/21-6/22, 2024	宮岡 正喜, 二村 聡, 植木 敏晴, 上堂 文也, 八尾 建史
7	(シンポジウム) 当院における潰瘍性大腸炎に対する JAK 阻害剤の使用状況	第123回日本消化器病学会 九州支部例会	北九州, 6/21-6/22, 2024	三雲 博行, 武田 輝之, 安川 重義, 高津 典孝, 久部 高司
8	(パネルディスカッション) 高齢者の非切除胆道癌における化学療法の治療成績と生命予後因子の検討	第60回日本胆道学会学術集 会	愛知, 10/10-10/11, 2024	松岡 大介, 丸尾 達, 田中 利幸
9	(シンポジウム) 当院における胆道癌に対しての化学療法の成績	第124回日本消化器病学会 九州支部例会	鹿児島, 11/15-11/16, 2024	平塚 裕晃, 丸尾 達, 久部 高司

10	(シンポジウム) 当院における OGIB に対する内視鏡検査の現状	第124回日本消化器病学会 九州支部例会	鹿児島, 11/15-11/16, 2024	田中 遼河, 大津 健聖, 柴田 衛, 宇野駿太郎, 宗 祐人
11	(パネルディスカッション) 胃内視鏡的粘膜下層剥離術後狭窄の高リスク症例における合併症対策	第118回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	鹿児島, 11/15-11/16, 2024	宇野駿太郎, 大津 健聖, 柴田 衛, 田中 遼河, 宗 祐人
12	(パネルディスカッション) エピネフリン添加局注は胃 ESD の治療時間を短縮する－国際多施設二重盲検無作為化比較試験: Epinephrine ESD study group	第118回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	鹿児島, 11/15-11/16, 2024	大津 健聖, 宮岡 正喜, 岩上 裕吉, 上堂 文也, 八尾 建史

〈国内研究助成金〉

1	子宮頸がん診断における画像強調併用拡大軟性内視鏡の実装化を目指した研究	国立研究開発法人日本医療研究開発機構 革新的がん医療実用化研究事業	2024	八尾 建史 (代表者: 小原 英幹)
---	-------------------------------------	--------------------------------------	------	-----------------------

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	第31回九州胃拡大内視鏡研究会 (Web 開催)	—	7/20, 2024	八尾 建史
2	第32回九州胃拡大内視鏡研究会 (Web 開催)	—	2/15, 2025	八尾 建史

〈学会活動〉

1	日本消化器内視鏡学会	社団評議員	2024	八尾 建史, 久部 高司
2	日本消化器内視鏡学会	学術評議員	2024	宮岡 正喜, 小野陽一郎, 金光 高雄
3	日本消化器内視鏡学会	大腸 ESD/EMR ガイドライン (第2版) 委員会作成委員	2024	久部 高司
4	日本消化器内視鏡学会	大腸 cold polypectomy ガイドライン委員会作成委員	2024	久部 高司
5	日本消化器内視鏡学会	炎症性腸疾患内視鏡診療ガイドライン作成委員会作成委員	2024	久部 高司
6	日本消化器内視鏡学会	早期胃癌の内視鏡診断ガイドライン (第2版) 作成委員会作成委員	2024	金光 高雄
7	日本消化器内視鏡学会九州支部	支部長	2024	八尾 建史
8	日本消化器内視鏡学会九州支部	支部幹事	2024	久部 高司
9	日本消化器内視鏡学会九州支部	評議員	2024	八尾 建史, 久部 高司, 宮岡 正喜, 高津 典孝, 小野陽一郎, 金光 高雄, 古賀 章浩, 丸尾 達, 武田 輝之, 八坂 達尚, 天野 良祐
10	日本消化器病学会	評議員	2024	八尾 建史, 久部 高司, 金光 高雄

11	日本消化器病学会	大腸ポリープ診療ガイドライン作成委員会作成委員	2024	久部 高司
12	日本消化器病学会九州支部	支部幹事	2024	八尾 建史, 久部 高司
13	日本消化器病学会九州支部	評議員	2024	八尾 建史, 久部 高司, 宮岡 正喜, 小野陽一郎, 高津 典孝, 金光 高雄, 丸尾 達, 立川 勝子
14	日本カプセル内視鏡学会	代議員	2024	久部 高司
15	日本大腸肛門病学会	評議員	2024	久部 高司
16	日本大腸肛門病学会九州支部	支部幹事	2024	久部 高司
17	日本大腸肛門病学会九州支部	評議員	2024	久部 高司
18	日本大腸検査学会	評議員	2024	久部 高司
19	日本大腸検査学会九州支部	支部幹事	2024	久部 高司
20	日本消化管学会	代議員	2024	久部 高司
21	日本食道学会	評議員	2024	小野陽一郎
22	厚生労働省好酸球性消化管疾患研究班：幼児・成人好酸球性消化管疾患診療ガイドライン作成委員会	作成委員	2024	久部 高司
23	九州胃拡大内視鏡研究会	代表世話人	2024	八尾 建史
24	福岡消化管懇話会	代表世話人	2024	八尾 建史
25	臨床消化器病研究会（消化管の部）	世話人	2024	八尾 建史
26	拡大内視鏡研究会	世話人	2024	八尾 建史
27	大腸研究会	世話人	2024	久部 高司
28	九州大腸肛門懇談会	世話人	2024	久部 高司
29	早期胃癌研究会	運営委員	2024	小野陽一郎
30	NPO 法人 胃癌を撲滅する会	理事	2024	八尾 建史

〈研究に関係した賞〉

1	Upside-down stomach を伴った食道裂孔ヘルニアの1例	第117回日本消化器内視鏡学会 専攻医奨励賞	2024	樋渡 公佑
---	-------------------------------------	---------------------------	------	-------

福岡大学筑紫病院腎センター

〈原著〉

1	Dysbiosis of oral bacteria in patients with chronic kidney disease	Renal Replacement Therapy	10: 63, 2024	Tetsuhiko Yasuno, Kazuhiro Tada, Koji Takahashi, Maho Watanabe, Kenji Ito, Hisatomi Arima, Kosuke Masutani.
---	--	---------------------------	--------------	---

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	Dysbiosis of Gut Microbiota in Patients with Chronic Kidney Disease	ERA-EDTA 2024（ハイブリッド開催）	ストックホルム 5/23-5/26 2024	Tetsuhiko Yasuno, Koji Takahashi, Kazuhiro Tada, Hiroto Hi Yamuta, Maho Watanabe, Kenji Ito, Hisatomi Arima, Kosuke Masutani
---	---	-------------------------	------------------------------	---

〈国内研究助成金〉

1	病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与する口腔内細菌叢異常を解明する	科学研究助成事業 基盤研究 C	2024	安野 哲彦（代表）
---	-------------------------------------	--------------------	------	-----------

〈学会活動〉

1	日本腎臓学会	評議員	2025	安野 哲彦
---	--------	-----	------	-------

福岡大学筑紫病院脳神経内科

〈原著〉

1	Efficacy and Safety of a New Delivery Assist Catheter with a Flexible, Spindle-Shaped Shaft in Mechanical Thrombectomy.	World Neurosurg.	187: e997-e1003, 2024	Takeshita S, Nii K, Tsugawa J, Ishii A, Fukumoto H, Hanada H, Inoue R, Sakamoto K, Higashi T.
2	Impact of distribution of carotid intraplaque neovessels on plaque vulnerability.	J Stroke Cerebrovasc Dis	33(10): 107859, 2024	Takeshita S, Inoue K, Ogata T, Ishii A, Uesugi N, Hamasaki M, Abe H, Tsugawa J.

福岡大学筑紫病院小児科

〈原著〉

1	Non-fasting and fasting serum triglyceride concentrations and new-onset hyperuricemia in the general Japanese population: ISSA-CKD study	Sci Rep.	17:15(1): 5764, 2025	Takashi Sakaguchi, Shunsuke Funakoshi, Kazumi Kawano, Tamami Ueno, Kaori Maki, Akiko Morinaga, Kazuyo Iwanaga, Yori Inoue, Yukiko Shinohara, Shiori Katsuki, Koji Takahashi, Shintaro Ishida, Takako Fujii, Makiko Abe, Miki Kawazoe, Toshiki Maeda, Chikara Yoshimura, Kazuhiro Tada, Kenji Ito, Shigeaki Mukobara, Kosuke Masutani, Takahito Inoue, Shinichiro Nagamitsu & Hisatomi Arima
2	Effectiveness of digital health interventions for telemedicine/telehealth for managing blood pressure in adults: a systematic review and meta-analysis	Hypertens Res.	48(2): 478-491, 2025	Atsushi Sakima, Yuya Akagi, Yuichi Akasaki, Takako Fujii, Tatsuya Haze, Fumiko Kawakami-Mori, Ken Kitajima, Yusuke Kobayashi, Tetsutaro Matayoshi, Takashi Sakaguchi, Masanobu Yamazato, Makiko Abe, Yusuke Ohya, Hisatomi Arima

3	Skippping Breakfast and Progression of Chronic Kidney Disease in the General Japanese Population: The Iki City Epidemiological Study of Atherosclerosis and Chronic Kidney Disease (ISSA-CKD)	Kidney Blood Press Res.	49(1): 472-479, 2024	Koji Takahashi, Yori Inoue, Kazuhiro Tada, Hiroto Hiyamuta, Kenji Ito, Tetsuhiko Yasuno, Takashi Sakaguchi, Shiori Katsuki, Yukiko Shinohara, Chihiro Nohara, Shota Okutsu, Makiko Abe, Atsushi Satoh, Miki Kawazoe, Toshiki Maeda, Chikara Yoshimura, Shigeaki Mukoubara, Hisatomi Arima, Kosuke Masutani
---	---	-------------------------	----------------------	--

〈症例報告〉

1	ジュベール症候群関連疾患を有し精神運動発達遅滞を呈した1歳児においてホームエクササイズが発達を促進する一助となった1症例	小児理学療法学	2(1): 16-23, 2024	山本 晨平, 吉田 泰子, 押川 達郎, 小川 厚, 井上 貴仁, 塩手 仁也, 藤井 裕子, 伊崎 輝昌
2	A Unique Case of Bulbar-Onset Juvenile Myasthenia Gravis, without Ocular Symptoms or Limb Muscles Weakness.	Med. Bull. Fukuoka Univ.	51(1): 29-34, 2024	Maruyama T, Tsugawa J, Mihashi Y, Hirai T, Fujikawa K, Fujii Y, Ogawa A, Inoue T.
3	Acute liver failure worsened after respiratory syncytial virus infection in an infant with spinal muscular atrophy type I after receiving onasemnogene abeparvovec.	Brain Dev Case Rep.	2(3): 100022, 2024	Sakemi S, Fujita T, Kaku N, Yatsuga S, Ito K, Sasaoka D, Yamaguchi H, Hayashi H, Inoue T, Higashi K, Sakai Y, Ohga S, Nagamitsu S.

〈総説〉

1	虐待と小児外科	小児外科	56(11): 1088-1090, 2024	小川 厚
2	ポストコロナを見据えた小児医療～ライソゾーム病, 重症複合免疫不全症, 脊髄性筋萎縮症の拡大新生児スクリーニングをふまえて～	佐賀県小児科医報	50: 2-6, 2024	井上 貴仁

〈国内研究助成金〉

1	随時中性脂肪と高尿酸血症発症との関連について	令和7年度大学院高度化推進特別経費研究科特別経費	2025	坂口 崇 (代表者: 有馬 久富)
---	------------------------	--------------------------	------	----------------------

〈学会活動〉

1	日本小児科学会	代議員	2024	小川 厚
2	日本子ども虐待防止学会	理事長	2024	小川 厚
3	日本てんかん学会	評議員	2024	小川 厚
4	日本小児科学会九州地方会	幹事	2024	小川 厚
5	日本小児科学会	代議員	2024	井上 貴仁
6	日本小児科学会 小児慢性特定疾病委員会	委員	2024	井上 貴仁

7	日本小児科学会 新生児マスキリーニング検討小委員会	委員	2024	井上 貴仁
8	日本小児神経学会	評議員	2024	井上 貴仁
9	日本小児神経学会 小慢・難病に関する委員会	委員長	2024	井上 貴仁
10	日本小児神経学会 九州地方会	世話人	2024	井上 貴仁
11	九州小児科学会	運営委員	2024	井上 貴仁
12	九州学校保健学会	評議員	2024	井上 貴仁
13	福岡臨床と脳波懇話会 (日本臨床神経性李学会認定)	世話人	2024	井上 貴仁

〈研究に関係した賞〉

1	酸値管理の新たな一手としての低用量併用療法：無作為化比較試験のシステム ティックレビューおよびメタアナリシス	第58回日本痛風尿酸 核酸学会総会 優秀演題賞	2025	坂口 崇
---	---	-------------------------------	------	------

福岡大学筑紫病院外科

〈原著〉

1	Association Between Sense of Coherence, Disease-Specific Symptoms, and Health-Related Quality of Life Among Japanese Patients with Ulcerative Colitis: A Cross-Sectional Study	Digestion	105(4): 257-265, 2024	Horanai C, Hashimoto H, Hisamatsu T, Ikeuchi H, Watanabe K, Nanjo S, Nezu R, Itabashi M, Hokari R, Higashi D, Matsuura M, Ogino T, Takahashi K, Andoh A, Shinozaki M, Sugita A.
2	Surgical Management for Patients with Toxic Megacolon due to Ulcerative Colitis.	J Anus Rectum Colon.	8(3): 150-156, 2024	Watanabe T, Higashi D, Kaida H, Irie H, Hanaoka K, Yamakado J, Maki T, Hirano Y, Nagano H, Watanabe M.
3	A Bridge to Curative Surgery for Obstructive Colorectal Cancer: Self-expandable Metallic Stent Versus Decompression Tube.	Anticancer Res.	44(8): 3427-3441, 2024	Takahashi H, Kojima D, Wada H, Hanaoka K, Watanabe T, Nagano H, Yamakado J, Matsuda A, Irie H, Maki T, Hamahata K, Hayashi T, Hirano Y, Kaida H, Kawamoto M, Shibata R, Miyasaka Y, Higashi D, Watanabe M.
4	Management of Postoperative Pancreatic Fistulas After Pancreaticoduodenectomy Using Open Drainage and Negative Pressure Wound Therapy With Instillation and Dwell Times.	Cureus.	16(8): e67135, 2024	Miyasaka Y, Kaida H, Kawamoto M, Watanabe M.
5	Therapeutic potential of trained immunity for malignant disease.	Immunol Med.	Online ahead of print, 2024	Takahashi H, Kojima D, Watanabe M.

- | | | | | |
|---|---|----------------|----------------------------|---|
| 6 | Preoperative High FIB-4 Index and NFS Scores Predict a Reduced Incidence of Metachronous Liver Metastasis Following Pancreaticoduodenectomy | Anticancer Res | 45(1):
261-266,
2025 | Kawamoto M, Miyasaka Y,
Kaida H, Watanabe M. |
| 7 | Clinical significance of intraductal papillary mucinous neoplasms incidentally detected in patients with extrapancreatic gastrointestinal malignancies with a focus on pancreatic cancer development. | Surgery. | 178:
108903,
2025 | Kaida H, Miyasaka Y,
Higashi D, Yamamoto R,
Watanabe M, Hasegawa S. |
| 8 | The Current Status of T Cell Receptor (TCR) Repertoire Analysis in Colorectal Cancer | Int J Mol Sci. | 26(6):
2698,
2025 | Takahashi H, Hanaoka K,
Wada H, Kojima D,
Watanabe M. |

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|--|-----------------------|------------------------------|--|
| 1 | Nonocclusive mesenteric ischemia (NOMI) on Roux limb after biliary reconstruction successfully treated by interventional radiology (IVR) | Clin J Gastroenterol. | 17(3):
575-579,
2024 | Kawamoto M, Miyasaka Y,
Koreeda N, Hirano Y,
Yamamoto R, Watanabe M. |
| 2 | Laparoscopic Median Arcuate Ligament Release During Gastric Tube Reconstruction in Subtotal Esophagectomy for a Patient With Esophageal Cancer Complicated by Median Arcuate Ligament Syndrome: A Case Report. | Cureus. | 16(7):
e65158,
2025 | Yamakado J, Shibata R,
Watanabe M. |
| 3 | 空腸異物肉芽腫により発症した腸閉塞の1例 | 日本臨床外科学会雑誌 | 85(8):
1066-1071,
2024 | 山門 仁, 入江 久世,
眞木 俊光, 平野 陽介,
東 大二郎, 渡部 雅人,
二村 聡 |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|---|--------------|----------------------------|--|
| 1 | 【エビデンスに基づく膵 IPMN 国際診療ガイドライン改訂版 (Kyoto guidelines) のポイント】切除後経過観察 残膵に何が起るのか？ (残膵病変発生のリスクも含めて) | 胆と膵 | 45(4):
403-409,
2024 | 宮坂 義浩, 川元 真,
西野 仁恵, 保坂 優斗,
大塚 隆生 |
| 2 | 【クローン病肛門病変診療の Up to Date-内科医・外科医 共通の課題に挑む！】クローン病の肛門病変の特徴と局所所見 肛門部診察の重要性 | IBD Research | 18(4):
246-251,
2024 | 東 大二郎 |
| 3 | 【膵管内乳頭粘液性腫瘍 up to date】IPMN の外科手術と術後サーベイランス | 日本消化器病学会雑誌 | 122(1):
23-33,
2025 | 宮坂 義浩, 川元 真 |
| 4 | 【低侵襲胆膵手術の precision anatomy】膵臓 Gerota 筋膜と Treitz/Toldt 癒合筋膜 | 胆と膵 | 46(2):
155-161,
2025 | 宮坂 義浩, 甲斐田大貴,
川元 真, 渡部 雅人 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|-------------------------------------|-----------|------------------------|-------|
| 1 | 生命倫理学概論
(分担)第3章
がん治療における倫理的課題 | (株)大学教育出版 | 第3章:
64-93,
2024 | 宮坂 義浩 |
|---|-------------------------------------|-----------|------------------------|-------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	【国際学会】 The successful damage control surgery case for massive bleeding of duodenal ulcer with perforation due to Over-The-Scope-Clip at the posterior lateral aspect of duodenum.	25th Annual International Congress of Korean Society of Acute Care Surgery・12th Joint Scientific Congress of KSACS and JSACS, KSACS Joint Session	Grand Hyatt Incheon, 4/11, 2024	Kojima D
2	【国際学会】 Preoperative liver fibrosis scores may predict the incidence of metachronous liver metastasis following pancreaticoduodenectomy.	APA/JPS/CAP/IAP 2024	Maui (USA), 12/9, 2024	Kawamoto M, Kaida H, Miyasaka Y, Watanabe M
3	【シンポジウム】 炎症性腸疾患手術の基本手技を見直す 腹腔鏡手術時代におけるクローン病手術の基本手技を考える	第124回日本外科学会定期学術集会	AICHI SKY EXPO, 4/20, 2024	東 大二郎, 花岡 勝蔵, 入江 久世, 山門 仁, 眞木 俊光, 平野 陽介, 甲斐田大貴, 長野 秀紀, 川元 真, 高橋 宏, 渡邊 利史, 柴田 亮輔, 宮坂 義浩, 渡部 雅人
4	【シンポジウム】 クローン病大腸癌のサーベイランスとしての肛門管生検	第79回日本大腸肛門病学会学術集会	パシフィコ横浜, 11/29, 2024	東 大二郎, 山門 仁, 濱畑 圭佑, 林 貴臣, 高橋 宏幸, 和田 英雄, 小島 大望, 宮坂 義浩, 渡部 雅人

〈国内研究助成金〉

1	難治性炎症性腸管障害に関する調査研究	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業	2024	東 大二郎 (代表者：久松 理一)
---	--------------------	-----------------------------	------	----------------------

〈学会活動〉

1	日本食道学会	評議員	2024	渡部 雅人
2	日本胃癌学会	評議員	2024	渡部 雅人
3	日本大腸肛門病学会	評議員 健康保険検討委員 規約検討委員	2024	東 大二郎
4	日本臨床外科学会	評議員	2024	東 大二郎
5	日本消化器病学会	評議員	2024	東 大二郎
6	日本病態栄養学会	評議員	2024	東 大二郎
7	日本内視鏡外科学会	評議員選考委員 国際委員	2024	渡部 雅人
8	日本内視鏡外科学会	評議員	2024	宮坂 義浩
9	日本肝胆膵外科学会	評議員	2024	宮坂 義浩
10	日本炎症性腸疾患学会	代議員	2024	東 大二郎
11	膵臓内視鏡外科研究会	幹事	2024	宮坂 義浩
12	日本バイオ治療法学会	運営委員	2024	東 大二郎
13	日本消化器病学会九州支部	評議員	2024	東 大二郎

14	日本大腸肛門病学会九州地方会	評議員	2024	東 大二郎
15	九州内視鏡・ロボット外科手術研究会	世話人	2024	渡部 雅人
16	九州代謝・栄養研究会	幹事	2024	東 大二郎
17	九州外科学会	評議員	2024	東 大二郎
18	福岡 NST 研究会	世話人	2024	東 大二郎

福岡大学筑紫病院呼吸器・乳腺外科

〈原著〉

1	Guidelines for the treatment of empyema, (The Japanese Association for Chest, Surgery)	Gen Thorac Cardiovasc, Surg.	Online ahead of print, 2025	Shiraishi Y, Omasa M, Yamashita S, Yoon Hyung-eun, Tanahashi M, Fukami T, Tokyooka S, Ode Y, Okamoto T, Shiraishi T, Shintani Y, Hida Y, Maeda S, Matsumoto I, Sakairi Y, Fukui M, Okuda K, Tsuchida M, Iyoda A, Saji H, Yoshino I.
---	--	------------------------------	-----------------------------	---

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

1	Breast Cancer Seminar in Chikushino	筑紫野市文化会館	9/30, 2024	山下 眞一
---	-------------------------------------	----------	------------	-------

〈学会活動〉

1	日本呼吸器外科学会	評議員	2021	山下 眞一
2	日本胸部外科学会	評議員	2021	山下 眞一
3	日本肺癌学会	評議員	2021	山下 眞一
4	単孔式胸腔鏡手術研究会	幹事	2021	山下 眞一

福岡大学筑紫病院整形外科

〈原著〉

1	Risk Factors for High Repair Tension During Rotator Cuff Repair	Orthop J Sports Med	9;12(10), 2024	Miyake S, Shibata T, Kobayashi S, Matsunaga K, Hata N, Shibata Y, Izaki T, Yamamoto T.
2	Risk of Axillary Nerve Injury With Medial Support Screws in Intramedullary Nails: An Anatomical Study	Cureus	8;16(7), 2024	Kobayashi S, Miyake S, Shibata T, Matsunaga K, Hata N, Izaki T, Yamamoto T.
3	Arthroscopic margin convergence of large-sized rotator cuff tears does not lead to better clinical outcome compared with conventional repair	JSES Int	28;8(4): 785-790 2024	Shibata T, Shibata Y, Minokawa S, Miyake S, Izaki T.
4	Application of indocyanine green fluorescence angiography in evaluating blood flow in rotator cuff tears: a preliminary study	J Shoulder Elbow Surg	33(10): 2149-2158, 2024	Shibata T, Doi N, Shibata Y, Minokawa S, Miyake S, Izaki T.

5	Serial Magnetic Resonance Arthrography for a Midsubstance Capsular Tear in a Patient With Traumatic Anterior Shoulder Instability	Cureus	29;16(4): e59247, 2024	Matsunaga K, Miyake S, Izaki T, Shibata T, Yamamoto T.
6	A finite element model analysis. Journal of orthopaedic science	official journal of the Japanese Orthopaedic Association.	29. 2. 574-584 2024	Jun Fujita, Koichi Kinoshita, Tetsuya Sakamoto, Hajime Seo, Kenichiro Doi, Takuaki Yamamoto.
7	Side-to-side variability in the femoral neck anteversion angle: A study of the Japanese population with osteonecrosis of the femoral head	official journal of the Japanese Orthopaedic Association.	29. 2. 589-595 2024	Masahiro Suzuki, Koichi Kinoshita, Tetsuya Sakamoto, Hajime Seo, Kenichiro Doi, Ichiro Yoshimura, Takuaki Yamamoto.
8	Bone formation of the coracoid bone graft after the Bristow procedure assessed using three-dimensional computed tomography.	J Orthop Sci.	29(6): 1382-1388, 2024	Minokawa S, Shibata Y, Shibata T, Kosaka H, Izaki T.
9	Ankle bone morphology affects the size of non-trauma related osteochondral lesions of the talus in skeletally immature children	J Orthop Sci.	29(1): 224-229. 2024	Ishimatsu T, Yoshimura I, Kanazawa K, Hagio T, Minokawa S, Nagatomo M, Sugino Y, Yamamoto T.
10	高齢者の非外傷性肩腱板断裂における手術時期の検討	整形外科と災害外科	73(3): 660-664, 2024	波田 将晃, 柴田 光史, 三宅 智, 小林 駿介, 松永 慶, 畑 直文, 蓑川 創, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
11	前・後期高齢者の腱板断裂に対する鏡視下腱板修復術の術後成績の比較	整形外科と災害外科	73(3): 656-659, 2024	前田 祐斗, 柴田 光史, 三宅 智, 小林 駿介, 松永 慶, 畑 直文, 蓑川 創, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
12	コンタクトスポーツアスリートの外傷性肩関節不安定症に対する烏口突起移行術の治療成績	整形外科と災害外科	73(3): 651-655, 2024	廣田 登, 蓑川 創, 柴田 陽三, 野村 智洋, 坂本 哲哉, 小阪 英智, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
13	内側半月板後根断裂における関節鏡下修復術 (pull-out 法) の approach の検討	整形外科と災害外科	73(3)630-633, 2024	柳邊 崇志, 小阪 英智, 野村 智洋, 坂本 哲哉, 蓑川 創, 古賀 幹朗, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
14	MRI 検査を用いた若年者における正常半月板の形態についての検討	整形外科と災害外科	73(3): 625-629, 2024	溝口 隆成, 野村 智洋, 小阪 英智, 坂本 哲哉, 蓑川 創, 古賀 幹朗, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明
15	Preserve stem β 及び α を用いた人工骨頭置換術後のステムの初期固定性の比較検討	整形外科と災害外科	73(3): 449-451, 2024	重常 公彦, 坂本 哲哉, 野村 智洋, 蓑川 創, 小阪 英智, 柴田 陽三, 伊崎 輝昌, 山本 卓明

〈症例報告〉

- | | | | | |
|---|--|-----------|-------------------------|--|
| 1 | 距骨下関節脱臼骨折の1例 | 整形外科と災害外科 | 73(1):
174-177, 2024 | 古賀 幹朗, 蓑川 創,
野村 智洋, 坂本 哲哉,
小阪 英智, 柴田 陽三,
伊崎 輝昌 |
| 2 | ジュベール症候群関連疾患を有し精神運動発達遅滞を呈した1歳児においてホームエクササイズが発達を促進する一助となった1症例 | 小児理学療法学 | 2(1):
16-23,
2024 | 山本 晨平, 吉田 泰子,
押川 達郎, 小川 厚,
井上 貴仁, 塩手 仁也,
藤井 裕子, 伊崎 輝昌 |

〈総説〉

- | | | | | |
|---|--------------------------------------|------|-------------------------|-------|
| 1 | 【リパース型人工肩関節置換術（RSA）の最前線】RSAの機種の特徴と選択 | 関節外科 | 43(7):
683-691, 2024 | 伊崎 輝昌 |
|---|--------------------------------------|------|-------------------------|-------|

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

- | | | | | |
|---|----------------------------------|-----------------|-------------------|-------|
| 1 | 解剖学的人工肩関節置換術 最近の進歩と今後の課題（シンポジウム） | 第51回日本肩関節学会学術集会 | 京都市10/25,
2024 | 伊崎 輝昌 |
|---|----------------------------------|-----------------|-------------------|-------|

〈主催した学会・シンポジウム・研究会〉

- | | | | | |
|---|------------------|-----|--------------|-------|
| 1 | 第19回 SCC 整形外科研究会 | 福岡市 | 4/5,
2024 | 柴田 陽三 |
| 2 | 2025 大阪肩関節鏡フォーラム | 大阪市 | 3/22, 2025 | 伊崎 輝昌 |

〈学会活動〉

- | | | | | |
|----|--|-----------------|------|--------------|
| 1 | 日本肩関節学会 | 理事 | 2024 | 伊崎 輝昌 |
| 2 | 九州肩関節研究会 | 世話人 | 2024 | 伊崎 輝昌 |
| 3 | 日本整形外科学会 | 代議員 | 2024 | 柴田 陽三 |
| 4 | 日本整形外科スポーツ医学会 | 監事 | 2024 | 柴田 陽三 |
| 5 | 日本肩関節学会 | 名誉会員 | 2024 | 柴田 陽三 |
| 6 | Korean Shoulder and Elbow Society | Honorary member | 2024 | 柴田 陽三 |
| 7 | Journal of Shoulder and Elbow Surgery | reviewer | 2024 | 伊崎 輝昌, 柴田 陽三 |
| 8 | JSES International | Guest Editor | 2024 | 伊崎 輝昌 |
| 9 | JSES Reviews, Reports & Techniques | reviewer | 2024 | 伊崎 輝昌 |
| 10 | Orthopaedic Journal of Sports Medicine | reviewer | 2024 | 柴田 陽三 |
| 11 | Hindawi | reviewer | 2024 | 柴田 陽三 |
| 12 | Journal of Orthopaedic Science | reviewer | 2024 | 伊崎 輝昌, 柴田 陽三 |
| 13 | 日本股関節学会 | 学術評議員 | 2024 | 坂本 哲哉 |
| 14 | 九州足の外科研究会 | 幹事 | 2024 | 蓑川 創 |
| 15 | 大阪肩関節鏡フォーラム | 世話人 | 2024 | 伊崎 輝昌 |

〈研究に関係した賞〉

- | | | | | |
|---|---|----------------------------------|------|-------|
| 1 | Soft Tissue Stabilization of the Hinge Position for Lateral Closing-Wedge Distal Femoral Osteotomy: An Anatomic Study | 第55回烏帽子会 | 2024 | 小田 大嘉 |
| 2 | Bristow 法における移行骨片の経時的体積変化 | 第147回西日本整形・災害外科学会学術集会
若手研究奨励賞 | 2024 | 高原 真穂 |

福岡大学筑紫病院脳神経外科・脳卒中センター

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|-----------------|-----------------------------|---|
| 1 | Efficacy and Safety of a New Delivery Assist Catheter with a Flexible, Spindle-Shaped Shaft in Mechanical Thrombectomy. | World Neurosurg | 187:
e997-e1003,
2024 | Takeshita S, Nii K, Tsugawa J, Ishii A, Fukumoto H, Hanada H, Inoue R, Sakamoto K, Higashi T. |
|---|---|-----------------|-----------------------------|---|

福岡大学筑紫病院泌尿器科

〈総説〉

- | | | | | |
|---|--------------|---------|----------------------------|-------|
| 1 | TVM 手術の現状と今後 | 西日本泌尿器科 | 86(4):
184-185,
2024 | 宮島 茂郎 |
| 2 | 炎症性腸疾患と結石性疾患 | 総合診療 | 34(8):
922-923,
2024 | 宮島 茂郎 |

福岡大学筑紫病院眼科

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|------------------------|--|
| 1 | Lamp2 Deficiency Enhances Susceptibility to Oxidative Stress-Induced RPE Degeneration. | Invest Ophthalmol Vis Sci | 66(2):
2. | Wu G, Notomi S, Xu Z, Fukuda Y, Maehara Y, Tao Y, Zhao H, Ishikawa K, Murakami Y, Hisatomi T, Sonoda KH. |
| 2 | Three-month outcomes of treatment with faricimab or aflibercept for neovascular age-related macular degeneration: a propensity score matching study in a Japanese population. | Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. | 262(12):
3971-3978. | Fukuda Y, Notomi S, Shiose S, Maehara Y, Kiyohara K, Fujiwara K, Hashimoto S, Kano K, Ishikawa K, Hisatomi T, Sonoda KH. |
| 3 | Comparison of Microperimetry and Static Perimetry for Evaluating Macular Function and Progression in Retinitis Pigmentosa. | Ophthalmol Sci. | 4(6):
100582. | Fukushima M, Tao Y, Shimokawa S, Zhao H, Shimokawa S, Funatsu J, Hisai T, Okita A, Fujiwara K, Hisatomi T, Takeda A, Ikeda Y, Sonoda KH, Murakami Y. |
| 4 | Relationships between causative genes and epiretinal membrane formation in Japanese patients with retinitis pigmentosa. | Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. | 262(11):
3553-3558. | Nakamura S, Fujiwara K, Fukushima M, Shimokawa S, Shimokawa S, Koyanagi Y, Hisatomi T, Takeda A, Yasuhiro I, Murakami Y, Sonoda KH. |

5	Factors at the initial visit associated with poor visual outcomes in patients with acute retinal necrosis.	Eye (Lond).	38(15): 2992-2998.	Fukui C, Takeda A, Hasegawa E, Asahara K, Shirane M, Tsutsui H, Yoshitomi K, Ito T, Akiyama M, Notomi S, Ishikawa K, Murakami Y, Hisatomi T, Yawata N, Sonoda KH.
6	Intraocular kinetics of pathological ATP after photoreceptor damage in rhegmatogenous retinal detachment.	Jpn J Ophthalmol.	68(5): 500-510.	Tachibana T, Notomi S, Funatsu J, Fujiwara K, Nakatake S, Murakami Y, Nakao S, Kanamoto T, Ikeda Y, Ishibashi T, Sonoda KH, Hisatomi T.

福岡大学筑紫病院耳鼻いんこう科

〈国際学会と国内学会（シンポジウムまたは招待講演）発表〉

1	専門医認定試験過去問解説講座1 鼻科領域	第38回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 秋季大会	京都 11/30-12/01 2024	三橋 泰仁
---	----------------------	-------------------------	---------------------------	-------

福岡大学筑紫病院麻酔科

〈国内研究助成金〉

1	遠位尿細管特異的遺伝子改変マウスを駆使した急性腎障害機序の解明	文部科学省 基盤研究 C	2022	若崎るみ枝 (代表者：根本隆行)
---	---------------------------------	-----------------	------	---------------------

〈学会活動〉

1	日本麻酔科学会	第72回学術集会実行委員会 第8麻酔全般ワーキンググループサテライトメンバー	2024	若崎るみ枝
---	---------	---	------	-------

福岡大学筑紫病院病理部・病理診断科

〈原著〉

1	Evaluation of Artificial Intelligence: Computer-aided Detection of Colorectal Polyps	J Anus Rectum Colon	25:9(1), 79-87, 2025	Hiratsuka Y, Hisabe T, Ohtsu K, Yasaka T, Takeda K, Miyaoka M, Ono Y, Kanemitsu T, Imamura K, Takeda T, Nimura S, Yao K.
---	--	---------------------	----------------------------	---

〈症例報告〉

1	A case of invasive mucinous adenocarcinoma presenting with massive bronchorrhea	Respiratory Medicine Case Reports	51, 102082, 2024	Takata K, Kinoshita Y, Yoshimura M, Takenaka S, Utsunomiya T, Koide Y, Wada K, Yoshida Y, Nakashima S, Kushima H, Nimura S, Ishii H
2	空腸異物肉芽腫により発症した腸閉塞の1例	日本臨床外科学会雑誌	85(8), 1066-1071, 2024	山門 仁, 入江 久世, 眞木 俊光, 平野 陽介, 東 大二郎, 渡部 雅人, 二村 聡
3	【進行胃癌の診断と治療方針2024】術前の壁深達度診断が困難であった胃粘液癌の1例	胃と腸	59(11), 1689-1694, 2024	松田 恵伍, 金光 高雄, 八尾 建史, 平瀬 崇之, 小野陽一郎, 田邊 寛, 今村健太郎, 宮岡 正喜, 二村 聡, 久部 高司

4	Concurrent Pulmonary Sarcoidosis and Carcinomatous Lymphangitis	Intern Med	doi: 10.2169/ internalmedicine. 5277-25. Online ahead of print. 2025	Kushima H, Kinoshita Y, Yoshimura M, Ishii I
---	---	------------	---	---

〈総説〉

1	特集 十二指腸・小腸アトラス Ⅱ. 炎症性疾患 自己免疫疾患・膠原病・血管炎など 潰瘍性大腸炎に伴う十二指腸病変	消化器内視鏡	36(4): 584-585, 2024	久部 高司, 二村 聡
2	消化管疾患の分類2024 咽頭・食道, 食道癌 進行度分類 (食道癌取扱い規約) Stage classification (Japanese Classification of Esophageal Cancer)	胃と腸	59(4): 420-421, 2024	小野陽一郎, 二村 聡
3	消化管疾患の分類2024 胃, 胃潰瘍 (十二指腸潰瘍も含む) 胃潰瘍の深さによる分類 (通称, 村上分類) Classification Based on the Depth of Gastric Ulcer	胃と腸	59(4): 480-481, 2024	二村 聡
4	消化管疾患の分類2024 小腸・大腸, 潰瘍性大腸炎 潰瘍性大腸炎に出現する異型上皮の分類 Classification of Atypical Epithelium in Ulcerative Colitis	胃と腸	59(4): 569-572, 2024	田邊 寛, 二村 聡
5	消化管疾患の分類2024 全消化管, リンパ腫 病型・疾患単位分類 (WHO 分類および国際 コンセンサス分類) WHO Classification and International Consensus Classification of Tumors of Lymphoid Tissues	胃と腸	59(4): 618-622, 2024	二村 聡
6	消化管疾患の分類2024 全消化管, 血管腫・血管奇形 国際血管腫・血管奇形学会 (ISSVA) 分類 The ISSVA Classification for Vascular Anomalies	胃と腸	59(4): 643-644, 2024	二村 聡
7	虚血性腸病変を整理する 虚血性腸病変の病理診断	胃と腸	59(7): 919-925, 2024	田邊 寛, 二村 聡, 吉村 雅代, 中島美知子, 市岡 正敏, 原岡 誠司
8	スキルアップ内視鏡診療 検体の取り扱いと依頼書で変わる?!病理診断 (消化管編)	消化器内視鏡	36, 増刊号, 19-24, 2024	二村 聡, 吉村 雅代, 市岡 正敏, 田邊 寛, 原岡誠司
9	スキルアップ内視鏡診療 口腔・咽頭・食道 治療 食道癌 ESD 後の適切なサーベイランス法	消化器内視鏡	36, 増刊号, 103-107, 2024	小野陽一郎, 石川 智士, 久部 高司, 八尾 建史, 二村 聡

10	炎症性腸疾患2024 炎症性腸疾患の画像所見 炎症性腸疾患の上部消化管病変	胃と腸	59(10), 1414-1422, 2024	久部 高司, 高津 典孝, 古賀 章浩, 安川 重義, 武田 輝之, 三雲 博行, 高橋 篤史, 金光 高雄, 小野陽一郎, 宮岡 正喜, 二村 聡
11	回盲部・虫垂病変の診断－病理医の視点から	胃と腸	59(12), 1737-1739, 2024	二村 聡
12	回盲部・虫垂病変の診断 虫垂 goblet cell adenocarcinoma Goblet Cell Adenocarcinoma of the Appendix	胃と腸	59(12), 1828-1829, 2024	天野 良祐, 久部 高司, 二村 聡
13	特集 基礎から学ぶ 咽頭・食道内視鏡診断 [病変拾い上げのコツ] 食道観察の基本とコツ	消化器内視鏡	37(1), 52-56, 2025	小野陽一郎, 八尾 建史, 二村 聡, 久部 高司
14	トピックス 肉芽腫とその鑑別診断	消化器クリニカルアップ デート	6(2), 136-141, 2025	二村 聡

〈著書〉

1	消化器内視鏡ハンドブック 改訂第3版 V.大腸 8.内視鏡切除標本の取扱いと根治 度評価	医学図書出版	P525-531, 2024	二村 聡 (分担執筆)
2	消化管画像強調内視鏡 (IEE) アトラス 胃・十二指腸, 胃・十二指腸領域の観察のコ ツ, 5.胃腸上皮化生	株式会社 文光堂	116-117, 2024	金光 高雄, 八尾建史, 二村 聡 (分担執筆)
3	消化管画像強調内視鏡 (IEE) アトラス 胃・十二指腸, 胃・十二指腸領域の観察のコ ツ, 9.腸型腺腫	株式会社 文光堂	124-125, 2024	金光 高雄, 八尾 建史, 二村 聡 (分担執筆)
4	消化管画像強調内視鏡 (IEE) アトラス 胃・十二指腸, 胃・十二指腸領域の観察のコ ツ, 17.通常型腺癌 (分化型, 隆起型, WOS)	株式会社 文光堂	140-141, 2024	金光 高雄, 八尾 建史, 二村 聡 (分担執筆)
5	消化管画像強調内視鏡 (IEE) アトラス 胃・十二指腸, 胃・十二指腸領域の観察のコ ツ, 21.通常型腺癌 (分化型, 0-II c, VEC pattern)	株式会社 文光堂	148-149, 2024	金光 高雄, 八尾 建史, 二村 聡 (分担執筆)

〈国際学会と国内学会 (シンポジウムまたは招待講演) 発表〉

1	(シンポジウム) 胃 GIST に対する内視鏡的胃壁全層切除 (EFTR) の導入と問題点	第117回日本消化器内視鏡 学会九州支部例会	福岡 6/21 2024	宮岡 正喜, 二村 聡, 植木 敏晴, 上堂 文也, 八尾建史
2	(講演) 肉芽腫の病理診断とその意義について	New Endoscopy Conference in Omuta	福岡 12/18 2024	二村 聡

〈学会活動〉

1	臨床消化器病研究会	世話人	2024	二村 聡
2	大腸癌研究会	施設代表者	2024	二村 聡
3	AI-拡大内視鏡研究会	世話人	2024	二村 聡

4	大腸 IIc 研究会	世話人	2024	二村	聡
5	早期胃癌研究会	運営副委員長	2024	二村	聡
6	日本胃癌学会	プログラム委員	2024	二村	聡
7	日本食道学会	学術評議員	2024	二村	聡
8	日本食道学会	病理規約委員	2024	二村	聡
9	日本消化器内視鏡学会	胃癌に対する ESD/EMR ガイドライン作成委員	2024	二村	聡
10	日本消化器内視鏡学会	大腸腫瘍に対する内視鏡切 除術ガイドライン作成委員 会作成委員	2024	二村	聡
11	日本病理学会	認定評議員	2024	二村	聡
12	日本病理学会	コンサルテーションシステ ム領域別コンサルタント	2024	二村	聡
13	日本病理学会	固形癌 HER2病理診断ガイ ダンス策定 WG 委員	2024	二村	聡
14	日本病理学会	固形癌 HER2病理診断ガイ ダンス策定 WG・大腸癌サ ブワーキンググループ長	2024	二村	聡
15	日本消化管学会	ガイドライン小部会（薬剤 性消化管障害）委員	2024	二村	聡
16	日本消化管学会	代議員	2024	二村	聡
17	日本消化管学会	九州・沖縄支部 幹事	2024	二村	聡
18	日本消化管学会	理事	2024	二村	聡
19	日本消化管学会	学術企画委員	2024	二村	聡
20	日本消化管学会	倫理委員	2024	二村	聡

Ⅱ．医学部看護学科

1. 学科主任挨拶

看護学科主任 宮 城 由美子

文部科学省大臣指定の全国看護系大学（日本看護系大学協議会会員校）は、令和6年度304校、入学定員は27,266人、福岡県内では16校、入学定員1,348人中 福岡大学医学部看護学科は、熾烈な学生獲得競争の中で、高い受験競争率を維持し、令和6年度新入生110名を迎えスタートしました。

看護学科は平成29年に策定された看護学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき令和3年4月より新カリキュラムを開始し、2024年に完成年度を迎えました。2025年3月に卒業した学生は、新カリキュラムで教育展開し看護師国家試験及び保健師国家試験は全員合格することができました。看護学教育モデル・コア・カリキュラムは令和6年度に改定版が発表され、令和7年度に周知され令和8年度以降に適用されるため、現在看護学科カリキュラムワーキングとして新カリキュラムとしてすすめています。

看護学科では令和8年度に日本看護学教育評価機構（JABNE）看護学教育評価を受審のため、令和6年度では、看護学科の教育・研究・学科運営のさまざまな体系を見直し課題を抽出し不足している事項について検討を進めています。

看護学科では令和6年度より「助手・新任助教キャリア形成支援システム」を導入しメンタリングを用いた教員支援を開始しました。メンタリングの効果として「教育研究面での支援、生活面での支援、キャリア形成面での支援、ネットワークの拡大、役割モデルの提供、着任直後の不安軽減、話すこと自体の楽しさ」が報告されています。看護部との人事交流における身分替え助手へ対しても同様の支援を行っております。

福岡大学病院、福岡大学筑紫病院とは例年に引き続き看護研究支援、臨地実習指導者研修支援、各科目における専門的知識の教授のためのゲストスピーカーなどの連携を図ることができおります。令和4年度より始めた看護部との人事交流も3年目となり、臨床に看護師として戻っております。今後は看護学科と看護部との橋渡しとなり、現任教育・学生への教育指導がより一層図れることが期待できます。また令和6年度より福岡大学看護部とユニフィケーション事業準備委員会として、看護部長、副看護部長、看護学科主任、看護学科ユニフィケーションワーキングがメンバーとなり、協働による戦略的な活動の展開を図っています。

私ども看護学科教職員は、福岡大学の一員であることを自覚し医学科、大学の他学部、病院との連携関係を大切にしながら今後も努力を継続してまいります。

関係各位の更なるご協力・ご支援をお願い申し上げます。

2. 令和6年度 医学部看護学科年譜

年月日	行 事	付 記
6.4.1	令和6年度 学年始め、入学式 看護学科18回生 110名入学（男子3名 女子107名）	
4.2～9	新入生オリエンテーリング	於：看護学科棟他
4.15	看護学科第1回FD研修会	於：看護学科棟
5.29	看護学科第1回FD招聘講演会（Zoom開催）	
6.3	看護学科第2回FD研修会	於：看護学科棟
6.3～18	単独進学説明会	
6.15	父母懇談会（福岡会場）	於：看護学科棟
6.21～6.26	国際交流受入れプログラム米国看護研修	於：看護学科棟他
8.3～8.8	国際交流受入れプログラム韓国啓明大学看護研修	於：看護学科棟他
8.4	オープンキャンパス	於：看護学科棟・メディカルホール
8.22	第2回FD・SD研修会	
9.5	第3回FD・SD招聘講演会・臨地実習研修会	
9.11	秋季大学院入学試験	
10.16	第4回FD・SD研修会	
10.18	医学部慰霊祭	於：ユウベル積善社福岡斎場
11.16	学校推薦型選抜（指定校）・学校推薦型選抜（附属校）	
11.24	学校推薦型選抜（A方式）・学校推薦型選抜（附属校）	
12.25	看護学科第3回FD研修会	
7.1.16	第5回FD・SD研修会	
1.18、19	共通テスト利用型（Ⅰ期）、（Ⅱ期）	
2.2	一般選抜（系統別日程）	
2.3～2.6、11	一般選抜（前期日程）、前期日程・共通テスト併用型	
2.14	第111回保健師国家試験	
2.16	第114回看護師国家試験	
2.18	春季大学院入学試験	
2.27	第6回看護学科FD・SD研修会	
3.6	看護学科第4回FD研修会	
3.7	一般選抜（後期日程）	
3.12	第7回看護学科FD・SD研修会	
3.19	卒業式 学位記授与式	
3.31	学年終了	

3. 看護学科教員組織

A. 教員構成

令和6年10月1日現在

科 目	教授〈10名〉	准教授〈6名〉	講師〈7名〉	助教〈10名〉	助手〈2名〉
専門基礎学	大倉義文				中 隈 里 砂 不 動 真由美
基礎看護学	末次典恵	坂梨左織	神徳和子 高木良重	相良彩乃 播磨弘子 藤理絵	
小児看護学	○宮城由美子	松本祐佳里		藤原悠香	
成人看護学	緒方久美子	岩永和代 大田博	牧香里	浅野悠佳 鮫島由紀子	
老年看護学	櫛直美	有田久美	上野珠未 福本優子		
母性看護学	佐久間良子		藤木久美子	平井美緒	
精神看護学	中島充代		黒髪恵		
公衆衛生看護学	江藤真紀	長谷川珠代	山尾玲子		
在宅看護論	木村裕美		古賀佳代子	松村友紀子	
学校保健	小柳康子				

○学科主任

B. 医学部役職員及び委員名簿

令和6年4月1日現在

委員会名	委員名
評議員会	宮城由美子
図書委員会	大倉義文
キャリアセンター委員会	江藤真紀
学部調整委員	江藤真紀
	長谷川珠代 (障がい学生支援委員)
学生懲戒委員会	緒方久美子
情報基盤センター委員	大田博
教育職員資格審査委員会	宮城由美子
	末次典恵
医に関する倫理委員会	緒方久美子

C. 医学部 常設委員会

令和6年4月1日現在

委員会名	委員名
自己点検・評価 実施委員会	(看護学科主任) 宮城由美子
	(看護学専攻専攻長) 佐久間良子
	(看護学科教務・実習委員会委員長) 中島充代
	(看護学専攻学務委員長) 櫛直美
	(看護学専攻入試委員長) 小柳康子
医学部図書小委員会	(図書委員) 大倉義文
医学情報センター 運営委員会	(図書委員) 大倉義文
	(看護学科) 木村裕美
医学紀要 編集委員会	(看護学科) 大田博
	(看護学科) 藤木久美子
医学部広報委員会	(看護学科) 岩永和代

D. 看護学科常設委員会

令和6年4月1日現在

委員会	委員長	委 員			
教 務 ・ 実 習 委 員 会	中 島 充 代 (本学オブザーバー出席)	末 次 典 恵 (副委員長)	櫛 直 美 (副委員長)	江 藤 真 紀	小 柳 康 子 (教職のみ)
		松 本 祐佳里	古 賀 佳代子	藤 木 久美子	牧 香 里
		藤 理 絵	不 動 真由美	中 隈 里 砂	
F D 委 員 会	江 藤 真 紀	櫛 直 美 (副委員長)	松 本 祐佳里	黒 髪 恵	牧 香 里
		神 徳 和 子	上 野 珠 未	平 井 美 緒	浅 野 悠 佳
入 試 委 員 会	大 倉 義 文 (本学オブザーバー出席)	岩 永 和 代 (副委員長)	木 村 裕 美	小 柳 康 子 (若葉高等学校一貫教育委員)	播 磨 弘 子
		福 本 優子	浅 野 悠 佳		
学 生 委 員 会	大 田 博 (本学オブザーバー出席)	緒 方 久美子 (副委員長)	木 村 裕 美	長谷川 珠 代	上 野 珠 未
		相 良 彩 乃	藤 理 絵	(藤 原 悠 香)	中 隈 里 砂
総 務 委 員 会	岩 永 和 代	小 柳 康 子 (副委員長)	坂 梨 左 織	相 良 彩 乃	松 村 友紀子
国 際 交 流 委 員 会	緒 方 久美子	長谷川 珠 代 (副委員長)	大 倉 義 文	末 次 典 恵	黒 髪 恵
		高 木 良 重	平 井 美 緒	福 本 優 子	田 中 友 理
研 究 推 進 委 員 会	末 次 典 恵 (本学オブザーバー出席)	櫛 直 美 (副委員長) (看護部研究支援)	緒 方 久美子	大 田 博	藤 木 久美子
		山 尾 玲 子	松 村 友紀子		
図 書 委 員 会	木 村 裕 美	大 倉 義 文 (副委員長)	有 田 久 美	神 徳 和 子	播 磨 弘 子
		鮫 島 由紀子			
キャリア支援委員会	有 田 久 美	江 藤 真 紀 (副委員長)	古 賀 佳代子	高 木 良 重	山 尾 玲 子
		鮫 島 由紀子	(藤 原 悠 香)	不 動 真由美	

4. 入学試験・教育活動・国家試験、進路支援

A：入学試験

1. 令和6年度入学受験・入学者状況

(1) 令和6年度入学年度別学生在籍数

令和6年4月1日現在

	1年	2年	3年	4年	在籍	入学	卒業	退学	除籍	転部
24台	110				110	110				
23台	2	105			107	110		3		
22台		4	99		103	105		2		
21台			4	96	100	106	100	4		2
20台				4	4	106	100	1		1
計	112	109	103	100	424	537	200	10		3
男子	3	2	1	1	7					

(2) 令和6年（令和7年度）入試制度別入学試験科目・配点

	入試制度	選考方法	科 目		配点	
学校推薦型選抜	A 方式	外国語	英語（コミュニケーション英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，英語表現Ⅰ，Ⅱ）		50点	
		国語	国語（国語総合）		50点	
		面接	提出書類・評価項目に基づいて行い、段階評価したうえで点数化する		20点	
一般選抜	系統別日程	外国語	英語（英語コミュニケーションⅠ，Ⅱ，Ⅲ，論理・表現Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）		100点	
		数学	数学Ⅰ,Ⅱ,数学 A(図形の性質,場合の数と確率),数学 B(数列),数学 C(ベクトル)		100点	
		理科	化学（化学基礎・化学）,生物（生物基礎・生物）：高得点の1科目を採用し、200点に換算		200点	
	前期試験	外国語	英語（英語コミュニケーションⅠ，Ⅱ，Ⅲ，論理・表現Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）		100点	
		国語	国語（現代の国語，言語文化 ※漢文の独立問題は除く）		100点	
		理科	化学（化学基礎・化学）,生物（生物基礎・生物）から1科目選択		100点	
	前期日程・共通テスト併用型	前期日程	国語	国語（現代の国語，言語文化）		100点
			理科	化学（化学基礎・化学）,生物（生物基礎・生物）から1科目選択		100点
		共通テスト	外国語	英語（リーディング・リスニング）		100点
			数学	数学Ⅰ・数学 A，数学Ⅱ・数学 B・数学 C から1科目		100点
			外国語	（英語）は200点を100点に換算		
	共通テスト利用型Ⅰ期	外国語	英語（リーディング・リスニング）		100点	
		国語	国語（近代以降の文章）		100点	
		数学	数学Ⅰ・数学 A，数学Ⅱ・数学 B・数学 C から1科目		100点	
		理科	化学,生物から1科目		100点	
		情報	情報Ⅰ		20点	
		外国語（英語）は200点を100点に、国語(近代以降の文章)は110点を100点、「情報Ⅰ」は100点を20点に換算				
	共通テスト利用型Ⅱ期	外国語	英語（リーディング・リスニング）		200点	
		国語	国語（近代以降の文章）		高得点1科目	200点
		数学	数学Ⅰ・数学 A，数学Ⅱ・数学 B・数学 C から1科目			
		理科	化学,生物から1科目		200点	
		国語（近代以降の文章）は110点を200点に、数学,理科は100点を200点に換算				
	後期日程	外国語	英語（英語コミュニケーションⅠ，Ⅱ，Ⅲ，論理・表現Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）		100点	
国語		国語（現代の国語，言語文化 ※漢文の独立問題は除く）		100点		
特別選抜	帰国生徒	外国語	英語（英語コミュニケーションⅠ，Ⅱ，Ⅲ，論理・表現Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ）		100点	
		小論文	文章を読む力や書く力といった基礎学力と論理的思考力を評価		100点	
		面接	総評(点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価)		—	
	学部留学生	筆記試験	日本留学試験（独立行政法人日本学生支援機構）,英語		100点	
		小論文	総評(点数化はしないが、段階評価し、総合的に評価)		—	
		面接				

(3) 令和6年（令和7年度）医学部看護学科入学試験状況

志願方法	志願者	受験者	合格者	競争率	追加合格者
学校推薦型選抜（A方式）	80	80	30	2.7	0
学校推薦型選抜（附属校）	14	14	7		0
学校推薦型選抜（指定校）	13	13	13		0
帰国生徒選抜	0	0	0	－	
学部留学生選抜	0	0	0	－	
一般選抜（系統別日程）	80	77	22	3.5	0
一般選抜（前期日程）	557	537	128	4.2	0
前期日程・共通テスト併用型	194	191	67	2.9	0
共通テスト利用型Ⅰ期	126	113	48	2.4	0
共通テスト利用型Ⅱ期	68	67	31	2.2	0
一般選抜（後期日程）	37	36	3	12.0	0
計	1169	1128	349	3.2	0

以上の入試形態の合格者のうち入学者数は115名である。

2. 入試委員会活動

1) 活動計画：

福岡大学の中長期目標に基づき、入試委員会の業務である看護学科入学者の募集および入学に係る取組を充実させていく。

- ・入学センター運営関連事項（入学センター運営委員会からの情報提供・審議依頼事項）
- ・各種関連委員会への協議参加（入学センター運営委員会と附属若葉高校一貫教育委員会（高大連携））
- ・質の高い学生募集のための企画検討（①出張模擬講義・学部説明会の取組、②オープンキャンパスの企画・運営、③看護学科入試・広報冊子関連業務〔学生募集・入試関連の情報発信の検討〕、④日本看護系大学協議会（JANPU）へのオープンキャンパス情報提供、⑤看護学科のブランド力向上のための取組の検討〔特別推薦指定校の検討を含む〕など）
- ・入試業務担当の配置・調整（令和7年度入試の面接者・監督者・小論文・生物の作題者）
- ・多様な入試形態の検討（ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試のあり方）
- ・入学前教育の支援の見直し（特別連携指定校からの入学予定者を対象とした入学前学修課題）

特に、①多様な学生の受入れ、②附属学校を含む地域の高等学校との接続・連携強化、③質の高い入学生確保の観点から、以下の3項目を看護学科入試委員会の『重点目標』として掲げ、それらの達成のために2024年度の計画と評価のための具体的目標を設定した。

- (1) 多様な学生を受け入れるための広報誌「大学案内2026」「学部ガイド2026」の掲載内容の充実（通年）

【評価指標と目標設定】

医学部看護学科の志願者数 前年比3%増

- (2) 入学センターと連携した附属学校等との接続・連携強化のための指定校推薦高校の新規開拓（通年）

【評価指標と目標設定】

久留米大学・産業医科大学の近隣エリアの高等学校（福岡県立明善高校、東筑高校、小倉高校等）の学校推薦型選抜（特別連携指定校）の新規開拓 1校以上

- (3) 質の高い入学生確保のためのオープンキャンパスにおけるPR提示資料の充実（通年）

【評価指標と目標設定】

医学部看護学科の一般入試（前期日程）合格者の「出身高校偏差値」の平均値 前年比増

2) 活動報告と評価：

福岡大学の中長期目標に基づき、入試委員会の業務である看護学科入学者の募集および入学に係る取組を充実させた。

- ・入学センター運営関連事項（入学センター運営委員会からの情報提供・審議依頼事項）
- ・各種関連委員会への協議参加（入学センター運営委員会と附属若葉高校一貫教育委員会（高大連携））
- ・質の高い学生募集のための企画検討（①出張模擬講義・学部説明会の取組、②オープンキャンパスの企画・運営、③看護学科入試・広報冊子関連業務〔学生募集・入試関連の情報発信の検討〕、④日本看護系大学協議会（JANPU）へのオープンキャンパス情報提供、⑤看護学科のブランド力向上のための取組の検討〔特別推薦指定校の検討を含む〕など）
- ・入試業務担当の配置・調整（令和6年度入試の面接者・監督者・小論文・生物の作題者）
- ・多様な入試形態の検討（ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試のあり方）
- ・入学前教育の支援の見直し（特別連携指定校からの入学予定者の入学前学修課題）

特に、①多様な学生の受入れ、②附属学校等との接続・連携強化、③質の高い入学生確保の観点から、以下の3項目を看護学科入試委員会の『重点目標』として掲げ、それらの達成のために2024年度の計画と評価のための具体的目標を設定した。また、委員会の活動として、アドミッションポリシーを含む大学の活動方針に紐づけた取り組みができていたことを確認した。

(1) 多様な学生を受け入れるための広報誌「大学案内2026」「学部ガイド2026」の掲載内容の充実（通年）

【評価指標と目標設定】 医学部看護学科の志願者数 前年比3%増

【活動概要と評価】

令和6年11月実施の学校推薦型選抜（A方式）志願者は前年比6.9%減（令和6年度入試86名→令和7年度入試80名）であったが、令和5年度入試80名と同等であった。また、前期日程の志願者が前年比12%減（令和6年度入試633名→令和7年度入試557名）であったこともあり、入試全体での志願者は前年比3.0%減（令和6年度入試1,206名→令和7年度入試1,169名）と設定した目標には至らなかった。ただ、共通テスト利用型（I期）の志願者は前年比46.5%増（令和6年度入試86名→令和7年度入試126名）、最後の入試形態である後期日程の志願者は前年比37%増（令和6年度入試27名→令和7年度入試37名）と志願者が増加した入試形態もあった。最終的な定員110名に対する総志願者数は1,169名と、志願率は10.6倍であった。

(2) 入学センターと連携した附属学校等との接続・連携強化のための指定校推薦高校の新規開拓（通年）

【評価指標と目標設定】

久留米大学・産業医科大学の近隣エリアの高等学校（福岡県立明善高校、東筑高校、小倉高校等）の学校推薦型選抜（特別連携指定校）の新規開拓 1校以上

【活動概要と評価】

久留米大学・産業医科大学との差別化のための高等学校の進路指導教員への情報提供を兼ねて、令和6年6月4日に学科単独の進路指導室への高校訪問活動を実施し、新たに福岡県立明善高校、東筑高校、小倉高校の学校推薦型選抜（指定校）の推薦枠（各校1名、計3名）を設けることができた。

(3) 質の高い入学生確保のためのオープンキャンパスにおけるPR提示資料の充実（通年）

【評価指標と目標設定】

医学部看護学科の一般入試（前期日程）合格者の「出身高校偏差値」の平均値 前年比増

【活動概要と評価】

評価指標である「一般入試（前期日程）合格者」の「出身高校偏差値」の平均値を比較検討した。

「一般入試（前期日程）合格者」の「出身高校偏差値」の平均値は、令和6年度（134名）の62.7から令和7年度（128名）の63.1へと増加したものの、その変化は軽微であった。令和5年度（120名）は63.2であったことから、「一般入試（前期日程）合格者」の学力は担保されている状況である。

なお、偏差値は「みんなの高校情報」（<https://www.minkou.jp/hischool/>）を参考にして算出したものの、私立高校等では複数の学科に対応した偏差値があり正確な合格者の卒業学科の偏差値の把握は困難であった。

参考データ：「一般入試（前期日程）合格者」の「出身高校偏差値」の平均値

令和4年度62.3→令和5年度63.2→令和6年度62.7→令和7年度63.1

(4) その他の取組：

・令和7年（2025年）実施予定の本学科の自己点検・評価と、令和8年（2026年）10月受審予定の一般財団法人日本看護学教育評価機構 JABNE による看護学教育評価（看護学分野別評価）に向けて、対応する評価基準に沿って本年度の委員会活動に関する資料の取りまとめと入学者選抜試験（入試形態）と入学者の適性との関係等の検証作業を組織的に進めた。

B：教育活動

1. 教務・実習委員会活動

《活動評価》

1) 新カリキュラム4学年と旧カリキュラム学生に対する教育の実施

- (1) 単位認定（進級および卒業）は委員会で承認後、教授会議に諮り承認を得た。復学、休学に関する学籍異動は教授会議にて報告した。
- (2) 授業にかかわる変更申請等については委員会で検討し、教授会議での承認を得た。
- (3) 非常勤講師・ゲストスピーカーに関しては、各科目責任者に情報提供フォーマット入力を依頼し、公文書等を作成し発送した。
- (4) 新カリキュラムの評価に関しては、前期・後期科目の調査を実施し、教授会議にて報告した。
- (5) 教職課程に関しては、必要に応じて全学教務委員会からの依頼に対応した。

2) 実習施設と連携した看護学実習の充実

- (1) 福岡大学病院系列3病院との実習施設運営会議を2024年7月、実習連絡会議を2025年3月に実施した。その他、各看護学領域は関連する実習施設と実習連絡会議を実施した。
- (2) 配置表案の作成、共通実習要項の作成、3年次領域別看護学実習オリエンテーション計画と実施、看護技術自己評価の作成とまとめ、福岡大学病院統合医療情報システム利用と電子カルテ利用、依頼公文書作成と発送、ループリック態度評価の検討、学生関連（情報共有・ユニフォーム等）、実習中の感染対策と発生時・復帰時の対応、新型コロナウイルス感染症法第5類移行後の対応等を実施した。
- (3) 令和6年度より臨地実習指導者研修におけるファシリテーターの選出は委員会の実施項目から除外された。

3) 教育・実習の質向上に向けた企画・運営・評価の実施

- (1) 履修状況と成績把握、退学者・留年者減少を目指した学修指導に関することとして、集団・個別の対応、保護者への対応をおこなった。また、看護学科修学指導実施要領に基づいて個別に修学指導を実施した。
- (2) 令和6年度履修ガイダンスと学修指導を4月と9月に実施した。
- (3) アセスメントプラン策定に関する検証科目抽出とチェックリストの作成をおこなった。
- (4) ループリック態度評価表を作成し、実施した結果を教授会議で報告した。
- (5) 令和7年度共通教育英語科目のカリキュラム改正等に伴う全学教務委員会からの依頼に対応した。
- (6) 大学設置基準の改正に伴う全学教務委員会からの依頼に対応した。
- (7) シラバス作成時、コア・コンピテンシーと看護コア・カリキュラムとの検証活動をおこなった。

4) その他

- (1) 父母懇談会は、看護学科として七隈会場、大分会場、沖縄会場の3会場で実施した。
- (2) 特待生候補者案を作成し、教授会議に諮り全学教務委員会へ提出した。
- (3) 授業開始日変更申請を作成し、教授会議で諮った後、全学教務委員会にて承認を得た。
- (4) 時間割編成委員5名を決定し全学教務委員会へ提出後、時間割編成委員会に出席した。

C：FD 活動

1. FD 委員会活動

1) 大学教育・研究についての招聘講演・学習会の企画・運営

- (1) 教員の自主的な学びとアカデミックな交流を促し、教育能力と研究能力を開発・醸成するための支援を行うため、教員の学習会や抄読会を実施した。

第1回：4月15日（月）10：00～11：00

「Methods in teaching of nursing」① VR教育の領域内での活用 参加率 63.2%

第2回：6月3日（月）10：00～11：00

「Recent trends in Research」 科研費申請に向けて 参加率 89.5%

第3回：12月25日（水）11：00～12：00

「Methods in teaching of nursing」② 授業計画と授業展開 参加率 94.1%

第4回：3月6日（木）11：00～12：00

「Methods in teaching of nursing」③ 授業展開の共有（演習編） 参加率100.0%

- (2) 2026年度日本看護学教育評価機構が実施する看護学分野別評価の受審および看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂を鑑みた招聘講演・研修会を実施した。

第1回 FD・SD 招聘講演

テーマ：「看護学分野別評価を受審する目的・意義・メリットと受審校に求められること」

講師：一般財団法人 日本看護学教育評価機構 代表理事 高田 早苗 先生

日時：5月29日（水）16：30～18：00 オンライン 参加率100.0%

第2回 FD・SD 研修会

テーマ：「第2回 JABNE 研修交流集会」

第1部「IRを活用した教学マネジメント」

第2部「受審後の教学マネジメントに関わる各大学の取り組み」

日時：8月22日（木）13：00～16：30 オンライン 参加率 94.1%

第3回 FD・SD 招聘講演・臨地実習研修会

テーマ：「特別な支援が必要な学生への教育支援の方法」

講師：元富山大学保健管理センター 客員准教授 西村優紀美 先生

日時：9月5日（木）17：00～18：30 参加率 90.9%

第4回 FD・SD 研修会

テーマ：「学科の教育改善を考える際の基本事項－「質保証」を巡るややこしさを紐解く」

講師：福岡大学教育開発支援機構准教授 橋場 論 先生

日時：10月16日（木）16：30～18：00 参加率100.0%

第5回 FD・SD 研修会

テーマ：「コンピテンシー基盤型教育の考え方」

講師：東京医療保健大学医療保健学部看護学科教授 西村 礼子 先生

日時：令和7年1月16日（木）講演会：16：30～18：00

座談会：18：15～19：30 参加率100.0%

第6回 FD・SD 研修会

テーマ：「コンピテンシー基盤型教育を活用したカリキュラム設計」

講師：東京医療保健大学医療保健学部看護学科教授 西村 礼子 先生

日時：令和7年2月27日（木）講演会：14：00～15：30

座談会：15：45～17：00 参加率100.0%

第7回 FD・SD 研修会

テーマ：「看護学科が育成する学生像を再考する－改訂版モデル・コア・カリキュラムへの対応－」

講師：福岡大学教育開発支援機構准教授 橋場 論 先生

日時：令和7年3月12日（水）14：00～15：30 参加率 93.8%

2) 学外研修会の参加支援

学外で開催される研修会の情報を継続的に収集し、目的達成に資する研修への参加を情宣し、参加者には4月の教授会議にて報告いただく。

▶大学コンソーシアム京都 FD フォーラム

情宣 <https://www.consortium.or.jp/project/fd/forum>

3) 卒業前アンケートの実施

2024年10月2日、4年生を対象に、Microsoft Forms を用いて、コアコンピテンシーと卒業時到達度調査を実施した。達成度は昨年度と同様の傾向で、全体的に0.1~0.2ポイント上昇していた。結果は教授会で報告し、資料はFD委員会のファイルに格納した。

4) 助手・助教の教育プログラムの検討

今度から試行的に運用を開始し、2回/年の懇談会および年度末にメンターとメンティの個別面談を学科主任・委員長で実施した。懇談会については、写真とともにHPに掲載した。

5) FD・分野別評価活動報告

看護学科教授会議で報告し、招聘講演会・研修会については写真とともにHPに掲載した。

6) 看護学教育評価受審の体制づくり

今年度の委員会活動を基盤とし、評価項目ごとの実施グループで自己点検・評価報告書の作成を依頼し、その進捗状況について、教授会議にて報告をした。また、実施グループ内の本委員が中心となり、依頼票を用いて当該委員会等に課題や改善点などの検討を依頼した。

D：国家試験・進路支援

I. 看護師・保健師国家試験に関する事項

1. 国家試験合格に向けての学習支援

1) 国家試験対策の企画・運営

①国家試験対策ガイダンスや学習支援の計画・実施を行い、学習環境の調整、クラス担任・学科教員との情報共有、業者講師による講義（12/6個別指導、12/18学内講座）を実施した。

②卒業生による激励会と勉強方法のアドバイスを11月に実施した。

③学生国試対策委員との連携により、看護師模擬試験は年6回、保健師模擬試験は年4回実施。9月からは毎週月曜午前に学生主導の学習会を支援した。

2) 模擬試験結果を踏まえた学習状況の振り返りと学習方法への支援

①「国試対策ポートフォリオ」の活用や、合格ライン未達学生への個別指導、担任・国試担当・学生の三者での情報共有を行った。

②模試成績が伸び悩む学生には、教員・業者講師による個別支援を強化した。

3) 受験手続き・自己採点・不合格者支援

①受験手続き説明を10月と2月に事務より実施した。

②国家試験後の自己採点支援を2/19に実施した。

③不合格者支援計画を策定し、キャリア支援委員業務要領に明記した。令和6年度は不合格者なしであった。

4) 低学年への支援

①3年次生への看護師模擬国家試験を年3回実施し、結果をもとに支援した。

II. 就職・進路に関する事項

1. 4年次生への就職・進路支援

1) 就職相談・内定確認、進路情報提供、推薦による就職採用試験支援、キャリアセンターとの連携（進路届・F-キャリア活用指導）、就職ガイダンス（4/4、講師：ナース専科）を実施した。

2) 4年生100名中99名が進路・就職決定。内訳は看護師89名、保健師2名、養護教諭2名、進学6名、進学準備中1名。

3) 主な就職先は福岡大学病院（55名）、国家公務員共済組合連合会浜の町病院（4名）、九州大学病院（3名）などであった。

2. 3年次生への就職・進路支援

- 1) キャリアセンターと連携した就職ガイダンスを3回実施(6/24「就活スタートセミナー」、11/30「自己分析&病院研究講座」、2/1「選考対策講座」)、模擬面接(5名×3クール、計15名)を実施した。
- 2) 2/1には卒業生6名(看護師3名、保健師1名、助産師1名、養護教諭1名)による「先輩と語る」相談会を開催した。

3. 低学年への就職・進路支援

- 1) 1年次生にはマッチプラステストの実施と活用講義(マイナビ講師)、1・2年次生には4月ガイダンス時にキャリア教育(キャリア支援委員)、2年次生には11/20「キャリアについて」(ナース専科講師)を実施した。

4. その他

- 1) 学科への求人・施設案内来学者対応、求人情報の周知(学内掲示・キャリアセンター掲載依頼)を行った。
- 2) 「進路支援における担任の役割」を作成し、教員・学生へ周知した。

Ⅲ. 広報

1. ホームページや学報、公式 SNS による情報公開。国家試験・進学・就職関連資料の整備、キャリア支援全体像の配布物を作成した。

Ⅳ. 教育課程の評価

1. 雇用先・卒業生への全数 web 調査を実施し、教育課程評価結果報告書を作成した。

V. 評価

1. 国家試験対策の評価

- 1) 学生アンケートでは対策全項目で8割前後が満足と回答した。

2) 国家試験結果

- ①第114回看護師国家試験：100名受験、100%合格
- ②第111回保健師国家試験：18名受験、100%合格

2. 就職・進路支援の評価

- 1) 就職ガイダンスや「先輩と語る」への評価は高く、学生のニーズに合致した内容であった。
- 2) 就職内定率は100%

3. 令和6年度就職状況

1) 職種別・地域別就職決定状況

職種	就職先地域	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
看護師	福岡大学	55	48	31	39
	福岡県内	19	25	63	29
	九州内	4	2	3	5
	関西以西	3	1	9	5
	関東圏	8	18	21	9
保健師		2	3	4	3
養護教諭		2	3	6	5
進学		6	3	4	4
未就職希望		1	1	0	0
合計		100	104	110	99

5. 学生の指導・課外活動

活動計画に基づき以下の活動を実施した。活動にあたり、実施計画・評価を委員会で検討共有した。会議開催10回（メール会議含む）

《活動評価》

目標1. 学生の学修活動の支援を行う。

1) 学生の学習環境を整備・支援する

- ・安定した学習生活に向けた全学年対象のガイダンスを4月に実施した。
- ・学修活動の維持・促進に向けた特待生および各種表彰候補者の推薦を行った。
- ・学生部委員会との連携体制維持のための学生部委員会参加と教授会議報告を実施した。
- ・クラス担任制度の円滑な実施に向け、4月のクラス別ミーティングを企画し実施した。
- ・学科棟内の環境整備について委員会で検討し、適宜、掲示物や観葉植物等の整備を行った。

2) 学生の健康生活を支援する

- ・看護学科棟学内利用における感染症対策について委員会で検討した。
- ・保健室の利用状況把握、学生の健康管理意識の向上と定着支援に向けた課題を委員会で検討した。
- ・車いすの購入を行った。

目標2. 学生生活の充実にに向けた企画・運営・評価を行う。

1) 正課外活動を支援する

- ・2025年度よりeポートフォリオ（moodle）で運用開始するための準備を行った。
- ・看護学科初年次教育プログラムを実施した。
- ・新入生オリエンテーションを実施した。
- ・学生課が実施する新入生開講前ガイダンスの調整を行った。
- ・学科外からの成果活動に関する情報を学生に発信した。

2) 学生の多様なニーズに対する機会を提供する

- ・学生自治会やサークル活動状況の把握と活動促進に向けた情報提供について、毎回学生委員会で報告した。
- ・学生の社会貢献活動の機会の情報発信を行った。
- ・年2回の学生自治会・サークルリーダー会を実施し学生間交流の開催と活動定着に向けた支援を行った。

6. 国際交流

1. 学生の国際交流活動促進のための情宣・企画・運営・評価を行う。
 - 1) 保護者懇談会、新入生ガイダンスにて学科が取り組む国際交流プログラムについて情宣する。
 - (1) 2024年4月1日の新入生の保護者懇談会および4月8日の新入生ガイダンスにて、学科が取り組んでいる国際交流プログラムについての説明を行った。
 - 2) 学科内の国際交流に関する掲示物とホームページの内容を更新する。
 - (1) 啓明大学 (KU) とウオッシュバン大学 (WU) への看護研修派遣のポスターや受け入れプログラムの活動内容を看護学科棟1Fに掲示した。また、4月にホームページの内容を更新し、本年度の活動もプログラム終了毎にホームページに掲載した。
 - 3) 国際交流プロジェクトメンバーの募集・活動の支援と評価を行う。
 - (1) 2024年2月末よりメンバー募集を開始した。4月9日に第1回ミーティングを開催し、WU研修に関わる役割分担を行った。チーム毎にリーダー学生が中心となり委員との連絡調整を行った。KU研修に関わる活動に向けて7月5日にリーダー会を開催した。WUと同様にリーダー学生と委員間で連絡調整を行い、活動を支援した。今年度は、いずれの研修においても学生参加の機会があり、Party や City tour では学生を中心に運営した。メンバーの一部に負担が生じる面があったが、達成感を得ることができていた。
 - 4) 前年度の啓明大学 (KU) とウオッシュバン大学 (WU) の看護研修参加者による新入生へのプレゼンテーションの支援を行う。
 - (1) 2024年2月末よりメンバー募集を開始した。4月9日に第1回ミーティングを開催し、WU研修に関わる役割分担を行った。チーム毎にリーダー学生が中心となり委員との連絡調整を行った。KU研修に関わる活動に向けて7月5日にリーダー会を開催した。WUと同様にリーダー学生と委員間で連絡調整を行い、活動を支援した。今年度は、いずれの研修においても学生参加の機会があり、Party や City tour では学生を中心に運営した。メンバーの一部に負担が生じる面があったが、達成感を得ることができていた。
 - 5) 前年度のウオッシュバン大学 (WU) の看護研修参加者による学内での研修成果報告会の支援を行う。
 - (1) 2024年4月9日、昼休みの時間に学生がランチをしながら聴講できるように報告の場を設定し、WU研修参加者によるプレゼンテーションを行った。教員16名および在学生7名が参加した。参加した学生は国際交流への関心が高く、質問も見られた。全体的に在学生の参加が少なかったため、今後は時間設定や広報など工夫が必要である。
 - 6) WU看護学生に向けた看護研修プログラム (6/20~6/27) の計画・実施・評価を行う。
 - (1) 前年度より WU 学生受入に係る業務を14項目に整理し、担当委員を決定して準備から受入れ実施・評価を遂行した。多くの学生や教員が参加できるよう各種研修プログラムを調整・確定し、研修費に関わる対応や関係業者の対応、本学ボランティア学生への支援を行った。その結果、WU研修生ならびに引率教員、本学ボランティア学生からの高い満足度を得ることができた。
 - 7) KU看護学生に向けた看護研修プログラム (8/2~8/8) の計画・実施・評価を行う。
 - (1) WU研修受入時のプロセスを参考に、共通する部分をそのまま活用することによってスムーズに進めることができた。学生ボランティアの活動においても、WUの実施が経験値となり学生間の役割調整を図ることができた。施設見学において急遽予定していた施設が変更になったが、結果的に、研修目的のひとつである「日本における地域包括ケアシステムの理解」を深めることにつながった。今年度は本研修の日程が早期看護体験実習やオープンキャンパスと重なり、委員は複数の業務を同時進行に行うことになった。また研修生アンケートでスケジュールが過密だったという意見が示されたため、次回研修を実施する際には、今年度の実施結果を参考にした日程や内容の検討が必要である。
 - 8) 海外研修に向けて作成した危機管理ガイドライン看護学科版をブラッシュアップし、医学部版との摺合せを行う。
 - (1) 今年度は医学科との情報共有のみ行った。
 - 9) 看護研修先でのトラブル対応事例集を作成する。
 - (1) 今年度は実施しなかった。

2. 教員の国際交流活動促進のための情報提供と支援を行う。

1) KU で毎年開催される国際カンファレンスの招聘講演者に関する連絡・調整・支援を行う。

- (1) KU 担当者より国際カンファレンス（The 31st International Nursing Conference、12/5開催）での招聘講師の依頼を受け、全学科教員向けに自薦・他薦の依頼メールを配信した。その結果、他薦による教員 1 名が選出され、KU にて講演を行った。

3. 国内外で募集された海外研修支援金の獲得に向けた活動を行う。

1) 福岡県が毎年募集する「世界に打って出る若者育成事業」について、2025年度の WU 研修に向けて応募の準備を行う（例年3月末頃）。

- (1) 応募が開始され次第、手続きを進める予定である。

4. その他

- 1) KU 担当者より、KU が主催する国際カンファレンス（The 18th International Conference for Nursing Students in Memory of Dr. Sancho Chun、11/27開催）での看護学生の研究発表の依頼を受けた。看護学科 4 年次生および看護学科教員へ自薦・他薦の依頼メールを送信し、委員会での審議の結果、自薦の学生 1 名が選出された。学生は、委員の教員 1 名引率の元、KU にて自ら取り組む看護研究の内容を口演およびポスターにて発表した。

7. 総務・広報・図書・研究推進活動

1. 総務・広報委員会

《総務に関する活動計画と評価》

1) 2024年度予算の適正な執行

(1) 看護学科予算の適正使用

- ①看護学科予算（実験実習費支出項目、実験実習費の使用について、2025年度機械器具要望、等）と予算執行方法を確認（実験実習費執行マニュアルの周知）した。
- ②看護学科予算執行通知の確認：教員実験実習費の確定、要望された機械器具購入を周知した。
- ③過年度の実験実習費、機械器具・什器予算等の決算表を作成依頼し、教授会議で報告した。
- ④実験実習費予算執行状況の確認と周知（1月）した。
- ⑤機械器具・什器の納品を確認（8月）した。
- ⑥次年度への繰り越し金について確認した。

(2) 2025年度予算編成と要望の集約

- ①2025年度予算決定額を事務に確認した。
- ②予算要望調査の実施：教授会で看護学科予算と予算執行方法を説明した。
- ③実験実習費の予算要望書作成：教授会で予算執行に関して審議した。

(3) 2025年度機械器具・什器要望調査

- ①各分野・科目群の予算要望書（実験実習費含む）をとりまとめて予算要望書（案）を作成した。（経年劣化器具要望の確認）
- ②機器器具・什器要望調査のヒアリング実施・優先順位を決定した。

評価1：2024年度予算執行について

- ①2024（令和6）年度予算に関する看護学科配分額（32,665,749円）が決定した。機械器具費（4,187,540円）、実験実習費（28,478,209円）、保全費を除いた残額3,377,899円を共通経費（予備費300,000含む）とした。
- ②機械器具・什器の注文は、8月末までに納品されたことを事務室に確認した（執行額3,584,570円）。
- ③実験実習費の共通経費等予算額は、12,621,691円となった。執行額は12月末現在9,146,012円、令和6年度保全費2,102,650円を支出し残額1,363,926円である。12月末での各領域での執行率は27.6～199.6%であり、未執行予算の早めの執行を行うよう教授会議でアナウンスメントした。
毎年執行率が100%を超えているコピー料金は、今年度は145.07%（令和5年度185.44%）であった。引き続いて適切な印刷やコピー使用について注意喚起を促した。

評価2：2025（令和6）年度予算編成と要望調査について

- ①令和6年度予算要望調査は、共通経費や実習室、各領域、委員会等の消耗品等の調査を7月初旬締め切りとし、実験実習費と保全費の暫定版について教授会議で説明した。機械器具・什器要望調査は8月末締め切り、10月ヒアリングを実施し令和7年度予算要望（案）として教授会議で報告した。

2) 学科内施設・実習室等の整備

(1) 実習室・講義室等の整備

①廃棄処分品や有効利用物品の整備

- ・プロジェクターボックス7台のPCのOS:Windows10のサポート終了に伴い廃棄処分とし、今後は持ち込みPC対応で対応することとなり、変換ケーブルを購入した。
- ・学科内に一部残っていた水銀血圧計は、事務より環境保全センターに依頼し廃棄処分した。

(2) 学科内物品管理・学科外からの施設利用・物品借用

- ①物品の破損や故障を発見した場合は適宜修理や破棄手続きで対応した。
- ②施設利用届、物品利用届は事務室を経由して把握した。

3) 危機管理事項

(1) 災害時の危機管理について

- ①災害時の自衛防災組織の役割と必要物品の確認
- ②災害対策初動マニュアルやヘルメット等の配備の確認
- ③災害対策初動マニュアルやヘルメット等の配備について検討（部屋移動に伴う）

(2) 自衛防災訓練

- ①2024年度の防災訓練は医学科で実施（2025.3.18）

評価1：実習室や講義室等の整備

- ①事務室と連携して実施した。特に問題なし。
- ②2025年 Windows10のサポート終了に関して、今後も整備が必要となる可能性がある。

評価2：災害時の危機管理

- ①災害時物品や配置について問題なし。
- ②福大病院火災（2025.2.21）の原因であるベッドパンウォッシャーについて、実習室に設置してある機械の点検とコンセンートの交換（ブレーカー無⇒ブレーカー付き）を事務に依頼し、施設課と連絡調整してもらった。

《広報に関する活動計画と評価》

1) ホームページ管理

(1) 定期的な更新内容の確認と検討

- ①新年度に伴う内容変更は、4月と10月に医学情報センター担当者に依頼した。
- ②大幅な内容変更や新規の掲載事項は、医学情報センター予算の運用となり、D-Zero（HP作成会社）と調整後に検討する。
- ③新着情報の発信は、Fu-box から投稿依頼書を作成し教育技術職員の協力を得て行った。学生や教職員の教育・研究活動、地域社会貢献活動など幅広く情報を更新する。

(2) 公開講座の推進⇒社会連携センターの「地域との交流・支援活動事業」へ変更

- ①社会連携センターの「地域との交流・支援活動事業」実施者への支援

評価1：ホームページ管理

- ①ホームページ閲覧数（医学部看護学科）
 - ・医学情報センターに依頼し、HP閲覧数が確認できるようにD-Zeroと調整してもらった。資料室教育技術職員の協力を得て、閲覧方法を共有した。
 - ・2024年4月1日～2025年3月31日：表示回数21,161 アクティブユーザー12,580
- ②新年度に伴う内容変更は、4月と10月に、看護学科資料室担当者経由で医学情報センター担当者に依頼し、スムーズに実施できた。
- ③新着情報の発信は、Fu-box から投稿依頼書を作成し教育技術職員の協力を得てタイムリーに行った。学生や教職員の教育・研究活動、地域社会貢献活動など幅広く情報を更新した。
- ④JANPUよりバナー設置の依頼があったため、医学情報センター教育技術職員と調整し設置した。
- ⑤教育理念と教育目標の表記の混在がみられたため、広報課、入試課等の関連部署と調整して修正した。

評価2：社会連携センターの「地域との交流・支援活動事業」推進

- ①実施希望はなかったため、支援はなし。

《学科職員の親睦に関する活動計画と評価》

1) 学科職員の親睦会等に関する事項

(1) 定年退職者の最終講義の確認と準備（医学科、看護学科）

評価1：医学科定年退職者（役職経験者のみ）の最終講義予定はなし

2. 研究推進委員会

《活動計画と評価》

- 1) 看護研究活動における研究倫理・コンプライアンスの確保・推進を継続する。
 - (1) 研究推進部委員会への参加により得た看護学科教員の研究活動に必要な研究倫理教育、コンプライアンス教育、競争的研究資金、学内若手・女性研究基盤構築支援事業等に関する研究資金獲得等の情報を教授会で情宣した。学内若手・女性研究基盤構築支援事業では、看護学科から2名の教員が採択された。
 - (2) 倫理審査申請に関する手続きについて、福岡大学は、R6年度より医学系・非医学系研究の研究倫理委員会が統合され、「福岡大学人を対象とする研究倫理審査委員会」となり、人を対象とする全ての研究において、事前審査で承認を受けることとなった。それにあわせ、委員会で作成している「研究倫理審査申請のための手引書」の改定を行った。
 - (3) 研究におけるコンプライアンスの確保のため、学部生の看護研究において該当科目の科目責任者とともに、当該学生への指導を行った。
- 2) 「福岡大学看護学紀要」の第一号を発刊する。

研究推進委員会メンバーが看護学紀要編集委員会の構成員となり、2025年3月に、創刊号をオンラインで発行した。今年度は2件の論文投稿があり、厳正なる査読の結果1件が採録となった。本紀要はISSNを取得し、福岡大学リポジトリにて公開することとなった（ISSN取得時にJ-STAGE掲載も同時申請/J-STAGE登載後に自動的にCiNiiでの検索対象になる）。

紀要発行まで過程で、査読期間や外部査読者の必要性の有無、紀要編集委員会内の役割などの本雑誌の質の向上に向けた検討課題が抽出され、これらの課題について次年度に改善していくこととなった。また、編集過程において、校正等の業者委託による原稿書式の変更、論文の複製権や公開における公衆送信権への対応、査読プロセスの明瞭化などに対応するための各種規程の見直しを行うこととなった。
- 3) 福岡大学関連病院との共同研究および研究支援による交流を深め、臨床と教育が協働した特徴ある看護研究活動を推進する。
 - (1) 現行の研究支援依頼内容および方法の見直しのために、支援依頼書について、支援を希望する期間、支援内容の細分化、支援を希望する教員の有無について、簡便かつ確実な記述が可能となる書式の改定を行った。
 - (2) 研究支援および共同研究の更なる活性化を図るため、昨年度、トライアルとして実施した看護研究に関わる委員会メンバーを対象とした座談会が好評であったことを受け、今年度は、研究に関する疑問の解消につながるよう、筑紫病院（7/31）、福大病院（1/23）において、テーマの選定、研究への取り組み方に関して、看護スタッフと教員とが小グループで意見交換する座談会を実施した。本座談会に参加者から、座談会は看護研究のモチベーションの向上につながっているという意見があり、研究支援の一環として、今後も継続していく。今年度は両病院ともに、新規の支援依頼はなく、昨年度から継続している支援を行った、福岡大学病院は研究支援委員会メンバーが大学院修了者で編成され、看護部内での支援体制が整備され、筑紫病院では、後述する座談会の場が相談の場となっていた。
 - (3) 研究支援及び共同研究に関する課題を把握のために、年度末に実施した研究時間確保の現状調査を実施した。その結果、調整を図りながら研究活動を行っている教員もあるが、約85%の教員が研究時間の確保ができにくいと回答しており、次年度も看護学科教員の研究活動に有用な情報提供や機会の提案等を実施していく必要がある。

3. 図書委員会

- 1) 紙媒体と電子媒体の重複を見直すという学術情報課の方針に沿って、視聴覚教材（図書の電子化）の課題やニーズを明らかにする。
 - (1) 雑誌や、視聴覚教材に関する実態調査により、課題の明確化とデータの活用を図る。
 - ・医学部図書小委員会の取り組みであるコア・ジャーナル調査に協力した。
 - (2) 電子資料活用の評価
 - ・為替レートの円安傾向により電子資料費の高騰に対応するため、研究用図書費、学生用図書費等の執行を12月まで凍結していたが、洋雑誌費及び電子資料費の支払総額が予算超過にならない見通しがたったため、凍結解

除の後、研究用図書費、学生用図書費等の購入を進めることができた。

今年度は、前年度までの懸案事項であったナーシングチャンネルと EVO の両方の予算確保が行えた。

2) 図書の電子化（視聴覚教材、電子媒体等）の課題を踏まえて、電子資料の利活用の促進を図る。

- (1) 電子化の拡大に伴う課題改善をめざした広報活動の充実。
- (2) 看護教育視聴覚教材（ナーシングチャンネル及び EVO）の活用を案内し、電子資料（ナーシングチャンネル、EVO）を活用する看護学科の領域の拡大を検討する。
- (3) ナーシングチャンネルについて、①新入生の利用登録、②卒業生、退職者の退出の登録削除、③学生のシスメールからの利用の徹底を図る。
 - ・ナーシングチャンネルの運用について、昨年度と比べ、①新入生の利用登録、②卒業生、退職者の退出の登録削除等の作業を円滑に行うことができた。
- (4) 教員及び学生が、必要な図書を購入できるよう、広報活動を行う。
 - ・ナーシングチャンネル及び EVO を含めた看護教育視聴覚教材の見直しとともに、他の視聴覚教材のパンフレットを回覧するなど、必要な図書を購入できるよう広報活動を行った。

3) 図書館組織の改編に協力し、適切に対応しながら、有効な図書予算の執行をめざす。

- (1) 図書費の執行率100%のために図書購入を促す
 - ・研究用図書費、学生用図書費等の執行の凍結があったものの、図書費の執行率100%のために図書購入を促した。
 - ・2024年2月29日現在、決算推定額は15,186,030円となり、1,602,764円が残額となった。
 - ・令和6年度医学部看護学科の図書関連経費は、予算額17,652,466円、決算額：13,585,370円、残額4,067,096円であった。

4) 研究用図書点検を実施する。

- (1) 技術職員の協力のもと、研究用図書点検を実施し紛失書籍等の確認を行う
 - ・技術職員の協力のもと、退職者分を含めて研究用図書点検を実施し紛失書籍はなかった。

5) その他

- (1) 「看護学科教員のための図書利用案内」の冊子の改定を行った。

8. 医学研究科看護学専攻（修士課程）

1. 看護学専攻委員

令和6年4月1日現在

組織	長（議長）	委員			
修士課程小委員会	(研究科長) 高松 泰	安永 晋一郎 (医学部学務委員)	榎 直美	江藤 真紀	緒方久美子
		木村 裕美	小柳 康子	佐久間良子	末次 典恵
		中島 充代			
ポリシー見直し・自己点検	(専攻長) 佐久間良子	榎 直美 (学務)	末次 典恵 (入試)	大田 博 (CNS)	小柳 康子 (教職)
専攻長					
教員資格予備審査委員会		榎 直美	江藤 真紀	緒方久美子	木村 裕美
	小柳 康子	佐久間良子	末次 典恵	中島 充代	
大学院専攻会議	(専攻長) 佐久間良子	榎 直美	江藤 真紀	大倉 義文	緒方久美子
		木村 裕美	小柳 康子	末次 典恵	中島 充代
		宮城由美子	有田 久美	岩永 和代	大田 博
		坂梨 左織	長谷川珠代	黒髪 恵	神徳 和子
		高木 良重	藤木久美子	牧 香里	松本祐佳里
学務委員会	榎 直美	大倉 義文	岩永 和代	大田 博	長谷川珠代
		高木 良重	宮城由美子	(藤 理恵)	(鮫島由紀子)
		専攻長			
入試委員会	小柳 康子	末次 典恵	黒髪 恵	神徳 和子	(松村友紀子)
		専攻長			

2. 令和7年度入試の実施 秋季入試0名受験、春季入試3名受験、合格者3名

令和6年度在籍者 7名

専門領域	1年次	2年次	長期履修*
母子健康支援領域（特別研究）	0名	2名	1名
地域健康支援領域（特別研究）	1名	0名	1名
成人療養支援領域（特別研究）	0名	0名	0名
看護教育・管理領域（特別研究）	0名	1名	0名
高齢者療養支援領域（特別研究）	1名	0名	0名
精神健康支援領域（特別研究）	0名	1名	1名
クリティカルケア看護領域（課題研究）	0名	1名	1名
合計	2名	5名	

*：長期履修者数は、1年次在籍者数、あるいは2年次在籍者数に重複

3. 専門領域及び研究指導教員

専門領域	研究指導教員
母子健康支援領域	教授 小柳康子、教授 佐久間良子
地域健康支援領域	教授 江藤真紀
成人療養支援領域	教授 緒方久美子
看護教育・管理領域	教授 末次典恵
高齢者療養支援領域	教授 榎 直美、教授 木村裕美
精神健康支援領域	教授 中島充代
クリティカルケア看護領域	教授 緒方久美子

4. 活動内容

【修士課程小委員会】

1) 委員：

4月1日～3月31日；

◎高松 泰 研究科長、安永晋一郎 大学院学務委員

研究指導教員 (M)：緒方久美子、江藤真紀、樫直美、木村裕美、小柳康子、佐久間良子、末次典恵、中島充代

(◎ 委員長、以下同じ)

2) 活動内容 (議事)：

上記の構成員により9回開催した。

①令和7年度入試要項について

②高度実践看護師コース3科目「フィジカルアセスメント」「クリティカルケア病態生理学」「クリティカルケア急性・重症患者管理論」の授業計画変更と、一般社団法人日本看護系系大学協議会への変更申請について

③教員養成に対する理念および認定課程設置の趣旨について

④令和6年度新入生の研究仮テーマ、研究指導教員、研究指導補助教員の承認

⑤令和6年度自己点検・評価について

⑥令和6年度3つのポリシー確認シートについて

⑦令和6年度研究計画発表会について

⑧大学院設置基準の改正に伴う福岡大学大学院学則の一部改正について

⑨令和6年度修士論文発表会について

⑩令和6年度修士論文審査の主査・副査の承認

⑪看護学専攻教育職員資格審査について (研究指導補助教員 (M) 6名、非常勤2名の資格審査を実施、大学院教育職員資格審査委員会に上程)

⑫修士学位申請論文合否判定及び修士課程修了判定

⑬令和7年度学年暦および時間割の決定

⑭令和7年度科目担当者の決定

⑮令和7年度大学院シラバスの作成・点検について

⑯非常勤講師採用の決定

⑰令和7年度春季入試の出願資格審査 (受験者2名出願資格あり)

⑱令和7年度春季入試の合否判定 (受験者3名合格者3名)

⑲看護学専攻申し合わせ事項の修正について

⑳指導教員変更について

修士課程小委員会の下に、申し合わせにより専攻長の諮問会議として研究指導教員会議 (M会議) を、内規により教員資格予備審査委員会を設置している。

【研究指導教員会議】は研究指導教員8名 (上記) で構成し、専攻長を議長として開催されるが、令和6年度は開催しなかった。

【教員資格予備審査委員会】は研究指導教員8名 (上記) で構成し、専攻長を議長として2回開催した。

審議の結果、(M) 教員6名、非常勤2名の推薦を決定し、修士課程小委員会に上程した。

【専攻会議】

1) 委員：◎佐久間良子、樫直美、小柳康子、末次典恵、江藤真紀、大倉義文、緒方久美子、木村裕美、中島充代、宮城由美子、有田久美、岩永和代、大田 博、坂梨左織、長谷川珠代、松本祐佳里、黒髪 恵、神徳和子、高木良重、藤木久美子、牧 香里 (藤 理恵、鮫島由紀子、松村友紀子)

2) 活動内容：構成員21名により11回開催した。

(1) 入試に係る事項の検討・協議

①令和8年度入学試験要項の作成

②令和7年度入学試験の作題および入試業務の役割分担決定

③志願者募集のための広報活動：募集ポスターとリーフレットの作成

- ④春季入学試験の実施（受験者3名）
- ⑤大学院ホームページの改訂
- (2) 学務に関する事項の検討・協議
 - ①令和6年度修士課程ガイダンスの実施
 - ②令和6年度新入生の仮テーマ、研究指導教員、研究指導補助教員の確認
 - ③研究計画発表会の実施について
 - ④令和6年度修士論文審査の主査・副査の確認
 - ⑤令和7年度学年暦と時間割の編制
 - ⑥令和7年度科目担当者の検討
 - ⑦令和7年度シラバスの作成・点検
 - ⑧令和7年度大学院履修の手引きの作成
 - ⑨課程修了者3名（修士論文コース3名）の修士論文公開発表会と学位審査の実施
- (3) 令和6年度予算執行と令和7年度予算要望
- (4) 高度実践看護師コース3科目「フィジカルアセスメント」「クリティカルケア病態生理学」「クリティカルケア急性・重症患者管理論」の授業計画変更と一般社団法人日本看護系大学協議会への変更申請について

【学務委員会】

4月1日～3月31日：◎櫛 直美、佐久間良子（専攻長）、宮木由美子（学科主任）、大倉義文、岩永和代、大田 博、長谷川珠代、高木良重、（鮫島由紀子、藤 理恵）

【入試委員会】

4月1日～11月31日：◎小柳康子、佐久間良子（専攻長）、末次典恵、黒髪 恵、神徳和子、（松村友紀子）
 12月1日～3月31日：◎末次典恵、佐久間良子（専攻長）、小柳康子、黒髪 恵、神徳和子、（松村友紀子）

9. 社会活動

1. 高校生への模擬授業および看護学科紹介

講義日	対象校	テーマ	担当者
令和6年5月14日	高大連携 福岡市立高等学校	子どもの世界 遊びを通して看護しよう！	宮城由美子
令和6年8月4日	オープンキャンパス	学科紹介（計5回）	宮城由美子 大倉 義文
		尊い命を支える看護の役割	櫛 直美
令和6年9月28日	附属大濠高等学校	看護と看護職の未来について考えよう	藤木久美子
令和6年10月5日	附属若葉高等学校及び ミニオープンキャンパス参加生徒	人生をデザインする	山尾 玲子
令和6年12月17日	附属若葉高等学校	看護学入門講座 —学問としての看護の世界をのぞいてみよう—	神徳 和子

10. 研究業績

令和6年4月より令和7年3月までの1年間における研究業績の主なものを、ここに記載する。

講座名 No.	論文題名	発表雑誌	発行の巻(号) 頁・年	著者及び演者
------------	------	------	----------------	--------

専門基礎

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|---------------------------------------|------------------------|------|---|
| 1 | 骨質低下を制御するビタミンB群摂取による新たな骨粗鬆症骨折予防の探索的解析 | 文部科学省
挑戦的研究
(萌芽) | 2024 | 中園 栄里(代表),
末松美保子, 力丸 哲也,
貴島 聡子, 大倉 義文 |
| 2 | 壮年期からの骨粗鬆症予防と口腔機能向上を目指した食事レシピ開発 | 文部科学省
挑戦的研究
(萌芽) | 2024 | 中園 栄里(代表),
力丸 哲也, 大倉 義文,
南 レイラ, 古野みはる |

〈学会活動〉

- | | | | | |
|---|----------|-----|------|-------|
| 1 | 日本動脈硬化学会 | 評議員 | 2024 | 大倉 義文 |
|---|----------|-----|------|-------|

基礎看護学

〈原著〉

- | | | | | |
|---|---|---|----------------------------|--|
| 1 | Implementation Process of a Virtual Reality Simulation-Based training program for learning Bedside Environments Based on the ARCS Model | Nursing Bulletin of
Fukuoka University | 1:1-9,
2024 | Sakanashi S, Ota H,
Kotoku K, Sagara A,
Takaki Y, Fuji R,
Harima H, Matsumura Y |
| 2 | 地域で暮らす心疾患高齢者のライフスタイルフレイルの実態とフレイルに関連する要因 | 日本農村医学会雑誌 | 73(4),
363-371,
2024 | 緒方久美子, 中嶋恵美子,
三浦伸一郎, 坂梨 左織,
鯨島由紀子 |

〈著書〉

- | | | | | |
|---|--|---------|-----------------------------------|-----------|
| 1 | 安心して働ける職場づくり“職員をハラスメント等から守ろう”～介護保険・福祉関係施設で働く看護職(管理職)のためのサポートブック～ | 福岡県看護協会 | 2024 | 坂梨 左織(分担) |
| 2 | がん患者のスキントラブル
IAD(失禁関連皮膚炎)の予防とケア
MDRPU(医療関連機器褥瘡)の予防とケア | Gakken | pp.292-307
pp.370-379,
2024 | 高木 良重(分担) |

〈国際学会(総ての演題)と国内学会(シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ, 一般演題は除く)〉

- | | | | | |
|---|---|--|------------------------------------|------------|
| 1 | Development of ICT-based teaching materials for nurses supporting community | The 31th International
Nursing Conference | Daegu,
Korea
Dec. 5,
2024 | Suetsugu N |
|---|---|--|------------------------------------|------------|

〈国内研究助成金〉

- | | | | | |
|---|--------------------------------------|------------------|------|--|
| 1 | 地域包括ケアを支えるICTを活用した看護リカレント教育プログラムの開発 | 文部科学省
基盤研究(C) | 2024 | 末次 典恵(代表)
鶴田 来美, 吉永 砂織,
久保 江里 |
| 2 | 緊急に人工呼吸器を装着した患者へのコミュニケーション支援に関する国際比較 | 文部科学省
基盤研究(C) | 2024 | 緒方久美子(代表)
佐藤 禮子, 末次 典恵(分担),
西尾美登里, 佐藤まゆみ |

3	造血幹細胞移植患者に対する運動支援プログラム開発に関する基礎的研究	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	久保 江里 (代表) 末次 典恵 (分担)
4	働き盛り世代の仕事と認知症介護の両立への備えを促す VR 学習プログラムの開発と検証	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	坂梨 左織 (代表), 大田 博, 藤田 君支, 藤 理絵, 合馬 慎二
5	新分岐型台帳技術搭載 SNS - “デジタル MOAI” - による若年世代の貧困・格差への対抗	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (C)	2024	神徳 和子 (代表), Yuri Tijerino, 徳森 謙二, 宮崎 康支, 安達圭一郎

〈学会活動〉

1	日本看護学教育学会	評議員	2024	末次 典恵
2	日本看護科学学会	代議員	2024	末次 典恵
3	日本手術看護学会	査読者	2024	坂梨 左織
4	日本がん看護学会	理事	2024	高木 良重
5	日本創傷・オストミー・失禁管理学会	評議員	2024	高木 良重
6	日本褥瘡学会	評議員	2024	高木 良重

成人看護学

〈原著〉

1	地域で暮らす心疾患高齢者のライフスタイル、フレイルの実態とフレイルに関連する要因	日本農村医学会雑誌	73(4) : 363-371, 2024	緒方久美子, 中嶋恵美子, 三浦伸一郎, 坂梨 左織, 鯨島由紀子
2	Non-fasting and fasting serum triglyceride concentrations and new-onset hyperuricemia in the general Japanese population: ISSA-CKD study.	Scientific reports	15(1) open access DOI 10.1038/ s41598-025- 90196-9, 2025	Sakaguchi T, Funakoshi S, Kawano K, Ueno T, Maki K, Morinaga A, Iwanaga K, Inoue Y, Shinohara Y, Katsuki S, Takahashi K, Ishida S, Fujii T, Abe M, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Tada K, Ito K, Mukobara S, Masutani K, Inoue T, Nagamitsu S, Arima H
3	Association between Salt Intake and the Incidence of Obesity in the General Japanese Population	福岡大学医学紀要	52(1) : 29-35, 2025	Maki M, Ueno T, Kawano K, Morinaga A, Iwanaga K, Nohara C, Funakoshi S, Ysmanokuchi T, Tsuji M, Abe M, Satoh A, Kawazoe M, Maeda T, Yoshimura C, Takahashi K, Tada K, Ito K, Yasuno T, Kawanami D, Mukobara S, Masutani K, Arima H
4	クリティカルケア領域において熟練看護師が行なった多様な家族に対する代理意思決定支援	日本農村医学会雑誌	73(2) : 86-94, 2024	鯨島由紀子, 緒方久美子, 大田 博

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ、一般演題は除く）〉

1	Effectiveness of Continuous Nursing Intervention for Patients With Total Laryngectomy: A Randomized Controlled Trial	35th Sigma Theta Tau International Research Congress	Singapore, July 25-28, 2024	Katake K, Haba K, Kurita K, Ota I, Iwanaga K, Suzukamo Y, Kai I, Takahashi A, Ishibashi Y, Hara Y, Arata Y, Uemura H, Kirishita Y
2	Thoughts and Aspects of Life of Patients after Total Laryngectomy in the Period before Discharge	35th Sigma Theta Tau International Research Congress	Singapore, July 25-28, 2024	Haba K, Kotake K, Kurita K, Iwanaga K, Kai I, Suzukamo Y, Takahashi A, Ishibashi Y, Hara Y, Arata Y, Ota I, Uemura H, Kirishita Y
3	Relationship between nutritional status and quality of life at 1 year after discharge in patients who received chemoradiotherapy for head and neck cancer	15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars	Seoul, Korea, Feb. 13-14, 2025	Iwanaga K, Maki K, Ishibashi Y, Ura A, Kotake K, Haba K, Miyabayashi I
4	Challenges and Coping Behaviors of Families of Patients with Total Laryngectomy in the First Year after Surgery	15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars	Seoul, Korea, Feb. 13-14, 2025	Ishibashi Y, Iwanaga K, Kotake K, Ura A, Miyabayashi I
5	Pre-treatment Nutritional Status and Quality of Life in Patients Receiving Chemoradiotherapy for Head and Neck Cancer	15th International Nursing Conference & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars	Seoul, Korea, Feb. 13-14, 2025	Maki K, Iwanaga K, Ishibashi Y, Ura A, Kotake K, Haba K, Miyabayashi I

〈国内研究助成金〉

1	緊急に人工呼吸器を装着した患者へのコミュニケーション支援に関する国際比較	文部科学省 基盤研究（C）	2024	緒方久美子（代表） 佐藤 禮子, 末次 典恵, 佐藤まゆみ
2	クリティカルケア看護師の緩和ケアコンピテンシー育成プログラムの開発	文部科学省 基盤研究（B）	2024	大川 宣容（代表） 緒方久美子, 佐藤まゆみ, 森本紗磨美, 平尾 明美
3	冠動脈血行再建術後患者の HL 向上を目指した在宅遠隔セルフケア支援システムの開発	文部科学省 基盤研究（B）	2024	稲垣 美紀（代表） 大田 博, 緒方久美子, 竹下 裕子, 稲垣 範子, 長沢美和子, 岡田 彩子, 小堀 栄子
4	VR 教材を用いた学生の倫理的感受性を高める臓器移植看護教育の検討	文部科学省 基盤研究（C）	2024	鯨島由紀子（代表） 緒方久美子, 大田 博
5	喉頭全摘出術を受けたがんサババーバーのサルコペニア予防のための介入研究	文部科学省 基盤研究（C）	2024	岩永 和代（代表） 牧 香里（分担）
7	喉頭全摘出者の QOL 向上へつなげる看護体制の構築：RCT による縦断的介入	文部科学省 基盤研究（B）	2024	小竹 久美子（代表） 岩永 和代（分担）
8	発達障害傾向看護学生のコミュニケーション力育成プログラムの試行	文部科学省 基盤研究（C）	2024	宮林 郁子（代表） 岩永 和代（分担）

9	新たなクリティカルケア Simulation Learning モデルの構築	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	大田 博 (代表) 緒方久美子, 稲垣 美紀, 長沢美和子, 東 ますみ, 藤原 尚子
10	認知症高齢者のエンドオブライフの最善を支える ACP プロセスの構築	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	馬場みちえ (代表), 山本八千代, 久木原博子, 牧 香里 (分担), 上野 珠未, 隈本 寛子

〈学会活動〉

1	千葉看護学会	査読者	2024	緒方久美子
---	--------	-----	------	-------

老年看護学

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ、一般演題は除く）〉

1	A Literature Review Focusing on Discharge Support in Acute Care Hospitals in Japan	28th East Asian Forum of Nursing Scholars	Seoul, South Korea February, 13-14, 2025	Fudo M, Ichiki N, Arita K
---	--	---	---	---------------------------

〈国内研究助成金〉

1	婦人科がん術後患者のリンパ浮腫自己アセスメントが受診行動に与える影響	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	矢野ゆう子 (代表), 有田 久美, 佐藤真由美
---	------------------------------------	-------------------	------	-----------------------------

〈学会活動〉

1	日本看護福祉学会	査読委員	2024	有田 久美
---	----------	------	------	-------

母性看護学

〈原著〉

1	Relationship between oil massage of infants and maternal stress using physical and online modes	Journal of International Nursing Research	3(2): https://doi.org/10.53044/jinr.2023-0018 , 2024	Takahata Y, Hirai M
---	---	---	--	---------------------

〈学会活動〉

1	福岡母性衛生学会	理事	2024	佐久間良子
2	福岡母性衛生学会	幹事	2024	藤木久美子

小児看護学

〈総説〉

1	学童期・思春期の子どもたちにとっての食物経口負荷試験－聞き取り調査の結果－	アレルギーの臨床	44(10), 62-64, 2024	宮城由美子, 横尾美智代, 秋鹿 都子, 藤原 悠香
---	---------------------------------------	----------	---------------------------	-------------------------------

〈国内研究助成金〉

1	食物アレルギー児が将来を見据えた生活を再構築するための教育プログラムの作成	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	宮城由美子 (代表), 横尾美智代, 秋鹿 都子
2	新型コロナウイルス感染症の流行がワクチン忌避保護者に与えた影響について	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	横尾美智代 (代表), 宮城由美子, 早島 理
3	食物除去過程の幼児家族教育プログラム 家族実践型プレバレーションツールの開発	文部科学省 基盤研究 (C)	2024	秋鹿 都子 (代表), 山本八千代, 宮城由美子

4	医療的ケア児と養護者，訪問看護・介護が参画した個別災害対策ガイドラインの開発	文部科学省 基盤研究（C）	2024	松本祐佳里（代表） 中井 寿雄，長谷川珠代， 藤原 悠香
5	産前から子育て期までの継続的な孫育て支援プログラムの構築	文部科学省 若手研究	2024	藤原 悠香（代表）
〈学会活動〉				
1	日本小児臨床アレルギー学会	査読委員	2024	宮城由美子
2	高知女子大学看護学会	査読委員	2024	松本祐佳里
精神看護学				
〈原著〉				
1	精神科病棟入院中の患者へのリハビリ志向プログラムの実践と効果	福岡大学医学紀要	51(2) : 59-69, 2024	黒髪 恵，井手 量子， 河野さつき，西原 玲， 田箆 志歩，上田平有史， 矢ヶ部由美子，山崎 智美， 池田 静子
〈国内研究助成金〉				
1	日本型リハビリプログラムを活用した精神科病棟でのリハビリ支援モデルの構築	文部科学省 基盤研究（C）	2024	黒髪 恵（代表）， 中島 充代，坂本 明子， 畑中 聡仁，原田 康平
公衆衛生看護学				
〈原著〉				
1	Cost-effectiveness analysis of tube feeding among older adults with advanced dementia in Japan: A net benefit regression approach	Archives of Gerontology and Geriatrics	133 : 105812, 2025	Liu N, Babazono A, Hayashida K, Jamal A, Ishihara R, Yamao R, Yoshida S, Matsuda S, Li Y
2	業種間におけるメタボリック症候群のリスク保有の違いに関する研究	日本農村医学会	73(1) : 1-11, 2024	山尾 玲子，石原 礼子， 吉田真一郎
〈国内研究助成金〉				
1	障害者の老いを支える壮年期からの準備教育プログラム開発に関する研究	文部科学省 基盤研究（C）	2024	長谷川珠代（代表）
〈学会活動〉				
1	日本看護研究学会	査読委員	2024～2025	江藤 真紀
2	日本看護医療学会	査読委員	2024～2025	江藤 真紀
在宅看護学				
〈原著〉				
1	看護系大学の卒後支援のための卒後動向および支援ニーズの実態調査	福岡大学医学紀要	51(1) : 41-45, 2024	牧 香里，吉川千鶴子， 掛田 遥，藤 理絵， 佐久間良子，久木原博子， 古賀佳代子，馬場みちえ
2	熊本地震に被災した中小企業就労者の精神的健康に関する経時的変化	Medical Science Digest	50(9) : 46-47, 2024	古賀佳代子

〈国際学会（総ての演題）と国内学会（シンポジウムかワークショップあるいは招待講演のみ、一般演題は除く）〉

1	（国際学会） The relationship between subjective health perception and mental health among disaster-affected workers in the Kumamoto Earthquakes	28th East Asian Forum of Nursing Scholars	Korea 2/13-14, 2025	Koga K, Ikeda S
2	（ワークショップ） 認知症高齢者の生活支援ってどうしていますか？～地域包括支援センター保健師職の交流会活動を通して～	日本地域看護学会第27回学術集会	宮城 6/30, 2024	古賀佳代子, 岡野 明美, 保母 恵, 曾我 智子, 森永 朗子
3	（ワークショップ） つながろう！地域包括支援センター保健師－地域ぐるみの自立支援の推進に向けて－	第13回日本公衆衛生看護学会学術集会	愛知 1/5, 2025	古賀佳代子, 森永 朗子, 岡野 明美, 藤本 公恵, 志村いづみ, 永井 潤子, 小林奈緒子, 保母 恵

〈国内研究助成金〉

1	在宅療養者および家族向けの災害時対応システム開発と実証検証	若手・女性研究基盤機構支援事業	2024	古賀佳代子（代表） 池田 智
2	認知症徘徊防止システム「IKUXA（イクサ）」の導入効果	領域別研究チーム	2024	古賀佳代子（代表） 池田 智, V.G モシニャガ, 橋本 浩二, 大田 博, 堀 輝
3	災害時における地域高齢者の健康状態把握に向けたスクリーニングの開発	文部科学省 基盤研究（C）	2024	古賀佳代子（代表） 池田 智, 掛田 遥, 西尾美登里
4	訪問看護の災害下 BCP における効率的な安否確認システムの開発と導入効果	文部科学省 基盤研究（C）	2024	池田 智（代表） 古賀佳代子, 廣重 法道, 掛田 遥, 堀 輝, 上田 智之
5	認知症徘徊者検知システムの実証実験と介護者の介護負担度への影響	文部科学省 基盤研究（C）	2024	掛田 遥（代表） 古賀佳代子, V.G モシニャガ, 池田 智, 堀 輝, 大田 博, 橋本 浩二

〈主催した学会、シンポジウム、研究会〉

1	九州・沖縄1地域部会Ⅰ（福岡）講演会	福大メディカホール	9/28, 2024	古賀佳代子, 松村友紀子, 藤本 裕二, 西尾美登里
2	九州・沖縄1地域部会Ⅱ（佐賀）講演会	佐賀大学医学部	11/16, 2024	藤本 裕二, 松村友紀子, 寺岡 佐和
3	九州・沖縄1地域部会Ⅲ（福岡）講演会	九州大学医学部百年講堂	3/1, 2025	寺岡 佐和, 古賀佳代子, 松村友紀子, 藤本 裕二, 西尾美登里, 酒井久美子

〈学会活動〉

1	日本認知症ケア学会九州・沖縄地域部会	代議員	2024	古賀佳代子
2	日本認知症ケア学会九州・沖縄地域部会	副部会長	2024	古賀佳代子
3	日本看護福祉学会	査読委員	2024	古賀佳代子

Ⅲ. 福岡大学病院

令和6(2024)年度の「福岡大学病院」について

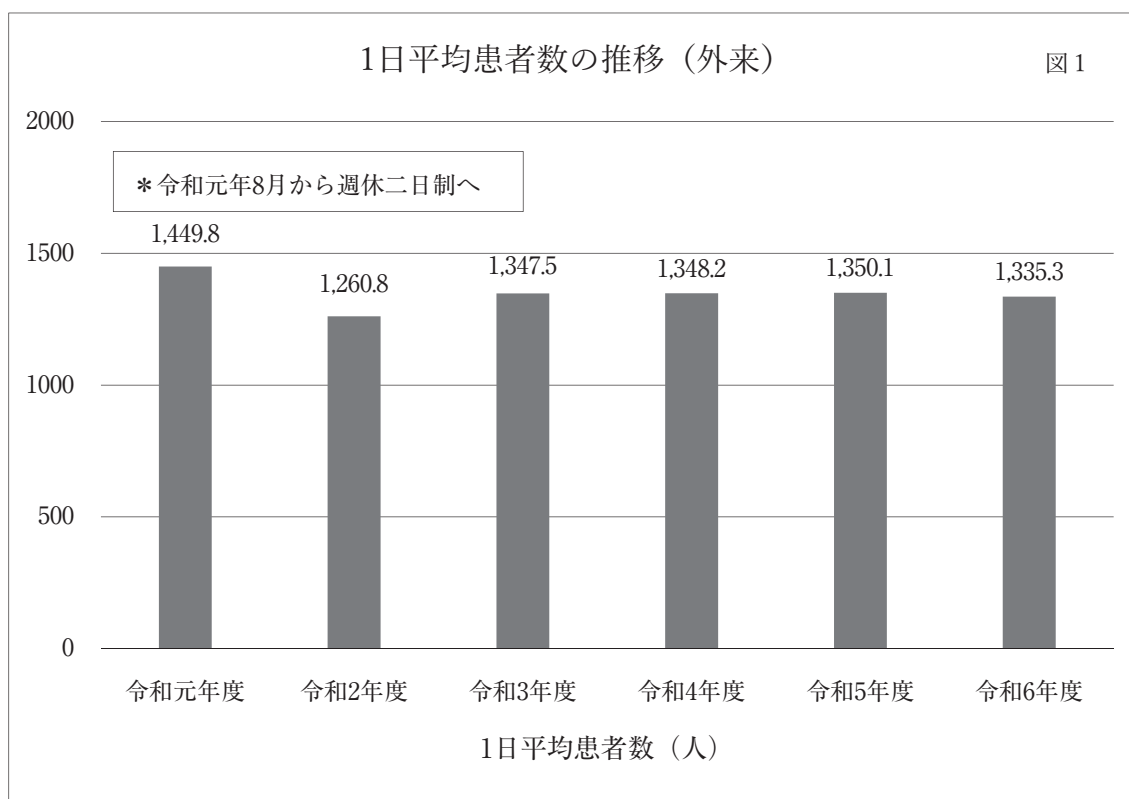
病院長 三 浦 伸一郎

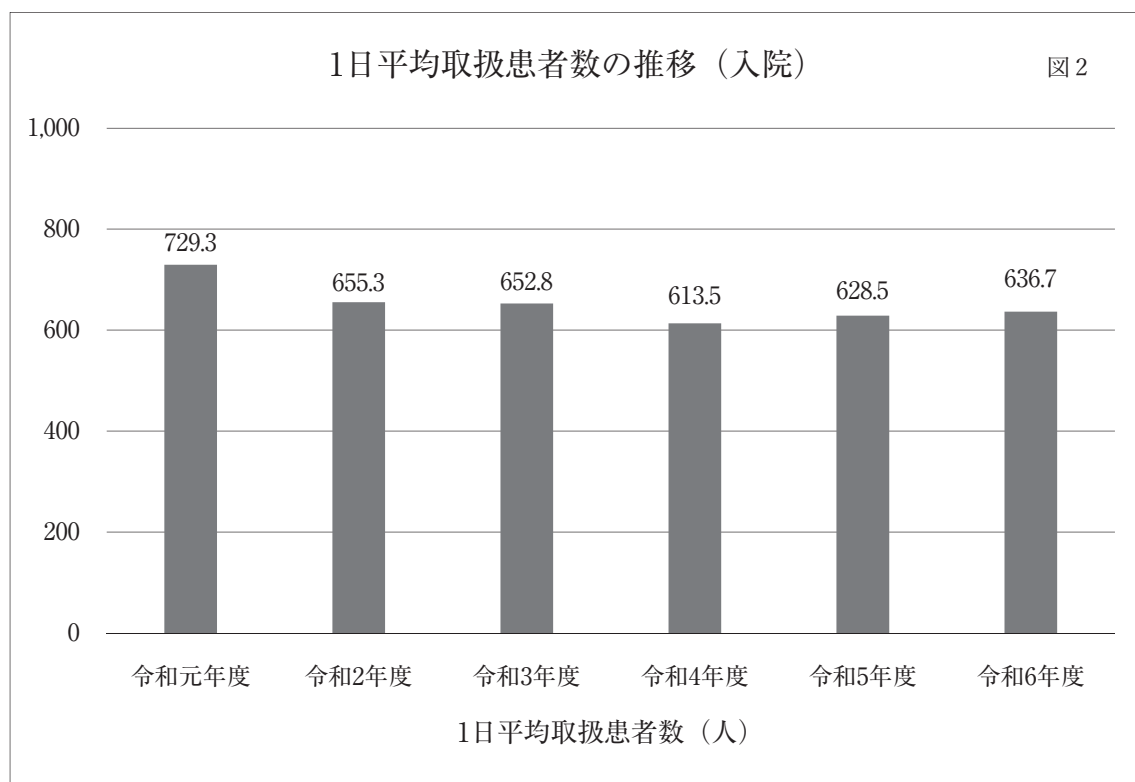
令和6年5月に病院本館が開院しました。これまで多くのご支援を賜り、心より感謝申し上げます。利便性と高度な機能を備えた環境が整い、福岡大学病院、筑紫病院、西新病院の3病院の連携を強化し、さらに、地域医療に貢献して参ります。また、病院の収支改善や職員の人事交流、技術交流など福岡大学全体で医療の取り組みを進めています。

以下に令和6年度の福岡大学病院の活動報告をまとめていますのでご覧いただければと思います。

患者動向（図1、2）

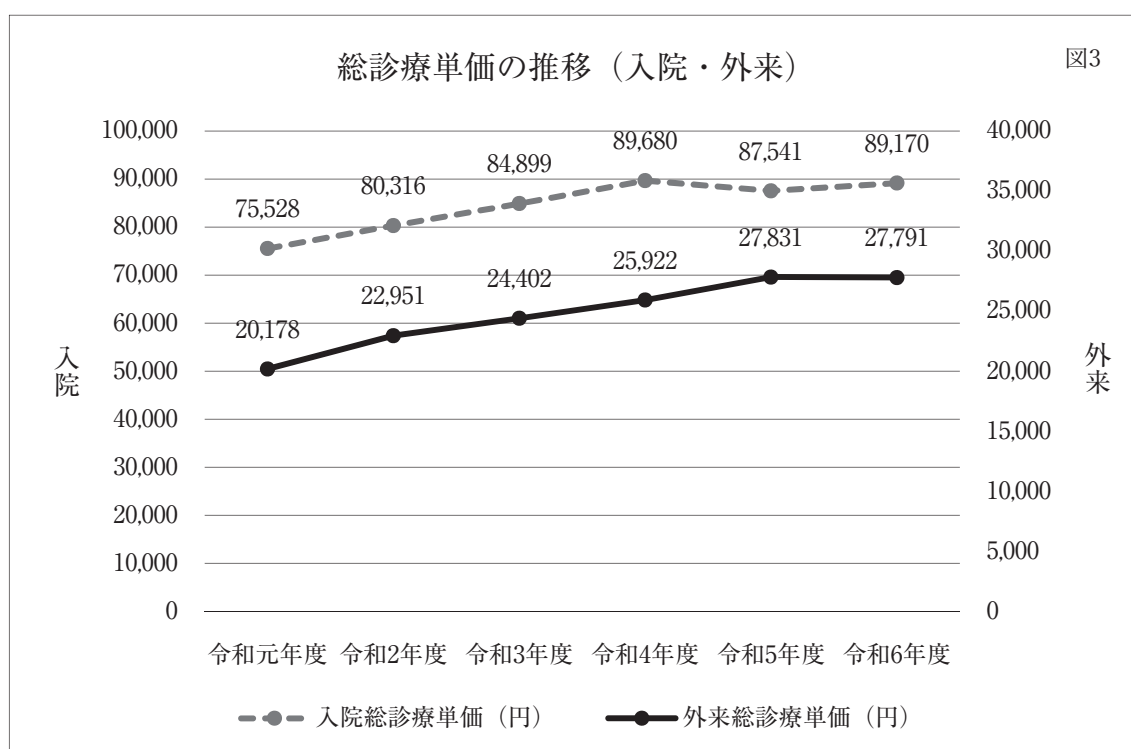
外来取扱患者数は延323,135人（前年度比98.9%、3,596人減）で、再診患者数が301,882人（前年度比98.96%、3,187人減）、新たに当院を受診した患者数は15,564人（前年度比95.71%、698人減）と減少する結果となりました。また、新入院患者数は17,393人（前年度比99.63%、65人減）で前年を下回りましたが、入院取扱患者数は232,385人（前年度比101.02%、2,352人増）で病床稼働率83.1%（前年度80.9%）と増加しました。病院本館への移転による入院制限や中央棟改修工事の遅延等があり入院患者数にも影響しました。手術件数についても同様の要因が影響したこともあり、前年度より153件減少し8,650件でした。





診療収入の状況（図3）

外来総診療単価、入院総診療単価ともに昨年とほぼ横ばいとなりました。これらの傾向は、薬物費や医療材料費の高騰に寄与する部分が多く、収入超過（経常収支）を達成するためには、更なる入院患者数の増加を目指しGET715の達成に向けて病院全体で取り組みを強化することが急務となっています。



病院の取り組み

病院本館の開院に伴い、4月に救急治療（ER）センターを開設しました。昼間は総合診療科が担当し、夜間・休日には多くの診療科がローテーションで診療し救急患者を受け入れています。福岡市の救急搬送が増加しており、当院も対応できるよう病院全体で取り組んでいます。脳卒中センターを設置し、軽症から重症までの脳卒中患者に対する診療も強化しています。また、各診療科と定期的に経営カンファレンスを行い、福岡大学病院の収支の健全化に向けて取り組んでいます。

高度医療を提供することはもちろんですが、地域に密着した医療提供を行い「あたたかい医療」のもと患者さんに寄り添った診療を第一に考え、更なる発展に向けて邁進してまいりますのでご支援をよろしくお願いいたします。

IV. 福岡大学筑紫病院

令和6年度「福岡大学筑紫病院」の実績報告

病院長 河 村 彰

1. 地域医療支援病院としての機能評価

地域の医療機関との連携の目安となる紹介率は85.7%（昨年度比0.2%増）、逆紹介率は95.3%（昨年度比5.0%増）となった。地域医療支援病院の実績を評価する指標のうち、救急搬送件数は3,594件（昨年度比331件減）、地域医療従事者に対する研修会（主催・共催・後援含む）の開催数94回（昨年度比5回増）、院外参加者7,645人（昨年度比3,355人増）となった。なお、平均在院日数は8.8日（昨年度比0.4日短縮）、病床稼働率は、84.4%（昨年度比3.8%減）と昨年度より減少した。

2. 将来計画の推進

令和3（2021）年に策定した将来計画に基づき、診療部長会、経営戦略会議、師長会（看護部）等で、数値目標を周知するとともに、救急車搬送件数、新規入院患者数、手術件数を増加させ、病床稼働率の上昇を図った。新型コロナウイルス感染症の拡大により、一時的に入院制限や感染症専用病床12床を設置した影響で、年間目標は達成できなかったが、令和6年10月に救急専門医を新たに配置し、消防署への訪問活動や地域の医療機関への周知活動を行った結果、救急車搬入件数、手術件数、新規入院患者数は月によって月間最多件数を更新した。

3. ロボット手術の開始

手術支援ロボット「da Vinci Xi」を設置し、令和6年12月から消化器外科領域（胃癌、大腸癌）でロボット手術を開始した。さらに、次年度以降の新たなロボット支援手術プロクター認定医の配置を調整し、令和7年4月より呼吸器外科領域（肺癌、縦隔腫瘍）、泌尿器科領域（前立腺癌、腎癌）においてもロボット手術を開始予定である。

4. 医師の働き方改革の推進

令和6年4月から勤怠管理システム（Dr.JOY）を本稼働し、医師労働時間短縮計画で掲げたピーコンを用いた客観的で適切な勤務時間管理を実施するとともに健康確保のための面接指導実施体制を整備した。また、労働時間短縮に向けた取組として、業務連携検討委員会でタスクシフト/シェアの進捗管理を行いながら取り組みを実施し、医師の負担軽減を図った。次年度以降も医療DX等を活用した業務効率化による働き方改革の推進を計画している。

V. 福岡大学西新病院

福岡大学西新病院の計画・成果報告（2024年度）

病院長 山 本 卓 明

〔計画1〕西新病院の今後の対応（西新病院新病院（仮称）の移転・新築について）

福岡大学西新病院は、平成30年4月1日に一般社団法人福岡市医師会が所有する福岡市医師会成人病センターから事業譲受し開院した。2024年4月現在、前身の成人病センターが開業して以来、既に41年という長い年月が経過しており、施設の老朽化が著しく、それに伴う毎年の維持管理費が増加している状況であった。加えて、福岡市医師会に対して支払い義務のある借地料も経営の観点からの重要な検討課題の一つとなっていた。現在の診療機能を効率的に維持・発展させるため、移転・建て替えを進めている。

〔成果1〕

2022年3月29日開催の理事会において「西新病院事業継続のための移転」及び「こども病院跡地活用事業」への、他の事業者との共同応募が承認された。2023年1月30日に本学のグループが「こども病院跡地活用事業」の優先交渉権者として選定され、同年3月16日付で福岡市と基本協定締結、4月13日付で土地売買契約が締結（仮契約）、6月27日開催の福岡市議会の議決を経て、土地売買契約が“仮契約”から“本契約”に移行した。

新病院建設に向けては、基本設計が2024年3月28日開催の理事会で承認、実施設計は同年10月17日理事会で承認を得た。

病院建設に必要な行政手続きは、2024年11月15日付で建築確認申請に対する建築確認済証が交付、2025年1月31日付で着工に必要な病院開設届申請に対する許可証が交付され、同年2月末に施工業者が決定し3月24日から準備工事に着手した。

「こども病院跡地活用事業」では福岡市による公募段階から脱炭素への取組を行うことが計画されており、新病院は省エネ50%を実現するZEB Ready化が計画されている。福岡市環境局の助言を得て、本学のグループは、環境省が公募した「第5回脱炭素先行地域」に福岡市と共同で応募した結果、同事業の選定を受け、こども病院跡地活用事業に携わる三事業者に対して総額12億円の補助金が交付される予定である。

なお、新病院（地上5階建 117床）の病院名は2025年3月27日開催の理事会で「福岡大学ももち病院」に決定し、2027年春の新病院開業に向けて準備を進めている。

〔計画2〕診療体制の拡充および看護部門の充実

西新病院の看護職員は定数70人に対して年度中の休職及び離職者の補充を見込んだ7人を加え定員77名となっているが、2023年4月当初より平均10人以上の欠員状態となり、2023年11月～2024年4月迄の間、実働病床を108床から81床に減じる緊急措置を行うことになった。早急に看護職員の確保や新採用者のリクルートを行うことが課題であり、その対応として、2024年度から4年間、副看護部長1人の追加配置が認められた。

〔成果2〕

2025年4月1日時点の専任職員71名でスタートし、そのうち15名の新人職員採用に対応するため、実働病床81床で運用開始した。その後、7月には108床、12月からは「地域包括医療病棟」の届出と同時に110床へ徐々に増床し診療機能の充実を図った。追加配置された副看護部長を中心に、救急患者の受け入れ等診療体制に影響しないようアルバイト、派遣看護師の一時的採用及び5名専任職員の中途採用を行った。しかしながら、随時募集では応募が少なく厳しい状況が続いている。

なお、看護職員に対する教育の充実、職場環境の適正化、離職対策等の実施、更にリクルート活動の拡大により新年度の早い段階での定数確保に努めた。

VI. 付属施設・組織

1) 福岡大学図書館医学部分館

図書館医学部分館では、医学・看護学分野の学修・教育・研究を支援するための資料の整備・充実に努めており、令和7年3月31日現在の蔵書数は274,483冊、学術雑誌は4,310種類を所蔵している（表1）。また、DVD・CD-ROM等の視聴覚資料1,464件を保有し、電子資料費にて継続購入している資料*は17点である。

令和6年度の年間受入れ状況は、図書235冊、製本雑誌428冊、継続購入雑誌183種類となった。今年度は為替レートの変動による円安に伴い、洋雑誌及び電子ジャーナルが高騰しているなか、医学部では3年に1度定期的に実施しているコアジャーナルアンケートを令和5年度に実施し、そのアンケート調査の結果を基に令和6年度も継続して雑誌等の購読継続の見直しを行った。

購入継続資料の見直しについては、医学部の各講座からの新規要望を可能な限り反映させられるよう、既存ジャーナルとの入替え等について電子ジャーナルの各出版社との交渉を進めるとともに、「冊子」または「冊子+電子ジャーナル」から「電子ジャーナル」への購読形態の変更や、利用回数の少ないジャーナルを中止候補とすること、新規に大学へ要望することなどの方策を含めて、医学部図書小委員会の中で協議を重ね、令和6年度は継続中止ジャーナルの見直しを行った。また、継続中止ジャーナルについては、研究活動等の混乱をなるべく避けられるように、あらかじめ関連部署の主任教授、診療部長にメールで継続中止についてお知らせし、ご理解とご協力をお願いした。

開館状況については、医学部分館の改装工事を令和6年8月5日から10月3日まで行ったが、利用の支障がないよう2階と3階の工事時期を分けたことにより、休館の措置は取らなかった。

また、医学部分館は平日に限らず土曜・日曜・祝日も8時50分から22時まで開館しており、通常、盆休・年末年始の7日間を休館日としているが、医学科の共用試験が医学情報センターで実施にあたり、医学部分館を受験生の控室等として使用することとなったため、共用試験中の8日間を臨時休館とした。

1日の平均入館者数については、医学部分館253人（前年度比20人増）・筑紫病院図書室24人（前年度比3人増）、1日の平均貸出冊数は医学部分館17.0冊（前年度比6.4冊減）・筑紫病院図書室3.4冊（前年度比0.2冊増）となった。

なお、改装工事期間中の8月から9月までの利用人数は前年度比3,182人減少したが、改装後の10月から3月までの利用人数は前年度比7,752人（月平均で1,292人）増加した。特に閲覧機の全席を電源コンセント付きに買い替え、3階の閲覧席については仕切り版を設置するなど多くの学生が利用できるようにしたことが主な要因であると考えられる。また、入館に関しては、特定機能病院である大学病院に隣接する医学図書館という特性上、学外者については医療従事者など事前に申し込んだ利用者のみに入館を制限している。

学内の年間文献複写枚数については、2,329枚（前年度比1,900枚減）となり、新型コロナウイルス感染症拡大以降の図書館の利用離れやリモートアクセスによる利用増が影響しているように思われる。また、他大学とのILL（文献複写・貸借）サービスによる複写受付件数は1,031件（前年度比355件減）、学外への複写依頼件数は509件（前年度比223件減）で減少傾向にある。

施設面では、医学部分館におけるサービスの向上とBYOD（Bring Your Own Device）の取組推進のため、電源コンセント付き閲覧機・椅子の買替え、フロア絨毯の張替え、照明のLED化の改装を行った。

表1 蔵書数

（令和7年3月31日現在）

資料 種類	単行書 （冊）	製本雑誌 （冊）	計	雑誌 （種）
和書	86,653	43,150	129,803	1,342
洋書	46,495	98,175	144,670	2,521
計	133,148	141,325	274,473	3,863

※蔵書数には、筑紫病院図書室を含む

電子資料費内訳：医中誌 Web, 系統別看護師国家試験問題・保健師国家試験問題 WEB, 今日の診療 WEB, 最新看護索引 Web, メディカルオンライン, ナーシングチャンネル, CINAHL Plus, LWW Fixed 50, MedicalFinder, Springer Nature (Nature 関連誌19誌 + Academic Journals10誌), Ovid EBM, Health & MedicalCollection with MEDLINE, Science Direct, Science Signaling, Science Translational Medicine, Wiley Online Library, Educational Video OnLine

図書館情報システム（NEC：E-CatsLibrary）はリプレイス5年目を迎え、安定した稼働を続けており、利用者の利便性を図るための情報サービス室の利用者用パソコン（16台）は学内のパソコン教室と同じ環境になっている。その他館内では、学内者向けの高速 Wi-Fi の整備により、個人のスマートフォンから図書館資料の検索や利用が可能となっている。

図書館ユーザのウェブ活用が進み、図書館資料についても紙媒体（図書・雑誌）から電子媒体（電子ジャーナル・データベース・電子ブック）への推移の傾向が見られるが、その傾向は今後もさらに加速するように思われる。

福岡大学図書館では、学外からアクセス可能な図書館ウェブサイト上から図書の予約・取寄せ、福岡大学蔵書検索（OPAC）から電子ジャーナルのフルテキストへのリンク、医中誌 Web や PubMed（福大専用）等のデータベース検索の結果から学内で契約している電子ジャーナルのフルテキストへのリンク、各データベースの検索結果から書誌情報を取り込み ILL（文献複写・貸借）依頼が可能となっているが、なお一層のウェブを介したサービスの拡充に努めたい。令和7年3月31日現在、電子ジャーナル・電子ブックは無料提供を含め、全学で174,254種類の利用が可能である。

令和6年度の主なパッケージ型電子ジャーナルの利用件数は、メディカルオンライン34,422件（前年度比8,392件減）、Science Direct122,213件（前年度比5,386件減）、Wiley Online Library40,647件（前年度比4,709件増）であった。

令和7年度は、臨床研修等に必要な知識・情報を効率良く入手するためのデータベースや電子ジャーナルの利用説明会の開催など、医学部、福岡大学病院、福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院との連携を図りつつ、今後も引き続き利用者のニーズに合った図書館サービスを充実させていきたい。

（図書館医学部分館長 大 倉 義 文）

2) アニマルセンター

令和6年度のアニマルセンター利用者は、延べ6,756名（理学部15名、医学部5,291名、薬学部2名、スポーツ科学部1,448名）でした。

利用者カードの取得者数は158名（理学部2名、医学部108名、薬学部3名、スポーツ科学部45名）となっています。

主たる使用動物ではマウス2,878匹、ラット322匹、モルモット1匹、ブタ5頭、サル4匹、カエル6匹の搬入がありました。

動物実験実施者講習会は令和6年4月18日（木）・19日（金）の二日間、メディカルホールにて午後4時30分から Zoom によるハイブリッド方式にて開催し、104名（理学部6名、医学部40名、薬学部35名、スポーツ科学部20名、アニマルセンター3名）が受講しました。また、実習で動物を扱う学生に対しても正規の講習が必要となったため、医学部2年生118名（1月29日）、薬学部3年生128名（12月16日）に対して、対面にて講習を実施しました。

動物実験技術講習会は初心者を対象とした初級講習会を令和6年8月1日（木）午後1時30分より、アニマルセンター2階手術室(4)にて開催し12名が受講しました。また、初級講習会修了者を対象とした中級講習会を令和6年11月13日（水）午後1時30分より、アニマルセンター2階手術室(4)にて開催し3名が受講しました。

『第47回実験動物慰霊祭』は令和6年9月18日（水）午後4時30分から開催しました。

アニマルセンター長・動物実験委員長・アニマルセンター所属職員他、合計35人で執り行いました。これと併せて午後1時から4時までの間、随時、慰霊できるように準備し、59人が供養に訪れました。

機器備品関係では全自動血球計数器（動物用）、遺伝子電気泳動装置、全自動製氷機（フレークアイス）、Tecniplast 製個別換気ケージシステムを購入しました。

また、施設工事では空調機および全熱交換機の一部取替、Tg 前室の扉に警報ランプの設置、全飼育室の扉のパッキン交換、測定室の電源コンセント増設を行いました。

今後も利用者に対するより一層のサービス向上に努めて参りますので、何卒ご理解・ご協力の程をよろしくお願いいたします。

（アニマルセンター長 立 花 克 郎）

3) 医学部 RI 施設

令和6年度の業務従事者登録者数は54名（男性39名、女性15名）で、新規登録者は4名でした。予防規程第36条による教育及び訓練として、令和6年5月13日に(1)放射性同位元素等または放射線発生装置の安全取扱い(2)放射線の人体に与える影響(3)放射線障害防止に関する法令及び予防規程の項目で、新規登録者を対象とした教育訓練講習会を実施しました。継続登録者向けの教育訓練講習会は、令和6年5月14日と15日の2日間実施し、登録者全員が受講されました。予防規程第37条によるRI健康診断を6月と12月の2回実施し、受診率は100%でした。また、放射線測定の信頼性確保に関する法令改正に伴う「放射線障害予防規程」の一部改正を行い、令和7年1月1日に施行しました。放射線管理業務として、七隈地区のRIセンター実験施設と合同ミーティングを開催し、最新の規制情報の共有や帳簿の相互確認を行いました。

装置や施設関連では、新型の γ 線用シンチレーションサーベイメータを購入し、測定データの電子保存が可能になりました。また、法令で定められた施設安全基準の遵守を図るため、令和7年3月にRI施設各実験室の壁や天井の塗装補修工事を行いました。

(医学部 RI 施設長 秋 吉 浩三郎)

4) 福岡大学医学会

令和6年度は第47回総会と、第90回・第91回例会とが行われた。

A) 第47回総会

1. 日 時：令和6年9月25日(水) 17:30～19:15
場 所：福岡大学医学部 RI 講義棟3F 大講堂
議 事：1) 報告事項
2) 令和5年度会計報告および令和6年度予算案
2. 令和6年度の役員は下記のとおり承認された。

会 長		小 玉 正 太	医学部長
副会長		和 田 秀 一	大学協議員
顧 問		吉 満 研 吾	副学長
		三 浦 伸一郎	福岡大学病院長
		河 村 彰	福岡大学筑紫病院長
		宮 城 由美子	看護学科主任
幹 事	庶務幹事	北 島 研	医学教育推進講座
	会計幹事	川 浪 大 治	内分泌・糖尿病内科学
	集会幹事	濱 崎 慎	病理学
	編集幹事	小 川 正 浩	研究推進部委員
会 計 監 事		鍋 島 茂 樹	総合診療学
		八 尋 英 二	卒後臨床研修センター
評 議 員	人体生物系	立 花 克 郎	解剖学
		藤 田 孝 之	生理学
	生体制御系	廣 松 賢 治	微生物・免疫学
		藤 田 昌 樹	呼吸器内科学
	病態構造系	升 谷 耕 介	腎臓・膠原病内科学
		馬 場 康 彦	脳神経内科学
	病態機能系	坂 田 俊 文	耳鼻咽喉科学
		仲 村 佳 彦	救命救急医学
	先端医療科学系	四 元 房 典	産科婦人科学
		今 福 信 一	皮膚科学
	社会医学系	今 泉 聡	生命医療倫理学
		堀 輝	精神医学
	講師・助教	本 田 啓	生理学
	大学院生	若 松 佳 代	再生・移植医学

3. 令和5年度会計報告ならびに令和6年度予算案は承認された。

B) 第90回例会

日 時：令和6年9月25日(水) 17:30～19:15

場 所：福岡大学医学部 RI 講義棟3F 大講堂

内 容：

1. 第26回福岡大学医学会賞受賞論文講演

金賞(1名)

①講演者…清水 真行

座長…小玉 正太

「Rescue of murine hind limb ischemia via angiogenesis and lymphangiogenesis promoted by cellular communication network factor 2」

銀賞(2名)

②講演者…久保田 慧

座長…永光信一郎

「Natural history of cow's milk allergy in children aged 6-12years」

③講演者…安心院勇佑

座長…三浦伸一郎

「Association between Major Adverse Cardiovascular Events and the Liver Fibrosis Score in Patients with and without Coronary Artery Disease: From the FU-CCTA Registry」

2. 新任教授講演

講演者…高木 誠司(形成外科学)

座長…小玉 正太

「形成外科における創傷治癒」

3. 第26回福岡大学医学会賞授賞式

C) 第91回例会

日 時：令和7年2月19日(水) 18:00～19:00

場 所：福岡大学医学部 RI 講義棟3F 大講堂

内 容：

1. 新任教授講演

講演者…安部 洋(脳神経外科学)

座長…小玉 正太

「脳神経外科の発展と今後の課題」

2. 福岡大学医学紀要第51巻優秀論文賞授与式

受賞者：平川 豊文(産科婦人科学)

3. 医学生業績報告書「JAMeS」優秀賞授与式

井上 悠太郎

心血管疾患術後患者の早期離床と握力との関係 JAMeS 7(1):43-45, 2024

4. 受賞論文の要旨講演

講演者…平川 豊文

座長…四元 房典

「Adipose-derived Mesenchymal Stem Cells Regenerate Thin Endometrium and Restore Fertility」

(庶務幹事 北 島 研)

福岡大学医学部年報 令和6年度

令和7年9月30日発行

編 集	福 岡 大 学 医 学 部 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
発 行	福 岡 大 学 医 学 部 事 務 課 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
印刷所	福 岡 印 刷 株 式 会 社 福岡市中央区天神三丁目4番3号